信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESDコンソーシアム
成果報告書2023

国立大学法人
信州大学

ごあいさつ

持続可能な開発目標である SDGs の達成には，持続可能な社会をつくる「人づくり」が重要であり，持続可能な開発のための教育（ESD: Education for Sustainable Development）の推進が不可欠です。そこで，長野県内に広がりつつあるユネスコスクールのさらなる拡大と，ESD の普及に向け，本学部の関係者が中心となり，平成 28 年 2 月に「信州 ESD コンソーシアム」を立ち上げ，活動を積み重ねてまいりました。

「信州 ESD コンソーシアム」は，県内各地に広がったユネスコスクールや地域の様々な組織や他地域のコンソーシアムとの連携を積極的に推進していただいております。コンソーシアム参加校の様々な活動の様子は，信州 ESD コンソーシアムホームページや信州 ESD 通信等で紹介しています。特に，毎年 2 月に開催されている「信州 ESD コンソーシアム成果発表 & 交流会」では，毎年多数のユネスコスクールの優れた実践が紹介され，学校間交流も活発に行われています。2023 年度の成果発表会も参観させていただきましたが，県内外の多数の小中高等学校から参加があり，各校で様々に取り組まれている ESD の実践に感心いたしました。また当日の様子は YouTube にてご参加できなかった方々も視聴可能になっています。こうした ICT の活用により，「信州 ESD コンソーシアム」の取り組みが，信州を越えて全国へと広がり，県内外の学校が相互に学び合い，その成果を広げていくことは大変素晴らしいです。関係の皆様に御礼申し上げます。

信州大学教育学部では，探究的な学習の指導に必要となる STEAM 的な考え方や教科横断的な学びの基礎を理解し，教育現場で実践できる基礎的指導力を持つ教員を育てようと，全コースにおいて「STEAM 教育認定プログラム」を開始し，2 年目を迎えました。ESD の学びは，STEAM 教育を推進する上でも一つの大きな柱になると考えています。「信州 ESD コンソーシアム」の成果に教育学部も学ばせていただきながら，持続可能な社会の構築に向けて共に取り組んでいきます。

2023 年度の活動をまとめたこの成果報告書が，今後の我が国の ESD，SDGs 推進の一助となれば幸いです。

令和 6 年 8 月

信州大学教育学部長
村 松 浩 幸

目　次

ごあいさつ…… 信州大学教育学部長　村松 浩幸　1

Ⅰ　信州 ESD コンソーシアムについて

信州ESDコンソーシアムの概要 ……4
信州ESDコンソーシアム規約 ……6
構成団体名簿……8
役員名簿……9
信州ESDコンソーシアム活動実績 …… 10
信州ESDコンソーシアム発行物等の紹介 …… 11
長野県内のユネスコスクール加盟校・キャンディデート校… 12

Ⅱ　通常総会

式次第…… 14
参加者名簿…… 15
通常総会議事抄録…… 16

Ⅲ　成果発表 & 交流会

チラシ…… 20
プログラム…… 22
学長挨拶…… 25
当日の様子…… 26
＜成果発表＞
1 【長野県】学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 1・2年生 …… 34
2 【長野県】学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 3・4年生 …… 37
3 【群馬県】みなかみ町立新治小学校 5年生 …… 41
4 【福井県】大野市阪谷小学校 3・4年生 …… 43
5 【長野県】山ノ内町立東小学校 4年生 …… 47
6 【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校 4年生 … 49
7 【山梨県】北杜市立白州中学校 3年生 …… 52
8 【長野県】信州大学教育学部附属長野小学校 6年1組… 62
9 【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校 1年生 … 64
10 【宮崎県】綾町立綾中学校 生徒会 …… 69
11 【長野県】山ノ内町立南小学校 3年生…… 71
12 【長野県】山ノ内町立南小学校 6年生…… 73
13 【長野県】長野市立東条小学校 6年生…… 75
14 【長野県】茅野市立永明小学校 6年2部 …… 79
15 【長野県】山ノ内町立西小学校 6年生…… 81
16 【長野県】根羽村立義務教育学校根羽学園 5〜8年生 … 84
17 【長野県】山ノ内町立山ノ内中学校 1年生 …… 91
18 【長野県】飯田市立遠山中学校 2年生…… 94
19 【長野県】長野県長野西高等学校 ユネスコスクール委員会 98
20 【福井県】大野市阪谷小学校 5・6年生…… 102
21 【長野県】山ノ内町立東小学校 6年生…… 106
22 【福島県】只見町立只見中学校 SDGs委員会・生徒会… 108
23 【長野県】信州大学教育学部附属松本中学校 1年生 … 112
24 【長野県】長野市立信里小学校 3・4年生…… 116
25 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学2年生… 120
26 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校2年生探究合同ゼミナール…… 122
27 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学生徒会 …… 124
28 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校生徒会…126
29 【長野県】飯田市立飯田西中学校 家庭科 …… 127
30 【長野県】飯田市立上村小学校 3〜6年生…… 132

Ⅳ　研修会資料

1 山ノ内町ESD合同研修会 …… 138
2 ESD研修会(山ノ内西小) …… 157
3 長野市教育センター研修講座「持続可能な社会づくりに向けたキャリア教育」…… 162

I

信州 ESD コンソーシアムについて

信州 ESD コンソーシアムの概要

1　設立の背景

信州大学教育学部は、平成 17（2005）年に全国の教員養成系学部で初めて、国際規格 ISO 14001 に基づく環境マネジメントシステムの認証を受け、それ以来、エコキャンパスの構築に取り組んでいます。また、学部では環境教育の授業を必修化し、1 年生全員が環境監査資格を取得できるようにしており、卒業生が環境マインドを身につけ、環境教育を指導できるようサポートしています。これまでに多数の卒業生が長野県内の教育現場で活躍しています。

また、長野県は日本で最も多い 3 つのユネスコエコパーク（志賀高原、南アルプス、甲武信）を有し、豊かな生物多様性を誇る貴重な自然環境に恵まれています。このような場所にあるため、県民は環境保護に対する意識が高く、行政だけでなく企業や NPO などでも積極的な取り組みが行われています。

一方で、長野県内の学校現場において持続可能な開発のための教育（ESD）の認知度は低く、ユネスコスクールの加盟校もコンソーシアム設立前の平成 28（2016）年 2 月時点では 4 校に留まっていました。また、企業や各種団体、民間ユネスコ協会をはじめとする NPO などが、個別に ESD の推進に関わる意思を持ち、活動を行っている団体もあったものの、学校とのつながりが少なく、教育現場での活躍は十分にできていませんでした。このような現状から、長野県内で ESD の普及･実践を推進するために、学校現場と県内で ESD に携わる様々なステークホルダーを橋渡しし、ESD についての情報交換や交流、連携を促進する仕組みの構築が求められていました。

そこで、本学教育学部は文部科学省の「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」を活用し、平成 28（2016）年 4 月から ESD 支援団体の設立準備に取り組みました。そして、平成 29（2017）年 2 月に、本学教育学部を中心に、県内の各ユネスコスクール、教育委員会、NPO 等、各種団体により構成される『信州 ESD コンソーシアム』を設立しました。

2　コンソーシアムの機能と特徴

信州 ESD コンソーシアムの目的は、長野県全域に ESD を普及・定着することです。この目的を達成するため、多様な ESD 関係者と協力して、以下の取り組みを行っています。

1. ユネスコスクールなどの教育組織での ESD 推進
2. ESD に関わる人たちの交流の場を創出
3. 企業・NPO などの多様な主体が活動できる機会を創出
4. コンソーシアムや関係組織の成果の発信
5. ESD 関連情報を共有する場を提供

近年は、SDGs 未来都市となった長野県の取り組みに共鳴し、ESD と SDGs を結び付けて学校現場で実践するための普及･啓発にも取り組んでいます。第四次長野県環境基本計画（2018 年 -2022 年）および第五次長野県環境基本計画（2023 年 -2027 年）において、信州 ESD コンソーシアムは長野県における ESD 普及・推進の主要な担い手と位置づけられています。

また、信州 ESD コンソーシアムでは、ユネスコが主導する ESD と、長野県の特色のひとつでもあるユネスコエコパークの活動を連動させ、その相乗効果を発揮する実践を目指しています。このことは他のコンソーシアムにはない、特徴的な取り組みです。

3　コンソーシアムの活動

(1) ユネスコスクールに関する支援

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示された理想を実践することを目的とした学校であり、また日本では ESD 推進拠点として位置づけられています。信州 ESD コンソーシアムは、長野県内の各種学校のユネスコスクール加盟申請を支援しています。ユネスコスクールへの加盟を検討している学校や、加盟前のチャレンジ期間に入っている学校に対して、活動実践への指導や助言を行い、要望に応じてコーディネーターが学校に出向いて、教職員を対象とした ESD/SDGs の出前研修会を行っています。

信州 ESD コンソーシアムは、ユネスコスクールやキャンディデート校として登録されている学校に対しても、ESD/SDGs 活動実践に対する各種支援を行っています。日常的に学校訪問を行いながら活動実践に対して指導・助言を行うとともに、課題や要望をうかがい、時宜にかなった支援を提案・実施しています。支援内容は ESD/SDGs の出前研修会の開催や校内研究会・授業公開への参加、活動をサポートする団体等のコーディネートなど、教職員を対象とした間接的支援が中心ですが、コーディネーターがゲストティーチャーとして直接、学習支援を行う場合もあります。

(2) 多様な主体間の連携促進と ESD の普及啓発

信州 ESD コンソーシアムには、各ユネスコスクールや加盟希望校、教育委員会、民間ユネスコ協会、NGO、企業・団体など多様な主体が参加しています。県内ユネスコスクールの活動を支援するプラットフォームとして機能しています。

また、市町村教育委員会やユネスコ協会関係者など、学校現場での ESD 実践に携わる多様な主体を対象とした ESD/SDGs 研修会の講師を務め、普及に取り組んでいます。

(3) 交流機会の創出

信州 ESD コンソーシアムでは、発足以降、毎年2月初めごろに「成果発表＆交流会」を開催しています。このイベントでは、ユネスコスクールで学ぶ子どもたちが日頃の ESD 実践の成果を互いに発表し、交流を通じて学びあうことができます。近年はオンライン化にあわせて、長野県内のユネスコスクールだけでなく、全国のユネスコエコパークで ESD/SDGs の学びを実践する学校間の交流機会ともなっています。

また、ユネスコスクール全国大会や他地域コンソーシアムが主催する ESD 研修会などへの参加支援も行っており、全国のユネスコスクールとの交流を促進しています。

(4) ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の普及・推進

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）は、ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画の一環として実施されている事業です。これは、豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進める地域が、自然と人の調和と共生を目指すモデルとして認定されるものであり、近年は「持続可能な開発について学ぶ場」としても位置づけられています。

ユネスコエコパークにおいて ESD には、地域住民が地域の自然やそこに育まれた歴史文化について理解を深め、持続可能な地域づくりの担い手を育成する役割が期待されており、MAB 戦略（2015-2025）でも主要な戦略目標の一つと位置づけられています。また、豊かな自然やそこに育まれた歴史文化といった学習資源を備えるユネスコエコパークは、ESD 学習において好適なフィールドとなっています。

信州 ESD コンソーシアムは、信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設が立地する志賀高原ユネスコエコパークを中心に、ユネスコエコパークにおける ESD/SDGs 学習支援や、全国のユネスコエコパークに対する成果の発信、学校間交流の促進を通じて、ユネスコエコパークを活用した ESD/SDGs の普及・推進に取り組んでいます。

信州 ESD コンソーシアム規約

第１章　総則

（名称）

第１条　この団体は，信州 ESD コンソーシアム（以下「本団体」という。）と称する。

（事務局）

第２条　本団体の事務局は，信州大学教育学部内に置くものとする。

（目的）

第３条　本団体は，様々なESD 関係者が協力して長野県を中心としたESD を推進することを目的とする。

（活動）

第４条　本団体は，前条の目的を達成するために次の各号に掲げる活動を行う。

(1) ユネスコスクールをはじめとする教育機関でのESD の推進と国内外のESD 推進校との交流促進
(2) 公民館，図書館をはじめとする社会教育施設，青少年教育施設を通じた社会教育におけるESD の推進
(3) ウェブサイトや成果報告会等を通じたESD 関連情報の共有
(4) ESD に関するマルチステークホルダーの対話の場の構築
(5) 企業，NGO を含む様々なステークホルダー間の協働の機会創出
(6) その他本団体の目的を達成するために有益と考えられる活動

第２章　会員

（会員）

第５条　本団体の会員は，第３条の目的に賛同して入会する各種団体，教育関係機関及び任意団体（以下「団体等」という。）とする。

（入会及び退会）

第６条　入会を希望する団体等は，所定の入会申込書を事務局に提出しなければならない。

2　団体等の入会は，会長が許可する。

3　退会を希望する会員は，所定の退会申込書を事務局に提出し，任意に退会することができる。

（会費）

第７条　本団体の会費は，当面徴収しないものとする。

第３章　役員

（役員）

第８条　本団体に，次の役員を置く。

(1) 会長　１名
(2) 副会長　　１名以上３名以内
(3) 運営委員　　会長が必要と認める定数

（役員の責務）

第９条　役員は，役員会を構成し，本団体の業務の執行を決定する。

2　会長は，本団体を統括し，本会を代表する。

3　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときはその職務を代行する。

4　運営委員は，運営委員会を構成し，本団体の業務を執行する。

（役員の選任）

第 10条　会長は，信州大学教育学部の長とする。

2　副会長は，会員である団体等の長の中から会長が選任する。

3　運営委員は，会長が指名し，総会において承認する。

（役員の任期）

第 11条　役員の任期は，選任日の属する年度の翌年度に開催する通常総会の終結の時までとする。ただし，再任を妨げない。

2　役員に欠員が生じた場合は会長が後任を指名し，その任期は前任者の残任期間とする。

第４章　会議

（会議の種類）

第 12条　本団体の会議は，総会及び運営委員会とする。

（総会）
第13条　総会は，会員をもって構成する。
2　総会は，通常総会及び臨時総会とする。
（総会の権能）
第14条　総会は，次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 規約の決定及び変更
(2) 事業計画の承認
(3) 事業報告の承認
(4) 役員の承認
(5) その他本団体の運営に関する重要事項
（総会の開催）
第15条　通常総会は，毎年1回開催する。
2　臨時総会は，次に掲げる場合に開催する。
(1) 会長が必要と認め，招集の請求をしたとき。
(2) 会員総数の3分の1以上から会議の目的を記載した書面又は電子メールにより招集の請求があったとき。
（総会の招集）
第16条　総会は，会長が招集する。
2　総会を招集する場合には，会議の日時，場所，目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールにより，開催の日の少なくとも5日前までに会員に通知し，あるいはウェブサイト上で公表しなければならない。
（総会の議長）
第17条　総会の議長は，その総会に出席した役員の中から会長がこれを指名する。
（総会の議決）
第18条　総会の議事は，別段の定めがある場合を除き，出席した会員の過半数をもって決し，可否同数のときは、議長の決するところによる。
（運営委員会）
第19条　運営委員会は，運営委員をもって構成する。
2　運営委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。
（運営委員会の権能）
第20条　運営委員会は，次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 事業計画の立案と変更
(2) 事務局の組織及び運営に関する事項
(3) 総会の議決した事項の執行に関する事項
(4) 総会に付議すべき事項
(5) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項
（運営委員会の開催）
第21条　運営委員会は，会長又は委員長が必要と認めた場合に開催する。

第5章　ESD コーディネーター

（ESD コーディネーター）
第22条　本団体に，ESD コーディネーター若干名を置く。
2　ESD コーディネーターは，本団体の目的を達成するために，長野県を中心としたESD の推進を支援する。
3　ESD コーディネーターは，長野県を中心としたESD 活動に習熟した識者の中から，会長が指名する。
4　ESD コーディネーターの任期は，選任日の属する年度の翌年度に開催する通常総会の終結の時までとする。ただし，再任を妨げない。
5　ESD コーディネーターに欠員が生じた場合は会長が後任を指名し，その任期は前任者の残任期間とする。

第6章　雑則

（雑則）
第23条　この規約に定めるもののほか，本団体の運営に必要な事項は別に定める。

附　則
この規約は，平成29年　2月18日から施行する。
この規約は，令和　5年　9月　2日から施行する。

令和5年度　信州ESDコンソーシアム構成団体名簿

令和６年３月31日現在

No.	団体名	コンソーシアム区分
1	信州大学	大学 / 代表団体
2	高山村教育委員会	教育委員会
3	山ノ内町教育委員会	教育委員会
4	信州大学教育学部附属幼稚園	ユネスコスクール
5	茅野市立永明小学校	ユネスコスクール
6	高山村立高山小学校	ユネスコスクール
7	山ノ内町立東小学校	ユネスコスクール
8	山ノ内町立西小学校	ユネスコスクール
9	山ノ内町立南小学校	ユネスコスクール
10	長野市立東条小学校	キャンディデート校
11	長野市立信里小学校	キャンディデート校
12	安曇野市立豊科北小学校	準ユネスコスクール
13	安曇野市立豊科南小学校	キャンディデート校
14	飯田市立和田小学校	キャンディデート校
15	飯田市立上村小学校	キャンディデート校
16	信州大学教育学部附属長野小学校	ユネスコスクール
17	信州大学教育学部附属松本小学校	ユネスコスクール
18	いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校	準ユネスコスクール
19	高山村立高山中学校	ユネスコスクール
20	山ノ内町立山ノ内中学校	ユネスコスクール
21	茅野市立永明中学校	準ユネスコスクール
22	飯田市立遠山中学校	キャンディデート校
23	信州大学教育学部附属長野中学校	ユネスコスクール
24	信州大学教育学部附属松本中学校	ユネスコスクール
25	長野県中野西高等学校	ユネスコスクール
26	長野県長野西高等学校	ユネスコスクール
27	上田西高等学校	ユネスコスクール
28	文化学園長野中学・高等学校	ユネスコスクール
29	信州大学教育学部附属特別支援学校	ユネスコスクール
30	NPO 法人みどりの市民	地域団体
31	NPO 法人やまぼうし自然学校	地域団体
32	一般社団法人長野県環境保全協会	地域団体
33	信州環境カレッジ運営事務局	地域団体
34	特定非営利活動法人長野県 NPO センター	地域団体
35	長野県ユネスコ連絡協議会	地域団体
36	松本ユネスコ協会	地域団体
37	諏訪ユネスコ協会	地域団体
38	飯田ユネスコ協会	地域団体
39	木曽ユネスコ協会	地域団体
40	直富商事㈱	地域団体
41	㈱ミールケア	地域団体
42	一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構	地域団体
43	長野県 PTA 連合会	地域団体
44	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	支援機関
45	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	支援機関
46	環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）	支援機関
47	信州大学全学教育機構環境マインド実践人材育成コース	大学

令和5年度　信州ESDコンソーシアム役員等名簿

役員

職名	氏名	所属	職名
会　　長	村松　浩幸	信州大学教育学部	学部長
副　会　長	宮島　和雄	一般社団法人 長野県環境保全協会	専務理事
運営委員長	西　　一夫	信州大学教育学部	教授
運営副委員長	安達　仁美	信州大学教育学部	准教授
運 営 委 員	水谷　瑞希	信州大学教育学部	助教
運 営 委 員	本間　喜子	信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 リサーチ・アドミニストレーション室	助教
運 営 委 員	渡辺　隆一		元信州大学教授

ESDコーディネーター

氏名	所属	職名
西　　一夫	信州大学教育学部	教授
安達　仁美	信州大学教育学部	准教授
水谷　瑞希	信州大学教育学部	助教
矢崎　靖雄	諏訪ユネスコ協会	会長
牧原　　雅	飯田ユネスコ協会	会長
渡辺　隆一		元信州大学教授

令和5年度　信州ESDコンソーシアム活動実績

年月日	事業名	担当コーディネーター等	対象	参加者数	主催・共催・後援等	会場
2023/4/26	山ノ内町ESD合同研修会	水谷瑞希	教職員（山ノ内町）	45	山ノ内町教育委員会	山ノ内町役場
2023/5/18	第1回 運営委員会					
2023/5/19	遠山三校（ユネスコスクール）絆プロジェクト支援事業	牧原　雅	児童・生徒	60	上村小学校、和田小学校、遠山中学校	遠山中学校
2023/6/8	志賀高原ユネスコエコパーク学習会	水谷瑞希	5年生	113	山ノ内南小学校（信州大学出前講座を利用）	山ノ内町立南小学校
2023/6/27	6市町村ユネスコ担当者会	矢崎靖雄	担当者	7	諏訪ユネスコ協会	岡谷市
2023/6/28	ESD研修会（南小）	水谷瑞希	教職員	12	山ノ内南小学校、 信州ESDコンソーシアム	山ノ内町立南小学校
2023/7/5	志賀高原宿泊体験学習（附属松本中学校）	水谷瑞希	生徒	168		志賀高原
2023/7/9	平和のコンサート（ユネスコ啓発活動）	牧原　雅	一般	130	飯田ユネスコ協会	上郷公民館講堂
2023/7/14	第2回 運営委員会					
2023/8/3	第3回 運営委員会					
2023/8/24	令和5年度事業評価会					
2023/8/31	ユネスコスクール申請状況確認	矢崎靖雄	校長・担当者	3	諏訪ユネスコ協会	永明中学校
2023/9/2	令和5年度 信州ESD コンソーシアム通常総会			28		オンライン開催
2023/9/5	ユネスコスクール申請案内	矢崎靖雄	校長他	5	諏訪ユネスコ協会	原中学校
2023/10/9	「木曽の文化を知る旅」に一般の方への参加呼びかけ	矢崎靖雄	会員・一般	15	諏訪ユネスコ協会	王滝村
2023/10/13	第4回 運営委員会					
2023/10/21	コーアクション平和学習、街頭募金活動	牧原　雅	児童・生徒	35	飯田ユネスコ協会	飯田市中央公民館他
2023/11/16	長野市教育センター研修講座「キャリア教育の現状とESD」	安達仁美	教職員	41	長野市教育センター	長野市教育センター
2023/11/18-19	ESDダイアログ（伊那市、EPO中部）	水谷瑞希	一般	60	環境省EPO中部、 中部地方ESD活動支援センター	伊那市生涯学習センター
2023/11/18	地域文化財学習会	牧原　雅	一般	40	飯田ユネスコ協会	飯田市松尾公民館
2023/11/19	「ユイワークマルシェ」でユネスコの紹介	矢崎靖雄	会員・一般	200	ゆいわーく茅野	ゆいわーく茅野
2023/12/4	ESD研修会（南小）	中澤静夫 水谷瑞希	教職員	12	山ノ内南小学校、 信州ESDコンソーシアム	山ノ内町立南小学校
2023/12/5	ESD研修会（西小）	中澤静夫 水谷瑞希	教職員	12	山ノ内西小学校、 信州ESDコンソーシアム	山ノ内町立西小学校
2023/12/7	寺子屋運動校長会説明会（啓発活動）	牧原　雅	小中校長	65	飯田ユネスコ協会	下伊那教育会館
2023/12/14	第5回 運営委員会					
2023/12/22	書き損じハガキ回収依頼と寺子屋運動の説明で小中学校訪問	矢崎靖雄	校長・担当者	15	諏訪ユネスコ協会	諏訪地区小中学校
2024/1/18	第6回 運営委員会					
2024/2/2-3	2023年度信州ESDコンソーシアム成果発表＆交流会		コンソーシアム構成団体、長野県内学校関係者（教員・児童・生徒・保護者）等	1162	主催：信州ESDコンソーシアム 共催：信州大学　公益財団法人イオン環境財団 後援：長野県教育委員会、ESD活動支援センター、中部地方ESD活動支援センター、長野県ユネスコ連絡協議会、長野県環境保全協会、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）	オンライン開催

信州 ESD コンソーシアム発行物等の紹介

信州 ESD コンソーシアム成果報告書 2022

2022(R4)年度のコンソーシアムの活動をまとめた報告書です。「成果発表＆交流会」発表校の実践記録や、各 ESD コーディネーターによる研修会の資料など、教育現場をはじめ多くの方のご参考になれば幸いです。

ユネスコエコパークと共に学ぼう
令和４年度　信州 ESD/SDGs　ユネスコスクール　実践事例集

「成果発表＆交流会」で発表された、全国各地のユネスコエコパークを活用した実践事例を中心に、学習テーマをアイコンで視覚化し、コンパクトにまとめました。学校現場での実践にお役立てください。

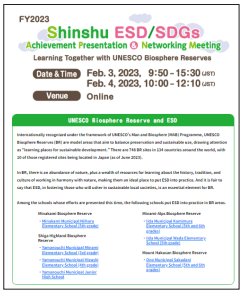
こちらの２冊は、信州 ESD コンソーシアムのホームページからご覧いただけます。
https://esd-nagano.org/document/

信州 ESD コンソーシアムホームページ　リニューアル

●発表事例の検索機能を追加

「成果発表＆交流会」の発表事例について、校種 / テーマ / 関連する SDG ターゲットなどを絞り込んで検索できるシステムを導入しました。これにより、多くの実践事例の中から、閲覧者が関心のある内容を含む事例を絞り込むことができるようになりました。スマートフォン・タブレット端末にも対応しておりますので、学校現場での実践を中心にご活用ください。

●英語版資料の提供



国際的な学校間交流の実現に向け、2022（R4）年度の成果発表会の一部の実践事例を英語化し、英語版資料と字幕付き動画を掲載しました。

●リンク先の充実

外部リンクページを追加し、WEB バナーを作成しました。今後、コンソーシアム関係団体や地域団体等の WEB サイトとのリンクをより充実させていきます。

長野県内のユネスコスクール加盟校・キャンディデート校

各学校園の活動報告は、ユネスコスクール公式ウェブサイトからご覧いただけます。
https://www.unesco-school.mext.go.jp/
トップページ ＞ 加盟校情報 ＞ 長野

幼稚園

- 信州大学教育学部附属幼稚園

小学校

- 飯田市立上村小学校〔キャンディデート校〕
- 飯田市立和田小学校〔キャンディデート校〕
- 長野市立東条小学校〔キャンディデート校〕
- 長野市立信里小学校〔キャンディデート校〕
- 安曇野市立豊科南小学校〔キャンディデート校〕
- 山ノ内町立西小学校
- 信州大学教育学部附属長野小学校
- 茅野市立永明小学校
- 信州大学教育学部附属松本小学校
- 山ノ内町立東小学校
- 山ノ内町立南小学校
- 高山村立高山小学校

中学校

- 飯田市立遠山中学校〔キャンディデート校〕
- 信州大学教育学部附属長野中学校
- 信州大学教育学部附属松本中学校
- 山ノ内町立山ノ内中学校
- 高山村立高山中学校

義務教育学校

- 根羽村立義務教育学校根羽学園〔キャンディデート校〕

高等学校

- 学校法人 上田学園　上田西高等学校
- 長野県長野西高等学校
- 長野県中野西高等学校

中等教育学校または中高一貫校等

- 文化学園長野中学・高等学校

特別支援学校

- 信州大学教育学部附属特別支援学校

Ⅱ

通 常 総 会

令和５年度　信州 ESD コンソーシアム通常総会

日　　時　　令和５年９月２日（土）　13：00 ～ 14：10終了予定

開催方法　　オンライン（Zoom）

次　　第

1. 開会挨拶
　信州 ESD コンソーシアム会長　　信州大学教育学部長　村松　浩幸

2. 総会
　（1）議長選出

　（2）協議
　　・規約の改正について

　　・役員の選出について

　　・事業報告について

　　・事業計画について

　　・その他

　（3）報告
　　・加盟団体活動紹介

　　・その他

3. 意見交換

4. 閉会挨拶

信州ESDコンソーシアム通常総会　出席者名簿

令和５年９月２日（土）13：00～　　オンライン開催

敬称略、順不同

学校名・組織名	氏名
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	藤本早恵子
環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター	原　　理史
一般社団法人 長野県環境保全協会	宮島　和雄
一般社団法人 長野県環境保全協会	中山　哲徳
一般社団法人 長野県環境保全協会	早川　隆一
諏訪ユネスコ協会	矢崎　靖雄
直富商事株式会社	清水　絵梨
長野県 PTA 連合会	須田　恭徳
信州大学教育学部附属幼稚園	松本　洋平
山ノ内町立西小学校	藤澤　文子
信州大学教育学部附属長野小学校	吉田　大輔
長野市立東条小学校	所　　澄夫
長野市立信里小学校	尾沼　達也
信州大学教育学部附属松本小学校	矢田　直也
安曇野市立豊科南小学校	奥原　竜司
飯田市立上村小学校	市川　史織
山ノ内町立山ノ内中学校	森川　　篤
高山村立高山中学校	小渕　秀徳
信州大学教育学部附属長野中学校	村田　　茜
信州大学教育学部附属松本中学校	宮坂　浩司
長野県中野西高校	須野原美香
信州大学教育学部附属特別支援学校	永田　寛尚

代表団体：信州大学	氏名
コーディネーター	西　　一夫
コーディネーター	安達　仁美
コーディネーター	水谷　瑞希
URA	本間　喜子
コーディネーター	渡辺　隆一
ESD 事務局員	青木　真紀

会　議　報　告　書

会議の名称	令和５年度　信州 ESD コンソーシアム通常総会		
開 催 日 時	2023 年 9 月 2 日 (土) 13:00 ～ 14:10	開催場所	信州大学教育学部 中校舎 3F 301 講義室 オンライン
		報 告 者	本間　喜子

議題・報告・連絡事項等	審議・報告・連絡等の概要
【議題】 (1) 議長選出	本日欠席の会長より、開会の挨拶の動画内にて議長として、西委員が議長に指名された。
(2) 協議 ・規約の改正について	西議長より、運営委員長として資料 No.1 に基づき、説明があった。 ・第 10 条第 2 項役員の選任、第 11 条役員の任期、第 5 章第 22 条第 4 及び 5 項の変更について説明。 ・規約の改正について承認された。
・役員の選出について	資料 No.2 に基づき、西議長より説明があった。 ・役員選出について承認された。 ・コーディネーターについて承認された。
・事業報告について	資料 No.3 に基づき、水谷委員より説明があった。 ・事業報告に関して、1.SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業、2. ユネスコスクール等での ESD 推進、3. その他での ESD 推進、4. 成果発表･交流会、5. ニュースレター発行、6. 学部・大学院教育について説明があった。 ・事業計画について、1. SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業、2. ユネスコスクール支援･ESD 普及推進等、3. 成果発表・交流会、4. 学部・大学院教育について説明があった。 ・予算計画案について西委員より、委託事業としての予算であることの旨、説明があった。
・事業計画について	【質問】 ACCU 藤本氏 ・ユネスコスクールを中心として BR としての取り組みも実践事例としてまとめてあるので、全国で共有したい。どういったかたちで共有が可能か相談したい。国際交流については、全国的にも課題としても上げているため、信州 ESD コンソーシアムでとても良い取組のため取り上げさせていただきたい。 【回答】 水谷委員 ・国際交流は 2 月視察で依頼を予定。海外への学校への呼びかけも今後進めていきたいので、今後相談させていただきたい。
・その他	特になし
(3) 報告 ・加盟団体活動紹介	○附属幼稚園 ・活動を 2 つ紹介。資源回収（トイレットペーパー芯，牛乳パックなど）、再生資源を使った遊びへの発展。資源として活用すること、大切にすることの考えを培う。 ○山ノ内西小学校 ・エコパークを中心に学びを発展。各学年の学びを地域に出て実施。 ○附属長野小学校 ・6 年 1 組の活動「耕作放棄地利活用プロジェクト」を紹介。課題や持ち主の方の気持ちなどを知り、強みとして活用している人の話を聞いたり、実際に綿花を育成するなど活用を進めている。

	○東条小学校 ・蛍活動を継続して実施している。陸の豊かさを守る活動なども進めている。清掃活動等も進めている。 ○信里小学校 ・里山の恵みについて、「里山を語れる子ども」として活動を紹介。周辺のため池にいる絶滅危惧種の存在を認識し、多くの生き物を守る活動を実施。 ○いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校：欠席 ○附属松本小学校 ・総合的な学習の時間、生活科の時間で環境教育の視点で植物の育成を実施。資源の利活用について視点の転換、エコ活動など社会参画を学んでいる。 ○豊科南小学校 ・30 年以上の歴史がある用水路の清掃やビオトープの学習利用などをし、地域と連携したビオトープの整備を進めている。 ○上村小学校 ・夏休みに自然塾キャンプを実施。地域資源の活用、子育て世代の交流を行っている団体と連携し、学校キャンプとは異なる活動を実施。遠山 3 校の ESD 活動（お茶、清掃等）を連携して、楽しみながら実施。 ○山ノ内中学校 ・地域を知る（1 年生）、他地域比較（2 年生）、山ノ内の発信（3 年生）に関する活動をそれぞれの学年で実施。 ○高山中学校 ・動画にて、志賀高原、渋温泉を中心とした学習についてスライド形式で紹介。 ○附属長野中学校 ・1 年生総合的な学習の時間で 10 年後の社会をテーマに追究活動。自然課題、国際平和、ものづくりなど様々なテーマで追究学習を実施し、9 月以降は大学教員にも協力いただきながら、持続可能な社会の実現に向けた自分たちが出来る活動の発信をしたい。 ○附属松本中学校 ・1 年生は志賀高原に訪問し、学習を進めている。地球市民集会を実施し、学校や家庭出来ることや委員会でできることを各グループで検討し、学校祭にて毎年発表している。 ○文化学園長野中学・高等学校：欠席 ○中野西高校 ・EBIMORI の植樹リーダーとして参加して 9 年目。植樹活動と同時に成長速度を測定するモニタリングにも参加し、データが蓄積されてきた。植生や育ちやすい樹木などについてデータをまとめ、引継ぎながらデータをまとめ、発信していく。 ○附属特別支援学校 ・見て分かる・触って分かる活動としてアルミ缶回収を近隣の方と協力して進めている。今年度は特に同世代との交流にも力を入れ（蟻ケ崎高など）、人権教育を進めている。 ○ユネスコ・アジア文化センター（ACCU） ・ESD 評価事業の 4 年間の報告をまとめた冊子についてとユネスコウィーク（1 月 19 日～21 日）についての紹介。 ○環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動センター ・地域 ESD 拠点やイベントについての紹介（9 月 21 日地域フォーラム、11 月 18 日ダイアログ）。 ○環境保全協会 ・信州環境カレッジの学校講座の概要及び実施事例、利用状況についての紹介。

	○諏訪ユネスコ協会 ・5つの部会で活動を実施。地域遺産部会、寺小屋部会、SDGs部会、広報部会の活動について紹介。 ○直富商事 ・2021年1月長野県SDGs推進企業に認定され、社内勉強会を定期的に開催、主に長野市内の小学生の企業見学受け入れを今年から再開し、直接かリモートか選択可能。高校生の企業訪問受け入れ等を行っている。 ○長野県PTA連合会 ・関りやすく、関り甲斐のある持続可能な活動を実施。大人もSDGsを学ぶ。令和7年に関東ブロック大会実施予定であり、ESDなど各学校の活動を紹介する場を作りたいと思っているので、ご協力いただきたい。
3. 意見交換	【質問】 諏訪ユネスコ協会 ・ACCUと国内委員会との関係について知りたい。 【回答】 ACCU藤本氏 ・委員等には特に在籍者はいないが、報告などで依頼などがあり、協力している。オブザーバーとして参加している。 以上

Ⅲ

成果発表 & 交流会

令和5年度

信州ESD/SDGs 成果発表&交流会

～ユネスコエコパークと共に学ぼう～

ESD（Education for Sustainable Development）は、これから目指すべき持続可能な社会の創り手を育む教育です。現在の学習指導要領全体の基盤となる理念として、またSDGs（持続可能な開発目標）達成の鍵として、注目が集まるESD。この成果発表＆交流会では、各校でESDの学びを実践している子どもたちが、学びの成果を発表し、また交流を通じてその学びを深めます。長野県内だけでなく各地のユネスコエコパークでESDを実践している学校もオンラインでつながることで、様々な分野での活動や学びの広がりが期待されます。

令和6年（2024年）

2月2日（金） 10:00～15:30

2月3日（土） 10:00～15:40

お申し込み・YouTubeの視聴はこちらから！

同時YouTubeライブ配信

オンライン開催・参加費 無料

発表・交流をご希望の方は、事前申込（エントリー）が必要です。

○エントリー締め切り 12月22日（金）

○発表概要提出締め切り 1月12日（金）

参加申込用紙はURLまたはQRコードよりダウンロードできます。
https://esd-nagano.org/conference2024/
※発表・交流会の視聴のみをご希望の方は、事前申し込み不要です。

2月2日（金）

【午前の部】
10:00～10:10 開会行事
10:15～11:40 発表・交流会
11:40～11:50 講評
11:55～12:10 共有の時間

【午後の部】
13:30～15:00 発表・交流会
15:00～15:10 講評
15:15～15:30 共有の時間

2月3日（土）

【午前の部】
10:00～10:10 2日目開会行事
10:15～11:40 発表・交流会
11:40～11:50 講評
11:55～12:10 共有の時間

【午後の部】
13:30～15:00 発表・交流会
15:00～15:10 講評
15:15～15:30 共有の時間
15:30～15:40 閉会行事

主 催： 信州ESDコンソーシアム　　共 催： 公益財団法人イオン環境財団、信州大学

後 援： 長野県教育委員会、一般社団法人長野県環境保全協会、長野県ユネスコ連絡協議会、ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）

お問い合わせ

信州大学教育学部　信州ESDコンソーシアム事務局（担当：小林・青木・大山）
〒380-8544　長野市西長野6-ロ　TEL:026-238-4034　E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp　HP:https://esd-nagano.org/

FY2023

Shinshu ESD/SDGs Achievement Presentation & Networking Meeting

Learning Together with UNESCO Biosphere Reserves

In Japan, ESD (Education for Sustainable Development) is implemented in school education, focusing on community-based learning and addressing global issues. In this online event, students from schools practicing ESD will showcase their learning achievements and deepen their understanding through interaction. The event includes participants from UNESCO ASPnet schools in Nagano Prefecture, and others from across Japan involved in ESD/SDGs activities within UNESCO Biosphere Reserves, which are defined as 'learning spaces for sustainable development.'

Online event, no registration required for general viewing†.

†If you wish to participate in presentations or discussions, advance registration is required.

Fri, **Feb. 2**, 2024, 10:00 – 15:30 (JST)

Sat, **Feb. 3**, 2024, 10:00 – 15:40 (JST)

Watch the YouTube Live from here!

https://esd-nagano.org/conference2024/

Fri, Feb. 2

Morning Session	10：00～10：10	Opening
	10：15～11：40	Presentations and Exchange
	11：40～11：50	Comments
	11：55～12：10	Sharing
Afternoon Session	13：30～15：00	Presentations and Exchange
	15：00～15：10	Comments
	15：15～15：30	Sharing

Sat, Feb. 3

Morning Session	10：00～10：10	Opening
	10：15～11：40	Presentations and Exchange
	11：40～11：50	Comments
	11：55～12：10	Sharing
Afternoon Session	13：30～15：00	Presentations and Exchange
	15：00～15：10	Comments
	15：15～15：30	Sharing
	15：30～15：40	Closing

English session also available!

主 催： 信州ESDコンソーシアム　　共 催： 公益財団法人イオン環境財団、信州大学

後 援： 長野県教育委員会、一般社団法人長野県環境保全協会、長野県ユネスコ連絡協議会、ESD 活動支援センター、中部地方 ESD 活動支援センター、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）

お問い合わせ
信州大学教育学部　信州ESDコンソーシアム事務局（担当：小林・青木・大山）
〒380-8544　長野市西長野6-ロ　TEL:026-238-4034　E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp　HP:https://esd-nagano.org/

プログラム

2月2日（金）午前の部

会場1

https://youtube.com/live/hEwJjvevQb4

10:00 1日目開会行事
10:15 分科会はじめの会
10:20 [長野県] グリーン・ヒルズ小1・2年 「Sharing the planet ～平和と紛争解決～」
10:30 [長野県] グリーン・ヒルズ小3・4年 「救え！私たちのりんご園！」
10:40 [群馬県] 新治小5年 ＜みなかみBR＞ 「探そう、新治の魅力」
10:50 交流
11:00 調整・休憩
11:10 [福井県] 阪谷小3・4年 ＜白山BR＞ 「広がれ！阪谷チャンネル☆」
11:20 [長野県] 山ノ内東小4年 ＜志賀高原BR＞ 「コカリナの音色とともに思いを伝えたい」
11:30 調整
11:40 交流
11:50 講評 奈良教育大学 中澤静男先生
12:00 全体共有の時間（会場1・2・3）

会場2

https://youtube.com/live/RgznxNbYBz4

10:00 1日目開会行事
10:15 分科会はじめの会
10:20 [長野県] 附属松本小4年 「よりよい「食」から考える、災害時における「食」」
10:30 [山梨県] 白州中3年 ＜南アルプスBR＞ 「性別の不平等について」
10:40 [山梨県] 白州中3年 ＜南アルプスBR＞ 「ジェンダーレス制服について」
10:50 交流
11:00 調整・休憩
11:10 [長野県] 附属長野小6年1組
「耕作放棄地利活用プロジェクト～使われなくなった畑で自給率0％の綿花を育てる～」
11:20 [長野県] 附属長野中1年（医療繊維チーム / 食品製紙チーム）「持続可能な社会の実現に向けて」
11:30 調整
11:40 交流
11:50 講評 奈良教育大学 加藤久雄先生
12:00 全体共有の時間（会場1・2・3）

会場3

https://youtube.com/live/iGxaeQniRwM

10:00 1日目開会行事
10:15 分科会はじめの会
10:20 [山梨県] 白州中3年 ＜南アルプスBR＞
「白州の水と災害に強いインフラ～持続可能な社会にするために～」
10:30 [山梨県] 白州中3年 ＜南アルプスBR＞ 「平和と公正をすべての人へ」
10:40 [山梨県] 白州中3年 ＜南アルプスBR＞ 「マイクロプラスチックと私たちの関わりについて」
10:50 交流
11:00 調整・休憩
11:10 [宮崎県] 綾中 生徒会 ＜綾BR＞ 「持続可能な町づくりをするためのSDGs」
11:20 [長野県] 附属長野中1年（古着回収チーム／地域の魅力発信チーム）
「持続可能な社会の実現に向けて」
11:30 調整
11:40 交流
11:50 講評 北陸ESD推進コンソーシアム 池端弘久先生
12:00 全体共有の時間（会場1・2・3）

２月２日（金）午後の部

会場 4

https://youtube.com/live/IjpExady120

13:30　分科会はじめの会
13:40　[長野県] 山ノ内南小 3 年　＜志賀高原 BR ＞
「リサイクルをしよう　～きれいな山ノ内町を目指して～」
13:50　[長野県] 山ノ内南小 6 年　＜志賀高原 BR ＞　「温泉を知ろう　～地域の温泉探検～」
14:00　[長野県] 東条小 6 年　「東条で学ぶ・東条を学ぶ」
14:10　交流
14:20　調整・休憩
14:30　[長野県] 永明小 6 年 2 部　「給食ロスを減らし隊」
14:40　[長野県] 山ノ内西小 6 年　＜志賀高原 BR ＞　「山ノ内町を PR しよう！」
14:50　調整
15:00　交流
15:10　講評　奈良教育大学　中澤静男先生
15:20　全体共有の時間（会場 4・5）
15:30　1 日目閉会行事

会場 5

https://youtube.com/live/OZlx_nd4kRY

13:30　分科会はじめの会
13:40　[長野県] 根羽学園 5 ～ 8 年「根羽学園 ESD」
14:00　[長野県] 山ノ内中 1 年　＜志賀高原 BR ＞
「山ノ内町の魅力の再発見と活性化に向けての課題を探る。」
14:10　交流
14:20　調整・休憩
14:30　[長野県] 遠山中 2 年　＜南アルプス BR ＞
「学有林を中心として、木材や林業について学ぶ活動」
14:40　[長野県] 長野西高ユネスコスクール委員会
「SDGs17 の目標を高校生の目線で捉え、達成に繋げる」
14:50　調整
15:00　交流
15:10　講評　大分大学　河野晋也先生
15:20　全体共有の時間（会場 4・5）
15:30　1 日目閉会行事

会場 6

国際交流会場

https://youtube.com/live/9uZ98_CQWQs

13:30　分科会はじめの会
13:40　[福井県] 阪谷小 5・6 年　＜白山 BR ＞
「Sakadani Star Point Project（さかだに　スター　ポイント　プロジェクト）」
13:47　[長野県] 山ノ内東小 6 年　＜志賀高原 BR ＞　「山ノ内町の魅力を調べ、発信しよう。」
14:05　交流
14:20　休憩
14:25　[福島県] 只見中 SDGs 委員会、生徒会　＜只見 BR ＞
「地域と取り組む海を守る活動と持続可能な社会の実現のために私たちができること」
14:40　[長野県] 附属松本中 1 年「地域と世界を繋ぐ　～協力・絆・個性・環境～」
14:55　交流
15:10　講評　信州大学　林靖人先生
講評　宮城教育大学　市瀬智紀先生
15:30　1 日目閉会行事

２月３日（金）午前の部

会場７

https://youtube.com/live/kxO0cBY53fA

会場7

10:00	２日目開会行事
10:15	[長野県] 信里小３・４年 「里山の生き物たち～シナイモツゴから学んだこと～」
10:25	[長野県] 文化学園長野中学・高等学校 中学２年 「学校周辺の歴史や文化、自然などに触れられる場所をめぐることで、地域を深く知り、後世に残したいものを探り広める」
10:35	[長野県] 文化学園長野中学・高等学校 高校２年探究合同ゼミナール 「学校も 自分も レボリューション！ ～ルールメイキングプロジェクト」
10:55	休憩
11:05	[長野県] 文化学園長野中学・高等学校 中学生徒会 「文化学園長野中学校で取り組む 私たちの SDGs」
11:15	[長野県] 文化学園長野中学・高等学校 高校生徒会 「誰も取り残さない生徒会」
11:25	[長野県] 飯田西中家庭科 「飯田西中 SDGs ～持続可能な社会に向けて自分にできることを考えよう～」
11:35	交流
11:45	講評 宮城教育大学 市瀬智紀先生
12:00	２日目閉会行事

ビデオ発表

その他

https://youtu.be/woj3rWnRN-8

上村小

[長野県] 上村小３～６年 ＜南アルプス BR＞ 「上村を PR しよう！」

国際交流会場 海外参加校のご紹介

２月２日（金）午後の部【会場６ 国際交流会場】
カンボジア王国スバイリエン州立教員養成学校附属小学校
６年 A 組 20 名のみなさんが参加

（2024.2 現在）

スバイリエン州立教員養成学校附属小学校の概要

- ●教員数 18 名
- ●児童数 577 名
- ●校 舎 ３棟 23 室（管理棟１室、教育棟２室）

●全 13 学級

１年生	２クラス	80 名
２年生	２クラス	87 名
３年生	３クラス	112 名
４年生	２クラス	102 名
５年生	２クラス	90 名
６年生	２クラス	106 名

令和５年度「信州 ESD コンソーシアム成果発表＆交流会」開催に際して

国立大学法人信州大学学長　中村宗一郎

皆さん、おはようございます。信州大学長の中村宗一郎です。

本日、『令和５年度信州 ESD コンソーシアム成果発表＆交流会』にお集まりいただき、心から感謝を申し上げます。この価値ある会合を主催する『信州 ESD コンソーシアム』、共催者、そしてご後援いただいた各団体、教育委員会の皆さまにも、深く感謝いたします。

今日、私たち人類が直面しているきわめて大きく深刻な問題は、「プラネタリー・バウンダリー」の問題、つまり地球の持続可能な限界を超えないようにしなければならない、ということです。これは、言葉を換えれば、現在の地球が、生物が住める惑星としての、その臨界点、限界点に位置しているということを意味しています。20世紀後半の科学技術の飛躍的な発展、人口の爆発的増加、そして盛んな人間活動により、地球に大きな負担（ダメージ）を与えてきました。地球温暖化は、その最たるものといえます。私たちは地球市民として、等しく、地球をこれ以上傷つけないようにし、地球の復元機能を担保し、地球再生を目指す「アース・ゼロ・ポジティブ」に向けた努力をすることが求められているのです。

健康を維持し、安全で文化的な生活を送るためには、豊かな自然環境の保全が重要です。私たちは、限りある天然資源と環境を守るために強い関心を持つ必要があり、環境との調和に優れた知恵を結集することが求められています。生物多様性の保全、地球環境の保全を視野に入れたクオリティー・オブ・ライフの維持・向上、生産性を保証しつつのカーボン・オフセット、脱炭素の仕組み構築など、これらは数学的に矛盾する究極の課題であるといえます。しかし、今こそ、地球上に暮らす全人類が協力し、知恵を出し合い、この難題を乗り越える時だと考えます。

カーボン・オフセット、カーボンニュートラル、ゼロカーボンを達成し、脱炭素社会を実現するためには、私たちの価値観、心の在り方を変える必要があります。この変革のために、教育、特に持続可能な開発のための教育（ESD）は非常に重要です。その意味で、今回の会合は大変貴重で意義深いものであると考えています。今回の成果発表会では、長野県内だけでなく、全国の小・中学生が参加し、地球の未来、人類の明るい未来に貢献するためのアイデアを共有します。小・中学生の皆さんには、堂々と、自由な発想で自らの考えを述べ、意見交換を行っていただければと思います。きっと、その経験は、皆さんの未来へと続く、貴重な一歩となることでしょう。

信州大学は、これからもESD 活動を力強く推進してまいります。私たちが目指すのは、持続可能な未来、人と自然が調和する社会です。これは、皆さま方の深い理解とご尽力があってのことです。

最後に、本日お集まりの皆さま、特に小・中学生の皆さんに感謝を申し上げます。それぞれの未来が希望に満ち、明るいものであることを心から願っています。今後２日間にわたる成果発表＆交流会、どうぞよろしくお願いいたします。

会場 1

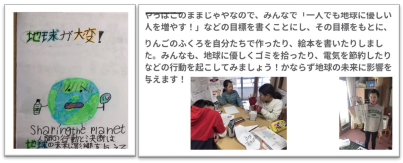
会場①　の発表＆交流会　共有

会場①　参加者のみなさま

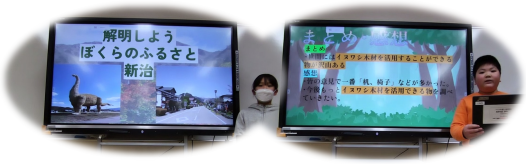
会場①　の発表＆交流会　共有

①【長野県】グリーン・ヒルズ小　1・2年生
「Sharing the planet ～平和と紛争解決～」

②【長野県】グリーン・ヒルズ小　3・4年生
「救え！私たちのりんご園！」



③【群馬県】みなかみ町立新治小学校　5年生
「探そう、新治の魅力」



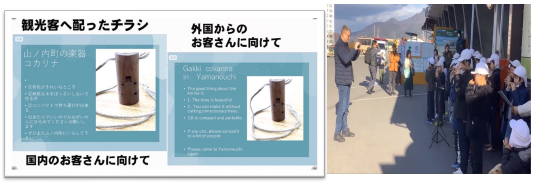
交流会の様子

会場①　の発表＆交流会　共有

④【福井県】大野市立阪谷小　3・4年生
「広がれ！阪谷チャンネル☆」

交流会の様子

⑤【長野県】山ノ内町立山ノ内東小　4年生
「コカリナの音色とともに思いを伝えたい」



会場 2

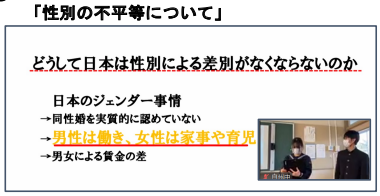
会場2 の発表＆交流会　共有

会場2　参加者のみなさま

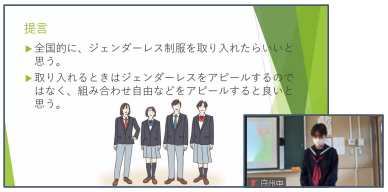
会場2 の発表 共有

①【長野県】附属松本小学校　4年西組
「よりよい【食】から考える、災害時における【食】」

②【山梨県】白州中学校　3年生
「性別の不平等について」



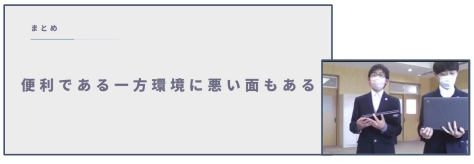
③【山梨県】白州中学校　3年生
「ジェンダーレス制服について」



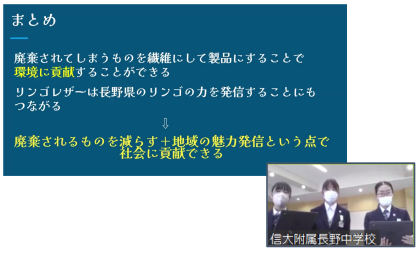
会場2 の発表 共有

④【長野県】附属長野小学校　6年1組
「耕作放棄地利活用プロジェクト
～使われなくなった畑で自給率０%の綿花を育てる～」

⑤-1【長野県】附属長野中学校　1年生
「持続可能な社会の実現に向けて（医療繊維チーム）」



⑤-2【長野県】附属長野中学校　1年生
「持続可能な社会の実現に向けて（食品製紙チーム）」



会場2 交流会の様子

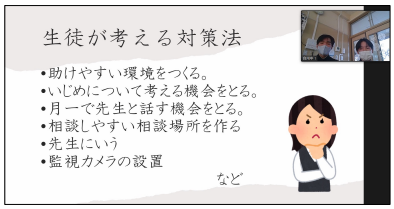
会場 3

会場③　の発表＆交流会　共有

会場③　参加者のみなさま

会場③　の発表＆交流会　共有

①【山梨県】北杜市立白州中学校　3年生
「平和と公正をすべての人へ」



②【山梨県】北杜市立白州中学校　3年生
「マイクロプラスチックと私たちの関わりについて」

③【山梨県】北杜市立白州中学校　3年生
「白州の水と災害に強いインフラ
～持続可能な社会にするために～」

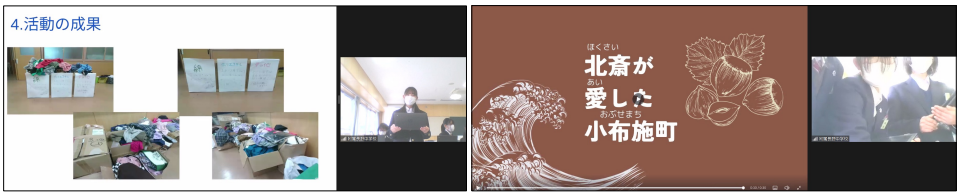
交流会の様子

会場③　の発表＆交流会　共有

④【宮崎県】綾町立綾中学校　生徒会
「持続可能な町づくりをするためのSDGs」

交流会の様子

⑤【長野県】信大教育学部附属長野中学校　1年校
「持続可能な社会の実現に向けて　（古着回収チーム／地域の魅力発信チーム）」



会場 4

会場④　の発表＆交流会　共有

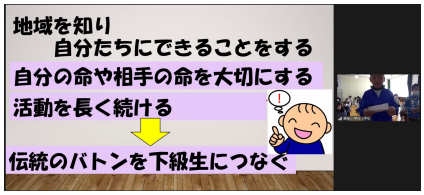
会場④　参加者のみなさま

会場④　の発表＆交流会　共有

①【長野県】山ノ内町立山ノ内南小　3年生
「リサイクルをしよう～きれいな山ノ内町を目指して～」

②【長野県】山ノ内町立山ノ内南小　6年生
「温泉を知ろう　～地域の温泉探検～」

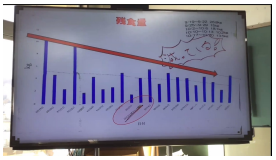
③【長野県】長野市立東条小　6年生
「東条で学ぶ・東条を学ぶ」



交流会の様子

会場④　の発表＆交流会　共有

④【福井県】茅野市立永明小　3・4年生
「給食ロスを減らし隊」



交流会の様子

⑤【長野県】山ノ内町立山ノ内西小　6年生
「山ノ内町をPRしよう！」

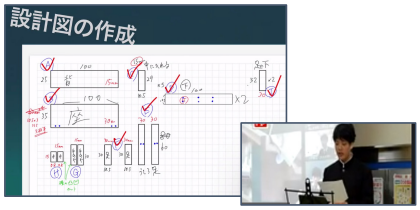
会場 5

会場5 の発表＆交流会 共有

会場5　参加者のみなさま

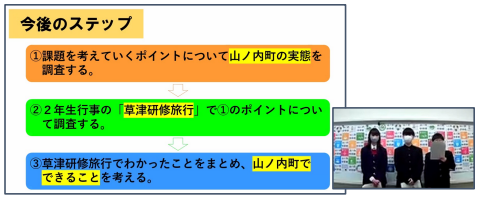
会場5 の発表 共有

①【長野県】根羽学園　5～8年　「根羽学園ESD」

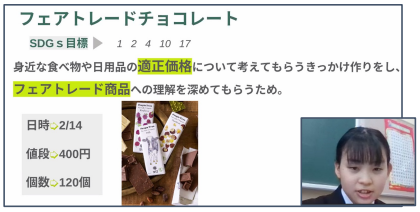


会場5 の発表 共有

②【長野県】山ノ内中学校 1年
「山ノ内町の魅力の再発見と活性化に向けての課題を探る。」



④【長野県】長野西高ユネスコスクール委員会
「SDGs17の目標を高校生の目線で捉え、達成に繋げる」



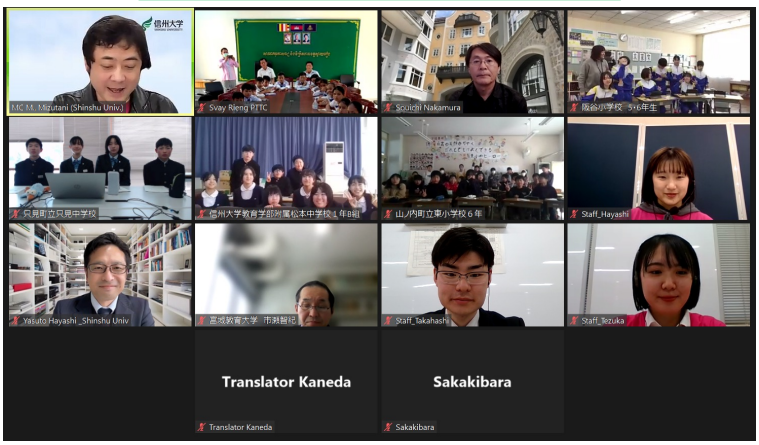
③【長野県】遠山中学校　2年生
「学有林を中心として、木材や林業について学ぶ活動」

会場5 の交流会 共有

会場 6

国際交流会場

会場⑥　の発表＆交流会　共有



会場⑥　参加者のみなさま

会場⑥　の発表＆交流会　共有

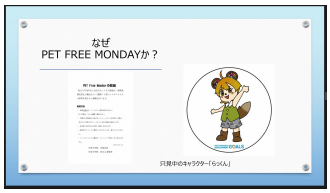
①【福井県】大野市立阪谷小学校　5・6年「Sakadani Star Point Project（さかだに　スター　ポイント　プロジェクト）」

交流会の様子

②【長野県】山ノ内町立山ノ内東小学校　6年生
「山ノ内町の魅力を調べ、発信しよう。」

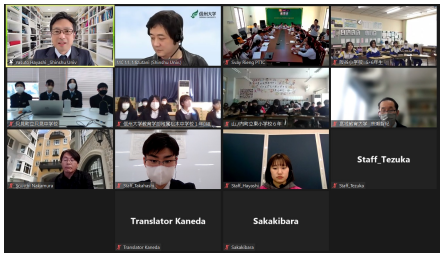
会場⑥　の発表＆交流会　共有

③【福島県】只見町立只見中学校　SDGs委員会
「地域と取り組む海を守る活動と持続可能な社会の実現のために私たちができること」

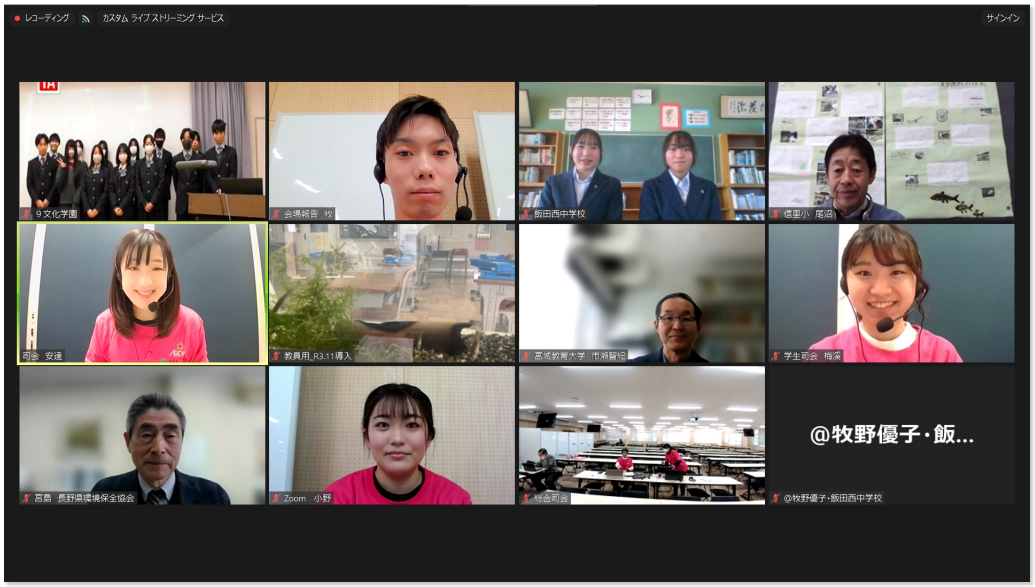


交流会の様子

④【長野県】信大教育学部附属松本中学校　1年生
「地域と世界を繋ぐ　～協力・絆・個性・環境～」



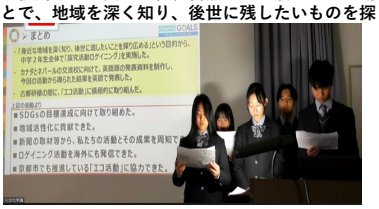
会場 7



会場⑦　の発表＆交流会　共有

①【長野県】長野市立信里小学校　3・4年生
「里山の生き物たち～シナイモツゴから学んだこと～」

②【長野県】文化学園長野中学校　２年生
「学校周辺の歴史や文化、自然などに触れられる場所をめぐることで、地域を深く知り、後世に残したいものを探り広める」

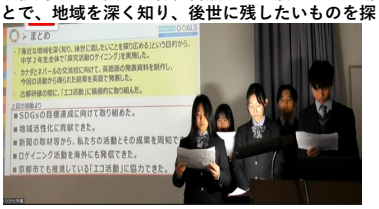


③【長野県】文化学園長野高等学校　2年探究合同ゼミナール
「学校も 自分も レボリューション！
～ルールメイキングプロジェクト」

会場⑦　の発表＆交流会　共有

①【長野県】長野市立信里小学校　3・4年生
「里山の生き物たち～シナイモツゴから学んだこと～」

②【長野県】文化学園長野中学校　２年生
「学校周辺の歴史や文化、自然などに触れられる場所をめぐることで、地域を深く知り、後世に残したいものを探り広める」



③【長野県】文化学園長野高等学校　2年探究合同ゼミナール
「学校も 自分も レボリューション！
～ルールメイキングプロジェクト」

【長野県】学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 1・2年生

会場①-1

活動テーマ Sharing the planet ～平和と紛争解決～

発表概要 「平和と紛争解決」をテーマに、自分たちの身近にある平和と世界で起きていることを比べながら、自分たちの周りのケンカやすれ違いをどのように解決すればよいのかをロールプレイから学びました。また、世界の戦争を止めたい想いから、平和を伝える写真集を作成しました。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

---

1. 学校名　対象（学年、人数）いいづな学園　グリーンヒルズ小学校　１・２年クラス　７名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

Sharing the planet 「平和と紛争解決」

(2) 目　標

異なる意見の理由を知ることは、争いを解決する手がかりとなる

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☐有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☑他者と協力する力
☐未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☐多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

10 人や国の不平等をなくそう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

(5) 探究課題・活動実践の概要

クラスのけんかが絶えず起こり、毎日が「悪」に感じられた日々を過ごしていたクラスでした。この「悪」の日々を何とかして変えられないか、けんかを止めるために周りの人たちができることはないか、なぜ喧嘩が起こるのかを考えました。この学びのおかげでクラスのけんかは、ほとんどなくなり、心地よく毎日が過ごせるようになりました。

しかし日々、戦争のニュースが流れているのを見ている子どもたちが、「どうして自分たちは、けんかを止められることができるようになったのに、大人はなぜ戦争を止めることができないのか」という思いを持つようになってきた。自分たちと同じ世代の子どもたちが、戦争によって暴力を受けたり、殺されたりしていることを知り、何とか自分たちにできることはないのか、自分たちの学びを伝えることはできないのかと思い、「笑顔の写真集」を製作し、国連とロシア、ウクライナなど戦争をしている国の大使館に送りたいという願いを持ち、行動に移しています。

3. 流れ（指導計画の概略）

10 月　身の回りにある平和の探究
　　けんかをとめるために、周りの人ができることの探究　（ロールプレイング）
11 月　喧嘩、紛争、戦争の原因の探究　（かずしらべ、新聞を使った調べ学習）
12 月　自分たちができることの探究　（写真集づくり）

4. 効果・反応・所感

クラスのけんかが、目に見えて減り、クラスの仲が良くなりました。子どもたちは、自分たちなりの紛争の解決の仕方を手に入れました。

そこから、自分たちでもできたのに、どうして大人はできないのかという疑問を持ち、平和に対す

る強い思いを持ち、世界に対して行動を起こしたいという思いを持つことになりました。
　まさか 1・2 年生で、ここまで強く世界の平和を思い行動することができるとは、子どもたちの心の強さを実感する 3 か月でした。これから、この子たちが大きくなり、さらに世界の平和を思って行動できる人に成長していくのが楽しみでなりません。

5.　指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
　ロールプレイングをすることで、実際に自分たちの状態を知ることができる。そこから、日々の生活に戻り、自分を見つめなおすことにつながる。
　最初は、教師が喧嘩をする役を務めた。日々のけんかの様子を再現できるような劇に仕立てた。

感 想

会場①-1 【長野県】学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 1・2年生 発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 戦争という世界的に重要な問題について、自分たちの日常の体験から喧嘩をしている時の気持ちを考えたり劇で喧嘩を表現してくれたりして世界が平和になるためには相手の気持ちを知ることを伝えてくれた。写真集を作って平和を訴える活動はとても素晴らしいと思いました。
- 戦争をなくしていくために、どうしたらいいか。実際に劇をしながら発表できていてとてもわかりやすかったです。アンケートもしっかりとまとめることができていました。世界中で戦争がなくなったらいいですね。
- 戦争を止めたいという思いから、身近な争いの例として、けんかを劇にしていてわかりやすかったです。国連やさまざまな国に写真集を作って送るということを知ってすごいと思いました。戦争を止めるために、自分たちができることをしていきたいですね。
- 学校生活という身近なところから問題を見つけ、解決しようとする姿勢が良いと思った。喧嘩を止めたり解決したりする方法を自分たちで考えて実践している点が良いと思った。世界を平和にしたいという思いは当たり前だけど大切な思いのため、大切にして欲しいと思った。
- 戦争を止めるために笑っている写真を撮り、写真集を作ったことが素晴らしい取り組みだと思いました。平和を実現するために自分たちにもできることを見つけて実行するというのは簡単なことではないと思うので尊敬します。また、実際に劇を行ってくれたことで争いをすべきではないという気持ちがしっかり伝わってきました。
- 戦争や紛争の解決といった重いテーマを、「どうしてケンカが起こるのか」「ケンカを止めるにはこんなことをする」など「ケンカ」といった自分達の身近なもので考え直しているのが素敵だと思いました！素敵な発表ありがとうございました！
- たしかにけんかをしてしまうとかなしいきもちになったり、いやなきもちになったりしてしまいます。そんなときにどうやってけんかをとめればいいのかを、「げき」をつかってわかりやすくせつめいしてくれてとてもよかったとおもいます。せんそうはけんかと同じような理由で起こってしまうとおもいます。戦争のない平和な世界にするために、みんなが相手の気持ちをわかりあうことが大事だということもよくわかる素晴らしい発表でした。
- 自分たちの身近なことと遠くで起きている戦争のことを比べることで、戦争も身近に感じて当事者意識をもてるようになると思うのでとても素敵な活動だと感じました。発表も小学生たちの劇などもまじえた発表になっていて、聞きやすかったと思います。
- 日常生活で起こるけんかに着目して、そこから戦争がない平和の世界を願うという考え方にはじめて触れ参考になった。また、笑顔の写真を集めた写真集を作成する取り組みは素朴ではあるがとても心動かされる活動だと思う。

〔教職員の皆様へ〕

- 自分たちの喧嘩から平和について考えることで、身近なことから社会・世界へつなげていくことが素晴らしいと思いました。また、子どもたちが平和に過ごせるために写真集を作りロシアやアメリカ、中国の大使館に送ったということも行動力があると思いました。グリーンヒルズ小学校の子どもたちの笑顔を見ることで大人が戦争について考え直す機会になる活動であり、戦争という大きな課題に小学生ができることとして大変有効ではないかと思いました。
- 今回発表を拝見する中で、子どもたちの笑顔の写真集を作り、国連や各国の大使館へ送る活動をされているということが特に印象的でした。写真集の作成が子どもたちからの発案であったのか、喧嘩から具体的にどのように戦争に関する学習へつなげていったのか等直接お伺いしてみたいことは多々ありますが、子どもたちが直接世界とも繋がれるような機会があることは、子どもたちにとって非常に素晴らしい経験になるのではないかと思います。自分自身が小学生だったのは10年以上前の話にはなりますが、世界で巻き起こっている戦争について考える機会はそこまで多くありませんでした。しかし、今回発表されていた1・2年生の皆さんは今の段階から戦争について考え、自分たちにできることはないかと実際に行動に移されています。世界を意識した学びを低学年から進めていることで、持続可能な社会の担い手として世界に目を向けた大人に成長していくのだろうと楽しみになりました。皆さんが大使館へ写真集を送られた後、戦争について今後どのように考えられていくのか、またお話を伺ってみたいです。ありがとうございました。

【長野県】学校法人いいづな学園グリーン･ヒルズ小学校 3･4年生

会場①-2

活動テーマ　救え！私たちのりんご園！

発表概要　「限られた資源を共有すること」をテーマに、自分たちが栽培しているリンゴの木の病気の原因を突き止めるべく活動をしてきました。すると、畑の手入れだけに限らず、今年の異常気象がもたらす影響の大きさが分かってきました。気候変動を今すぐなんとかしなければいけない。自分たちのリンゴ栽培から見えてきた事実に向き合います。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名：学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校、対象：３・４年生、８名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ　『救え！私たちのりんご園 ～リンゴ畑から見える気候変動問題～』

(2) 目　標

・りんご園の現状に気づき、その原因や対策について調査する中で、人間の生活が地球環境や生物たちの営みに少なからず影響を与えているのではないかという仮説を持ち、これからの自分たちのりんご園のあり方や生活の仕方について考える。

・具体的な活動からりんご園や野外活動のフィールドなどの身近な環境がこの数年で大きく変動していることに気づき、自分たちのりんご園もこのまま同じようには育てていけないことを活動と学びの往還を通して考え、切実感をもって行動する。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☐公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☐他者と協力する力
☐未来像を予測して計画を立てる力　☐つながりを尊重する態度
☐多面的・総合的に考える力　☐進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

13 気候変動に具体的な対策を
15 陸の豊かさも守ろう

(5) 探究課題・活動実践の概要

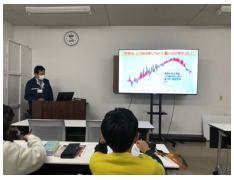
・探究課題「私たちのりんごは、なぜ病気になってしまったのだろう？」

・本校では、7 年前から小学生を中心に芋井広瀬地区に畑を借りて、りんごの栽培に携わってきた。3･4 年生の児童を中心に春からりんごを観察し、育てる活動を行っている。今年度は春の霜被害に始まり、高温の時期が長かった影響もあり、りんごの実は小さく、木そのものも元気がないのではないか、ということに児童が気づき始めた。そこで、自分たちで病気の原因を調べ、見えてきたいくつかの仮説をもとに農家さんへの取材を行い、その原因について追求した。そこから「気候変動」がリンゴだけではないその他の作物の生育に大きな影響を与えていることが分かってきた。自分たちが大切に育ててきたりんごの未来を軸にすることで、迫りくる気候変動による人間や動植物たちへの影響も捉えながら、「いま考え、行動しなければ」という切実な思いをもって問題に立ち向かおうと、まずはたくさんの人たちに、この事実を伝えようと動き始めている。

3. 流れ（指導計画の概略）

4 月～　りんご園作業① 花摘み、畑整備（今年の開花の早さを実感する。）
5 月～　水路づくり、草刈り作業

6 月～　水路づくり草刈り作業、暑さ対策をみんなで考える。（夏の時期の暑さを実感する。）
7 月～　草刈り作業
9 月～　災害について学習する、ハザードマップを確認し畑の危険を知る。
10 月～ 病気にかかった枝や幹を切る。（なぜ病気にかかってしまったのか、と疑問をもつ）
病気の原因を探るべく、本やインターネット、新聞などから調べる。
農家さんに直接取材し、病気の原因を調べる。
11 月～ 長野地方気象台へ行き、長野市内の天気や気温の変化について学ぶ。
気候変動によってどのようなことが起きているのかを学ぶ。
12 月～ 気候変動を止めるために、自分にできることは何かを考え、行動し始める。
1 月 ～ 2 月の発表会にて、そのような言葉で伝えるかを考え準備する。
2 月～　発表の場を利用して、多くの人に伝える。



4.　効果・反応・所感

これまでも当たり前に取り組んでいたりんご栽培だが、いつもとは異なる気候とそれによるリンゴの生育状況について、作業や観察を通して気づくことができ、それが学習の出発点にもなった。大切に育ててきたリンゴだからこそ、「病気を治すためにはどうしたらいいのか」という、自分たちが知りたいことをクラスの共通課題として学習を展開した。

また、学習の途中に自分たちでは調べられない事実、読めない資料が出てきたことにより、知りたいことを知るためにはどんな方法が適しているかを考え、病気について一番詳しい人＝農家さんに聞いてみようという流れを子どもたちが導き出すことにつながった。調べていく中で、リンゴの病気には気候の変化が大きく関わることを知り、「この事実をもっと色んな人に伝えなければいけない」「自分たちももちろんだけれど、たくさんの人で気候変動への取り組みをしなければいけない」と、手作りのパンフレットや絵本を通して人に伝える工夫をし始めた。

これから学習が終わり、年度末を迎えても、自分ひとりでもできる身近なことを意識化し、習慣化することで、気候変動に対して具体的に行動し、呼びかけられる子どもたちになりつつある。

5.　指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

・畑での農作業を通して実感を得る。
・取材や見学を通して、本物に触れる。
・発表の機会を利用して、自分の言葉で伝える。

＜体制の工夫＞

①信濃毎日新聞出前授業(取材の仕方、質問のつくり方)
②農家さんへのインタビュー(地主、災害経験のあるリンゴ農家)
③長野地方気象台への見学

感　想

会場①-2　【長野県】学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校 3・4年生　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- リンゴの不作と地球温暖化に関する気候変動対策を結び付けていてとても良かったです。どのお話に対してもしっかり調べてまとめているのが分かりました。今後地球温暖化がこれ以上進行しないように、皆さんが教えてくれた対策が進んでいけばいいですよね。ありがとうございました。
- リンゴの木が病気になった原因についてみんなで話し合っている姿が素晴らしいと思いました。また、原因を探るために農家さんにインタビューをするために、信濃毎日新聞の記者の方にお話を聞く、という学びの姿勢がすごく感じられました。そこから地球温暖化についてわかりやすくまとまっており、その後地球温暖化が進んだ結果についても説明があり危機感を感じました。私も今日から改めて気を付けようと思います。
- りんごを病気から守りたいという気持ちから、自分が地球環境を守るために何ができるのかということを考えていたのがすごいと思いました。これからも、自分たちに出来る些細な事でいいので、地球環境を守るためにできることを考えていってほしいと思います。
- 自分たちの身近な存在であるリンゴに関する身近な疑問を取り上げ、原因を自分たちで複数個挙げて、実際に専門家の方に聞きに行くのは、探究的な活動としてとてもいい活動であると思いました。また、リンゴの原因として挙げていた気候変動を詳しく取り上げて、どうすれば気候変動を少なくできるかというところまで意見を挙げることができていたことに加えて、自分たちにできる活動まで触れることができていていいと思いました。
- りんごの木が病気になってしまった理由について気候や歴史、育て方などいろいろな側面から考えていて良いと思います。りんごの腐乱病の原因調査から地球温暖化の問題について知り、物事を発展させながら課題解決する姿はとても良いと思います。自分たちで何ができるのか考える、行動することも大事なことだと改めて感じました。
- リンゴの病気の原因を考えて調査や、いろいろな分野の人にアンケートを取るなどして、そこから地球温暖化の問題に繋げて学習したのが素晴らしいと思いました。リンゴだけでなく、他の身の回りのものからもSDGsについて考えることで、もっとSDGsの意識が広まると思いました。
- リンゴの木が病気になってしまった理由を細かく振り返って、仮説をたてて原因を調べるという活動が環境について考えるよい初めの一歩になると思います。実際に育てて生計を立てている農家の方に聞いたり、気候変動について専門家に聞いたりと確かな知識を得て、わかりやすい説明でした。
- りんごのような植物と天気は密接に関係しているため地球温暖化が少しでも止められればと思います。私も私ができることを少しずつやっていこうと思います。みんなで温暖化対策に関する目標を立てたのがいいなと思いました。
- リンゴ栽培の中で起きた「腐らん病」の原因分析を通して地球温暖化ついて学習し、地球温暖化の具体的な対策を調べて、わかりやすくまとめられており簡単に地球温暖化について学ぶことができました。そして、地球温暖化の対策としてポスターを作成したり電気の節約、食品ロスの削減など一人ひとり自身ができることを提示したりしていることも、自分ができることは何なのか真剣に考えていることが伝わってきました。
- 私も長野県出身で、親せきや知り合いに毎年長野のリンゴを送っています。今日の皆さんの発表で、地球温暖化によって長野のおいしいリンゴが食べられなくなるかもしれないと聞いたとき、私もそれはすごく嫌だなと感じました。皆さんが行っている節電などの対策は、リンゴ栽培だけでなく、世界の気候変動を防ぐことにも貢献しているので、とても良いなと思います。私も皆さんを見習って、長野のりんごのみならず世界の果物や野菜を守る努力をしていきたいです。
- 地球温暖化が進み、このままだとりんごが採れなくなってしまうことを初めて知りました。地球温暖化に対しての方向性について、グラフなどを用いて解決案をわかりやすく発表しているのがすばらしいと思いました。一人でも地球に優しい人が増えるように、少しずつみんなが地球温暖化について知り、行動をしていければよいと思います。
- 自分たちのリンゴ園の活動が気候変動とつながっていること、気候変動がいかに身近でかつ大切な世界的問題であるかを自分たちで気づいていること、がとてもよくわかりました。発表も見やすかったです。また、自分たちのできる行動をはじめていることもすばらしいです。この行動が家族、地域の人、と広がっていくことを期待します。

- とても良い発表でした。リンゴが育たない原因が害虫だけでなくて、他の原因についてもみんなで話し合って候補を挙げて調べたことは素晴らしいです。その過程で、マスコミ、農家、気象台の人に話を聞いて、地球温暖化のことに結びついた。リンゴが育たないのは嫌だとの思いから皆でできる温暖化防止のアクションを7つも考えて、しかも一人ひとりが目標を決めて取り組むことになったことに感動しました。がんばりましょう。

〔教職員の皆様へ〕

- リンゴの病気から地球温暖化に焦点が変わる様子がよくわかりました。地球のために自分の生活からできることを調べて呼びかけを行っているのが素晴らしいと思いました。このままだと長野は、地球はどうなるのかをリンゴを通して肌で感じながら学びを行っていることがとても良いと思ったし、危機感を持って自分にできることを探すことを私も行っていきたいと思える発表でした。
- 今回の発表では、自分たちが栽培しているリンゴの木が病気になってしまったところから世界の気候変動へと視野を広げていかれていたところが特に印象的に感じました。自分たちの身近な環境から世界へ目を向けていくことは、子どもたちにとっても地球環境を意識しやすい流れだったのではないかと想像できます。いきなり世界の気候変動をはじめとした地球環境に目を向けようとすると自分事としてとらえられない難しさもあるように思いますが、皆さんは自分たちが大切に育てているリンゴの木が病気にかかってしまったことから動機づけされていたため、地球規模の問題について自分に関わっている問題であるという意識を持つことができていたのではないでしょうか。3･4年生の皆さんの発表から、改めて自分が日々生活している環境も地球全体の課題と結びついていることを再確認することができたとともに、日々の生活から何かできることはないかと改めて考えることができました。ありがとうございました。

【群馬県】みなかみ町立新治小学校 5年生

会場①-3

活動テーマ　探そう、新治の魅力

発表概要　群馬県と新潟県の県境に位置する「赤谷の森」には様々な生物が生息し、共生しています。アンブレラ種であるイヌワシを生態系の筆頭として、生物多様性が保たれています。その生物多様性の保全のために、どのような取組がなされているのか、自分たちにはどのようなことができるのかを追究しました。また、イヌワシの狩り場を確保するために行われる間伐によって得られる木材（イヌワシ木材）の利活用について考えました。

感　想

会場①-3　【群馬県】みなかみ町立新治小学校 5年生　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 自分たちの住む町に身近な自然について詳しく、聞いている人にわかりやすく説明してくれてとても良かったです。自分たちで課題を設定してどのように解決をするかをしっかり考えられていることがとてもすごいと思いました。一人一人がはきはきと話すことができていてとても聞きやすかったです。
- 新治の良いところを発表の初めに知ることができ、行ってみたいなと思いました。現地に行って生き物や植物について、その名前だけではなく詳しく調べた結果を説明してくださったので、より分かりやすく興味がわきました。赤谷プロジェクトというプロジェクトがイヌワシやその現地の生態系に影響していることが分かりました。この活動については今まで知らなかったので、自分でも調べてみたいと思いました。また、イヌワシ木材の活用方法がしっかりと考えられていました。
- 新治がどのような魅力があるのかをしっかりまとめ伝えられていた。調べ学習を通して、それぞれの生物、植物、観光地などがどのようなものなのか、それの魅力は何なのか等をわかりやすく述べられていたのがとてもいいと思った。発表の仕方もとてもよくスライドも見やすかったため、とても聞きやすかった。
- 赤谷の森について、実際に遠足に行くといった実地で調査をしているのはいいと思いました。また、各森の紹介として、森の岩や植物、動物について詳しく紹介していて、赤谷の森についての理解を深めることができました。さらに標高での分布の違いや動物の分類についても調べられており、その中からイヌワシという動物の特徴を捉えて、生態などを調べられていることもいいと思いました。そのイヌワシの狩場作りの過程でできた木材に関する課題、解決方法を考えられていていいと思いました。
- 「環境とともにある学校づくり」がとても前面に出ている探究、成果発表だったと感じています。発表のつかみが、研究内容とも少しかかわりながらスムーズに研究内容に移行できていて、とても良いと感じました。赤谷の森に関して、全く知識がなかったが、今回の発表を通して自分自身とても学びが多かったです。生物多様性というとても複雑で難しい問題を探究的に学習していたのがとても印象的でした。課題解決を自分たち自身で考え、木材の特徴などから活用方法を探っていく姿勢がとても良いなと感じました。
- 赤谷の森のことを調査し、そこから生物多様性について考えているのはよいと思いました。また、それだけでなく、赤谷プロジェクトで生まれる木材の活用を考えているのはよいと思いました。これから実際に木材をつかって商品を作ってみると、また新たな活用方法が見えてくると思いました。
- 新治には温泉や自然など、様々な魅力があるのですね。新治の自然について、実際に赤谷の森に行って、植物やきのこ、動物など森のことをたくさん知り、調べてきていてすごいなと思いました。人工林から自然林に戻すための試験地も話されていましたが、なかなか1度人工林にしてしまうと自然に戻すのは難しいことだろうなと思っていたので、そういった活動があるのだと嬉しくなりました。うまく行くといいですね。イヌワシ木材に関して、いくつかの課題がありましたが、自分たちで特徴を理解して活用しようとしている所、積極的に考え行動できていてすごいと思います。発表ありがとうございました。
- 赤谷プロジェクトを通して、イヌワシの保護活動などを行い、自主的に生物多様性について考え行動できているのがとても良いと思いました。また、イヌワシの保護で発生した木材の活用方法まで考えられていて、とても環境にやさしい取り組みだなと思いました。
- 森林伐採が問題になりやすい今の時代において、イヌワシの狩り場づくりのために木を切るという発想にとても驚きました。しかし、それが結果的にイヌワシの保護や生物多様性に繋がるだけでなく、そこで切った木が学校や地域でどのように活用できるかを詳細に考えている皆さんを見て、皆さんのSDGsに対する熱い思いが伝わってきました。たくさんの人にイヌワシ木材を知ってもらえること私も願っています。

- 「自分たちの住む地域のよいところ」に着目してそれを守るためのプロジェクトを作っていくという姿勢がとても素敵だと思いました。イヌワシの生活環境を整えるために必要なこと、そこに発生する課題、課題の解決策すべての提示の仕方が鮮やかですっと頭に入ってきました。イヌワシ木材の半紙、私も使ってみたいと思いました。
- 新治という土地の特徴などとても分かりやすく、スライドにも写真や画像、配色など工夫されていて発表自体とても聞きやすく感じました。SDGsを意識した課題になっていてとても素晴らしいと感じました。新たな課題設定までされていてとても素敵だと思います。
- 赤谷の森にはたくさんの植物や生物がいて、それらの生物多様性を守っていくために赤谷プロジェクトを行っていることが分かりました。切られたイヌワシ木材を使っていろんなものを作るのは、切られた木の活用だけでなく、地元のPR等にもつながると思うので良いと思います。
- 生物多様性の保全のために、どのような取組がなされているのか、自分たちにはどのようなことができるのかの追究が詳しく行われていて良かったです。イヌワシの狩場を確保するために行われる間伐によって得られる木材の利活用について子どもなりに考えるというのが新しい視点に繋がっていてよかったです。
- 地元の魅力について、調べ学習をしているところがとてもいいなと思いました。また、調べ学習にとどまらず、実際に行ってみるといった体験をしていることをしていて、発表に説得力があると感じました、また発表も原稿を見ずに堂々としていて、小学5年生とは思えない素晴らしい発表でした！
- 生態系を維持するストーリーを知り、なおかつ適正価格を理解して商品を買ってもらう、ということの重要性がよく伝わりました。自分たちで課題発見ができていることも良かったです。次はこの課題をどうやって解決していけるか、誰に働きかけたらこの課題に対して変化が生じるか、さらにどんどん行動していけるよう、応援しています。

〔教職員の皆様へ〕

- 自分の住んでいる地域にある自然についてあまり知らないということはどこの地域でもあると思います。自分の地域の自然について聞かれても答えられないという気づきができたことがまず素晴らしいことだと思いました。赤谷の森にすむ動物を標高ごとに調べたり、森の植生について細かく調べていてまとめ方もわかりやすくすごいと思いました。また、交流会で質問に答える際もとても丁寧に答えていて丁寧に調べていることがよくわかりました。
- 子どもたちの身近にある自然について深掘りし「赤谷プロジェクト」の取り組み注目した活動であることがよく伝わってきました。プロジェクトに携わっている方々が抱えていらっしゃる課題について、自分たちではどんなことができるのかという視点で考えていく子どもたちの姿は、大人にはない自由な発想も生まれてきたのではないかと思います。発表を見ているなかで、「イヌワシ木材のストーリーを理解した上での活用」という言葉がありました。きっとこの言葉には、”ただの木材”ではなく、その活動にいろんな人の思いが込められているのだろうと感じました。子どもたちがそのストーリーをどのように理解し、どう寄り添いながら今後の活動に取り組んでいくのか楽しみになりました。
- これまで私は長野県の小学校の様子を学ぶばかりでしたので、今回新治小学校さんの発表を拝見する中で、長野県外の取り組みや環境について学ぶ貴重な機会をいただきました。今回の発表では赤谷の森について存在は知っているものの詳しくは答えられないという実態から取り組みが始まったとお話しされていましたが、実際私自身も発表を伺いながら、地元に存在する環境について地名は知っているが具体的に何があるのか、どのような動植物が存在するのかということは詳しく答えられないことに気が付きました。新治小学校さんではその課題について、ただ調査して終わるのではなく、地域が欠ける課題にまで視野を広げ、SDGsの観点からの貢献につなげていらっしゃる点が特に印象的でした。森林に関する問題は他にも多くの地域で生じているのではないかと考えられます。その地域に住む子どもたちが地域の課題について取り組み、地域外にも向けて発信していくことは、同じような課題を抱える地域にも貢献することとなる素敵な取り組みであると感じました。ありがとうございました。

【福井県】大野市阪谷小学校 3･4年生

会場①-4

活動テーマ　広がれ！阪谷チャンネル☆

発表概要　総合的な学習で「YouTube」を核にして地域の魅力を情報発信したいと考えた３・４年生は、地元の星空スポット、ひまわり栽培、里芋農園見学などを動画編集し発信しています。離れた場所からでも阪谷地区の魅力を感じてもらいたいです。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1.　阪谷小学校　第３・４学年　８名

2.　探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

広がれ！阪谷チャンネル☆

(2) 目　標

地域の魅力を発信する核としてがんばってきた『阪谷チャンネル』をより多くの方に広める。結果として地域の魅力である星空・里芋・ひまわりなどが広く発信され、自分達の誇りとして認知することにつなげる。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☐公平性（一人ひとりを大切に）
☐相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☐有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）
☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☑他者と協力する力
☐未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☐多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDG s ※学校側での入力は不要です（詳しくはコメント欄をご覧ください）

4 質の高い教育をみんなに　7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに
9 産業と技術革新の基盤を作ろう　11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任　15 陸の豊かさも守ろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

(5) 探究課題・活動実践の概要

地域の魅力をどんなツールを使ってより広く発信していくか。また地域の魅力としてどんなものを発信することが有益か考える。

3.　流れ（指導計画の概略）

年度初めに総合的な学習で核とするものを児童に問うた。「YouTube を使う」という抽象的なイメージをもっている児童が多かった。そこで YouTube にどのような動画を発信していくとよいのか練合い、「星空・ひまわり・里芋」にしぼられてきた。主体性をもたせるために星空については夏休みに家の近くにある星空スポットを自ら調べる活動を入れた。その場所を実際に訪れて動画材料を集めた。少しずつではあるが YouTube に動画が増え、チャンネル登録者数が増えてきた。信州 ESD を含め市内、県内、県外にまで発信する機会を得ることができた。

4.　効果・反応・所感

YouTube は目的を定めず動画を楽しむものという児童の認識を変えることができた。地域の魅力を発信するためのツールとして使えるという認識に変わった。多方面に発信する機会を得たことで、がんばりを認められることが増え、児童の自信につながった。また、地域の魅力である「星空・ひまわり・里芋」について自分たちが持っていた以上の価値をもっていることが認識できた。

5.　指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

星空については８月に星空保護区認定を受けたことが追い風となり、児童が主体性をもって取り組んだ。里芋も地域の特産品として認定されており、市独自の社会科教科書にも掲載されている。星の街鑑賞会の橋本さんが里芋農園を経営しており見学までの計画がスムーズだった。ひまわりは地域の花として大切にされており、阪谷マイスターの山村さんのフルバックアップを受けられる環境があった。

感　想

会場①-4　【福井県】大野市阪谷小学校 3･4年生　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 今回の皆さんの発表であおぞらの街･星空の街という大会があることを初めて知りました。皆さんの発表、本当にすごかったです。堂々と話して、笑顔で、とても分かりやすい発表、誰にでもできることじゃないと思います。本当にすごかったです。ありがとうございました。
- YouTubeで活動を発信しているのはとても新しいし、全国各地で阪谷小学校の活動を見ることができるのでとても良い活動だと思いました。全国大会の様子も、大勢の人の前でも堂々と立派に発表出来ていてとてもすごいと思いました。地域の魅力を動画で見やすく、より魅力的に映るようにまとめられていて素敵でした。
- 全国大会の発表が手などのジェスチャーもついていて、堂々とした発表ができていてすごいと思いました。また、ユーチューブで地域の魅力を配信するために素敵な台本などを考えて、そのために取材をしたり実際に育てたりと実行力や行動力があると思いました。素敵な星空、青空のあるこの地域がとても魅力的だと思いました。
- あおぞら派,星空派というのは考えたことがなく、面白かったです。YouTubeも、地域の魅力を発信するためにうまく活用されていてすごいと思います。なぜ空がきれいに見えるのか、疑問を持って調査に取り組む姿は、研究をしているようでかっこいいなと思いました。楽しい発表をありがとうございました。
- 自分たちの地域の魅力である、夜空やヒマワリについて、YouTubeを利用して発信していてすごいと思いました。これからも大野市の魅力を更に発信していってください、
- スライドや発表の仕方がとても凝っていて見ていて楽しかった。YouTubeを用いて自分たちの住む町にどのような魅力があるかを伝えるというやり方は他の学校では見られなかったのでとても良い試みだと思った。動画の作り方も工夫されていてとても見ていて面白くわかりやすかった。
- 星空とっても大好きです！YouTube動画をたくさん作成して投稿しているということで、星空など、地域の様々な魅力について探究的に学習を進めているということを理解できる発表でした。キャッチーなオープニング、興味深いテーマ設定と活動、編集がとても印象的でした。ひまわりの動画とっても気になったので、ぜひ見てみたいと感じました。見学、まとめをして終わりではなく、YouTubeに投稿するというのがとても斬新でよいなと感じました。
- 子どもたちが皆元気良くて見ていて楽しかったです。地元の阪谷に対する愛をとても感じました。ひとつの分野だけでなく、様々な名所産業に目を向けているのはよいと思いました。自分たちの取り組みがSDGsのどの分野にかかわるかについて考えることで、阪谷だけでなく、そこから世界に目を向けたSDGsの考え方が育つと思いました。
- 大野市の農業や星空、自然などの様々な魅力が紹介されていて福井県大野市の自然の魅力について皆さんの工夫によってわかりやすく知ることができました。私は星空や農業などについて、観光資源の宣伝方法や里芋農家の方が抱える課題を深堀りした話題にも興味がわきました。
- 発表の流れがスムーズでとても聞きやすかったです。星空や青空を楽しむことができるスポットがたくさんあって阪谷の魅力がよく分かりました。また、阪谷はひまわりが有名であるということを知ることができてよかったと思うし、立派なひまわりを育てることができていてすごいと思いました。
- YouTubeで紹介されていた星空を見て、ここまできれいな星空を見たことがない私には、とっても羨ましく感じました。私はこれから春休みに入るので、機会があったら行ってみようかなと思います。また、魅力的な星空を発信しつつ、SDGsにも関係する光害対策を訴えているところに、皆さんのYouTubeの上手な使い方が表れているなと思いました。皆さんの動画を見て、たくさんの人が星を見にくるようになるのではないかと思います。
- 最近は多くの人がスマートフォンやパソコンなどを持っており、たくさんの情報を簡単に調べることができるようになってきました。そんな中で、地域の魅力をYouTubeで発信するというアイデアは、時代に合っていてとてもよい取り組みだと思います。より多くの人に見てもらうためにはどうすればよいのかなどを考え、工夫して動画をあげていくとさらによくなると思いました。
- 小学校全体でYouTubeチャンネルを運営していることに驚きました。大人が地域のPRをするよりも、実際にその地域で暮らしている小学生たちの純粋な感性で紹介する方が視聴者の心に響くのかなと考えました。コミカルながら魅力や初めて知る情報が目一杯詰まったYouTubeチャンネルで思わずチャンネル登録してしまいました。
- 発表がとても素晴らしかったと思います。特に身振り手振りをおりまぜた発表だったり、声をそろえて聞いてい

る人の興味をひいたりなどの工夫がすごく良かったと感じました。さらに、地域の活性化のために現代ならではのYouTubeという手段を活用しているところもとてもいいと思いました。

- 短い時間の中でも、阪谷地区の魅力がしっかりと伝わってきた素敵な発表でした。自分たちの地域の良さについて、積極的に見つけていくことは素晴らしいと思います。そして、YouTubeを使って発信しているのも感心しました。私もぜひその星空を見てみたいと思いました。
- 全国大会の発表動画では広い舞台上で堂々と表情豊かに紹介している姿が印象的だった。実際の場所に行って紹介していることで実際に行ってみたいと思う気持ちが沸き上がった。
- 総合的な学習で自分たちに身近である「YouTube」を核にして情報発信をしたいという考えに至ったのがすごいと思いました。地元の星空スポット、ひまわり栽培、里芋農園見学などを動画編集し発信中とのことでそれを自分たちで行っているのを尊敬しました。離れた場所からでも阪谷地区の魅力を感じてもらいたいという思いが伝わってきました。
- 星空がきれいにみえる「条件3つ」を学んだことで、大野市の特別さが伝わりました。空がひらけており、光害が少なく、空気が澄んでいる という3つの条件を全て満たす土地はなかなかないように感じます。そこから、大野市の魅力やみなさんが星に着目した理由が分かった気がしました。今後もきれいな星空があたりまえではないことを忘れず日々を過ごしてください。

〔教職員の皆様へ〕

- 全校人数が少ない中で、インターネットメディアを活用しながら地域の良さを全国だけでなく、世界に広めている活動が素晴らしいと感じました。地域の人の力を借りながら、活動を進めていく中で今後さらに疑問や地域の課題に出会いながら課題が深まっていき、どのように解決していくのか、動画で見られることを楽しみにしています。
- 編集も見やすく、自分の地域の魅力を発信することを楽しそうに行っていることがよくわかりました。大野市のことを知らない人に楽しく手軽に見てもらえるような工夫がたくさんされていると感じました。大野市に星空を見に行ってみたいなと思いました。

【長野県】山ノ内町立東小学校 4年生

会場①-5

活動テーマ　コカリナの音色とともに思いを伝えたい

発表概要　志賀高原生まれの楽器「コカリナ」についての学習で、コカリナ工房の北澤さんの「コカリナを広めたいと思っているがなかなか広まらない」という言葉から「コカリナの良さをもっと知ってほしい」「僕達がコカリナを広めていきたい」という思いを持ちました。そこで、コカリナの良さを紹介するチラシを配ったり、コカリナの演奏をしたり、学校のホームページに自分達の演奏を載せ、より多くの人に知ってもらおうと活動しています。

感　想

会場①-5　【長野県】山ノ内町立東小学校 4年生　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- コカリナの木がリサイクルされたものだという話を聞いて、環境にやさしいとてもいい配慮だと思いました。音も優しくきれいで私も吹いてみたいと思いました。コカリナがもっと広がるために自分たちで何ができるかを考えて実行できているところがすごいと思いました。
- ニコニコ楽しそうな子供たちが印象的でした。私も昔コカリナを持っていたことがあったので、その歴史を知ることができて興味深かったです。また、外国人の方とお話ししたり、コカリナの良さを広めたりする活動が素敵だと思いました。もっとたくさんの人にコカリナが広まればよいなと私も思います。コカリナは吹くのが大変なのに、演奏が上手で驚きました。
- 志賀高原の楽器を実際に使うことで町おこしをしていてとてもいいと思った。コカリナの良さを実際に演奏で伝えるという点が見ている側として魅力がとても伝わってくるためいいと思った。外国の人相手にプレゼンのようなものを行っているのもすごいと思った。
- コカリナの誕生は切り倒された木の活用方法として生まれたというのは知らなかったので、とても興味深い内容でした。実際に外国の方に紹介したり、演奏したりしてみるという活動はそう簡単に進めることができるものではないと感じているので、とても印象的でした。コカリナの音を聞いて、外国の方も自然と笑顔になっているなと感じました。このように活動を通して、目に見えて、コカリナを知っている人が増えたり、笑顔になる人が増えたりするのは活動の探究の支えになっているのかなと感じました。エーデルワイスもとても上手な演奏で感動しました。
- コカリナを多くの人に広めるために、外国人と交流したり、チラシにQRコードを載せて手軽にコカリナについて知れるようにしたりといった工夫をしている点が良いと思った。活動を通して、コカリナを広める大変さを知ったこともよい経験だったのではないかと感じた。
- 山ノ内にしかないコカリナを広めるために、実際に自分たちで作ったコカリナで演奏を行って広める取り組みはとても素晴らしいと思いました。演奏もとても上手でした。子どもたちがとても元気で良いと思います。自分たちの取り組みがSDGsのどの分野にかかわるかについて考えることで、世界に目を向けられるようになると思いました。
- コカリナという楽器は初めて知りました。オカリナの小さい版のような楽器なのでしょうか。オカリナの音色は暖かくてとても好きなのですが、コカリナはオカリナやリコーダーより高くてかわいらしい音色ですね。合奏に取り入れると面白そうだなと思います。人前で披露できるようになるまで練習するのはとっても大変だったと思いますが、うまく演奏できていてコカリナの良さがとても伝わってきました。発表ありがとうございました。
- 地域の人に実際に話を聞いてくれたことでコカリナについての詳しい知識や課題について知ることができました。地域に貢献するためにチラシを作ったり実際にコカリナを演奏したりしているのが素晴らしいと思いました。また、コカリナは捨てられる木を使っているので環境にやさしいということを聞いて私もよりコカリナが世界中に広まってほしいと思いました。
- 私はコカリナの存在は知っていましたが、コカリナを作るために木を切るのではなく、捨てられそうな木を使って作っていることを知って、とても環境に良いなと思いました。環境に優しいだけでなく、音色まで美しいコカリナがなぜあまり知られていないのか、とても不思議に思うくらいです。皆さんにはこれからもコカリナをたくさん演奏して、その魅力を発信してほしいなと思います。私も、演奏してみたいです。
- 地域の特殊な楽器を使って演奏するという経験はなかなかできないもので、そこから外国人の方との交流にもつながっているのがとても貴重なものだと思います。ただ楽器を演奏するだけでなく、そこから多くのことを学

んでいて、気づく力も素晴らしいと感じました。

- コカリナについてたくさん知ることが出来ました。切り倒された木を使って作ると聞き、森林伐採が進んでいく中で木を有効に使えていいと思いました。コカリナを作るだけでなく学校外で演奏をして魅力を発信しているのもいいと思います。私もコカリナを演奏してみたいです。
- この発表を通して、コカリナというものを初めて知りました。地域の方がコカリナを広めようとするのを手伝っているところがすごくいいなと思いました。コカリナがこれからもっと広まっていけるように頑張ってほしいなと感じました。
- 自分たちが住んでいる地域にある志賀高原生まれの楽器「コカリナ」について学習して、コカリナ工房見学で製作者から語られた言葉から、コカリナの良さをもっと知ってほしい、コカリナを広めていきたい、という思いを持って広めようとしているのがよいと思いました。コカリナの良さを紹介するチラシを湯田中駅で観光客に配ったり、コカリナの演奏をしたりして、観光客に知ってもらおうとしているのがすごいと思いました。更に学校のホームページに自分達の演奏を載せ、より多くの人に知ってもらおうと活動していると知ったので続けていってほしいです。
- みなさんの熱意や、演奏を練習した背景がひしひしと伝わりました。まず、1週間に2本程度しか作れないものをみんなが持っている事実がすごいと思いました。またそれらを使ってみんなが一体となって演奏に夢中になれる環境はすてきだなと思いました。初めて見る楽器だったけど、みなさんの様子から私も買ってみたい、触れてみたいと思わされました。これからも素敵な仲間と共にコカリナの魅力を伝えてください。

〔教職員の皆様へ〕

- コカリナという楽器を初めて知りましたが、こんなにきれいでしっかりと音の出る楽器だと知らず、とても良いなと思いました。観光客のために英語で紹介しているなど広めたいという思いがよく伝わってきました。演奏もとても良かったです。販売している場所も知れたので私も吹いてみたいと思います。
- コカリナの音色が非常に美しかったです。コカリナ作り始めたきっかけが、無駄にされる木材をそのまま捨てるのではなく再利用という形で残していこうということで、資源を無駄にしない姿勢が素晴らしいと感じました。なかなか広まりにくいという現状に対して、子どもたちが駅前や様々な場面で音色を披露していて、少しずつでもその文化が根付いていくのではないかと思います。

【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校 4年生

会場②-1

活動テーマ　よりよい「食」から考える、災害時における「食」

発表概要　子どもたちは給食や家庭での「食」を見直したり、一食分の献立を考えたりすることを通して「よりよい『食』とは何か」について考えてきました。2学期の社会科「自然災害からくらしを守る」では、災害時における「食」に着目し、ライフラインが止まったとき家庭にある食材をどう使うかを考えたり、パッククッキングを体験したりしながら平時、非常時においても「よりよい選択をすること」の大切さについて学んできました。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名　信州大学教育学部附属松本小学校　4 年生（３５名）

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

「よりよい食」から考える災害時における「食」

(2) 目　標

・自分にとってのよりよい「食」とは何か、場面に応じて食材を選んだり、必要な食事を選択したりすることができる。

・災害時において、「よりよい選択」をすることの大切さに気付き、自分でもやっていこうという心情を育む。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☐公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☐連携性（互いに連携・協力すること）

☐有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）

☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☑他者と協力する力

☑未来像を予測して計画を立てる力　☐つながりを尊重する態度

☑多面的・総合的に考える力　☐進んで参加する態度

☐コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

3 すべての人に健康と福祉を
10 人や国の不平等をなくそう

(5) 探究課題・活動実践の概要

探究課題：「よりよい選択とは何か」

活動実践の概要

・総合的な学習の時間を使った「食育」の学習と社会科「自然災害からくらしを守る」との接点を見いだし、災害時における「食」について考えていく。

3. 流れ（指導計画の概略）

① 食育（給食を見直す、食事バランスガイドを使って一日の食事を考える、給食の献立を立てる）

② 社会科（デジタルアーカイブの視聴を通して実相を知る、災害における事前と事後とでどのような備えがあればよいかを考える、ライフラインが止まったとき、何をどう食べるかを考える）

③ 災害時＋食（パッククッキング）→災害時であるからこそ、栄養バランスがとれた食事、おいしい食事をとることの必要性について考える

4. 効果・反応・所感

子供たちにとって身近ではない「災害」を、身近な「食」と関連させながら考えることのできる環境を設定することで、災害時、「こういうことを知っていれば選択の幅が広がる」、「どんな備えをしておけば、１人でも何とか生き抜ける」等といった、その子なりの必要感をもった防災学習に繋がったと考える。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

① 信州大学　榊原先生、沖嶋先生

② 大学院生　H さん（栄養教諭の資格あり）

感 想

会場②-1 【長野県】信州大学教育学部附属松本小学校 4年生 発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 給食という小学生の楽しみであるものに焦点を当てて、探究学習をスタートさせていることがとても良いと思った。栄養素の面から解決策を考えて、実際にやってみるという流れがよいと思った。何歳になっても健康は大切だと思うので、今回学んだことを日常生活にも生かしてほしい。災害時の食について詳しく学ぶことができた。
- 苦手な食べ物を無理に食べようとするのではなく、同じ栄養素を補える代わりの食材を提案しているところが良いと思いました。被災した場合の家と避難所での生活を想定して、特に家ではどんな備えをすればいいのかを細かく提案していたところが良かったのですが、避難所ではどんなことが想定されるのかも詳しく調べられるともっと良くなると思いました。
- 給食を残してしまうのに本当に給食が好きと言えるのかという疑問から、災害時の食事についてうまくつなげることができていたと感じた。災害時の献立で栄養、賞味期限だけでなく食べる人の気持ちも考えることができていると感じた。
- より良い「食」から考える災害時における「食」ということで、自分たちの身近にある給食から栄養面について考えられていて、私自身も勉強になりました。何かから取れなかった栄養は他のもので代用しながらバランスの取れた食事を心がけたいと思います。また、災害時ではパッククッキングというものが有効で、ポイントを押さえれば出来そうだと思ったのでやってみようと思いました。
- パッククッキングが印象的でした。災害時は食べ物がとても限られてしまいます。しかし、パッキングクッキングでは暖かいものが食べられるというメリットだけでなく、アレルギーにも対応できる点がとても良い点だと感じました。
- 給食が大好きだが残している友達もいて、本当にバランスがとれた食事ができているのかといった疑問を自ら抱き、みんなで追求を深めていて素晴らしいと思いました。実践を通して、自分自身の食生活を考察して、よりバランスがとれた1日の食事や給食の献立を考えることで、日常生活に生かせる学びができるということを実感しました。近年、災害が頻繁に発生しているが、パッククッキングを知ることで、災害時においてもバランスを考えたより良い食事をすることができるといったことが分かりました。そして、災害時においてもより良い選択することが大切であるということが分かりました。授業の学びから得た知識を普段の生活で活かし、それらの取り組みを継続できると良いですね。これらも、より良い生活を実現するために、探究を続けてください。ありがとうございました。頑張ってください。
- 今年の1月1日に起きた能登半島地震に関連付けて聞いていました。「もし○○だったら、○○かもしれない」という部分にまで目を向けて考えられている点が素晴らしいと感じました。今後も地震や台風など、様々な自然災害が起こることが想定されるので、今回の発表をしっかり覚えておきたいと思います。素敵な発表でした。
- 家庭科で習う内容を、意味を持って自分の生活に落とし込んで、活動にとり組んでいる様子に感動しました。栄養がとれればいいので、嫌いなモノを無理矢理取らなければいけないわけではなくて、同じような栄養素を持つ食べ物を取ればいいことに気づいている点がすごいと思いました。家庭科を専攻しているので、授業作りの参考にさせてもらいたいと思いました。
- 私は能登地震を金沢市で体験しました。被害は少なかったですが、食べ物や水がコンビニからとても少なくなって不安になりました。そういったときに家にあるものや今ある材料で調理が出来、食べることが出来ると分かれば災害時でも少し安心して生きていくことできるなと思いました。今回は火を使うパッククッキングでしたが、火を使わずに出来る災害時に長持ちして食べる事が出来る料理法はどんなものがあるのかも気になりました。給食という身近なところから災害にまで発展させて考えていてすばらしいなと発表を聞いて思いました。
- 毎日の給食を見直して、食について考える姿が印象的でした。○○が少ないから○○に○○を入れるという毎日続けられる工夫ができることを知り、給食や日々の食事を見直すことができているのがとても良いですね！また、災害時にはどんなことが出来なくなるのか実際の話しからイメージし、実践しているのも魅力的でした。災害の多い日本で身に付けないと困るスキルばかりだなと思いとても勉強になりました。
- 発表ありがとうございました。皆さんの発表を見て、私は初めてパッククッキングというものを知りました。私がいま、災害にあったら使える食材を無駄にしていたと思います。災害時の食について一番大切なことはより良い選択をするために知ることという言葉がありましたが、本当にその通りだと感じました。また、シチューやナムルなど実際においしそうな献立を考えられているのがすごいなと感じました。

- 食事の栄養バランスが良くないときどうするかといったことと、災害時の食では選択が必要なことを学んだのですね。私は小学生の頃、給食がきらいな子どもでした。すききらいが多く、毎日1つはきらいなものが給食に出るので、給食の時間が来ないでほしいと思っていた思い出があります。今でもきらいなものが多いですが、皆さんの発表を聞いて、きらいなものを食べなかったときには、同じ栄養をもった別のものを食べるようにしたいと思います。皆さんも栄養バランスに気をつけて、健康でいてください。

〔教職員の皆様へ〕

- 給食を見直そう、から、「身体にいい食事って何かな」と栄養のことを調べ、「苦手なものがあった場合栄養はどうなるのかな」と置き換えられる食べ物を調べ、食事バランスガイドを参考に実際にやってみる…分かったら次へ、またその次へ、と進んでいく流れが素晴らしいなと思いました。食事の事を考えたところに社会科で学んだ、そして現在起きている自然災害での食事まで学びが展開し、子どもたちの思考の深まりに感動しました。より良い選択をするためには知ることが大切、本当にその通りです。このような学びが出来る子どもたち、先生方がどのようにサポートされていたのかも知りたいと思いました。
- 松本市の災害を学習し、そこからライフラインが止まったときのことを考える学習の流れが子どもたちの意識に沿ったものだと思います。パッククッキングは、授業見学もさせてもらいましたが、災害時のことをリアルに考えて調理をする姿が印象的でした。

【山梨県】北杜市立白州中学校 3年生

会場②-2,②-3,③-1,③-2,③-3

活動テーマ

会場②-2　性別の不平等について
会場②-3　ジェンダーレス制服について
会場③-1　白州の水と災害に強いインフラ～持続可能な社会にするために～
会場③-2　平和と公正をすべての人へ
会場③-3　マイクロプラスチックと私たちの関わりについて

発表概要

会場②-2

ジェンダー問題について世界的に話題になるなかで、日本の取り組みはどのようになっているのか気になり調べる事にしました。ジェンダーに関わることで生きづらさを感じている人もいると聞いたことがあります。現在の日本における取り組みやジェンダーに対する価値観について考えることで、これからの社会を担っていく中学生として何ができるか考えていきたいと思い探究活動を行っています。

会場②-3

ジェンダー問題について注目が集まっていますが、学校のなかでジェンダーと聞いて思い浮かべられるものに「制服」があります。ジェンダーレス制服についてすでに取り入れられている学校もあるとニュース等で聞いたことがあります。ジェンダーレス制服は取り入れていくべきなのか、また、学校現場に残るジェンダー問題とは何かについて考え、誰もが気持ちよく生活ができる社会に向けて今できることを考え提言をしていきます。

会場③-1

多くの有名な企業が白州の水を求めて集まります。その白州に暮らす私たちとして、改めてその水は何に使用されているのか気になりました。貴重な資源としてある水、その水を綺麗に保ち続けるために必要なことは何かについて探究活動をしていきたいと考えました。また、災害に強い町づくりについて考えていくことで今後の白州や北杜市のために私たちにできることを提言していきたいと思います。

会場③-2

人権問題等について学習していくなかで、家庭内暴力、いじめについて興味を持ちました。小中学校におけるいじめの認知件数は上昇しつつあります。私たちの学校でも生徒会活動の中で「いじめ撲滅宣言」を行ったり、生徒が気持ちよく生活できるような取り組みを行ったりしています。私たちの生活する学校や社会において、今後このような問題が起きない世の中にしていくためにできることは何なのか考えてみたいと思い探究活動に取り組んでいます。

会場③-3

マイクロプラスチックと私たちの関わりについて、海での話題が多いマイクロプラスチックの問題に、海の無い山梨県に住む私たちは無関心で良いのであろうかと思い探究活動を始めました。世界における現状や日本における取り組み（山梨県同様に海に隣接していない県の取り組み）を調査することで、中学生である私たちにできる取り組みを考え提言していきたいと考えています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1.　学校名　対象（学年、人数）
山梨県北杜市立白州中学校　（第３学年、１１名）

2.　探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ
「提言しよう私の意見　～自らの手で世界を切り拓くために～」
　本校は，国内有数の標高を誇る甲斐駒ヶ岳の東に位置し，豊かな自然，古くからの歴史と伝統，文化が息づく落ち着いた環境にある。現在は，日本の名水百選にも選ばれる水資源を中心に有名企業が工場を展開したり，夏場は涼を求めて多くの観光客が訪れる地域になっている。昨今は少子高齢化の影響もあり中学生の人数も減ってきている。そのような中で SDGs を視点に地域活性化への思いを中学生なりに提言としてまとめていくことをねらいとしている。これまでの地域学習とは異なる視点から地域について考え，新たな地域の魅力に気づくなかで中学生としての地域貢献を考えていきたい。

(2) 目　標
　探究的な見方・考え方を働かせ，地域活性化への方法や持続可能な社会について学ぶ学習を通して，解決の方法や手順を考え，見通しをもって計画を立てたり，情報を構造化する，抽象化したりするこで，対象や目的に応じた表現の技能を学び，問題の解決に向けた探究活動に取り組む資質・能力を育成する。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
☑批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
9 産業と技術革新の基盤を作ろう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に

(5) 探究課題・活動実践の概要
　５つのグループに分かれて探究活動に取り組んだ。日常の生活で感じる疑問や SDGs の視点から興味のある分野を調べることから始め，グループ毎に課題を設定した。
・白州の水と災害に強いインフラ～持続可能にしていくために～
・マイクロプラスチックと私たちの関わりについて
・平和と公正をすべてに人に
・ジェンダーレス制服について
・性の不平等について

3. 流れ（指導計画の概略）
① ＳＤＧｓについて学ぶ(ユニセフ・外務省の動画)【１】
② ＳＤＧｓの取り組みの現状について情報を収集する。【２】
③ 地域課題について考え，グループの課題を設定・仮説を設定する。【１】
④ 課題の解決に向けた研究計画を立てる。【１】
⑤ 課題について調べる（アンケート調査の実施，課題の再設定，調査計画の見直し
アンケート内容の考察，各グループの意見を提言としてまとめる【１０】
⑥ グループでまとめた内容をクラスで中間発表をする【２】
⑦ 中間発表での意見交換等をふまえ，提言内容を修正する。【７】
⑧ 信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会への参加【３】
⑨ 提言した内容を成果と課題としてまとめていく。【２】

4. 効果・反応・所感
全校生徒 50 人の小規模校で生活をしているため，たくさんの同世代また，県外の生徒と交流ができたことが大きな成果となった。交流会において，「来年度の生徒会活動で取り入れたりしたら面白そう」などという言葉も聞こえてきたため，ＳＤＧｓ、ＥＳＤ教育を今後普及していくために効果的な実践の場になったと感じる。

～生徒感想より～
・地域に根付いた SDGs の取り組みをしていて，その地域によって着眼点が違いおもしろかった。企業団体や地域の人と連携をとり活動をすることは白州中学校ではあまりやっていないため，白州中学校の活動に取りいれても良いと思った。
・各小中学校での取り組み，その学校，その地域の課題解決に向けて努力していることが伝わってきた。古着でワクチンなど，回収に関わる経済的負担などについても，もう少し質問ができると良かった。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
今年度は実施をしなかったが，昨年度には全校生徒を対象に SDGs に関する学習会を実施した。（本学年の生徒も参加している。） SDGs は，昨今話題になり，学校現場においても当たり前のように使われるようになっている。学習会を計画することで，自分事として捉える機会を計画したことも今年度の実践にいきているのではないかと思う。

感　想

会場②-2　【山梨県】北杜市立白州中学校 3年生　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- ジェンダーに関するためになるお話をありがとうございました。たくさんの学びがありましたが、相手を性別ではなく一人の人間として相手を見るということ言葉が印象に残りました。これからの考え方が変わるきっかけになる発表でした。
- 男女間の賃金の格差を原因から結果まで細かく説明されていてとても分かりやすかった。日本のジェンダーギャップ指数のランキングが世界的に見てとても低いということがわかっているので、ジェンダーギャップ指数のランキング上位にいるアイスランドなどのやり方と日本のやり方を比べて、日本は性別の平等のためにどうしていくべきか考えていけば発表がより良くなると思いました。
- 日本のジェンダーに関する問題について、詳しく調べられていてとても良い発表でした。女性と男性の待遇では様々な違いがあり、解決するべき問題が多いこともわかりました。男性の方が稼げるという過去の歴史にとらわれずに男女がお互いに人権を尊重し一人一人が持っている個性や能力を発揮できるような社会が実現されればいいなと思いました。
- 近年ジェンダー問題はとても深刻なため、発表を通してたくさんのことを学ぶことができ、とても貴重な時間でした。日本が先進国の中でも、ジェンダー問題において遅れをとっていると知って驚きました。多くの大人の固定的な概念を変えることはとても難しいと思いますが、私たちが積極的に主張することで、良い方向に解決することができるのではないかと思いました。
- 素晴らしい発表をありがとうございました。日本のジェンダーギャップ指数が低いといった現実を踏まえ、どうして日本は性別による差別がなくならないのかといった疑問を抱き、追求を展開していて、主体的な学びができていて良いと思いました。この主体的で深い学びが課題の解決に結び付くと感じました。そして、様々な観点から調べて分かったことを基に、自分自身でさらに追求し、解決策を明らかにしていて、持続可能な社会を生き抜くために大切にしたい姿勢であると思いました。自分自身の探究の中で、社会の人々の声や活動も取り入れつつ学びを深めていて、根拠が明確で、素晴らしい探求であると思いました。最後に提言をして、学びから得たことをまとめていましたが、それらの意識や活動を日常生活で実践できると良いですね。これからも、全ての人々が幸せな生活を送ることができる社会の実現に向けて、探究を深めてください。頑張ってください。
- ジェンダーの根本的な部分の話から、雇用機会や賃金などの社会的な部分の話までしていて、とても多くの内容が含まれていてよかったと感じました。先進国の中でも日本のジェンダーに関する理解が遅れているという点には驚かされました。
- 男女の偏見や差別、格差をさまざまな方向から調べていて、今の日本のジェンダー問題の現状がよく理解できた。そして、国際的な視点でもジェンダー問題について深く調べられていてその問題をどう解決していくかもよく理解できた。
- 制服や水着が男女の違いなど、自分たちの身近なところからジェンダー問題について考えている事が素敵だなと思いました。ジェンダー問題として、制服にスラックスや男女共通のボタンかけを取り入れるのではなく、組み合わせが自由であるという意識で取り入れることでカミングアウトの心配が少なくなるというところまで配慮できるというのが素晴らしい考え方だなと思いました。ジェンダーレスが取り上げられることなくなり、制服は選べるのが当たり前のような社会になれば素敵だなと思います。他に身近なところでどんなジェンダーレス化が進んでいるのか気になりました。
- ジェンダーバイアスという言葉を初めて聞き勉強になりました。日本はあまり性別による差別の改善がないということに驚きました。賃金や仕事の役職の改善だけでなく、家事をするのは女性のみという日本に古くからある風習も時代の変化に応じて意識の改善が大切だなと思いました。お互いの価値観を尊重する、性別ではなく1人の人として見るという」ことはとても大切な考えですね！
- 男女関係なく一人一人の個性を尊重する姿勢が素晴らしいと感じました。今後実際に実施していくことで新たな発見、課題が生まれてくることが予想されるため、それらについても今後考えていく姿勢を持ち続けてほしいと感じました。
- 日本が先進国の中で最もジェンダー格差がある国であることに気が付き、具体的なジェンダーに関する社会問題に切り込んでいましたね。LASHのようにデモをおこすことはハードルが高いですが、提言には今からでもできるような内容が含まれていました。私は差別や偏見なく生きているつもりですが、街中でスカートをはいた男性を見たら二度見してしまったり、見た目の性別で「くん」や「ちゃん」をつけてしまったりします。どこかで偏見

を持っている証拠なのかなと思います。具体的にどのような取り組みをしたら差別や偏見はなくなるのか、いっそのこと差別や偏見があることは許容して、そんな自分とどう向き合えばいいのかと考えたほうがいいのか、さらに検討していくことができるかなと思いました。

- 性別の不平等について、発表を聞いて子供たち自身が向き合うことの重要性を感じました。近年問題になっている内容ではあるので、そこについて考え、これからの社会を担っていってほしいと感じました。固定概念をどんどん壊していくような皆さんの姿がすごく楽しみです！

〔教職員の皆様へ〕

- 性の不平等に対して、日本の法律や制度などから考えられる部分と、根本の日本人としての意識の部分、両者が絡み合っている現状をよく調べられているなと感じました。海外の事象から解決策を探ろうとしている部分もあり、より核心に迫った学習をしていると感じました。

会場②-3 【山梨県】北杜市立白州中学校 3年生 発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- ジェンダーレス制服に関するためになるお話ありがとうございました。私は今までジェンダーレス制服は、着ているものがみんなと違うことが目立ってしまうことが弱点だと思っていました。しかし、男女共通のデザインにすることで目立ってしまい強調されることもなくなるので良いと思いました。
- ジェンダー問題という大きなテーマから自分たちの身近な問題に焦点を当ててジェンダーレス制服について調べるという視点がいいと思いました。ジェンダーレス制服を取り入れるべきかというアンケートで分からないと回答している人も多くいたので、実行よりもまずジェンダーレス制服について知ってもらうことが大事だと思いました。
- 自分の在籍していた高校もジェンダーレス制服が導入されてから着用する人が多くいたので、現代社会に需要のあるいい主題だと思いました。また、自分たちでオリジナルのジェンダーレス制服などを考えてみたら理解がさらに深まるのではないかと思いました。
- ジェンダーの観点から見て、女性と男性の扱いにはまだ差別があり生きにくい思いをしている人がいることが分かりました。そんな中で現在では性別の違いが目立たないようなジェンダーレス化された商品が多く開発されていて、そのような変化により少しずつジェンダーの多様性が生まれてきていることが分かりました。素晴らしい発表をありがとうございました。
- 学校でのジェンダー問題はとても繊細で難しいと思います。しかし少しでも性的少数派の生徒を守るためには、制服や水着などの配慮をする必要があると改めて感じました。実際私の高校でも女子のスラックスが採用されていましたが、水着も配慮できるようなデザインになっていると初めて知りました。
- ジェンダーの観点から見て、女性と男性の扱いにはまだ差別があり生きづらい思いをしている人が多くいるということが分かりました。そんな中で、現在では性別の特徴の違いが目立たないようなジェンダーレス化された商品が開発されていて、そのような変化によりすこしずつジェンダーの多様性が生まれてきていることが分かりました。素晴らしい発表をありがとうございました。
- SDGsの中から、自分自身のとって一番身近な目標を取り上げ、探究を展開していることから、主体的な学びができていて、素晴らしいと思いました。提言として述べていましたが、ジェンダーレスをアピールするのではなく、制服の組み合わせをアピールするといった考えが全国的に広まると良いと思いました。この考えは、ジェンダーレス制服についての様々な問題を解決することにもつながるといったことが分かり、深くまで探究していることが伝わってきました。自分の学校の生徒や先生から、アンケートをとり、様々な人の意見を基にした探究ができていて、良いと思いました。これからも、全ての児童生徒が自分自身の望む制服を着用して、楽しい学校生活を送ることができるよう、探究を続けてください。ありがとうございました。頑張ってください。
- 私もこれから教員になるにつれて、ジェンダーについてしっかりと考えておく必要があると思った。制服の男女の違いがあると思う。私の中学校では、男子は学ラン、女子はブレザーと決められていた。私はこのことを当たり前だと思っていたが、この違いを生活しにくいと考える人もいることが分かった。学校は誰もが生活しやすい場所であるべきだ。
- どうして日本は差別がなくならないのかという大きな題材に様々な視点から考えているところがすばらしいと思いました。先進国の7か国のうち5か国は同性婚を認めているにも関わらず、日本は認めていないと知り、独自の文化が根付いてしまっていることを改めて感じました。賛成の中にもどちらかと言えば賛成という意見も含

まれている事に注目しているところがすごいと思いました。差別をなくすために、良いところや方法を考えるだけでなく、同性婚の課題なども調べて、考える事はとても大切な事だと思います。一人の人として相手を尊重することの大切さを改めて学ばせていただきました。イタリアはどうして同性婚が認められていないのか調べてみると、日本と共通することや違った背景が見えてきて、日本の差別解消に役に立つかもしれないと思いました。

- ジェンダーレス制服のデメリットにも着目し、「ジェンダーレス制服ですよ」ではなく「組み合わせは自由ですよ」という表現の方が良いことに気づいていた点が素晴らしいと思いました。ほかにも学校に潜むジェンダーによる区別はないか、探して改善できたら面白いと思いました。
- 自分たちが普段着ている制服について、それらの性差について調べ、できるだけジェンダーレス制服を着ている人たちが不当な差別を受けないようにどうしたらよいか考えている姿がとても素晴らしいと思いました。「ジェンダーレス制服」という言葉は性差に配慮しているように見えて、逆にそれをカミングアウトしているようなものになっているという考え方はまさにその通りだと思います。だからこそ最後の、「ジェンダーレスではなく、組み合わせ自由なことをアピールする」という意見に、とても感動しました。「男だから」「女だから」ではなく、自分が着たいと思える制服を好きなように着られる、そんな学校を作れるように、そしてそんな意識を持った教師、生徒を増やしていけるといいですね。

〔教職員の皆様へ〕

- 身近なところからジェンダーの課題に向き合うその取り組みが、生徒の自己効力感を育むと思いました。特に面白いのは、ジェンダーレス制服をアピールするのではなく、組み合わせが増えるという考えをしているところです。つい私たちは、やっている感で満足してしまいがちですが、きちんと当事者のことを考えられていると感じました。

会場③-1　【山梨県】北杜市立白州中学校 3年生　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 白州中学校の生徒を対象としたアンケートをもとにテーマ設定をしているのが素晴らしいと思った。白州の水の魅力や、サントリーやコカコーラ社の工場が白州にあるということの意味がよく伝わってきた。いい発表だったと思う。
- 地域の名産に目をつけて研究を始めていて、良いと思った。温暖化の説明の場面で絵を使って説明していましたが、言葉だけでは伝わりにくいことを工夫してわかりやすく伝えていると感じました。自分たちにできることを見つけて、実行していこうと考えていることがすごいと思いました。ぜひ実行して、白州のきれいな水を守る活動を続けてください。
- 発表資料の中でアンケート調査やイラストを活用し、分かりやすく説明していた点が良いと思った。水が有名であることは前々から知っていたが、今回の発表から、水害に対する対策法を練る必要性を感じた。日々の学びを発表に活かせていたと思った
- 自分達の地域で有名なものに目を付けてそれについて探究していこうと考えたのは良いと思いました。また、学校全体にアンケートをとることによってより信憑性の高い資料にすることができていたと思います。今回の調査などで分かったことを全校や値域の人にパンフレットのようなものを作って配布してみたらよりこの活動がより役に立つと思います。
- 水と災害に強いまちづくり、持続可能なまちづくりについてよく考えられていて良かったと思いました。災害と地球温暖化は密接な関わりがあるということを知れました。可愛い絵を用いて地球温暖化による水害の説明をしていて、分かりやすかったです。白州の水がコカコーラにも使われているのには驚いた。白州の水を飲んでみたいと思いました。
- 白州といえば、「綺麗な水」「水による災害に強い町」という観点から、SDGs『6・11・13』に結び付けながら考えているところが素晴らしいと思いました。また、地球温暖化を表すイラスト動画が分かりやすく、十分に理解できました。企業と連携するなどの水を守る取り組みや災害の啓発ポスター、災害が起きた時の行動など、自分たちにできることを考えているところも素晴らしいと思いました。「白州の水」が私たちの生活（製品）にも関わっていることを知ることができて良かったです。守り続けられると良いですね。応援しています。
- アンケート結果から発表を展開していくところが良かったです。また、白州に起きた水害からも深められていてすごいと感じました。SDGs⑥⑪⑬について、「中学生の私たちができること」から考えられていて、私も見習いたいと思います。
- 白州の水について初めて知って白州の水のインフラとしての大切さ、失ってはいけないものだということを学

びました。また、災害に強い街をつくることを中学生が考えるのはとても大切でだと感じました。これからもさらに考えていってほしいと感じました。

- 自分たちの住んでいるところの強みから派生して、SDGsの問題につなげて考えているのが良いと感じました。白州の水が様々なところに利用されており、素晴らしいものだと発表から伝わってきました。そんな水を守るためにいろいろな活動をしていることが分かりました。
- 自分達の住んでいる地域に関連付けられていて良いテーマだと感じました。また、単純に取り組みだけを発表するのではなくてテーマ設定の要になった水についての説明もあり、良いと感じました。難しい問題ながらも中学生である自分たちに何ができるだろうと考えられていて実現出来ないことを考えるのではなく実現出来ることを考えていて良いと感じました。これからも頑張ってください。
- 自分たちの住む地域について自分たちの力で調べ、理解することはとてもよいことだと思います。災害に備えるにもこれからも持続させていくためにもまずは知ることだと思います。様々な角度、アンケートなどから良い調査ができていると感じました。また手書きのスライドなどがありとても見ごたえのある発表であると感じました。
- 白州町の水にお世話になっていると感じたとともに、白州町の魅力を感じました。日本にいると水を安全安心して飲めるのが当たり前のように思いますが、世界を観ると水を安心して飲めることって素晴らしいことだと改めて考えさせられます。自然災害が近年増えている中で、今回のようなアイデアに取り組むことはすごいと思います。ぜひこれからも頑張ってください。
- 自然災害から白州の水を守りたいという目標を掲げた時に、自分たちにできることとしてポスターを用いた啓蒙を考えているのが等身大で取り組みやすそうだと感じた。私も今住んでいる長野市で過去に起こった災害についてあまり知らないため、そのような活動には必ず意味があると思う。
- 地球温暖化、地域住民の意識、白州はウイスキーで有名ですよね！とても貴重に扱われているのをよく目にします。他にも白州の水が活躍していて紹介してくれた他の商品も探してみたいと思いました。また、良い部分もあれば、大変な部分もあると思います。災害についてしっかり防災意識を高くもち自分たちにできることを考えられていてとてもよい学びになっていると思います。ぜひ今回考えた解決策を実生活に活かしてみてください！応援しています。発表おつかれさまでした。
- 有名な白州の水。そこで取り組まれている“災害に強いまちづくり”の様子が簡潔に理解できました。地域の資源である水と、そこから考える地球温暖化抑止・地域住民の意識向上へとつながる流れが分かりやすくてとても良かったです。これからの取組として啓発ポスターを貼りだすこと、災害発生時自分たちが率先して行動することが挙げられていました。後者の行動について、具体的にどんなことをお考えになったのかも知りたいと思いました。

〔教職員の皆様へ〕

- 「白州の水」という題材に大きな魅力を感じました。白州町にとって誇りでもあり、地域産業、生活にとって必要不可欠な水なのだと思います。だからこそ、「白州の水」を守ることは白州町の人にとって重要なことなのだと思います。白州の水には、現在課題があるのでしょうか？水質が悪くなっている、水量が減少している、生態系が壊れてきている（外来種など）、水を守る活動に取り組む人が減少している（後継者の問題）など、解決しなければいけないことがあるのではないかと思います。いろいろな課題があるなかで、みなさんがどの課題がもっとも解決しなくてはいけないと考えているのか、もう少し焦点化したら具体的な行動へとつながるのかなと思いました。また、防災についても考えているところが良いと思います。水は白州の人たちに多くの恵を与えてくれている一方、災害ももたらすこと。自然と共存するためには、このどちらのことも考えていく必要があると思います。持続可能は、自然との共存でもあるのかと思いました。

会場③-2 【山梨県】北杜市立白州中学校 3年生 発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- ポイントがすっきりまとめられていて、スライドがわかりやすかった。1番身近な問題であるいじめに着目していてとてもいいと思った。また、自分の学校でいじめが起きているという現実から目を背けていないことが素晴らしいと思った。学校側も生徒の考えた対策などを実行してもらいたい。
- 虐待の実態についてグラフや数字で提示していて、説得力があると感じました。いじめの原因についてわかりやすくまとまっていると思いました。生徒がいじめ対策についてどう感じているかを知ることができる機会はほとんどないので、知ることができてよかった。
- いじめを学校内だけでなく社会でも起こっていると思うという仮説はなかなか思いつかないものであり興味深かっ

た。高校と中学のいじめの件数の差からなぜいじめが起こるのかという考察により、話に繋がりが生まれとてもいいグラフの提示であると感じた。

- 平和と公正というテーマで社会問題である虐待やいじめについて、最初に説明していた点がその後の仮説や考えを理解するのに役立ち、とても良いと思った。実際に北杜市が行っている対策を具体例として、記載しており、課題や具体例の提示によって、主張が分かりやすかった。
- 身近な暴力には、いじめ、虐待などがあり、それがどんなものなのか、子どもへの影響にはどんなものがあるのかについて知れました。スライドがとてもわかりやすくて良かったと思いました。いじめが起こった時は他人ごとなどと思わずに、助けるなどして自分から行動しようと感じました。
- 仮説を立てながら結果を導いていくという方法が素晴らしいと感じた。いじめの根本的な解決方法に焦点を置けているのも良いと考える。実際にいじめ・虐待を受けている子どもがどのような機関があるかを考えていけたらさらに良くなると思った。
- 「身体的虐待・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待」4つの分類は聞いたことがありましたが、相談が大切と結論付けているところが良いと思いました。発表の進め方も分かりやすく良いと思いました。仲裁者が標的になったり、傍観者多かったり、いじめには様々な課題があります。たしかに、いじめは身近なことであり、他人事として捉えずに、生活することはとても大切なことだと思いました。虐待やいじめのない世界になるといいですね。平和な世界になりますように。
- SDGs16「平和と公正をすべての人に」という規模が大きく感じるような問題を、身近な　虐待・家庭内暴力・いじめから考えられていて良かったです。いじめに対し、日本が行っている対策と実際の生徒が考える対策法の比較が印象的でした。
- 発表ありがとうございました。平和と公正という世界規模のテーマから、自分たちにより身近ないじめというものに焦点を当てて、とても主体的に探究活動を行っていて素晴らしかったです。私も教師を目指す立場にあるので、いじめが起きないためにどうすればよいか、助けやすい環境づくりについて追及していかなければならないと考えるきっかけになりました。
- 中学生である自分たちにとって身近なことを探究のテーマとしているため、考えやすいのではないかと思いました。実際に生徒が考える対策法をアンケートで聞くことで、信憑性のある発表になったのではないかと思います。最後の伝えたいことを、どのように広げていくか考えられればさらによくなるかなと思いました。
- とても難しい問題ながらも仮説がしっかりしていて良いと感じました。家庭内虐待について考察をしていてとても良いと感じました。平和と公平をすべての人へ届けるために幼少期の生活（家庭内虐待・いじめ）に目を付けた事に驚きました。これからも頑張ってください。
- 虐待といじめについて、その原因や詳細、現在行われている対策について知ることができました。グラフを用いた表現が多く用いられていて、視覚的にも理解しやすかったです。また、現在の行われている対策に対して、生徒目線での対策案を出していたのが印象的でした。
- 生徒の中での「いじめ」に対する意識を調査することなどを通じて、なぜ「いじめ」がなくならないのか、どうすれば「いじめ」をなくすことができるのかなど、様々な視点から「いじめ」の根絶のためにどうすればいいかを考察していて素晴らしく感じました。また、グラフを多用していて視覚的情報が多く、発表が理解しやすかったです。
- 「平和」と「公正」とは本当に実現することはとても大変なことだと思います。児童虐待や体罰について自分たちでよく調べてまとめられていました。説明も聞きやすく、スライドも具体的な数値から説得力が感じられてとてもよい発表になっていたと思います。今回考えた対策法は現場にいるあなた達だからこその視点だと思いました。忘れず、呼びかけていじめをなくしていけたらよりよい実践例になると思います！発表おつかれさまでした。

〔教職員の皆様へ〕

- 社会での暴力、戦争は身近なところから…という視点、とても素晴らしいと思い、見させていただきました。厚労省HPからのデータや自分たちの中学校でのアンケートなど、背景となる調べや身近な環境での調査を踏まえ、自分たちの考え、さらなる問い…と進めていました。「相談が大切ということを伝えたい」「他人事とは思わず生活していきましょう」と、2つのまとめが出ましたが、ここからさらに自分事として深めて、他の人とも議論してほしいと感じました。
- 「平和」と「公正」という概念を「いじめ」という身近な問題を切り口にして考える発想が良いなと思いました。全校に向けたアンケート調査を実施し、本物の声を聞くことで、より自分事として考えることができたのかなと思います。アンケート結果の「いじめは場合によってはあってもよい」という素直な意見はとても貴重だと思います。このことについて、もっと考えたり、友だちと議論したりすると、より「平和」や「公正」について考えを深められ

るのではないかなと思います。「いじめは絶対にだめ」「戦争は絶対にだめ」なのに、現実ではいじめも戦争も途絶えることがありません。その本質を考えることができるのではないかなと思います。最終的に、みなさんが考える「平和」と「公正」とは何かを、みなさんの言葉で聞きたいなと思いました。

会場③-3 【山梨県】北杜市立白州中学校 3年生　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 海のない県の生徒が海のマイクロプラスチックの問題について他人事と考えるのではなく、自分事として考えることで自分の身近なところとのかかわりに気付くことができるのだと思いました。マイクロチップが生まれる過程が絵でわかりやすく伝えていることがわかりやすく良いと感じました。海のない県に生まれた人たちができる海を守る行動を続けることが、海をきれいに保つために必要なことであると感じました。
- 私も海のない長野県に住んでいるのですが、海がないからといって海洋汚染に関係ないわけでなく川から海へゴミが流れてしまったら他人事ではないなと気づかされた。手書きの説明スライドとても分かりやすかったです！私も海洋問題にもう少し意識を向けてみようと思いました。発表ありがとうございました！
- 海のない山梨県でもできることがあるのかという考え方からのテーマの設定が面白いと思った。マイクロプラスチックの問題の説明を簡単なイラストを用いており、必要な情報がわかりやすく伝わってきた。また、自分の通学路のように実体験を交えることによって説得力がありとてもいいと思った。
- ニュースを引用し、課題提示に上手く繋げていた点が良いと思った。イラストを用いて、マイクロプラスチックが及ぼす影響について、説明していた点が分かりやすかった。身の周りの現状から、看板設置という対策を提案し、実現するにはどのような課題があるのか、具体的に調べていたように思えた。
- マイクロプラスチックについて、海のない県からでもできることについて考察していて着眼点がすごいなと思いました。マイクロプラスチックの7割が川から出てきているのには驚いた。海がない場所でも、マイクロプラスチックはかかわりが深いもののだと知れた。ゴミのポイ捨てを減らせるように罪悪感を与えられるような看板を作りたいという取り組みはとても良いと思いました。
- プラスチックがマイクロプラスチックとなり、魚の体内・人間の体内に入るまでの過程をイラストにし、それを動かしながら説明できているのが良わかりやすかった。自分たちにできることも現実的で実践しやすいことを挙げられていて良いと思う。
- 活舌良く、明瞭な話しぶりで、聞き取りやすかった。山梨県には海がないにもかかわらず、マイクロプラスチックによる海洋汚染を他人事とは考えず、自分たちでもできることは何があるだろうかと考えている点がとても素敵で、素晴らしいと感じた。
- マイクロプラスチックについてこの発表を聞くまで私にとってあまりなじみがなく、この発表を聞いたことでマイクロプラスチックが私たちの生活に普段どれくらい関わっているのか学ぶことができ、とても興味を持つことができました。
- この問題はあまり身近に考えられてはいないが実はとても身近な問題であると考えます。わかりやすい説明のために細かく調べたことが分かりました。またこの発表は発表の仕方、構成などがとても興味深かったです。特にマイクロプラスチックとは何かを説明する際に自分たちでモーションを動かしていたところが良いと思いました。
- 素敵な発表をありがとうございました。海のない県に住んでいる皆さんがマイクロプラスチックの問題とどう関わっているのか知りたい、という視点が面白かったです。調べた結果、7割が川から海へ流れ着いているという意外な事実も興味深く、私もとても勉強になりました。また、マイクロプラスチックの問題からゴミを減らす、ポイ捨てを減らすという取り組みを考えているところが、環境問題を自分ごととして捉えていて素晴らしいと思いました。
- 今、海の中にあるゴミは、自分たちにはなくせないので、これから出るゴミをポイ捨てしないようにするという発想は重要であると感じた。また、中学校などで呼びかけのために作るものとしてはポスターが思い浮かぶが、ポスターを川沿いなどに貼ることは物理的に難しい。そこで看板を設置するというのは面白く、効果的な案だと感じた。
- 内容に自信が見えて、気持ちの良い発表でした！自分と遠い問題だと思っていたことが、実は身近な問題だったという発見はとても気づきをしているなと思いました。マイクロプラスチックができる仕組みを分析していて、解決に向けて看板の実践例から着想を得て、自分たちで看板を設置しようと許可を取る展望まであるのがとても素晴らしいと思いました。発表お疲れ様でした！

- 長野県も海なし県ですが、太平洋へも日本海へも流れる河川があります。川を通じて海ゴミを排出していますが、そのことに気が付かない人も多いと思います。長野県でもプラスチックスマート運動という形でプラごみの削減に取り組んでいます。隣県での取り組みも調べて力を合わせていきましょう。看板への気づきは素晴らしいと思います。行政の人とも情報交換してぜひ実現してください。

〔教職員の皆様へ〕

- 海のない県だからこそ、海洋プラスチック問題について考える必要性を感じました。世界で起きていることは、実は全て自分と関係しているということなのかと思います。マイクロプラスチックの問題を不法投棄（ポイ捨て）に視点を当てたのが、おもしろいと思います。また、不法投棄されているところと、されていないところを比較して、看板設置の有無が要因であるということを見出したのがすごいです。実際に看板を製作して、設置するところまでやってほしいなと思います。また、看板を設置すれば不法投棄がなくなるとすると、そこら中に看板を設置すればいいということにもなりそうですが、景観のことも考えるとそういうわけにはいかないと思います。どういったところに不法投棄がされるのか、どういったゴミが多いのかを調査してみるのもおもしろいのかなと思います。そうしたら、看板設置以外の方法が見つかるかもしれないと思います。

【長野県】信州大学教育学部附属長野小学校 6年1組

会場②-4

活動テーマ 耕作放棄地利活用プロジェクト～使われなくなった畑で自給率０％の綿花を育てる～

発表概要 学校の近くで見つけた「耕作放棄地」。私たちはどうしてこんな土地があるのか、耕作放棄地が私たちにとってどんな問題があるのかという問いをもち、持ち主の方や市役所の方の話をお聞きする中で、この土地を利活用したいという願いをもちました。手作業で畑を整備し、育ててきた作物は日本での自給率が０％の「綿花」です。綿花の成長や、綿花を通して出会ってきた人たちから、私たちはたくさんのことを学び続けています。

感　想

会場②-4　【長野県】信州大学教育学部附属長野小学校 6年1組　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 耕作放棄地の問題を解決することはかなり難しいことだと感じた。しかし、耕作放棄地を一から畑にしていて、本当にすごいと思った。また、自給率0%の綿花を栽培することを選択したこともすごいと思った。綿花の利用方法を考え、販売まで行って、素晴らしいと感じた。
- 耕作放棄地の問題に着目し、実際にできることを探り、焼き畑を行うなど行動力が高いと感じた。綿花を使い人々に耕作放棄地や綿花に興味を持ってもらうようなプログラムをはじめ、目標を定めそれに向かって行動することはすごいことだと感じた。
- 小学生とは思えないくらいの行動力で本当に驚きました。綿花を作ったり、大学で学んだり、市場で販売したり、実践的な活動が多く素晴らしかったです。耕作放棄地を再利用することでたくさんの利点があることを知り、私も何か作ってみたいと思いました
- 用水路を辿る旅を通して、耕作放棄地を見つけ、自分達自身で耕作放棄地を活用したいといった思いを抱き、実践を展開していて主体的な学びが実現していると感じました。使われなくなった畑で自給率が0%の綿花を育てることにやりがいを感じ、綿花の葉が虫に食べられてしまっても、自ら解決策を見つけ、実践していて素晴らしい取り組みであると思いました。また、地元のイベントにおいて、耕作放棄地や綿花について知ってもらう活動をしていて、情報を発信し、地元の人々と共に課題の解決に向けて取り組みを推進することも大切であると思いました。そして、自分たちの活動がどのようにSDGsに貢献しているのか考え、持続可能な社会に向けて協働的な学びができていて素晴らしいと思いました。今後も、耕作放棄地利活用プロジェクトを通して、様々な学びを深め、課題の解決に向けて活動を続けてください。ありがとうございました。頑張ってください。
- 自分たちの疑問に思ったことを追求したり、自分たちのできることを実際に体験したり行動に移していたのがとても素晴らしいと思いました。また、耕作をしていく中で、課題が出てきた時に自分たちで対策して、改善することができていたのが良かったと思いました。
- 「耕作放棄地」という言葉を今回の発表で初めて知りました。耕作放棄地を見つけて活用していく中で、日本での自給率が低いものを育てるということは、これからの日本にとって大切なのではないかなと思いました。
- 日常の些細な発見から発展させて、綿を育てようという考えになったことに驚きました。放置されている土地も、綿の自給率の低さも、日本の深刻な問題だと思うので、とても良い着眼点だと感じました。夏休み中も責任感を持って世話をしたり、繊維学部の先生に話を聞いたり、びんずる市で綿を売ったり、とても有意義な活動をしていると思いました。素敵な発表でした。
- 着目点がすごいなと思った。上記三つの学校は社会的にも議論されていて着目はしやすいと思う。ただ耕作放棄地は私が知る限りでは過熱に議論はされていない。ただ確かに日常に目を向けてみると耕作放棄地は沢山ある。この問題を議論しようとするセンス、レベルにとても感激した。
- 活動において「やりがい」を大切にした点に驚きました。勝手に綿花は日本では育たないと思っていたので、とても興味深かったです。また、綿花を用いた商品の作成において、ぬいぐるみや綿飴風キーホルダーが、等身大の発想でとても和みました。多くの人に注目をしてもらえそうな商品を作りつつ、SDGsに帰結させていて、すごく合理的だと感じました。
- 耕作放棄地が知らないだけでたくさんあることを知ることが出来ました。さらに、皆さんの力で耕作放棄地がとてもきれいになっていて、畑になっていることにびっくりしました、自給率0%の綿花を育てたいという一心で、ヨトウムシの嫌いなものを巻いたり、夏休みに水やりをしていたり、繊維学部に行く行動力と責任感が素晴らしいと思いました。綿花の良さを見つけいろんなところに活用しているところが面白いなと思いました。SDGsに

絡めて耕作放棄地について考えていくことで活動の意義も見出すことが出来ましたね。「仲間と助け合えばなんだってできるくらいの力になる」という言葉が今回の活動を見て、その通りなのだなと感じることが出来たとともに、耕作放棄地から綿花を作り活用した皆さんだからこそいえる言葉なのだと思いました。この活動をきっかけに、自給率が上がっていくとすごいなと思いました。なぜ綿花の自給率が国内で0%なのか気になりました。

- 昨年見させていただいた時は用水路をたどり耕作放棄地にみなさんが着目し始めたときでした。綿花についてもちろん存在は知っていましたが、どのように作るのか、どんな利用法があるのか、知らないことばかりで勉強になりました。一般の方にも魅力を伝えるためにイベントに参加したりするなど工夫が多く素敵だなと思いました。耕作放棄地の利用法によって持続可能な社会を目指せると思いました。仲間を信じる、協力し合う姿がとても良いですね！これからも頑張ってください。
- あれほど広大で荒れていた放棄地を畑にしたのがすごいなと思って発表を見せてもらいました。耕作放棄地で綿花を育てることが、害虫害獣の減少や不法投棄の減少など環境のためになり、まわりに伝えていく活動や災害時の対策にもなりうるというお話がありました。ひとつの活動がつながって広がっていく様子が素敵だと思いました。発表ありがとうございました。
- 耕作放棄地に手を加え、綿花を育て上げたのはすごいですね。私は耕作放棄地も誰かの土地で、その持ち主がなんとかするべきだと人任せな考えをもっていたため、皆さんの活動報告を聞いて感動、一方で反省しました。仲間と助け合えばなんでもできる力になる、大変良い気づきですね。

〔教職員の皆様へ〕

- 耕作放棄地。自給率。SDGsとのつながりはもちろん、日本、長野県の切実な社会問題となっているところだと思います。大人が解決できていないこと、そして、ほぼ間違いなく皆さんの生きる未来にも（もしかしたらより深刻化した）問題として存在するのだろうと考えます。ここに思いをかけ、働きかけてきたことは、皆さんの今後の生き方にきっと直結していくのだろうなと思い、今年一年間の活動で終わりというものではないのだと感じました。人への発信を求め、人とのつながりを感じていったこともすごいなと思いました。社会問題を解決していくのにも、やはりそこに行きつくのではないかと考えさせられました。いつも近くで感じながら、学ばせてもらっています。ありがとうございました。
- 第一に、「やりがいを大切に」して何を育てようか決めた、ということに感動し、素晴らしいなと思いました。そして、今年のプロジェクトは、前年の米作りで用水路を辿って15キロ歩いた時の気付きから繋がっているということを知り、子どもたちの問題意識と、それに取り組もうとする熱意をより感じました。たくさん考え、学び、やってみて、また考え学ぶ、そんな素敵な流れが自然とできていたのではないかなと思いました。クラスのみんなのチームワークや、信頼関係を感じました。
- 耕作放棄地から畑で育てるものを考える流れが高学年の学習としてとても理にかなっていると感じました。自分は低学年で有機栽培の畑をやっているので、なおさら学習の価値の明確さに驚きました。綿花に結びつき、育てる学びへとつながるので、教科横断のやりやすさにもつながるのではと感じました。

【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校 1年生

会場②-5,③-5

活動テーマ 持続可能な社会の実現に向けて

発表概要

学校プロジェクト、魅力発信（CM作り）、農業、防災、繊維を切り口にした5つのミッションの中から興味のあるチームを選び、テーマに関わる問いを立てて、持続可能な社会の実現に向けて「実践すること」を大切に活動に取り組みました。

会場②-5 〔医療繊維グループ・食品製紙グループ〕
医療繊維グループは医療で使用される繊維について調査し分かったことをまとめました。食品製紙グループは、食品ロスとつなげて食品からできる繊維を使った製品について取材や制作をしました。

会場③-5 〔古着回収グループ・地域の魅力発信グループ〕
古着回収グループは、サステナブルファッションに注目した古着回収を、地域の魅力発信グループはいつも利用している長電沿線の小布施町と北斎について伝えるCMを作成しました。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名　対象（学年、人数）
信州大学教育学部附属長野中学校（1 学年・201 名）

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ
持続可能な社会の実現に向けて
(2) 目　標
○現代社会における諸問題に関する調査を通して、持続可能な社会の実現には、人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解する。
○持続可能な社会を実現するための問題を、自己との関わりで捉える。
(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
□多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　□連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　□つながりを尊重する態度
□多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
□コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

9 産業と技術革新の基盤を作ろう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任

(5) 探究課題・活動実践の概要
「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、提示された５つのミッションの中から、生徒一人ひとりが興味のあるものを選び、「実践すること」を大切に活動に取り組みました。

全体のテーマ	「持続可能な社会の実現に向けて」
FNC（附属長野中）プロジェクト	「学校をよりよい場所にしよう」をテーマに、空間づくりの視点を中心にしながら、自分たちにできることを考える。（廃材等を使ったベンチづくり・花壇・芝生でコンサート等）
ふるさと CM プロジェクト	地域の魅力を発信する CM を作りながら、地域の課題やよさを発見し、発信していく。
農業・農作物から未来を考える	長野県農業大学校とのコラボ。農作物や食料の視点から、食品ロス等の現在の課題に対して自分たちにできることを考える。（商品開発も視野に）
非常時に自分は何ができるのか	避難所運営ゲームを体験し、実際に災害が起きた時のことを調べたり、想定したりしながら「非常時に自分は何ができるのか」考える。
繊維から未来を考える	信州大学繊維学部とのコラボ。繊維の視点から、サステナブルな衣服や未来につながる繊維の活用などについて知り、自分たちにできることを考える。

3. 流れ（指導計画の概略）
⑴ オリエンテーションを行い、学習のねらいや５つのミッションについて知る。
⑵ 希望のミッションごとに分かれ、それぞれの切り口から自分の問いを立てる。（例：繊維から未来を考える「食品ロスを繊維の技術を使って解消できないだろうか」）
⑶ テーマに関わる知識を増やしたり、地域の企業や団体の取り組みを調べたりする。インタビュー活動や調査活動を通して、自分たちにできそうなことを考える。

⑷　自分たちで考えた活動を実践する。

4.　効果・反応・所感

生徒は、それぞれがテーマに関わる自分の問いをもって追究を行い、見つけた課題から自分たちが今できることは何か SDGs の 17 の目標に沿って考え、実践することができた。例えば、繊維と未来との関わりについて調べ始めた生徒は、衣服の大量廃棄が課題になっていることを知り、廃棄される衣服を活用できないかと考えた。自分たちのできることは、古着を回収しワクチンに変えている団体に寄付することであると決め出し、全校や保護者の皆様に古着回収への協力をお願いして、団体に送付することができた。

5.　指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

【協力施設】〇長野県農業大学校　〇信州大学繊維学部　〇信州環境カレッジ事務局

【協力してくださった皆様】〇RERIGO 伊藤さん　〇ECOMACO 酒井さん　〇JA ながの中央 古谷さん

〇さんさんファーム 岸田さん　〇中澤教頭　〇長野県林務部森林企画課 冨田さん　〇長野県林務部信州の木活用課 小沢さん　〇長野県地域振興局林務課 黒石さん　〇長野市総務部危機管理防災課　後藤さん　〇渡邉さん　〇ガーデンスタイルフォレスト 塚田さん　〇woodcraft３８３ 和歌月さん

感 想

会場②-5 【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校 1年生　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 【医療繊維グループ】繊維は私たちが思っている以上に身近なところで使われていることが分かりました。特に繊維率99%のマスクがあるなど繊維は私たちの生活に当たり前のようにあり、なくてはならないものなのでそんな繊維について詳しく知る機会になり面白かったです。とても興味深い発表をありがとうございました。【食品繊維グループ】野菜から繊維を作るという今まで知らなかった繊維の製造方法を知り、とても面白いと感じました。廃棄されてしまうものを製品にすることで環境に貢献するだけでなく、長野県のりんごの魅力も発信するなど持続可能な社会に大きな良い影響を与えることが分かり、とても面白い発表でした。ありがとうございました。
- 廃棄物をどのように活用できるのかを考え実際に紙を作るという活動をするという、積極的に問題を解決するという姿勢に感動した。また、実際に環境に貢献している事例などから学び、これから行うべきことを明確にしていることが良いと感じた。
- 確かに繊維は私たちの想像より身近な存在であると感じました。私たちは繊維なくして生きられないと気がつきました。そんな繊維だからこそ、環境に気をつけながら使用しないと学び、これからの生活で意識しようと思いました。
- 医療繊維グループでは、繊維は自分自身の身近にあるということを発見し、さらにどのような場面でどのように活用しているのかといったように学びを深めていて、素晴らしい探求であると思いました。繊維は便利である一方、環境に悪い面もあるといった課題を見つけ、その課題に対して、環境に優しいマスクなどの解決策を明らかにしていて深い探求ができていると感じました。食品製紙グループでは、フードロスが多いといった課題を解決するために、廃棄されてしまう食物を使った紙を作る活動を実践していて、持続可能な社会な社会の実現に向けて、より良い取り組みであると思いました。取り組み中から学んだことを日常生活に生かすことができると良いですね。今後も、私たちの身近に存在する繊維や食物の廃棄量削減、長野県の魅力発信についてさらに探究を進め、人間にとっても環境にとってもより良い社会づくりをしていってください。ありがとうございました。頑張ってください。
- 自分たちの普段使用しているマスクについて、環境に対して考えて買ったことがなかったので、マスクを変えていくだけでも環境を良くしていくための行動に繋がることを知ることができ、自分もマスクだけでなく、ちょっとしたことから様々な環境に良いものを使っていきたいと思いました。規格外野菜がそんなに多くあることを初めて知りました。それらを使い実際に作った紙を見て、色が材料なよって違ったり、匂いがしたりすることを聞いてとても興味深かったです。自分たちが実際に作ってみたり、インタビューをすることによって、感じたことをまとめていたのが、とても伝わりやすくなっていたのが良かったと思いました。
- 規格外野菜のことを知らなかったので、そんなところからもフードロスが発生していることにとても驚きました。フードロスの削減と地方地域の活性化というふたつの大きな課題を解決出来るりんごレザーは素晴らしいと思います。
- 着眼点が優れているなと感じました。繊維というのは着目されづらい。SDGsの17の目標にも直接繊維という言葉が記載されているわけではない。けれど、反対にどの目標にも関連しているという捉え方もできる。大学生でも言われるまで考えもしなかった考え方を中学一年生のうちからできているということがほんとにすごいことだと思いました。
- 規格外野菜を「食べる」という方面からではなく「活用する」という広い視点から、問題にとり組んでいて新しい発想のように感じました。リンゴレザーについては、知らなかったのでとても興味深かったです。特産物が廃棄されることはとても悲しいことなので、地域活性化ともつなげられてとてもいい取り組みだと感じました。
- 繊維はとても身近なものであることを知ることが出来ました。化学繊維には良いところばかりではなく、環境破壊を起こす可能性もあるということも調べていて素晴らしいと思いました。環境に配慮したものも作られているので、どちらの面も知って、環境にやさしいものを活用していくことの大切さを学ばせていただきました。規格外野菜から、繊維を取り出し、紙を作りたいという取り組みが面白いなと思いました。食物から紙を作ることは可能ですが、食物によって厚さや固まりに差が出るということを実際に作ってみる事で知ることが出来ましたね。また、実際に作っている人にインタビューした話を聞いて作った背景や安売りしないことなどを私も知ることが出来、学びになりました。
- 生体材料というものを初めて知りました。医療用繊維はとても大切なものですが、環境のことも考えて使用することが大切ですね。環境にやさしいマスクは従来のマスクと同じくらいの効果があるのでしょうか。医療と繊維、

環境の関わりについて考えることができました。発表ありがとうございました。

- 食と繊維：野菜から繊維を作れることを知り実践することが素晴らしいなと思いました。また、リンゴレザーの存在も初めて知り、環境への配慮だけでなく、地域の魅力発信という点での社会への貢献への見当がされているのがとってもいいですね！
- 目次をはさんだりスライドの数が多かったりとても見やすい発表で、コロナ禍でたくさんごみが出たであろうマスクに着目しているのがいい視点だと感じました。環境破壊につながる可能性があっても必要なものであるからこそ、自然分解ができるといった工夫が大切なのだと思いました。発表ありがとうございました。

〔教職員の皆様へ〕

- 繊維というものが、わたしたちの生活とは切っても切れないものであり、生きるということに直接的に影響しているということが分かりました。また、繊維として見れば繊維となるものが様々にあるということ、そして、もしかしたらそこに社会問題解決の糸口となるものがあるかもしれないということが分かりました。では、見えてきた問題は何なのだろうかと考えたくなりました。その分野の最先端で現在課題となっていること、今のわたしたちにできること、新たなビジネスの可能性など、考えていったら面白そうだなと思いました。問いから問いへとうつれた時に、その問いはより自分事としてわたしたちの問題になっていくような気がしています。SDGsで掲げられる目標は、2030年を一区切りとしていますが、その頃、皆さんは成人となられていることと思います。もしその頃に目標が達成されていたならば、おそらく次のより高次元な目標が据えられることと予想します。もし達成されていなければ、また違ったアプローチが求められるのだろうと思います。いずれにしても、今の世の中とは様相を異にしているのだと思いますが、そういった新たな社会に生きる者として、そして創り手として、皆さんはそれぞれに活躍されることでしょう。わたしも社会に生きる一個人として、教育という分野から新たな社会づくりに向き合っていたいと思います。共にがんばりましょう。

会場③-5　【長野県】信州大学教育学部附属長野中学校 1年生　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 活動をするにあたってきちんと目標を設定しデータを集めるところから始めており、とても素晴らしいと思いました。詳細や内容を詳しく決めて実際に活動をし、振り返り活動までしっかり実践しており深い学びが出来ていると感じました。
- 実際に企業を自分たちで探すことで、その企業や企業の活動について詳しく知る機会になると思った。大量廃棄されている衣服の問題について自分たちが行動を起こすことで、自分たちには何ができるのか、社会に貢献できるのかを身をもって知ることはあまりない経験なので、とても良い機会であると思った。自分たちの住んでいる地域のことについてCMを作る過程で、偉人とつながりをすることができることはすごいと思った。クオリティの高いCMだと思いました。
- 「古着回収グループ」古着に目を向けさらに、発展途上国にワクチンの変えて送るという発想がすごいと思った。また、普通に回収するだけでなく、環境への意識を変える方法を編み出しただ回収するということだけで終わらせていない点が良いと思った。
- 小布施町の魅力を北斎の説明を交えながら、CMを制作しており、実際に小布施町に行ってみたいと感じる発表だった。CMの活用についても深く考えており、主体的に活動を取り組めていたように思えた。
- 古着を回収することによって環境問題解決の取り組みにもなり、集めた古着を使ってワクチンに変え発展途上国に寄付するという二つの効果を得ることができ良い取り組みだと感じました。また動画に関しては長野市についてよくわからない人にも見やすいものだと感じました。この動画をどの様に広めていけるかということが重要になってくるのかなと感じました。
- 古着でワクチンという取り組みで、古着をワクチンに変える手助けをしていて、とても良い取り組みをしているなと感じました。また、葛飾北斎と小布施町を絡めて小布施町の発信を行っているのも良いと思いました。CMも作っていて、すごいと思いました。私は、よく小布施町に行きますが、とてもいい所だと感じています。小布施町の魅力がこれをきっかけにもっと広まるといいなと思いました。
- 地域魅力発信グループでの「CMを作る」取り組みも素晴らしいと思いました。「北斎が愛した小布施町」というテーマのもと、小布施町を自分たちで発信していこうという気持ちが伝わってきました。
- 地域魅力発信グループでは、小布施の魅力を伝えたい！という気持ちが、長野県民としてとても嬉しかったです。CMでは重要な伝えたいことを動画に記入し、その他の文章はナレーションに変更すると、画面上がスッキリして、

北斎の絵がより見やすくなると思います。

- 服の大量廃棄という社会問題に目を向け、そこから目標を設定し、どのような活動が効果的なのかを考えるにとどまらず、実際にその活動に取り組んでみて、様々な気づきを得ているという点が、とても素晴らしいと感じた。小布施町の活性化のために、実際にCMを作り、自分たちで小布施町の良さを広めていくという活動も、素晴らしいと思った。
- 自分たちで条件を設定し、その条件に合う企業を自分たちで探すという点に生徒の主体性を感じました。古着を回収するだけでなく、回収する際にも環境への意識を高めるために、種類で分けている点に工夫を感じました。
- 地域の魅力について、どういうふうに発信したら魅力を最大限に伝えることが出来るかについて、非常に様々な視点から考えることが出来ていて素晴らしく感じました。発表者たちで作ったCMからは、魅力を視聴者に知ってほしいということが非常によく伝わってきました。
- 古着がワクチンに変えることができるのを初めて知りました。特に素晴らしいと思った点は、自分達で古着を回収してくれる企業を探し、実際に実現しているという点です。大学生でも中々企業にアポイントメントを取って連携をすることは簡単ではないので、すごいと思いました。私も古着の回収について調べていこうと思います。
- 【古着回収グループ】スライドがとてもきれいで見やすく発表も端的にまとめられており素晴らしかったです。また、「古着」という誰もが協力しやすいものをテーマに活動していることで、多くの人の注目を集められると思いました。これからも頑張ってください。【地域の魅力発信グループ】CMをつくるということだけでもすごいのに、作る過程で、あえて写真を多くするという工夫をしていたことで、すごく魅力が伝わるCMになっていたと思います。
- 環境に対する意識を高めるために綿とポリエステルを分別してもらうという発想は面白いと感じた。例えばその分別によって綿とポリエステルの何が異なるのかが気になった生徒がいたらそこから新たな学習に繋がる。そういった意味で可能性の広がる活動だと思う。
- 目次の作成など、聞き取り手に配慮した発表でした。地域の問題から世界的な問題についても取り組もうとしているのが伝わってきました。自分たちでできることと、企業などに手伝ってもらう、協力してもらうというところを分けて、実践しているところがとても上手だなとおもいました。発表お疲れ様でした！
- 服が大量廃棄されている背景を問題発見し、それを有効活用できる手段について実践していることがとても素晴らしいと思いました。そもそもとして、3Rの観点からどうすればそのような不要な服が減るのか？ということについてもその課題点を考えてみるのも良いかもしれません。応援しています。

〔教職員の皆様へ〕

- 回収業者を選定する際に、目的に立ち返っていたところがすごいと思います。何のために古着を回収するのか、目的をもって活動に取り組んでいたのだと思います。また、回収ボックスも綿とポリエステルに分けるというアイデアもすごいです。ただ回収するのではなく、環境への意識を高めたいという目的があるのだということを感じました。具体的な数値目標があることも、何かをなすときには大事ですね。地域の魅力を発信するために、CMをつくるという発想がすごいです。実際に小布施町へ取材にいって、自分たちがその魅力を体験するからこそ、すてきなCMができたのだと思います。きっと小布施へ実際に行き、何か伝えたいものを見つけることができたのだと思います。CMを作ったら終わりではないと思うので、作ったCMを多くの人に見てもらうためにどうするのか、どうしたのかを知りたいと思いました。

【宮崎県】綾町立綾中学校 生徒会

会場③-4

活動テーマ　持続可能な町づくりをするためのSDGs

発表概要　綾中学校生徒会では「Action～今動き出せ 私たちの未来へ向かって～」をテーマに、人とのつながりを大切にし、生徒一人ひとりが主体性を持って活動をすることを心がけ、住み続けられる町づくりへの取り組みとして、あいさつ運動やペットボトルキャップ回収・服のチカラプロジェクト・どんぐりの栽培・イオンの森調査など、SDGsを意識した様々な活動を行っています。

感　想

会場③-4　【宮崎県】綾町立綾中学校 生徒会　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 写真や動画を用いており、視覚的にもとても分かりやすい発表でした。行っている活動やその活動がSDGsのどのテーマに関連しているのか理解することができました。綾中学校や綾中学校のある宮崎県の特徴について詳しく知ることができました。
- 挨拶活動を実施することで生徒の主体性を持つことができるということで、地域とのかかわりを持つことにつながると感じた。気軽に挨拶ができる環境を作ることで、あいさつのしやすさや生徒同士の新たなつながりを作ることができると思った。ペットボトルキャップの回収を通して地域の企業や他の学校とのかかわりができていることがすごいと思いました。地域の自然環境を守るためのボランティア活動に積極的に参加していて、自然環境の問題を自分事として考えられるようになっているのだと思いました。
- 非常に発表が上手です‼スライドも見やすく感心しました。あいさつ運動の取り組みは私が中学生のとき行っていたのですが、やっぱり挨拶してくれる人としてくれない人とで分かれますよね。挨拶活動で地域の方とのつながりが出来たらいいなと思いました。服プロジェクトが特に印象的でした。委員会活動の内容は地域や日本、世界のことに目を向ける機会になります。これからも活動頑張ってください。
- あいさつ運動に関しては私も中学校の時に近隣の小学校にまで行って活動していたため、懐かしく感じた。生徒会の活動から地域とのつながりを強くしていることがわかり、災害時にはそのつながりから協力し合うことができるのではないかと感じた。実際に自分たちで森に行き調査を行うなどして、様々な企業との連携がとれており、レベルが高いと思った。
- ユネスコスクールとして地域の土地を使って持続可能な社会を作っていくにはどうすれば良いのかということについて科学的な根拠なども交えながら探究していることがすごいなと感じました。また挨拶を通して街の活性化に取り組むということは気軽にできることでもあるので良い活動だと思いました。もし出来たら町中などに挨拶活動をしているということを周知できればさらにこの挨拶の効果を得ることができるのではないかと思いました。
- 中学校が、全部綾町から伐採した木を使ってできているのには驚きました。あいさつ運動から、地域とのつながりや中学校の活性化につなげられていて良いと思いました。ペットボトルの回収で6万くらい集まったのには驚いた。また、イオン環境財団と連携して森について調べたり、ユニクロの服のチカラプロジェクトにも参加し、古着を約1500枚集め、国境を越えた世界の難民に服を寄付したりしていて、規模が大きくてすごいと思いました。行動力がすごいと思いました。
- 多くのSDGsを意識した実践活動をしていて素晴らしいと思いました。一つ一つの活動が中途半端ではなく、深められていて、興味深かったです。なかでも「ついDAY」のペットボトルキャップ回収で、回収量の数値化による参加の意識向上などの工夫が考えられていて良かったです。生徒会中心でこのような活動を進められることに驚きました。今後も頑張ってください。
- もともとあった活動をそのまま続けるだけではなく、改善をしていくことで、生徒の活動に対する意識が高まるので良いと思いました。様々な活動を通して、地域や世界に貢献しようという気持ちで取り組んでいてすごいと思いました。
- 聞き取りやすい速度で発表が進められていたと思う。地域の様々な機関や組織とつながり、協力しながら、森林の保護活動やペットボトルキャップの回収に取り組んでいる点が、とても素晴らしいと感じた。また、学校の中だけではなく、地域社会や世界の貧しい人たちのために活動している点も素晴らしいと思った。
- 綾中学校の特徴と今年一年の生徒会の活動内容について、よく知ることができました。生徒たちの先頭に立って、さまざまなプロジェクトを行なっていてすごいと感じました。特に、企業やボランティア団体と協力して行なっ

ていたのが印象的です。

- 生徒会の皆さんが「Action」をテーマに取り組まれてきたことや、活動にかけてきた熱い思いが画面越しにもこちらに伝わってきました。挨拶運動やペットボトルキャップの回収、森の健康診断、照葉樹林プロジェクトや服のチカラプロジェクトなど、非常に多岐にわたる活動に取り組まれていることに驚きましたし、ひとつひとつの活動に皆さんが主体的に取り組んでいることに感動しました！
- ペットボトルのフタのリサイクルや服のリユースなど、SDGsの達成に関係する基本的な考え方の1つである3Rを実行している点が興味深いと感じた。また、それら2つは地域の枠を超えた助け合いの活動であり身近なものを用いる活動であるため、今後ほかの中学校や小学校などでの再現性も高いと考えられ、ぜひ私も行ってみたいと思う。
- 今年度の“Action”というスローガン、これまでの経過を踏まえ、これからやっていきたいことへと繋ぐ想いがぎゅっと濃縮されている素晴らしいものだと感じました。幼保小中で一貫したふるさとキャリア教育の取組み、イオンの森での植樹活動、ユニクロ服の力プロジェクト…どれも長期にわたっての取組みで、地域との関わりから国境を越えた関わり、未来へと繋ぐ幅広い取組みに皆さんが主体的に関わっている様子が伝わり、感動しました。これからの活動の様子も知りたいと思いました。

〔教職員の皆様へ〕

- 「Action」という生徒会テーマが素敵です。行動に移すこと、一人一人が主体であることをとても大事にしているのだと思いました。「あいさつ運動」の復活について、全校で議論をしたことが良いですね。コロナで休止している活動がたくさんあります。だからこそ、その活動の目的や意味をみんなで考えることが大事なのだと思います。みんなで考えて出した結論だからこそ、主体的にあいさつ運動が行われているのだと思います。きっとコロナ前のあいさつ運動と、現在行われている「あいさつ運動」は違うのだろうなと思いました。総合的な学習の時間や、整備委員会の取り組みも素敵だなと思います。ペットボトルの回収量や二酸化炭素量、古着回収量などを数値化したことで、活動の成果を実感し、主体性をもって行動に移していくことができたのだと思います。学校だけでなく、企業と協力しているところが、本物の社会を変えることになっているのだと思いました。

【長野県】山ノ内町立南小学校 3年生

会場④-1

活動テーマ　リサイクルをしよう ～きれいな山ノ内町を目指して～

発表概要　社会の地域探検の際、自分たちが住んでいる町の魅力について改めて感じることができたと同時に、ゴミが多くあることに気がつきました。ゴミ問題からリサイクルについても学習を進め、ゴミとして捨ててしまうもの（お菓子の箱、画用紙の切れ端）を使い、絵はがき作りもしました。本来ゴミになってしまうものがリサイクルされることで新たな命が宿ることに、喜びを感じています。

感　想

会場④-1　【長野県】山ノ内町立南小学校 3年生　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 自分たちの住んでいる地域のため、ごみ拾いをするという活動を自主的に考案するとともに、実行する行動力に驚きました。また、そこから環境に配慮し分別をする中で資源ごみがリサイクルできることなど、学びにつなげており素晴らしいと思いました。そして、牛乳パックから、紙をつくるという取り組みがリサイクルを学ぶ上でとても良い体験になったのではないかと考えます。
- 牛乳のふたなど、捨てられてしまうものを工夫してリサイクルしている姿に感銘を受けました。はがきづくりという活動が頭に浮かばなかったですし、地道な細かい作業もみんなで協力してできていてとても凄いと思いました。
- ごみ拾いをして、そのごみに注目して何か新しいものを作ろうという視点が面白かったです。牛乳パックがあんなにも素敵な絵はがきになるなんて凄いと驚かされました。普通なら捨てられてしまうものを人の心を動かすものへと変化させるということは素敵なことだなと感じました。ほかにもリサイクルできるものを探して、素敵な作品を沢山作ってみてほしいです。
- リサイクルについて学び、リサイクルによって使わなかったものや使わなくなったものを再利用することで「ハガキ」を作るという活動をしている点に、SDGsの基本的な学びの土台が築かれているなと感じました。とてもよいと思います。
- 地域探検をしたことから地域のごみを見つけ出し、ごみ拾いをすることからごみの分類を始めたこと、そこからさらに資源ごみが多いことに気付いて、自分たちでリサイクルしてみるその行動力が素晴らしいと思いました。また、工場の見学や、絵葉書を作り出す時間を通して、資源ごみが様々なものに作り変えることができるものであるということを実感できたと思います。
- 町探検でゴミが落ちていることを見つけ、牛乳パックから絵葉書を作ってみたという素敵な取り組みだと感じました。皆さんが作った絵葉書、とても可愛かったです。リサイクル工場にも足を運んだり、他の小学校との交流も控えているということで、これからも応援しています。
- 考えについて調べるだけでなく、実践を行っており、とてもよかったと思います。調べた後にすぐに現場の人の話を聞きに行くのではなく、自分たちで実際に学び、活動を通して絵ハガキを作ったという経験はより深い学びにつながるものとなり、実践としてより良いものになったと思います。
- 自分たちでごみ拾いをして、地域の現状を理解することから学習を始めた点が良かったと思う。ごみがリサイクルできることを知り、実際にはがき作りに挑戦したり、工場見学に行ったりして多くのことを学んだことが伝わった。また、発表の流れもスムーズで聞きやすく、はがき作りで作った作品を実際に見せてくれたことで分かりやすかった。
- 自分たちの地域について、実際に町を回りながら「ゴミ」について興味を持ち、リサイクルについて学んでいてとてもすばらしいと思いました。また、牛乳のふたから作られた絵ハガキはどれも温かみがあり、すてきな作品でした。私も、捨てようと思っているものについてもう一度何か使い道はないかなと考えていきたいと思います。これからも、ゴミやリサイクルについて考えて、みなさんの生活や地域を大切にしていってください。
- 牛乳のふたからはがきを作れるということから、制作活動を実際に牛乳のふたを原料とした紙を使っているのがとても面白いと思いました。それに加えて紙で満足せず、プラスチックの再利用についても工場を訪れて調べていることからも皆さんのリサイクルに対する意識の高さを感じ取れました。
- ゴミの収集からリサイクルの仕組み、リサイクルとは何なのか、自分たちのできることは何かについて考えていて素晴らしいと思いました。集めたものを使ってモノづくりをすることで自分たちの作品を作っていいたのが印象に残っています。主体性をもって活動ができていてよいと思いました。
- 地域のごみ拾いから「資源ごみ」に注目し、自分たちで実践やリサイクルセンターの見学を通してリサイクルの

価値に気づけていることが素晴らしいと思いました。ごみの問題は地球環境に関連した重要な課題であるので、皆さんのような積極的な姿勢が必要だと思いました。

- 地域のゴミ問題に注目して、調査を進めていたのがとても印象的だった。日本のゴミ問題は以前より改善しているのだが、それでもいまだ無視できない問題ではある。ゴミを拾う姿を地域の人が見て、それをきっかけに地域住民ともつながりを作ることができる良い取り組みだと感じた。
- 自分たちの身近なものでどのような工夫が出来るかを考えて取り組めているところが素晴らしいと思います。リサイクルは今回行った牛乳パックを使ったはがきづくり以外にもたくさんあると思うので、今回学んだことを今後の学習にも生かして、リサイクルの輪を広めていってください。
- 私も小学校の総合の授業で「もったいない」を中心に活動を行いました。そこで、「いらないものとは活用方法を思いついていないだけ」の言葉が印象に残っています。そして、山ノ内南小学校の皆さんの発表を聞いて、この言葉を思い出しました。自分の部屋でライブを聴いていて、自分の周りを見て、「もっとよくつかえるな～」と思いながらこれから皆さんの発表に基づいて使っているものをもっと考えたいと思いました。とても良かった発表でした。
- 身の回りの問題があり、それを解決していくことがすごいなと思いました。また、実際にごみの再利用をすることにより、再利用の有用性について考えられる良い機会であると感じました。よく再利用ができると聞きますが、実際に再利用をしているところは見たことがなかったので分別を行いたいと思いました。また、この活動を全国に広めていってください！

〔教職員の皆様へ〕

- 牛乳のふたからはがきがつくれるということを初めて知りました。自分たちで仕分けを行って自分たちで作ったはがきに今までゴミになっていた紙を使い絵葉書を作るという活動もすべてがリサイクルであり面白い活動だなと思います。資源ごみというリサイクルされるごみを調べていくことで自分たちの出すゴミがどのようにリサイクルされるのかを知っていくことができるのがよいなと思いました。

【長野県】山ノ内町立南小学校 6年生

会場④-2

活動テーマ　温泉を知ろう ～地域の温泉探検～

発表概要　山ノ内町には地域の方が利用する温泉（共同浴場）があります。温泉についてもっと知りたいと考え、学区内にどのくらいあるのか、数や場所を調べました。温泉を管理している方のお話を聞いたり、地域の方にアンケートをとったりして、温泉の良さや現状、課題などを知り、自分達ができることを考えたり温泉の掃除などを行ったりしました。

感　想

会場④-2　【長野県】山ノ内町立南小学校 6年生　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 地域の身近な温泉を調べ、実際に入浴体験をすることで温泉を利用する地域の方について学ぶ良いきっかけになったのではないかと思いました。また、アンケートにより目に見える形でデータとして出すことで、より理解がはかどるのでとても良いと思いました。
- 佐野地区に昔から温泉が根付いていることが分かりました。普段何気なく入浴しているけど、裏側に注目することで、多くの方から愛されているというプラスの面だけでなく、維持費がかかるというマイナスの面も知ることが出来ました。みんなが実際に掃除をしている様子から、みんなも本当に温泉のことを大切に思っているということが伝わってきました。
- 温泉を中心とした活動を通すことで、地域の方との密接な関係を築き上げて、歴史や利用されている頻度などを調べていた点が良かったと感じました。地域とのコミュニティーを通じて学習を進めていくことを大切にしていってほしいと思います。
- 地域の温泉を大切にしたいことが感じられる発表でした。温泉探検をすることで改めて自分たちもどこにどれだけの温泉があるのかを把握することができると思います。また、入浴体験をすることで、そこを利用する人の気持ちに寄り添うことができると思います。温泉の維持管理についてなどの裏方も学ぶことによりさらに深い学びになっていると思います。
- 地域の魅力を伝えるために実際に自分たちで体験し、地域の方にお話を聞く、アンケートで声をきくという活動はとても効果的で良い考えだと思いました。温泉は地域の多くの人に必要とされているということが分かり、どのように存続させていくか考えられると良いと感じました。
- 身近な場所に共同浴場が沢山ある恵まれた環境があることがわかりました。実際にいくつかの共同浴場に入浴体験に行ったり、利用されている方にアンケートをとったりしたことがすごいと思いました。パワポのスライドも見やすかったです。信州大学の松本キャンパスの裏にも浅間温泉という温泉街があります。他の地域や県の共同浴場と比べてみたりするのも面白いのではないでしょうか。
- 温泉の組成についてしっかりと調べられていてとても分かりやすかったと思います。実際の温泉の管理者にくわしく聞くことはもちろん、アンケートをとることによって実際の利用者に意見を聞いて実際の現場の声を聴くことができていて、より探究的な学びにつながっていると思います。問題点についてもしっかりと聞き、考察されていて、今後の展開も楽しみです。
- 私は、長野県外の出身で、温泉のことをよく知らなかった。今回の発表を聞いて、温泉の利用者が予想以上にいたことや温泉の利用者が多い時間帯、温泉の維持にかかる費用と労働力が多いということなどを知った。私も温泉を存続する意見に賛成だが、逆に無くしたほうが良いという考えもあるということに驚いた。今後、温泉に関しては賛否両論あるようだが、多くの人の意見を聞いて取り組みを続けてほしい。
- 身近にある温泉についてよく調べられていて良いと思いました。特に実際に入浴してそれぞれの温泉の違いなどを感じていて良いと思いました。また利用者数や歴史などもしっかりと調べられていて面白かったです。私も温泉が好きで今後もなくならないで欲しいと思っています。皆さんの活動が温泉の存続につながると思うのでこれからも頑張ってください。
- 山ノ内町にたくさんの温泉があることを知りました。とても魅力的なのでぜひ訪れてみたいです。温泉についてのアンケートから、ほぼ毎日入っている方が多いことに驚きました。コメントから、温泉の今後を心配したり、もっと多くの人に入ってほしいなどの願いが込められていましたが、若い年代の人が少ないなとも感じました。もう少しみんなの世代や、みんなのお兄さんお姉さんなどに温泉の魅力を伝えることができたら、これからも温泉に活気が出るのではないでしょうか。素敵な発表をありがとうございました。

- 温泉に視点をおき、温泉の浴槽までのパイプの構造であったり、実際に利用している層を調べたりしていてとても良かったと思いました。また、温泉に対するコメントをプラスのものだけでなく、マイナスなコメントも取り上げていることで中立な立場で調査をしていると感じられました。
- 共同浴場の利用アンケートを通して利用者がいつ、どのような年代が利用しているのかなど温泉別に調査しているところが非常に興味深かった。実際に調査することで自分たちが予想していた結果と同じなのかそれとも異なるのかということを明確に把握できるところがとてもよかった。
- 図やグラフを使って視覚的に表現してくれてとても分かりやすかったです。温泉がそんなにもお金がかかると思っていなかったので驚きました。実践を通して感じたことをもとに活動の方針を決めていたことがすごいと思います。アンケートも温泉の実態を知るうえで非常に効果的だと思いました。このアンケートを少し大変かもしれませんが、定期的に行うと自分たちの活動の成果や経過を視覚的に感じられて面白いのではないかなと思います。
- 温泉は日本の文化だけでなく、地域の文化でもある。そのため、地域のことを知るだけでなく、地域の方々のことを知ることができたと思いました。私は心理学（人間の思考、行動や感情を深く調べて、なぜそのようなことを考える・する・思うかを研究する分野）を勉強しているが、非常に私の分野と連携した総合学習だったためもっと深く知りたいと思いました。調査をして、それをグラフに入れ、発表することは大変なことだったと思います。とてもわかりやすい発表でした。
- 私は趣味が「サウナ」や「温泉巡り」であるため、皆さんの発表はとても興味深いものでした。長野市周辺や松本、安曇野市の温泉はよくいくのですが、佐野市にも魅力的な温泉がたくさんあることを知って、とても行きたくなりました。
- クラスで温泉に興味を持ったことから、温泉について調査を深めている様子がとてもよく伝わってきました。管理委員会の方の話を聞いたり、温泉の利用客にアンケートの協力を依頼したりしながら地域に古くから残されている「温泉の大切さ」を肌で感じたのだと思う。地域の声として、存続と廃止の両方の声が上がっており、今後どうしていくか町全体としての課題も多く大変だとは思うが、子どもたちが町のリアルな課題にどう向き合って、町の一員としてどう関わっていくのか考えることはとても大切なことだし、子どもの将来にとってとても有意義な学びだと感じました。

〔教職員の皆様へ〕

- 実際に自分で入浴体験をすることで、地域の方が運営する温泉の大切さ、大変さを学んでいることがよくわかりました。地域に温泉があるからこそできる学びであり、あまり知ることのできない温泉の裏側を見ることができるこの学習は素晴らしいと思います。温泉の維持管理等やってみないとわからない大変さを、身をもって体験することができているのもよい学びだと思いました。
- クラスで温泉に興味を持ったことから、温泉について調査を深めている様子がとてもよく伝わってきました。管理委員会の方の話を聞いたり、温泉の利用客にアンケートの協力を依頼したりしながら地域に古くから残されている「温泉の大切さ」を肌で感じたのだと思う。地域の声として、存続と廃止の両方の声が上がっており、今後どうしていくか町全体としての課題も多く大変だとは思うが、子どもたちが町のリアルな課題にどう向き合って、町の一員としてどう関わっていくのか考えることはとても大切なことだし、子どもの将来にとってとても有意義な学びだと感じました。

【長野県】長野市立東条小学校 6年生

会場④-3

活動テーマ　東条で学ぶ･東条を学ぶ

発表概要

地域の「里山再生プロジェクト」の活動の一環である植樹を地域の方と行いました。また、建設会社の方々と木工体験を行い、木材の循環や物を大切にすることの必要性を実感しました。ホタルを守ること･地域の環境保全のために河川付近のゴミ拾いを数回行い、ゴミが故意に捨てられたものだけではないことに気づきました。「文化財ボランティア」の方にお世話になり、豊かな自然の下で地域が古くから繁栄してきた歴史に触れました。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名　対象（学年、人数）
長野市立東条小学校　6 学年　４０名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ　「東条で学ぶ・東条を学ぶ」
(2) 目　標　地域の方々と様々な活動をすることを通して、地域の方々の思い・郷土・歴史を知り、東条（松代）の環境を守り続ける態度を養う。
(2) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
□未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　□進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(3) 関連する SDGs

3 すべての人に健康と福祉を
6 安全な水とトイレを世界中に
10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に

(4) 探究課題・活動実践の概要
「自分たちが住んでる東条（松代）地区ではあるが、知らないことがたくさんあるから、知りたい」という願いのもと、地域の方々との関わりを多くもつ活動を重ねた。まず地域の「里山再生プロジェクト」の活動の一環である植樹を地域の方と行った。また、建設会社の方々と木工体験を行い、木材の循環や物を大切にすることの必要性を実感した。ホタルを守ること・地域の環境保全のために河川付近のゴミ拾いを数回行い、ゴミが故意に捨てられたものだけではないことに気づいた。「文化財ボランティア」の方にお世話になり、豊かな自然の下で地域が古くから繁栄してきた歴史に触れた。

3. 流れ（指導計画の概略）
4 月　昨年度の活動を振り返り、今年度の活動の見通しをもつ
「里山再生プロジェクト」代表の方に来校いただき「東条の自然」に関わる願いを聞く
「尼巌山」へ地域の方と共に桜の植樹を行う。（木を植え方や守り方を聞く）
6 月　ホタル観察会の準備、ホタル観察会、福祉学習
7 月　河川清掃、木工体験
9、10 月　松代探検・東条探検（松代・東条新聞の作成）、長野市環境子どもサミットでの発表
11 月　命の授業、人権講演会、県立歴史館見学、古切手回収の PR、植樹した木の経過観察
12 月　東条探検、地域のゴミ拾い、人権学習、福祉学習、
1 月　古切手の回収と寄贈、ホタルの成長をまとめて全校に知らせる
2 月　ESD 発表会、授業参観日で保護者に発表

3月　　ホタル放流会、地域のゴミ拾い

4. 効果・反応・所感
普段、バーチャルな世界に浸りこむことが増えている子どもたちではあるが、たくさんの方々とのふれ合いの中で、実体験や対峙した地域の願いを実感することができた。また、指示を待って指示通り活動しようとする姿から「自分たちで次の活動を生み出そう」とする姿に変わっていった。外部に学びを発表するための原稿やスライドを自分たちで作り、発表することの良さを感じることができた。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
①「里山再生プロジェクト」代表：斎藤様　②松代文化財ボランティア、前会長：徳嵩様
③中澤勝一建築様　④有坂先生　⑤猪又様・井出様　⑥清水先生　⑦長野松代ライオンズクラブ様　他

感　想

会場④-3　【長野県】長野市立東条小学校 6年生　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 松代、東条を守るために積極的に考えて活動している姿に感動しました。小さな活動も、地域や世界を守ることに繋がります。これからも地域貢献を積極的に行っていってほしいと思います。蛍は、どこの地域でも見られるものではないので、東条の伝統である蛍をぜひ守っていってください。
- 1つの分野に縛られず、多様な分野について学んでいる点が凄いと思いました。広い分野について学ぼうとしたら一つ一つの分野は浅く学びがちになるがそんなことも無く、どの分野についても丁寧にまとめられていた点が良いと思いました。特にホタルの話の印象が強く、ホタルの住みやすい環境作りのために尽力していた点がとても良いと感じました。
- 木を育てる、ゴミ拾い、地域ゆとりの地、稲作、ピクトグラム、人権についてなど、多種多様なトピックを通じて学習をしていた点が素晴らしいなと感じました。SDGsという活動をフルに活かして行けていると感じました。
- 一つ一つのSDGsに対する意欲が伝わってくる発表でした。東条の景観を守ることが地球の景観を守ることにつながるという小さいけど大切な気づきも大事にしていってほしいと思います。さらに、東条の歴史的な建造物などを調べる活動や自分で作り出す活動を通して、昔の方々の知恵や地域の方々への感謝、モノづくりの大変さなどを実感できていたと思います。
- 特にホタルの保護活動が印象に残りました。ザリガニが天敵なこと、蛍の幼虫を育てていること、周辺で500匹も観察できること、保護活動が40年も続いていること、驚くことばかりでした。私は昨年の6月、辰野町というところに数千匹のホタルをみに行きました。とても綺麗でしたし、1匹ずつが生きていると思うと感動しました。これからも素敵なホタルを守り抜いていってください。
- 蛍に関して、調べるだけでなく、実際に放流しようとしていたり、観察会に大きくかかわったりするなど、より実践的な活動ができており、活動の効果が見えやすく、とてもよい活動だと思いました。古墳や城についてなど、まだまだ知名度の部分で低い部分が大きいと思います。その点に関してもどうしていくか考えるとよいと思います。また、様々な活動を体験しており、地域について、そして人としての在り方について、総合的に知ることにつながったと思うので、その経験をしっかりと生かしていけるとよいと思います。
- 4年生がポスターを配ってくれたということから、他学年と協力して活動を行っていたのがとても良いと思いました。また、農家の方や建築会社の方など、地域の方々と積極的に交流して活動を行っているのも良いと思いました。楽しく活動しながら、その活動をSDGsと関連付けて学ぼうとする姿勢がとても良いと思いました。
- ゴミ拾い、植樹体験、ホタル保護活動や人権教育など地域の方々との様々な体験を通してSDGsについて学ぶことができたということが伝わってきました。行った活動がSDGsのどこに当てはまるのか、スライドで示してくれたので、内容が理解しやすかったです。これからも、地域と関わりながらSDGsについて考え、自分たちが活動をしたり周りに伝えたりしていけるいいなと思いました。
- 地域の河川清掃の場面で動機として自然のためというだけでなく、「普段お世話になっている地域の方のため」というフレーズがあり、学校と地域がつながっていることを感じられました。探索の場面でも地域の方との協力があったようなので、結びつきの強さが感じられました。
- 活動を経て様々な学びを得ることができている様子が伝わってきて、探究的な良い学びができていると思いました。自分たちの住む地域だけでなく、国際的な問題にも目を向けることができており、広い視野で見ることができていることが素晴らしいと思いました。発表でもありましたが、これからもこの活動を続けていけるように後輩にも引き継いでいってほしいです。
- 「伝統のバトンを下級生に繋ぐ」という言葉が印象的だった。地域に貢献するためにはゴミを集めたり、歴史を学んだりと様座な方法があるだろうが、一番大事なことは継続することだ。自分たちの役目が終わった後のことも意識できているのは素晴らしいと思った。
- 写真で活動の様子が見られて、頑張ったことが伝わってきました。活動の中に、実際の社会で活きる要素がたくさん含まれているところもすごいと思います。本当に多くの活動から多くのことを学んだのだと感じました。今回学んだことの中で特に興味があったことがそれぞれあったと思います。興味があったことを中学生になってからより深く調べてみるともっと面白いのではないかなと思います。
- ホタルの調査を学校で長いこと続けているとのことでしたが、実際に9年も前の先輩が信州大学にいて今の東条小学校の皆さんに向かって質問をしている所を見てすごいことだと思いました。今後もこの活動が無くならず

に続けば素敵だと思います。

- 学校の中に蛍を見られる川があるなんて、とても素敵なことですね。きれいな川にしか姿を現さない蛍を特別な川ではない、身近な普通の川で見るために、ごみを拾うことは1つの良い取り組みではありますが、それだけでは足りないのではないでしょうか。ごみを拾うととみに、ごみが川に捨てられることを未然に防ぐにはどうすればよいかを考えてみてください。
- ゴミ拾いを通して、自分たち自身がごみを捨てないという意思を感じて探究活動の良さを感じました。また、蛍を保護していくことは地域の発展、観光資源となるはずなので、このような活動を行っていければいいなと思った。様々な活動を、SDGsを軸に行っていく姿勢がとても良いと思ったと同時に、自分自身も考え行動していく必要があると考えさせられました。

〔教職員の皆様へ〕

- 差別に関して、差別されているのが自分じゃなくてよかったという思いを持ってしまうというお話が印象的でした。私もそのように思ってしまうし、どこか他人事になってしまうところがあるなと思います。それのようなことを調べながら身近なものとしてとらえていくことができているのは素晴らしいと思います。

【長野県】茅野市立永明小学校 6年2部

会場④-4

活動テーマ　給食ロスを減らし隊

発表概要

6年2部では今年度給食の残食に焦点を当て、残食を減らすために自分たちで何ができるのだろうと考え、話し合いました。調理過程で発生する野菜くずを減らすために、コンポストを使った肥料作りを行ったり、残食を減らすために、放送やパワーポイントを作って発表したりと、少しずつですが残食や野菜くずが減っていくのを実感することができました。最近は野菜くずを取り込んでできた肥料を使って、肥料が完成しているか確認するための野菜作りに取り組んでいます。

感　想

会場④-4　【長野県】茅野市立永明小学校 6年2部　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 残飯をたい肥にしている会社があることを初めて知りました。残飯を減らすべきだという教えは私も受けてきており、残飯はそのままごみになってしまうから地球に良くない、もったいないと思っていました。たしかにそれは事実で、残飯がないに越したことはありませんが、残飯をリサイクルすることもできると知り、SDGsについて理解が深まりました。残飯を減らすよう呼びかけることも効果的でとても良い活動だと思いました。
- ダンボールコンポストで食品ロスを減らす取り組みに挑戦しているところが良いと思いました。実際に実践することで新たな発見をし、また、野菜くずは減ったけど残食が減っていないことに気づき、全校へ呼びかけに転じた所も食品ロスを減らすためのすごく良い対策だなと感じました。
- とっても楽しくて分かりやすい物語の映像でした。残食を減らすために、自分たちで行うだけでなく、全校に呼びかけみんなで活動していることが凄くいいなと思いました。映像から、すごく仲の良いクラスということが伝わってきました。その団結力も組み合わさって、残食を減らすことが出来たのだと思います！
- どうしても出てしまう残食を肥料として活用できることに注目して肥料の作り方を学びに行き、実際にやってみるという一貫した行動ができていて素晴らしいと思います。また、ちょっとした工夫で野菜くずを減らすことはできるけど、残食は減らせないことに気付いて、行動を起こして周りの行動を変えるという経験ができたことはこれから先に役立つことだったと思います。
- 給食の残飯が多いということから、それを肥料にする過程を深掘りしたことがすごいと感じました。残飯を肥料にする会社があることは知っていても中々見えないので、良い着眼点だと感じました。実際にどのくらいの時間が掛かったのか、何を基準に肥料になったと言えるのか、などいくつか気になることもありました。作った肥料を使って美味しい野菜を育ててくださいね。
- 発表が工夫されていて、動画にしたり劇のようにしたりしていて、とても聞きやすかった。給食から食品ロスに関して調べたことがとても良いと思った。残飯をたい肥として利用することで食品ロスが減っても、残食が減らないという問題に立ち戻って残食を減らすことに取り組み、成果が出ていたことがすごいと思った。また、自分たちで実際にたい肥を作り、野菜を育てていた。取り組みの中で、1つ課題を解決したら次の取り組みを行うというように、取り組みが連鎖していたところが良いと思った。
- 残食のことについて劇になっていたり、スライドを用いて説明したりしていて、とても分かりやすかったです。ダンボールコンポストを実際に作ってみるということが実践的な体験になっていてとても良かったです。食べ物を無駄にしていない工夫を調べていて良かったです。また、コンポストを作って終了ではなく、全校の皆さんに残食を減らす呼び掛けをしようと考えた事が素晴らしいと思いました。
- とてもみんなの元気が伝わってきて分かりやすい動画でした。給食では残食が問題になりやすいと思うので、そこに着目したのはとてもいいと思いました。残食が肥料になったらゴミが再利用できるということでとても良いと思います。残食を減らす方法は他にもあるのではないかとも思うので、みんなは小学校を卒業してしまいますが、これからも永明小学校の残食が減るように後輩たちに学んだことを伝えてもらえたら良いですし、中学校に上がっても給食があると思うので残食が少なくなるように今回学んだことを生かしてもらえたら良いです。素敵な発表をありがとうございました。
- 給食という他の小中学生にも大きくかかわる分野の話を朗読仕立ての方法を使って、低学年の人たちにも伝えやすくなっていたと思います。また、残食が出てしまうことは給食を食べたことのある人は知っていると思いますが、その後どうなるのかを知らない人も多いと思うので、そのような意味でも非常に役に立つ活動だと思いました。

- 皆さんの発表を聴いて、給食を作るときに残った野菜かすが肥料のもとになっていることを初めて知りました。また、その肥料を使って違う野菜を作るというのは環境にとってもいいことだと思いました。これからも残食をできるだけなくしながら、おいしい給食を味わって食べてほしいです。すばらしい発表をありがとうございました！
- ダンボールコンポストでたい肥を作るだけでなく、その肥料を使って野菜を作ってみることもしていて、とても良い取り組みだと思いました。残食を減らすための呼びかけでどれくらい残食が減ったかという結果も調べていて良いと思いました。
- 食品ロスは非常に大きな問題ですね。私の小学校での頃を思い出しながら発表を聞いていました。食品ロスは小学校に多いが、スーパーなどコンビニの食品ロスには比べてものにならないのが悲しいことだと思います。また、山ノ内南小学校3年生と非常に似た内容の発表でした。それは、「もったいない」から自分の周りを見ることである。とても面白い発表でした。
- 私は高校の探究の授業で、コンポストを作ったことがあります。その時は長期間かけて実験することが難しかったので、満足のいくものができたわけではありませんでした。だから、肥料作りで終わらず、栽培までしている点が本当にすごいなと感じました。
- 食品ロスをなくすという事からコンポストを一から作り、さらに残飯を減らすという課題から全校への呼びかけをしていた点が良いと思いました。特に、全校を対象とした自分達の身近なところから問題を発見し、課題解決をしていた点が大切だと考えさせられました。コンポストを作る際に一番苦労した点などを知りたいなと思いました食品ロスをなくすために、余った部分などを肥料にするという活動が面白いと感じた。給食やごはんに対する意識改善を行うといった方法だけではなく、「食べられないがまだ使うことができる」といった食材を活用する考え方は、今後役に立つと思う。
- 博士の劇で導入として興味を惹きつける工夫がとても良いと感じた。劇の中の内容も具体的な理解に繋がりやすい文言が多く、考えのきっかけになると感じた。また、食品ロスという、現代日本で大きな問題となっていることを取り上げていて、自分ごととして考えられる良いものだと思った。次の内容に繋げて考えている点も持続可能な社会の考えにもっとも必要なものでとても良いと思った。
- 残食がどうなっているのかという疑問から実際に工場に行ったりと学びを深めている姿が印象的でした。ダンボールコンポストという言葉を初めて聞き、家でも取り組めそうなことだなと思いました。私たちにできることを少しずつ取り組んでいくことが大切ですね。

〔教職員の皆様へ〕

- 学校の残食から段ボールで作れる肥料について学んでいくという流れが劇でよく伝わりました。全校の意識改革によって学校給食の残食を減らすことができたという実績はすばらしいものだと思います。肥料をもとに野菜を育てるという取り組みも、食べ物を無駄にしないという意識を育てる良いものだと感じました。
- 食品ロスが社会的な問題としてある中、自分たちにもっとも身近な給食に目をつけて、給食ロスを減らそうという取り組みは素晴らしいと思います。給食を作る過程で出てくる生ゴミを肥料にするやり方を学んで、それを実践し、自分たちの力でできることが実感することで子どもたち自身の生活の中でも取り込んでいこうとする気持ちが育まれるのではないかと思います。今後は食品をつくる過程のゴミではなく、残食はどのように活用できるのか私も調べていきたいと感じました。

【長野県】山ノ内町立西小学校 6年生

会場④-5

活動テーマ　山ノ内町をPRしよう！

発表概要　自分たちの住む山ノ内町の魅力をいろんな人に知ってもらいたい。そこで注目したのが地域の伝統食はやそばと、信州の伝統野菜の前坂大根です。観光客にはやそばと前坂大根に食べてもらい、自分たちが作ったパンフレットも一緒に配ることで山ノ内町の魅力をPRしました。また、町内の学校や福井県勝山市のユネスコスクール、成器南小学校とも交流し学びを深めました。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

---

1. 学校名　対象（学年、人数）
山ノ内町立西小学校　６学年　男子１１名　女子７名　計１８名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ
「山ノ内町を PR しよう！」
(2) 目　標
山ノ内町須賀川に残る伝統食はやそばと、前坂地区で栽培されている伝統野菜の前坂大根について学習したり、PR パンフレットづくりをしたりする活動を通して、自分たちの住む町の魅力を再発見すると共に、他者へ発信するルことができる。
(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
□未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
□多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力
(4) 関連する SDGs

11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナーシップで目標を達
(5) 探究課題・活動実践の概要
・前坂大根の栽培
・はやそばづくり体験
・PR パンフレットづくり
・新そば祭りへの参加、PR パンフレット配り
・勝山市立成器南小学校との交流
・観光に来た人にはやそばを食べてもらおう（３月実施予定）

3. 流れ（指導計画の概略）
自分たちの町の魅力を紹介する PR パンフレットの作成を行いながら、同時進行で前坂大根やそばの収穫について地域の方々に教えていただく。PR パンフレットの完成後、須賀川地区で行われた新そば祭りに参加。はやそばをふるまいながらパンフレットを配ることで山ノ内の魅力を発信する。
また学期に１回勝山市の成器南小学校との交流を行い、お互いの学習の様子を発表し合った。

4. 効果・反応・所感
・活動を通して子どもたちは山ノ内町の魅力を再発見しふるさとへの関心を深めたと思う。
・外部へ発信する機会を設定することで、他者意識を持って活動に取り組むことができた。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
・前坂大根保存会
・はやそば小町
・西小コミュニティースクール　小河原さん

感 想

会場④-5 【長野県】山ノ内町立西小学校 6年生 発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 「はやそば」のことを知らなかったので、大根を使って作っているということを知りとても驚きました。また、前坂大根で漬物を作り、新しい発見や時間したことを考えられていてとても素晴らしいと思いました。また、他のユネスコスクールとの交流を通して、考えを広げられていてとても良いと感じました。
- 地域の伝統食の「はやそば」や地域の伝統野菜である「前坂大根」についてとても分かりやすくまとめられていて、年間を通して、どのような活動を通してどのようなことを学んだのかがとても理解しやすかったです。実際に「はやそば」作りや前坂大根の種まき、間引き、収穫等を経験していく中での気づきもしっかりとまとめられていてとても良いと思いました。それだけでなく地域をアピールするためのパンフレット作りや、町内の他の学校、町内の議員さんなどの山ノ内町について話しあっていた点もとても良いと感じました。
- 「はやそば」など地域の食べ物や大根の種まきなどについて発表していた。実際に行った場所で体験したことを発表したり、その時の写真をスライドに載せて解説したりなど興味深い話がたくさん聞けたし話の内容もとてもわかりやすかった。
- 山ノ内町のPRをするということをもとに、地域の伝統食を調べて実際に教えてもらい作ってみる、伝統野菜を実際に育ててみる、という「経験」を通して体で学んでいることが素晴らしいと思いました。さらにPRパンフレットづくりでは焦点を絞ってまとめることで、ターゲットが明確になっており、戦略として成功だと思います。また、交流会をすることで、共通点を見つけたり、逆に違った視点に気付くことで視野を広げられたと思います。
- 地域の伝統食に注目して、地域のPRにつなげようとしているところが良いと思いました。お話をきくだけではなく、実際に「はやそば」を作ってみたり前坂大根を育ててみたりすることでお話をきくだけでは分からなかった、作ることの難しさや育てることの大変さを感じることができたのだと思いました。PRをするためには自分たちが地域の良さを知っておく必要があり、どのような魅力を伝えたいのかを明確にしておくことが大切であると感じました。
- 「はやそば」というものを知らなかったので勉強になりました。地域に「はやそば」が誕生したきっかけも気になりました。「はやそば」を作ってみたり、前坂大根の種まきをしたり漬物作りをしたりと、実際に学校の外に出向いて地域の方と交流をしながら多くの体験をできたことは素晴らしいと思います。猛暑に阻まれたことも経験の一つとして大切にしていってください。
- 山ノ内町の伝統を地域内外に伝えていきたいと思い、蕎麦や大根作り、パンフレットの制作を行っており、地域の特色を生かした内容になっていて良いと思いました。また、福井県の小学校と交流したことで、新しいアイデアを得て、新しい取り組みに繋げていてすごいと思いました。今後の、より良くしようという気持ちをもって活動を行ってほしいと思いました。
- 「はやそば」や「前坂大根」について実際に時間をかけて育てたり、地域の人に教えてもらったりする中で知識がつき、地域との交流にもつながっており、良かったと思います。猛暑に関しては仕方ない部分が大きいと思いますが、その点に関しても考えてみたら今後のために面白そうだと思いました。大根の漬物のためにリンゴジュースにくぐらす、というのはとても面白く、興味深いなと思いました。また、発表したことや考えて深めていることについて話し合いが途中でできることはとてもよいことだと思いました。ほかの人たちや立場の人の意見も積極的に取り入れて考えを深めることが重要であると思います。
- PRのために伝統食と伝統野菜に着目し、その2つを同時にPRするために組み合わせたところが良いと思った。自分たちで野菜を育てることは予想と違ったこともあったようだが、自然相手であるため、思い通りにいかないこともある。しかし、児童たちは振り返ってみて、かごいっぱいの大根が取れたことや漬物がどのような味になるのか楽しみであることなどを述べていて、良かったと思った。パンフレットの製作をしたり祭りに参加したりと、地域に貢献する活動が多かった。このパンフレットを他の地域でも配ってみたり、インターネットで公開するなどするとより多くの人がしてくれるのではないかと思った。私は福井県出身ですが、福井県にはそばに大根おろしをたっぷりかけた「おろしそば」という食べ物があります。「はやそば」という名前と大根から同じようなものかと想像していましたが、まったく異なったもので、驚きました。
- 発表を聴いて、皆さん自身が考える山ノ内町のよさや魅力がとてもよく伝わってきました。特に、山ノ内町の伝統食として「はやそば」があるということを初めて知り、写真で見るととてもおいしそうだったので、機会があればぜひ食べてみたいと思いました。ハキハキと話してくれたのでとても聴きやすかったです。すばらしい発表をありがとうございました！

- 「はやそば」を作るときに、「はやそば」のつくり方だけでなく関わった地域の人のあたたかさにも気づいていて素敵だなと思いました。「はやそば」を広めるために呼びかけるだけでなく、あたたかみのあるパンフレットを作っていて、手に取ってみたいなと思いました。パンフレットも自分たちで撮った写真を使うなど工夫がされていてとても良いなと思いました。
- 海外の方に向けてもパンフレットを作ろうとしているところが非常に良かった。おそらくこれからの日本は、海外からの移住者や観光客がますます増加する。できる限り早いうちから海外のお客さんや労働者に対して適切な対処ができるような取り組みをしていくことは大切だと思う。
- 1つの視点からだけで学ぶのではなく、魅力を知る・それをどう宣伝するのか・他学校との交流によるブラッシュアップなど、様々な活動をすることで深い学習になっていたと思います。特に遠くの学校との交流というのはとても貴重な体験になったのではないかと思います。私も身近な人との交流だけでなく、もっと幅広い人たちとの交流をすることにも意識して大学の勉強を頑張ろうと思いました。
- 町をアピールするために、去年知ることができた町の良さを伝える活動をしていく様子が時系列で分かりました。活動の内容だけでなく、その時の自分たちの感想や関係者への感謝の言葉も述べられていたところもよかったです。スライドも活動中の写真等がうまく使われていて見やすかったです。天候によってできない活動内容もありましたが、それを補うように他校との交流など活動の幅広さも感じました。
- 子供たちが質問に対してすぐに答えられている点が素晴らしいと思った。子供たちが体験し行動することで体に知識となり染みつき、学んだことが記憶に結びついているのだと感じた。スライドも細かく、見ていて楽しかった。
- 地域に根付くそばと大根に着目して、実際に育成を行ったり漬物を作る活動を行うことが興味深いと感じた。普段食べる食材を植えて育てる経験はいい食育になるし、これに興味を持った生徒が将来的に地域の農業を担う可能性もある。そのため、社会的な面と食育的な面、またキャリア教育的な面など多くの側面のある活動だと感じた。
- 議員や地域の方と幅広い人との関わりの中でESDについて考えている点がとても多角的で良いと思った。スライドもまとまっていて簡潔な内容で見やすいと感じた。そばという地域性のある着目点や、各の振り返りがある点が、聞いている側にも具体的かつ比較して考えるきっかけになっていてとても良いと思った。オンライン交流という現代のICTを利用した活動も今後別の地域や団体でも利用できる工夫になっていて、とても良いと考えた。

〔教職員の皆様へ〕

- 大根やそばなど地域で作られてきた食べ物を大切にする学習を通して山ノ内の良さや特徴を知ることができる活動がとても良いと思います。他校の取り組みから、自分のパンフレットを改善したり英語版をつくる等、他から学んで活用する姿勢も素晴らしいと思いました。

【長野県】根羽村立義務教育学校根羽学園 5～8年生

会場⑤-1

活動テーマ 根羽学園ESD

発表概要 根羽学園では、根羽村にある自然、文化、そこに暮らす人々と関わりながら、様々な体験を通して探究的な学びを行っています。林業体験学習では、杉の木の苗を植えたり、総合的な学習の時間では、村の木材を使ってベンチづくりを行いました。また村の魅力を発信するテレビ番組の制作を行い、村に貢献しながら学びを深めています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1．学校名：根羽村立義務教育学校根羽学園

2．対　象：５・６年生　生徒１２名

3．活動内容

（1）活動テーマ　「根羽の知られざる魅力を発信しよう」

（2）活動の目標

根羽村にある場所やそこに紐づく人々について知り、根羽村ならではの良さを感じたり、働く人の思いに触れたりすることで、根羽村への愛着や物事に対する新しい物の見方を習得することができる。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

□有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）

□その他（　　）

②育成する資質・能力

☑批判的に考える力　☑他者と協力する力

☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度

□多面的・総合的に考える力　□進んで参加する態度

☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDGs

11 住み続けられるまちづくりを

（5）活動の内容

①これからの番組制作の流れを理解し、見通しをもつ。映像というものの歴史を知り、番組作りへの期待を高める。

②根羽村の場所や人を知り、伝えたいポイントを絞る。台本を作成し、撮影ができる状態をつくる。

③台本をもとに撮影を行い、自分たちが伝えたいことが伝わるような構成になっているのかを確認する。編集を通して、番組をより魅力的なものにする。

④上映会に向けて準備に取り組む。振り返りを通して、できたこと・よかったことをもとに、自他共に認め合い、今後の課題を見つける。

4．活動の成果

・根羽村にある場所やそこに紐づく人々について知り、根羽村ならではの良さを感じたり、働く人の想いに触れたりすることで、根羽村への愛着や物事に対する新しいものの見方を習得することができた。

・テレビ番組制作を通して、効果的なインタビューの仕方や、情報を整理しまとめること、また相手に伝わりやすい発信方法などについて学ぶことができた。

5．指導方法・体制の工夫

①森林組合・小野さん　②村内でお店を経営されている方々

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1　学校名：根羽村立義務教育学校根羽学園　　対　象：７～９年生　８名

2　活動内容

（1）活動のテーマ　　「林業体験学習」

（2）活動の目標

①全村民が森林組合員である根羽村の一員として、森林について学び、森林を大切にする気持ちを育てる。

②人々がどのように森林を育て、利用し、守っているか、林業そのものについて学び、林業という職業に対しての興味関心が高まるようにする。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

□有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）

□その他（　　）

②育成する資質・能力

□批判的に考える力　☑他者と協力する力

□未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度

□多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度

☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDGs

11 住み続けられるまちづくりを
15 陸の豊かさも守ろう

（5）活動の内容

時間	学習内容
前々時	「きこりものがたり」というゲームを行い、木を植えてから販売する一連の流れを学ぶ。 植林の仕方や木の販売等について学ぶ。
事前	「WOOD　JOB」という映画を見て、林業について学ぶ。 世界で起きている森林に関わる課題について学ぶワークショップを行う。
当日	植林体験学習 ３０分前には帰校して、振り返りの時間をとる。

3　活動の成果

（1）ゲームやワークショップを通して生徒が林業の現状を知ったり、林業の尊さについて学んだりできた。

（2）植林体験学習により、木を育てることや森林を守り受けついていくことの意味について体験を通して学ぶことができた。また、一層森林を身近に感じることができた。

4　指導方法・体制の工夫

（1）森林組合との連携

（2）校内の ESD 担当者との打ち合わせ、指導案作り

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1．学校名：根羽村立義務教育学校根羽学園

2．対　象：８年生　生徒１名

3．活動内容

（1）活動名　　「端材のベンチで根羽を PR しよう」

（2）活動の目標

端材を活用したものづくりや根羽を宣伝する活動を通して、自分で計画・実行し、評価・改善しながらものごとに取り組む力を高め、根羽村に貢献できたと実感することができる。

（3）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☐多様性（多種多様な現象が起きていること）　☐公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

☐有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）

☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☑批判的に考える力　☑他者と協力する力

☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度

☐多面的・総合的に考える力　☐進んで参加する態度

☑コミュニケーションを行う力

（4）関連する SDGs

11 住み続けられるまちづくりを
15 陸の豊かさも守ろう

（5）活動の内容

①森林組合を見学し、根羽村の林業を知る。

②森林組合からいただいた杉やヒノキの端材を使ってベンチを製作する。

③ベンチを置いてもらう場所を考える。

4．活動の成果

・端材を活用する方法を考えることができた。

・強度や安定性を考え、緻密に設計してベンチを製作することができた。

・ベンチをどこに置けば根羽の PR につながるか考えることができた。

5．指導方法・体制の工夫
①村内の地域素材（杉・ヒノキ）
②森林組合の方
③技術科の先生

感 想

会場⑤-1 【長野県】根羽村立義務教育学校根羽学園 5～8年生 発表を見た方からの感想

〔児童・生徒の皆様へ〕

- 植林活動を通して現在の植林の最先端技術を学んでおり、また私自身とても勉強になった。苗木を植える際の工夫や、林業そのものの大変さを実際の経験を通して行っており大変羨ましい活動だと感じている。実際に行うことは自身の経験となり、より深い学びになるため今後も行っていってほしい。
- 私の出身地も、森林面積が80%以上あり、林業体験を行っていました。しかし、まだまだこのような活動は知られていないように思います。そのため、今回のような発表会で、活動の大切さ、大変さ、楽しさを伝えていくことが、根羽村の自然を守っていくことにつながっていくと思います。ぜひ今後も活動を続けていってください。
- 自然豊かな根羽村では、森が92%を占めていることに驚きました。森林伐採を阻止するという活動は、根羽村だけでなく世界中が模範にするべき活動だと思いました。こういった活動を、今回のようにYouTube Liveなどのツールで発信することで少しでも森林伐採をする地域が減ると思います。これからもどんどん根羽村をPRしていってください。
- 村の特徴を踏まえて、森林を守っていく取り組みを行っているのが地域社会に密着しており、とても良い取り組みだと思いました。ただ植えるのではなく、植える際の間隔や鹿対策など、森林を維持していくための対策も考えられていたのが素晴らしかったです。
- どの各学年ともスライドのクオリティが非常に高く、アニメーションが効果的に使用されていたのが印象的だった。番組の作成などで、センスの光る高い編集技術を感じたため、そこがスライドにも生かされているのではないかと思った。
- SDGsと地元、地域の特色を生かした林業体験学習や、ベンチづくりをすることで、自分から、環境、地域に触れ、より良い社会、村を作ろうとする姿勢が本当に素晴らしいと思いました。これからの社会を築いていく皆さんがこのような活動をしたり、いろんなことに触れたりすることで、環境や、地方の活性化につながると思うので、これからも頑張ってください！
- 92%が森林という地区の特徴を活かした、地域の理解も深まる素晴らしい活動でした。苗を植える中で、2mの間隔を空けるというのは、おそらく苗が育って大きくなっていく中で、栄養分や木々が干渉しないためかと思います。私は知識はあるものの、体験をしたことがなく、とても貴重で素晴らしい経験であると思います。苗が大きくなるまでは時間がかかると思いますが、活動頑張ってください！ベンチの制作を通じて、技術科の知識と、社会を利用した活動でした。私は技術科の学生なので、一つアドバイスになればと思い、コメントさせていただきます。トラス構造と言って、三角形を意識すると強度は格段に上がります。次回制作を行う際には、トラス構造を意識してみるといいかもしれません！活動引き続き、頑張ってください。
- 学習の背景から発表されていて、細かく計画を立てていたところと活動をして終わりという実践ではないという部分にとても驚きました。その中でもお店チームや観光チームのテレビ番組の制作活動がとても印象に残りました。様々な準備や練習をしたり、失敗を改善したりして撮影に臨んだことが発表で流されていた動画からも感じることができたので、本編もじっくり見たいと思いました。また、自分たちだけでなく地域の方々や環境のために行動している姿が印象的で、このような活動を通して身近な社会や自然環境などに興味を持つことと、問題発見や問題解決をたくさん経験することをしてほしいと思いました。発表にクイズ形式を取り入れていた部分もとても良かったと思いました。
- 素晴らしい動画でした！根羽村立義務教育学校根羽学園の皆さんへのメッセージとして、森林組合との関わりを通じて学び、探究的な姿勢が素晴らしいです。苗にカバーをつけるクイズは巧妙で、植える場所や間隔を考えながらの活動は将来の緑豊かな環境に向けた一歩だと思います。引き続き意欲的に学んでいってください。根羽村の木を活用した家具製作のアイディアは素晴らしいと思います。段階的な製作プロセスや、初めに段ボールなどでの模型製作を通じた検討は慎重で効果的です。また、製作に端材を活用することで、資源の有効活用も進んでいます。振り返りと反省がしっかり行われているのは、次のプロジェクトに活かせると感じました。地域資源を活かし、地域経済にも貢献する素晴らしい取り組みだと思います。
- 発表を聞いて、町の魅力が詳しく紹介され、その奥深さに感動しました。そして町の魅力を知る良い機会であり、同時にSDGsへの真剣なアプローチが感じられて好感が持てました。地域社会が一層発展していくことを期待しています。頑張ってください。
- 根羽村の知られざる魅力を伝えるため、おもしろい番組を作れていました。セリフの言い方が、飽きさせないような工夫がされていると感じました。

- 木材を用いてものを作ることは幾度か経験したが、木の種類を考え、木の切り方や、ニスの塗り方や塗りの加減を通じて木の加工の難しさを知ることを験したことがないのでとても羨ましく感じている。また、テレビ番組の制作を通じて撮影までの下準備は地域のことをしっかり知る機会になるため、フィールドワークの一環になり生涯学習において重要だと考えている。
- テレビ取材について考えながら、地域の食を取材して魅力を感じるという活動はとても興味深かったです。そしてそれをテレビとしてYouTubeに発信することで根羽村の魅力をほかの地域や県、そして全国に広げようとしているところが素晴らしいと思いました。これからも世の中に根羽村の良さを発信していってください。
- 地域活性化のために考えるだけでなく、実際に行動に移してどのような成果が得られるかということまでを学ぶことができているのではないかと感じました。実際に実行するにあたり、下調べや事前準備についても簡単な道のりではなかったと思います。作られたベンチも番組も地域のことを思っての活動であることがひしひしと伝わってきました。
- 発表を聞いて、町の魅力が詳しく紹介され、その奥深さに感動しました。そして町の魅力を知る良い機会であり、同時にSDGsへの真剣なアプローチが感じられて好感が持てました。地域社会が一層発展していくことを期待しています。頑張ってください。
- ベンチに座った人が制作の裏にあるみんなの自然に対する思いを知ったら普通に生活していたら会わないような人にもみんなの気持ちを伝えられて自然を大切にしようという思いの輪が広がると思うのですごくいい実践だと思いました。
- 森林を守ることが大事だと言われて久しいですが、実際にどのような支援をしていけばいいのか分からない人は多いと思います。そのため実際に苗木を植える体験をしたことで、より具体的な課題点を見つけられたことは、これから課題を周知していくうえでさらに様々な視点から説明できる根拠になったと思います。これからの活躍も期待したいです。
- スライドののこぎりが動くように工夫されていたり、クイズがあったりして発表に惹き付けられる工夫が行われていて、素敵だなと思いました。林業体験学習で根本的な苗を植えるという活動で、苗の間隔をあける事の大切さを学んだのですね。苗が木になるまで見守りたいですね。また、8年生の発表では設計図を書いたり、段ボールで作ってみたり、端材を使ったりと木を大切にしていることが伝わってきました。作ってみて分かった課題を次に生かそうとしているところも素敵だと思いました。この椅子に私も座ってみたいなと思いました。
- どのグループの発表も、根羽村のことを大切に思うあたたかい気持ちが画面越しにも伝わる発表でした。林業の体験では、写真やビデオで見るだけではなく、実際に体験しないとわからないことがたくさんあり、中々できない貴重な学びの成果を教えていただけて勉強になりました。ベンチ作りでは、綿密な計画を立てて安定したベンチを作ることができていてすごいなと思いました。設計図がとても精密で驚きました。最終的には村内に置いて根羽村のPRにしたいという思いも素敵だなと思いました。
- 実際に自らの手で椅子を作ったことで細かい部分まで見ることができるようになったことは大きな成長になったのだろうと思いました。また、ウラウマい店の取材では、お店の方の人柄が分かったり、おいしそうなメニューを見ることができたおかげでとても行ってみたいと思うようになりました。最後のカエルの像についてのインタビューでは番組制作の裏側を知ることができ、とても工夫して作成していったのだということが分かりました。視聴者側の心理をくみ取り、思わず先が知りたくなるような番組構成だったので先が知りたくなりました。
- 村民の方にアンケートをとったり、お店に事前に確認したり、打ち合わせをしたりしていて、本格的だなと感じました。番組名も実際にあるテレビ名をもじっていたり、BGMがつけられていたりしておもしろいなと思いました。子どもたちの根羽村に対する愛が伝わってくる内容でざるきしめんを食べてみたいなと思いました。子どもたちも根羽村についてこの活動を通してより深く知ることが出来たのではないでしょうか。また、アンケートを基にカエルの像についての番組を作っているところが、すごいなと思いました。また、この番組を見れば、カエルの像をより楽しむことが出来て、魅力が伝わるのではないかなと思いました。一度根羽村にいってカエル巡りをしてみたいなと思いました。他の魅力についてもぜひ番組を作ってほしいです。
- お店チームの発表について、根羽村の魅力を伝えるテレビ番組を作成しようとする活動がとても面白かったです。ただ自分たちで考えて作るのではなく、実際にテレビ番組のプロに話を聞いたり、取材の許可や取材してほしいお店のアンケートを取るなど、とても誠実でユニークな活動を踏まえながら番組の素材づくりをしている姿は、とても素晴らしいと感じました。テレビ番組は根羽村野村の魅力がとてもよく伝わってくるようなほんわかした内容で、とても面白かったです。

〔教職員の皆様へ〕

- 林業体験学習は、子どもにとっても実感を伴う学びにもなるし、地域社会においても、とても価値のあるものだと思いました。学校にとっても地域にとってもWin & Winの関係が成り立っていることがとても重要だと思いました。この体験学習をスタートに、いろいろな活動や学びへと発展できるなと思います。鹿による獣害をテーマにして、ジビエ料理へもつながるのかもしれないなと思いました。子どもたちの「大きな家具を作りたい」という願いを大切にして、活動がすすめられているのもいいなと思いました。ただ、ベンチをつくるのではなく、そこには根羽村の魅力を内外にアピールしたいという目的もあり、自己満足で終わらないことが大事だと感じました。
- 今回の発表から、モノが生まれる根本の部分に目を向けることの必要性や大切さについて改めて学ばせていただきました。私自身下伊那の出身で山に囲まれて生活をしてきましたが、自然が当たり前にありすぎて、具体的に何か活動を行ったり課題について考えたりする機会はそこまで多くなかったように思います。しかし、今回根羽学園の皆さんの発表を拝見する中で、自分の身近にあった森林も多くの方が様々な工夫をされながら管理されていることを改めて学び、自分は環境に対して無責任に関わっていたのではないかと考えさせられました。実際に林業体験をされた皆さんから情報が発信されることで、概要しかつかめていなかったことについても考える機会をいただくことができました。また、生徒の皆さんが、安全に体験ができるよう、先生方がどのように地域の方々との連携を取られているのかにも興味を持ちました。また機会があればお伺いしてみたいと思っております。この度はありがとうございました。
- 試行錯誤ができるように、場や時間の設定がなされていて、それが子どもが主体的に活動に取り組んでいる姿につながっているのだと思いました。また、様々な人との出会いを大切にされているのもとても大事なことだと思いました。人との出会いが、学びを深めたり、学びを促したりするのだと感じました。また、取材拒否されたこともとても重要だと思います。きっとうまくいかないだろうと先生方は分かっていたと思います。しかし、そこで子どもを止めるのではなく、失敗させたことがとても重要だったと思います。動画づくりを通して、子どもたちは多くのことを学んだのだと思いました。
- 地域の魅力を発信するためにベンチづくりやテレビ番組の作成など、多種多様な活動に取り組まれていることが非常に素敵だと感じました。地域の魅力を発信するには、まず何より制作する自分たちが地域に対して魅力を感じていることが必要であると思います。今回の発表を拝見する中では、生徒の皆さんが根羽村という地域に非常に魅力を感じ、他地域の人々にも知ってほしいと心から願って活動に取り組まれていることが伝わってきました。今回は地域にベンチを設置するなど地域に根差した活動が多かったように思いますが、今後生徒の皆さんが他地域に対してどのようにアプローチをしていくのか、またそれに対して先生方がどのように他地域とつなげられていくのか興味を持ちました。また活動の様子について発表される機会があれば、ぜひ現在の活動からの進展について伺ってみたいと思いました。ありがとうございました。

【長野県】山ノ内町立山ノ内中学校 1年生

会場⑤-2

活動テーマ　山ノ内町の魅力の再発見と活性化に向けての課題を探る

発表概要

山ノ内中学校では、3年次に行う地域活性化の提言を一つのゴールに据え、ESDを行っています。1年次では、ユネスコエコパークである志賀高原について、宿泊学習等を通して生態系の保全と人間社会との共生を目指した取り組みの重要性を学びました。そして、自身が暮らす地域の観光資源である温泉に着目し、その歴史的背景や今日の宿泊業の取り組み・意識を調査しました。これらの学習を通して地域活性化に向けた課題を見出し、提言への土台づくりをしました。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1.　学校名　対象（学年、人数）　山ノ内町立山ノ内中学校　1学年　６８名

2.　探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ　山ノ内町の魅力の再発見と活性化に向けての課題を探る。
(2) 目　標　　・ＥＳＤ活動について知る。　・町の魅力の再発見と活性化に向けての課題を探る。
(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☐公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）
☐その他（　　）
②育成する資質・能力
☑批判的に考える力　☑他者と協力する力
☐未来像を予測して計画を立てる力　☐つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☐コミュニケーションを行う力

外来種駆除体験

(4) 関連する SDGs

8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤を作ろう
11 住み続けられるまちづくりを
15 陸の豊かさも守ろう

(5) 探究課題・活動実践の概要
【7 月志賀高原研修旅行の調査テーマ（一部）】
①地球温暖化と動物の絶滅の関係　②再生可能エネルギーがどのように利用されているか
③志賀高原に生息する在来種について発信しよう　④絶滅危惧種を守るには
⑤ゴミの流出を防ぎ自然を守るには　⑥山ノ内の特産品を育てる生育環境を守るには
⑦山ノ内の特産品や観光地の魅力を知ってもらい山ノ内町を盛り上げよう
【山ノ内町の課題テーマ（10 月地域自慢調査を通して）】
①山ノ内ならではのお土産が少ない(スイーツ等も含む)　②外国人への対応　③温泉の発信
④温泉以外の魅力が少ない　⑤ゴミのポイ捨て等の観光マナー　⑥住宅街に来る動物対策
⑦ユネスコエコパークについて知られていない　⑧お客が少ない
⑨ＰＲを充実させたい　⑩少子高齢化・従業員不足の対策　⑪大型店が少ない

3.　流れ（指導計画の概略）
５月…ESD 活動の目的や内容を学ぶ。志賀高原研修旅行の目標、日程及び活動内容を理解する。
６月…研修旅行における調査テーマを決定する。ユネスコエコパークに関する事前学習を行う。
７月…志賀高原研修旅行(7/11-12)→トレッキング、外来種駆除、染め物体験、温泉熱学習　等
８月～９月…志賀高原研修旅行の調査結果をパワーポイントにまとめ、学年内で共有する。
白樺祭（文化祭）で３グループ（外来種、温泉熱、絶滅危惧種）が発表する。
10 月…移行地域（主に温泉街）の歴史を学ぶ。地域自慢調査（温泉街巡り、旅館インタビュー）
11 月～12 月…地域自慢調査の調査結果をまとめ、山ノ内町の魅力と課題を探る。
１月…考えていきたい山ノ内町の課題ごとに班を編成し、解決策や問題点等を考え発表する。

4.　効果・反応・所感
・志賀高原研修旅行では、過去の先輩方の学習を土台にユネスコエコパークの特徴や現状を調査し、ユネスコエコパークを保有する山ノ内町の一員として自然を大切にしていく心を育むとともに、自然を維持・保全していくための人間のあり方を考えることができた。
・地域自慢調査では、地元の温泉街を ESD の視点から見ることで山ノ内町の課題をより自分事として捉えることができた。見つけた課題は他地域との比較を通して、より具体的なものにしていきたい。

5.　指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
①志賀高原ガイド組合　②山ノ内町教育委員会生涯学習係文化財整理推進員　畔上さん　青木さん
③地元温泉旅館（春蘭の宿さかえや、太陽館ヤマト屋）

感 想

会場⑤-2 【長野県】山ノ内町立山ノ内中学校 1年生 発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- ユネスコスクールとしての利点と地域の豊かな自然性を生かした活動は実際の研究の流れとフィールドワークを行うことによって志賀高原の特性を知ることはとても重要な学習だ。また、地域の問題点とその解決策を、魅力を通じて考えていく視点や解決したらどういった利点があるのか等の視点はとても重要であると考えた。
- 観光客への対応やそれに関する課題について着目していて、移住したいと思えるような街にする、遊べるところを増やす、特産品を増やすというは、観光客を呼ぶためにはもっとも効率のよい方法だと思いました。山ノ内町は何回か訪れたことがあってとてもいいところだと思うので、たくさんPRしていってほしいと思います。これからも頑張ってください。
- 調べる大きなカテゴリーの中でそれぞれが持つ考え方によって違いが生まれているという気付きに面白みを見出せているところで、地域活性化には重要な考え方が身についているのではないかと思いました。また、根本的なところから考えることで見出すことができる課題があったのではないかと感じました。そしてそれに対する問題や解決策についても冷静に分析でいているように感じました。実態調査から二年生で行われる行事を利用し、自分たちの地域問題に落とし込むという流れによって自分たちの地域で活かせることを考えるということも、地域活性化を考えるにあたり素晴らしい流れであると思います。
- 広い視野を持ち課題について検討を行ったうえで、その解決策としてユネスコパークについて知ってもらう・少子高齢化や従業員不足を解決・新たな特産品というように様々な観点から問題を見ていて、また、それぞれの解決策について深く考えられている点がすごいなと思いました。今後のステップも考えているようだったので、これからの活動も頑張ってください！
- 3年間を通してESD、環境の学習を行うという環境問題へのやる気や姿勢に驚かされました。そしてその中からユネスコエコパーク、温泉街に注目し、地元地域の活性化、魅力の発信をしていくという点が素晴らしい視点だなと思いました。ぜひ引き続き活動を頑張って欲しいと思います。
- 地域の魅力の再発見と発信をテーマにしていて、私はこれがとても抽象的なテーマであるように思えたのですが、話題を「ユネスコエコパーク」などに絞って自分たちが提案できるように工夫していた部分がすごいと思いました。またその課題についての解決策が実現は難しいものであることを理解して、それについての課題を挙げるという思考の連続があることが発表から伝わってきて、これからの活動によって、より良い実現できそうな案を模索していってほしいと思いました。そして、その案ができたら実行に移してもらいたいと思いました。よく言われていることではあると思うのですが、実行することによってそれが与える実際の影響や新しく見えてくる課題を知ることができるので、ぜひ失敗を恐れずにチャレンジしてもらいたいと思いました。
- 先輩たちの学習を土台にするアプローチは素晴らしいと感じます。ユネスコエコパークについての理解が深まり、地域の自然や環境に対する新たな視点が得られました。また、人手不足などの普遍的な課題に直面し、それを認識することは成長の一環です。これらの経験が今後の活動に生かされ、持続可能な課題への取り組みが一層進むことを期待しています。これからも地域に貢献できる学習を続けてほしいです。
- それぞれ目的別にインタビューを行っており、多角的な視点から魅力や課題を明確にしていったことが素晴らしいと思いました。今後の取り組むべき課題が明確になっているため、ぜひ取り組んでいってもらえると課題解決に向かっていくと思いますし、なにより課題を解決することができるという経験やきっかけになっていくので、これからの皆さんの活躍を応援しています。
- 学習の流れがわかりやすく伝えられている発表でした。また、旅館の方などにインタビューを行うことで、課題が見えてきたことが探究のきっかけとなっていて良いなと思いました。さらに、見えてきた課題に対して、それぞれ自然に配慮しながら解決策を考えていて、この調子で学習を進めていってほしいと思いました。
- 自分の住む山ノ内町について、山ノ内町の魅力を浮き彫りにし、観光業について掘り下げる中で「ユネスコエコパーク」についての課題を発見しながら、その課題についてSDGsも交えながら解決策を考えていく。この一連の流れがとても素晴らしいと感じました。SNSでのユネスコエコパークの発信は、時代にそぐわしい、とても魅力的な活動だと感じました。
- 素敵な発表ありがとうございました。皆さんが山ノ内町の課題を真剣に考え、それをどのような取り組みで解決していくのかを話し合ってきた過程がとてもわかりやすく、スッと話が入ってきました。まずは「知ってもらうこと」とても大事ですよね。私も今日の発表を聞いて初めて知ったことがたくさんあったので、皆さんの活動は必ず実

を結ぶと思います。また、人手不足で観光施設や企業がやりたい取り組みを十分に実施できないという着眼点がすごいなと思いました。来てもらうだけでなく、住みたくなる町にするために、皆さんの今後の取り組みも楽しみにしています。

- 課題を克服するためにさらに一歩踏み込んだ提案を考えてみるというのも良いかもしれません。例えば、学校の中で投票をしてみたり、町長にPRをしてみるという活動をして私たちが危機感を強く抱いていることを内外に発信することで周りを巻き込んでアクションを起こしてみると良いかもしれません。応援しています。

〔教職員の皆様へ〕

- 今回の発表を伺う中では、3年間を通じて段階的に学習が設定されていることや他地域との比較によって地域課題に取り組む様子が印象的でした。山ノ内町では小学校のころからESDに取り組まれていらっしゃるので生徒の皆さんにもSDGsに関わる取り組みが根付いているのだろうと思います。しかし、改めて1年時から「知る」という段階に取り組まれていることで、中学生の見方で地域の課題について考えることができているのではないかと感じました。また、比較する地域の選定方法についてもお伺いしてみたいところではありますが、地域について知ったうえで他地域との比較を行われていることから、より多角的に地域の課題について考える過程について学ばせていただきました。ありがとうございました。

【長野県】飯田市立遠山中学校 2年生

会場⑤-3

活動テーマ 学有林を中心として、木材や林業について学ぶ活動

発表概要 遠山中学校では、学有林学習を中心としながら木材や林業について学んでいます。令和5年度の学有林学習では、実際に学有林に足を運び、林道整備を行いました。全校総合の時間に行った地域の方に学ぶ会では、学有林の木を使ってベンチを製作しました。今後も学有林を通して、林業やものづくり、人との関わり考えていきたいです。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名　対象（学年、人数）
飯田市立遠山中学校（２学年、７名）

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ
学有林を中心として木材の活用や林業を学ぶ

(2) 目　標
② 学有林学習を踏まえて，林業についての理解を深める。
②ものづくり体験を通して，自分たちの作ったものが活用される喜びを味わう。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
□未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
□多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任
15 陸の豊かさも守ろう

(5) 探究課題・活動実践の概要
探究課題「学有林をもっと良い山（豊かな場所）にするには，どうしたらよいだろうか」
→学有林に実際に行って活動したり，学有林にある資源をどのように活用するかを学習する。

3. 流れ（指導計画の概略）
①令和４年度「学有林学習」において，学有林という存在自体に触れ，興味関心をもつ。
→生徒の中に「学有林をもっと良い山にしていきたい」という願いがうまれる。
②木材の流通と活用の方法を知る目的で，地元の森林組合のプレカット工場を見学したり，Shop-Bot という木材加工用機械でイス作りを体験したりする。
③令和５年度「学有林学習」において，林道整備をおこなう。
④令和５年度「地域の方に学ぶ会」において，学有林の木材を活用して，ベンチ作りをおこなう。
→実際に学有林の木材を活用する体験となり，人やもののつながりや循環の大切さに気づいた。

4. 効果・反応・所感
学有林学習は，年に一度だけ PTA の活動として行っているが，それ以外で学有林について触れる機会というのはそこまで多くない。しかし，今回の活動を通して，学有林のことを自分たちの学校の財産として考えていく姿が見られた。またその中で，学有林をもっと良い場所にしていくためにできることは何かという主体的な考えや，木材を活用していくには多くの人達が連携していくことが大切であるという気づきが見られた。学有林を通して，林業やものづくりという視点だけでなく，SDGs における学びも自然

と深まっているのではないかと考える。

5.　指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

イス作り体験は，民間企業（合同会社伊那谷サラウンド）にご協力いただいた。必要経費は飯田市ムトス支援事業に補助をいただいた。

感 想

会場⑤-3 【長野県】飯田市立遠山中学校 2年生 発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 学有林学習という言葉を初めて聞きました。学有林学習とSDGsの目標との関係政等も具体的に示されていて理解しやすかったです。また地域の方々とも積極的に交流活動をされていて、地域の方々から学ぶ活動というのも充実されていてとてもいい環境が整備されているなと感じました。
- 学有林における間伐や枝打ち、ベンチの作成や工場見学を通しSDGsとの関わりを深めており、とても重要な学習だと感じた。また、学有林の整備を活発にするために道を作成する活動を通じ、林業は森全体を作る業種だと知ることができた。引き続き身のある活動を行い、学習を頑張って頂きたいです。
- 森林体験から、木の魅力や道づくりの大変さなどを学習していてすごいと思いました。また、これらの学習をSDGsとつなげて考えていることもすばらしいことだなと思いました。加えて、木のサイクルを見出し、解決策も最後に出していたことも良いと思いました。ぜひ、活動を続けていってください。
- 学有林学習で、間伐することの見学と伐採について学んだことを知った。木が健康に育つためには、間伐で日当たりを良くするなどの定期的な人の手による手入れが必要であることが分かった。SDGsの観点から、木について考えていたのが面白かった。
- 学有林学習は、普段感じることができていなかった作業の大変さや感謝の気持ちを感じる機会となっており、実際に体験するということは非常に大切なことだと思いました。また、遠山中学校の方々の発表を聞き、地域の木を使うことの重要性に改めて気が付きました。学有林の木を使って作るものがいくつか決まっているようだったので、頑張ってほしいなと思いました。
- 発表資料から、本当に森林のような学有林で驚きました。私の学校にはないものなので、素晴らしい地域だと初見で思いました！森林管理の職業は現在、深刻な人手不足で人材の成り手がないことで、公共事業になっている現状があります。最後のまとめにある通り、サイクルを保つためにも「木を育てる人」を育成するためにも、この活動を一回で終わるのではなく、継続して行なって欲しいです！発表ありがとうございました！
- 学有林に関連することについて深く学ぶことで、木の循環などの「循環」についての学びに繋げていたところがすごいと思いました。また一つ一つの活動をSDGsの中のどの活動にあたるのか考えていた部分も、様々な視点で見たり考えたりするために必要だと思うので、続けてほしいと思いました。また発表以外のことで、質問への返答がとてもはきはきと端的に答えていてすごいと思いました。自分たちがわからない部分も適当な返事をせずに正しい回答をしようと心がけているところも良いと思いました。
- 地域に根付いた産業について体験し、学習することは素晴らしいと思いました。学んだことをSDGsと絡めながら学習を進めているのは環境や社会に貢献したいという意識の表れだと感じました。今後の活動を期待しています。
- 間伐している様子や、加工した木材を使った工芸品、道づくりの様子から身近なものへの感謝へ繋がった経験はとても貴重なものであると感じます。学んだ知識をこれからの生活やSDGsの周知にさらに役立っていくものであると感じました。
- 学有林・森林について考えることで、SDGsの様々な目標に関わってくるということを、学ぶことが出来ました。実際に道づくりを行っていくことで、当たり前に感じていたことがそうじゃないということに気付くことが出来たのですね。育てる、作る、売る、育てるという循環が継続できれば環境保全にもつながると思うし、ベンチなどを座る人同士の輪が広がって環境だけでなく、人間関係の面でも住み続けやすい街づくりにつながるのではないかと発表を聞いて思いました。ベンチ以外にも地域の人が求めるものを木材で作ってみるともっといいのではないかなと思いました。
- SDGsと森林の活動について、うまく結びつけながら活動について学んでいて、とても良いと思いました。とくに学有林をもさらに豊かにしていくために、学有林の木を使って教科書が入る棚や机、さらに自分の地域の人たちが必要なものについて制作しながら、住み続けられる街づくりに取り組んでいこうとする姿勢がとても素敵だと思いました。
- 学有林があるの、すごいですね！遠山中の魅力の一つですね。また、みなさんの学有林を通して学んできたこと一つ一つがとても深く、学びへの姿勢を私も見習いたいなと思いました。発表の中で印象に残った言葉があります。道づくりでの「道には必ず作った人がいて、使いやすいように整備してくれていることを改めて感じた」という言葉です。自分で実際に作り、その苦労を、身をもって知った人でないといえない言葉だと思います。すごく重みがあるなと思いました。この先も学有林での学びは続くと思いますが、今後の学習がどうなっていくのか、私

まで楽しみになる発表でした。

- 道づくりという活動があることを初めて知りました。写真からは本当に険しいところで行う、危険を伴い大変な仕事だということがわかりました。この貴重な体験を、忘れず様々な人に感謝して生きていってほしいなと思います。私自身も改めて様々な人に感謝しなければならないなと感じることができました。

〔教職員の皆様へ〕

- 学有林への具体的な行動提案やSDGsへの関連性の考慮は素晴らしいです。具体的なアクションの提案があることは、アイデアが実現可能であることを示していて良いと思います。また、学校生活に必要なものを製作するアプローチは、地域資源の有効活用とSDGsの目標に貢献する側面があり、非常に賢明な取り組みと感じます。これらのアイデアが実践に繋がり、学校や地域全体にポジティブな影響をもたらすことを期待しています。
- 学有林があることに魅力を感じました。きっと管理など大変だと思いますが、自分たちの山があるということはすごいことで、その特色を生かした実践も行われていて、先生方の実践力のすごさを感じました。学有林があるということは、活動が校内で完結させることもできるのかと思いますが、学校を飛び出し、学びのフィールドを地域へと広げることで、実社会の問題を考えることができるのだと思います。SDGsという抽象的なものを、身近なものとを通して自分事として考えている子どもたちの姿がとても素敵でした。
- 今回の発表を伺う中で、一言に学有林学習といっても林に関する多種多様な学習が行われていることが非常に印象的でした。これまで先生方の異動がありつつも継続されてきた経験による部分も大きいとは思いますが、実際に学有林に入り、自分の目で見て体感する機会があることは生徒の皆さんにとっても貴重な経験なのではないかと思います。また、木材流通センターの見学や学有林の整備など、日々の生活で使用しているものの製造段階や整備の様子について学ぶ機会があることも、発表の中でお話しされていたモノの循環に対する意識がより育まれるきっかけになっているのだろうと感じました。もし機会があるのであれば、先生方が学有林学習に向けてどのような準備をされているのか、どのような願いのもと学有林学習を設定されているのかお伺いしてみたいと思っております。この度はありがとうございました。

【長野県】長野県長野西高等学校 ユネスコスクール委員会

会場⑤-4

活動テーマ SDGs17の目標を高校生の目線で捉え、達成に繋げる

発表概要 SDGsに関する様々な活動を通して全校生徒にSDGsをより身近に感じてもらうとともに、多角的視点からSDGsを達成することを目的として活動をしています。フェアトレードチョコレートの販売を通して、身の回りにあるものの適正価格を知ってもらったり、竹製品の製作・販売を通して、放置竹林問題の解決につなげ、様々な人にふれてもらう機会を作りました。生徒のみならず、地域住民や地元企業との繋がりを得て、SDGsの輪を広げています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名　対象（学年、人数）　長野西高等学校全日制全校　711 名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ　SDGs17 の目標を高校生の目線で捉え、達成につなげる。

(2) 目　標
様々な SDGs に関する活動を通じて、全校の皆さんに SDGs をより身近に感じてもらい、多角的視点から SDGs を達成する。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☐有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
☐その他（　　）
②育成する資質・能力
☑批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☐多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

1 貧困をなくそう　2 飢餓をゼロに　3 すべての人に健康と福祉を　4 質の高い教育をみんなに
11 住み続けられるまちづくりを　12 つくる責任、つかう責任　14 海の豊かさを守ろう

(5) 探究課題・活動実践の概要
①2/14　バレンタイン企画　校内でフェアトレードチョコを販売
②4/19　トルコ、シリア募金　校内と長野駅での募金活動
③5/11　校内で竹紙製のノート、ルーズリーフの販売
④7/2, 3　梶の葉祭で SDGs 展を開催。フェアトレード商品、竹製品などの販売。
フリーマーケット開催。「届けよう、服の力」プロジェクトに参加

3. 流れ（指導計画の概略）
１月　フェアトレードチョコの発注
２月　バレンタイン企画でフェアトレードチョコの販売
５月　企業の方にご協力をいただき、竹紙製のノート、ルーズリーフ、紙袋の製作
７月　地元企業に商品の発注、販売。

4. 効果・反応・所感
様々な活動を通じ、生徒への SDGs の認知度、理解度共に向上させることができた。SDGs に関心のある生徒が増加し、新たな取り組みの度に積極的に参加する姿が見られた。また、生徒だけでなく、地域住民や、地元企業ともつながりが得られ、SDGs の輪が広がった。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
①株式会社アルキャスト
②やわらぎや

感 想

会場⑤-4 【長野県】長野県長野西高等学校 ユネスコスクール委員会 発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- バレンタインデーのフェアトレードチョコを配布する活動など、特別な日に即した活動を思いつき、実践された様子はさすが高校生だなと感じました。フリーマーケット活動も実践されており、SDGsの目標を幅広い手段・方法で達成されていてすごいなと思いました。
- SDGsから、手段を考えるというアイデアはとても良いと思いました。フリーマーケットや服の回収など、地域ぐるみで活動していることも良いと思います。また、これらの活動を通して、生徒に幅広くSDGsのことを知ってもらったということも大きな成果だと思います。
- 自分は去年まで長野西高校に在籍していたのですが、大学に来て西高はSDGsに大きく力を入れている唯一無二の高校であると感じました。フェアトレードチョコレートの企画はフェアトレードのことについて知るとてもいい企画であったと感じています。また、長野駅前などで募金活動を行い、西高のユネスコスクール委員会はSDGsにとても貢献していると思います。今年度の文化祭でも竹でできた紙袋を売ってまわっていて素晴らしいと感じました。ほかにも服の回収などの活動は大きな成果であると思います。これからもSDGsに力を入れて地域に貢献できるように頑張ってください。
- 面白い所に目をつけたと思いました。長野県ならではの着眼点だと思います。今現在の若い人たちは自然というものに対し特別なものであると考える人が多いです。こういった活動を率先して行ってくれることをうれしく思います。
- 行事を利用することでSDGsの活動を広めていくということは、学校内の生徒にとって身近に感じやすく企画としてとても良いアイデアであると感じました。放置竹林問題はノート紙・袋として活用し、実際に学校内でも販売を行ったとのことでした。身近な問題から、ユネスコスクール委員会の皆さんから、学校に発信する姿勢が見えたと感じています。世界的な問題を考えるにあたり、一人一人が自分事化できるような取り組みが大切だと私は考えています。それを実際に実行され、課題解決の取り組みをされた皆さんのアプローチは素晴らしかったです。
- SDGsに関する活動を考えるだけではなく、商品を販売するなど実際に行動に移している点がすごいなと思いました。そして、学校の生徒間だけではなく、地域住民の方々や企業とのつながりを得ながら活動を行うことにより、SDGsの輪を広げることができ、多くの人の意識を変えることにもつながったのではないかと思いました。
- 発表ありがとうございました。高校生となると、学内だけでなく学外に活動を広げ、企業や地域を巻き込んだ活動は大学生にとってもとても感心するものばかりでした。最近では、フェアトレードという言葉は浸透してきていると思います。しかし、現状がどのような改善が行われ、どのような課題が残っているのかが気になります。社会問題の一歩先にあるもう少し深い部分にも踏み込んだ活動をしてみると、さらに学習が深まると思いました。引き続き、活動頑張ってください。
- フェアトレードの視点を取り入れ、服の回収と貧困の国への支援は非常に素晴らしいアプローチです。これにより、社会的な責任を果たすと同時に、SDGsに向けた意識も高まっていることが分かります。循環型経済の促進や地球環境への配慮も考慮されている点が良いですね。持続可能な未来に寄与していくことを期待しています。
- 高校生の視点らしい実践だったと思います。SDGsの取り組みを、全校生徒を巻き込んで行うのはとても意味があると思います。SDGsの達成は少人数だけの取り組みではなりたたないと思います。多くの人を巻き込むことでSDGsが認知され達成に近づくのだと思いました。
- フェアトレード商品の販売や竹製品の制作、服のチカラプロジェクト等、身近な所からSDGsについて広げられたという成果が得られた点が素晴らしいと感じました。今後のより幅広い周知ができるよう課題点を明確にしていたため、これからの活躍も期待しております。
- 「フェアトレード」という単語自体は聞いたことがあっても、どのような行動を取れば良いのか分からず行動に移せない、という方はたくさんいると思います。そんな中、バレンタインデーや文化祭などを活用して、「販売」という具体的な活動をしていて、素晴らしいと思いました。フリーマーケットなども行っているそうですが、さらに活動が広がっていってほしいと思いました。
- SDGsを「高校生の視点から」という皆さんの考え方が、さまざまな問題を他人事ではなく自分のこととして捉えようとしている感じがしていいなと思いました。多岐にわたる活動を通して、SDGsに対してたくさんの入口を作り、より多くの人が興味を持つきっかけづくりができたという成果はとても大きいと思います。私も「こんな取り組みができるんだ、あるんだ！」ととても勉強になりました。

- フェアトレードチョコレートの活動は、私たちにとても身近で参加しやすく、素晴らしい取り組みだと感じました。また、ビニール袋をなくすために竹製品を使ってみたり、フリーマーケットを実施したり、「自分たちにできること」が最大限にできていると思います。皆さんの柔軟な頭を使ってぜひこれからも続けてほしいです。また、この素晴らしい活動は多くの人の心を動かすことができるはずです。ぜひもっといろいろな人に知ってもらえるように工夫してみてほしいと感じます。
- SDGsについて真剣に向き合い、自分たちにできることはなにかを考えて発表をしているのが印象に残った。まずは、問題を知ってもらうことが大事であり、活動を通してその一部を担っているので有用性のある探究であると感じた。

〔教職員の皆様へ〕

- まず、高校にユネスコスクール委員会が設置され、生徒主導でSDGsの達成につなげられるよう活動されていることに衝撃を受けました。企業と協働しての商品開発やフェアトレードチョコレートの販売など、高校生のうちから社会全体に目を向け、ただ学ぶだけでなく実際行動に移して地域の方にも活動を広げていくということはなかなか容易なことではないと思います。しかし長野西高校の皆さんは確固とした信念のもと様々な活動に意欲的に取り組まれており、その姿が全校や地域の方にも伝わっているのだろうと感じました。正直に言えば、高校生の段階でこんなにレベルの高い取り組みをされているのかと驚き、自分の意識の低さを痛感したほどでした。発表では高校生の皆さんが非常に意欲的に、様々試行錯誤しながら活動に取り組まれている様子が伝わってきましたが、先生方がどの程度入られているのかお伺いしてみたいとも思いました。機会があればぜひ、このような生徒の主体性が尊重された活動に取り組まれている高校における先生方の生徒会へのかかわりについて学ばせていただきたいとも思いました。ありがとうございました。

【福井県】大野市阪谷小学校 5･6年生

会場⑥-1

活動テーマ Sakadani Star Point Project（さかだに　スター　ポイント　プロジェクト）

発表概要

阪谷地区の南六呂師が、今年ついに星空の世界遺産である「星空保護区」に認定されました！そこで、過去2年間の星空の学習で得た知識やつながり、たくさんの発信活動で培った技術を生かし、新たな『プロジェクト』を立ち上げました！それは、星空が美しく見える環境を守っていくための取り組みを記した『ポイントカード』！大野市全戸に広げました。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名　対象（学年、人数）　福井県大野市阪谷小学校（第５・６学年、７名）
2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
   (1) 活動テーマ
   Sakadani Star Point Project（さかだに　スター　ポイント　プロジェクト）
   (2) 目　標
   星空の世界遺産に「星空保護区」に認定された地域の小学生として、新たなプロジェクトを立ち上げ、星空が美しく見える環境を守っていくための取り組みをする。
   (3) ESD の視点、育成する資質・能力
   ①構成概念
   ☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
   ☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
   □有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
   □その他（　　）
   ②育成する資質・能力
   □批判的に考える力　☑他者と協力する力
   □未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
   ☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
   □コミュニケーションを行う力
   (4) 関連する SDGs

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
15 陸の豊かさも守ろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

   (5) 探究課題・活動実践の概要
   【探究課題】
   ・星空が美しく見える環境を守っていくために必要な取り組みは何か。
   ・どうしたらみんなにその取り組みを広げられるか、自分たちにできることは何か。
   【活動実践の概要】
   星空が美しく見える環境を守っていくために必要な取り組みを学び、考え、具体的にするといいことを記した「ポイントカード」を作った。また、CM やプレゼン動画を作って発信活動を行い、そのカードを大野市全戸に配布した。
3. 流れ（指導計画の概略）
   年度初めに星空の学習についてやりたいことを話し合い、「さかだにスターポイントプロジェクト」として、プレゼン、CM 作り、大野市のライトダウンへの取り組みの啓発などに取り組むことにした。ライトダウンへの取り組みについては、環境破壊がどのように進んでいるのか環境省の動画視聴で学ぶところから始め、その後自分たちにできる具体的な取り組みは何かを話し合い、ポイントカードを作って一人一人が何をすればいいかを示し、啓発していくことに決めた。カードは、自分たちで作成・実施し、改良しながら 1 年間をかけて校内、地域、大野市全戸へと徐々に広げていった。動画を作り各イベントでプレゼンをしたり、CM を作って PR したりもした。
4. 効果・反応・所感
   環境への取り組みは、効果がすぐに実感できるものではなく、地域でプロジェクトを実施しても浸透せず、前半は「このまま続けていってもいいのだろうか」と悩んだ。しかし、カードを改善しながら発行し、プレゼンを続けていくうちに、徐々に反響があり手ごたえを感じられるようになった。最後には、当初の「大野市全体に広める」という目標を達成するに至った。星空の学習から、環境を守るためにできること

を真剣に考え、広く取り組みを発信できたことは、子ども達の学びや成長、自信につながった。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

校区が「星空保護区」であるという資源を生かして、活動を展開した。この「星空」に関係している大野市の観光交流課、環境・水循環課、地域おこし協力隊、おやっと天文クラブ、星の街観賞会のメンバー、福井県自然保護センター、スターランドさかだになど、各所に連絡を取り、外部機関と関わることで活動を広げ深めることができた。講師として学習に関わってもらったり、プレゼンの機会を提供してもらったり、一緒に企画を立ち上げたり、作ったプレゼン動画やCMをホームページにアップしてもらったりして協力してもらった。

感 想

会場⑥-1 【福井県】大野市阪谷小学校 5･6年生 発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 脱炭素の観点でポイントカードと絡めることができていてとても良いと感じました。全校の生徒の意識の改革ができると思うしそのようなことを行動で示せているというのは素晴らしいと思いました。今後もプロジェクトを頑張ってほしいです。
- 自分たちの住む町の自然環境の特性を活かした発表で、東京出身の私はうらやましく感じました。星空の環境を守る活動、その素晴らしい星空を世間に広げる活動など、さまざまな素晴らしい活動を行っていることが分かった。これからも積極的に活動を行って、地域の人たちに愛されるような小学校になっていってほしい。
- 自分たちの暮らす地域の自慢の星空や環境を守るために、そのことについての課題を詳しく調べ、スターポイントカードを活用したSSPPの活動はとてもいいなと思いました。阪谷のきれいな星空を私も見てみたくなりました。
- アンケートを行い統計的にデータ処理ができていてよかったと思います。集計したデータをもとに、今後どのように発信していくべきかを検討しいくことでより深い学びにつながっていくと思います。これからも、探求しつづけてください応援しています。
- 市役所や周りの人に協力してもらい実際にアンケートを使って調査しているところがとても良いなと思いました。プレゼンテーションの内容も面白い内容で、星に着眼点を置いているところが良いと思いました。これからも色々なことを調べていってください。
- 私はこの発表を聞いて、「星空保護区」という言葉を初めて聞きました。「SSPP」はとてもいいプロジェクトだと思いました！星空が綺麗に見ているための光害対策について「スターポイント」で調べることで、他の人も楽しく協力ができたのだろうなと思いました。私も星空の美しさについてもっと知ろうと思いました。
- 地元の星がとてもきれいに見えるという特徴をきっかけに、環境保全について考えるという取り組みが非常に画期的であると感じました。オリジナルの彩り豊かなポイントカードを作成し、得られたデータをグラフ上にまとめ読み取れる利点や課題を正確に分析できていることが高評価でした。小学生にもかかわらず行動力のある取り組みであったため、感動しました。
- 星空保護区に認定されたことをきっかけに、さらに星空を守っていくための活動を進めていく様子はとても素晴らしいことだと思った。光害対策や脱炭素、星空学びなどの観点に分けそれぞれを小さな項目ごとに分けたポイントカードを配布することで自分たちの学校内だけで活動を終わらせることなく、地域や企業にも活動を広げていくことで周りの人々の意識も変えていこうという意識がとても素晴らしいと感じた。ポイントカードを活用していく中でそれぞれの項目においてどの部分ができていてどの部分ができていないのかが明白になり、そこを補強していくためにはどうすればよいのか見直すとても良い機会になったのではないかと考える。
- まず、阪谷という場所が星空保護区になっているというのを初めて知りました。私は星が大好きなので、ぜひ阪谷へ行きたいと思いました。また、ポイントカードを作り、地域の方と交流しながら取り組みを進めているのが小学生なのに本当にすごいと思ったし、第3弾までやろうとしているというところからとてもやる気が伝わってきました。
- 福井県の大野市が星空保護区であるということを今回の発表を聞いて初めて知りました。星空保護区というものがあることも知らなかったので、とてもいい学びとなりました。地域の人や市役所とも協力して活動している姿はとても積極的に見えました。またCMの作成は私のように星空保護区についての知識がない人たちにとってわかりやすく、有効であると感じました。
- Sakadani Star Point Projectと称し、星空の学習で学んだことなどを活かし、星空保護区である南六呂師の環境を守るために、様々な活動を行っていると感じました。環境を守るということそして、その動機づけ（やる気を引き出すこと）として「ポイントカード」を作り活用するなど、環境を守るために具体的なアクションを考え、実際に実行に移している点が素晴らしいと感じました。阪谷小学校のみなさの発表を聞き実際に大野市へ観光に行ってみたいと思いました。ぜひこれからも、すてきな星空保護区を守るために活動を続けて行ってください。応援しています！
- 星空を守る活動の要点をまとめたカードは手軽なので、一般の方に関心を持ってもらいやすい点でとても良い案だと思いました。ポイントカードをたくさん配布できたことも素晴らしいと感じましたが、配布数に対しての回収数が少ないことが目立っていました。100％とまでは行かなくても、もっと回収率を高めるためにはどうしたら良いかを考えてみると良いでしょう。

- 「星空保護区」という地域の特徴から学習を広げていて面白いと思いました。何度もポイントカードを改良し、たくさんの人に実施したことで様々な調査結果を得られていて、それをその後の活動に活かしていく姿勢に感心しました。
- スライドを上手に使いながらとてもわかりやすい発表になっていてすごいと思いました。わかりやすいスライドであったため、伝えたいことや大切なことがよく伝わってきました。また、自分たちで作ったCMも完成度が高くびっくりしました。地域の人とも協力しつつキレイな星空をこれからも守っていけるようがんばってください。長野県から応援しています。
- 自分の地元の誇るべき星空についてたくさん発信し、星空を守るプロジェクトをすすめているのはとても重要で大切だと感じた。発表の最初に地域の星空がどれだけすごいか話しており、その話を聞いて星空の魅力が伝わってきた。発表するにあたり、完璧な導入だった。
- 動画がわかりやすかったため、どれほど動画作成に工夫を重ねたのだろうと努力が目に見えるようでした。動画という手段での発表、そして英語でのセリフも交えていることに感心しました。英語を話すことはもちろん、英語で話すことでより多くの人に魅力を伝えられるということがよくわかりました。今後もさまざまな手段を考え活動してください。
- 自分たちの地域の素晴らしい魅力を絶やさないよう、ポイントカードという柔軟なアイデアから取り組みをしていて、地域貢献の大切さやみなさんの地域愛が伝わってきました。今までの学習の集大成として実りある活動になっていたのではないでしょうか。問題解決のために大変だったこと、よい経験になったことをぜひ今後の活躍にも活かしていってください！聞きやすく、わかりやすい発表でした。応援しています！

【長野県】山ノ内町立東小学校 6年生

会場⑥-2

活動テーマ 山ノ内町の魅力を調べ、発信しよう

発表概要 住んでいるからこそ知っている山ノ内町の魅力と、当たり前になりすぎて気づいていない魅力があると考え、県外や海外の観光客の方へ「YOUは何しに山ノ内へ」と題したインタビューをしました。英語で質問するのは難しかったですが、慣れてくると英語で話すことが楽しくなってきました。インタビューしたことを生かして作成したパンフレットを湯田中駅前で配布したり、観光案内所に置かせていただいたりし、山ノ内町の魅力をPRしました。

感　想

会場⑥-2　【長野県】山ノ内町立東小学校 6年生　発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 日本語でしゃべった後に英語で話しているのを聞いて、たくさん練習したのだなと思いました。日本語の方も英語の方もはきはきとしゃべれていました。1枚のスライドの中にある文字数が少なく抑えられていたので、見やすい資料になっていました。
- 自分たちの暮らす山ノ内町の魅力を広めようというテーマが素晴らしいなと思いました。観光客がどんな目的で街を訪れているのか実際に外国の方など様々な人にインタビューしているのがとても面白く、良い発表だったと思います。また英語を使って頑張って発表していてすごかったです。
- 自分たちの住んでいる地域をテーマにして知らないことを知ろうとする姿が良いと思いました。実際に観光客にインタビューをして調査した点が良いと思いました。また、自分たちが学んだ英語を使って外国人とコミュニケーションを取っていてすごいなと思いました。
- 自分たちの住んでいる地域に目を向け、実際にインタビューに出かけたりして魅力を探しているのがいいなと思いました。また、パンフレットを作るというのもいいアイデアだと思いました。山ノ内町の魅力がこの発表を通してたくさん伝わってきたので、いつか行ってみたいです。
- 英語での発表はグローバルで素晴らしいです。自分たちの活動から課題を見つけ、新たな活動にするところが、主体性が感じられ素晴らしいと思います。海外の人へ意見を聞くことは良い影響を考えるのに重要な要素の一つだと思います。もっと聴けるとよいですね。
- これまでの活動的実践を踏まえて、地元の魅力を発信していくという姿勢が素晴らしいと感じました。「地元にとって何ができるか」という視点のもと、他者に魅力を伝達していくとともに、自分たちがまだ気づけていない魅力を学び取るという一連の活動が素晴らしいと感じました。観光客の視点に立って魅力を考えるというのは、視野を広げるという意味においても非常に効果的であると感じました。実際に観光客の方にインタビューをしてみるというのは、とても緊張したと思いますし苦戦もしたと思います。この活動をするために、様々な試行錯誤・苦労があったのだろうと推測しました。英語での活動と日本語での活動を組み合わせたとてもハイレベルな活動と発表であったと感じました。
- 私も大学の研究で外国人の観光客の方にアンケートをとる活動をしていたことがあり、皆さんが積極的に外国の方に話かける姿を見て、素晴らしい行動力だなと感じました。ただインタビューして終わるのではなく、今後どんなところをアピールしていくかという課題を設定し、課題解決に向けてパンフレットづくりを行うという活動の一連の流れができている点が非常に良かったと思います。
- 山ノ内町の良さや自然の良さを伝えるため様々な体験を行い、山ノ内町のためにできることを考えていくという題材はとても良いものだと感じた。自分たちが感じている魅力をもとに、観光客の人々が何を求めてきているのかを直接のインタビューを通してまとめている様子はとても勇気のあることだと思ったし、実際に学んだ英語を使える機会があったことはとても良いことだと思った。海外の方々の声はもちろん日本人にもインタビューすることで2つの視点から見ていることはとても良いことだと思った。自分たちから見る良さだけでなく外からの視点で自分の住む町を見ることで気づかなかったことに気づき、さらなる良さを発見できるこの探究活動はとても興味深いものだと感じた。英語を使って海外の方と交流することの楽しさを知れたという声は実際に英語教育に携わろうとする者としてとてもうれしい声だった。
- 地元の魅力について多くの人に知ってもらうための様々な工夫を感じられた。自分たちの思う地元の良さと観光客の人々が思う山ノ内の良さを比較して違いを比べるのは面白いと思った。例えば観光客の人は紅葉やお米などに関心を持っていたが、山ノ内東小学校の生徒からはそのような要素が出ていなかったため、住んでいると

分かりにくいような地域の魅力について知る良い機会になったと思う。また、外国人にインタビューをする際に相手の失礼にならないように会話英語が間違っていないか入念に確認している点が好印象だった。学校から飛び出して、実践的かつ経験的な学びを得られる活動に積極的に取り組んでいて良いと思った。

- 外国の子どもたちにも伝わるように英語で発表していたことや、外国から来た観光客の方に英語でインタビューしていたところを見て、英語の勉強をたくさん頑張っているんだなあと、とても感動しました。また、住んでいるからこそ気づかない町の魅力に目を向けるのはとても良いことだと思いました。私はよく自分の地元には何もないと言ってしまうけれど、気づいていない魅力を探してみようと思いました。
- 習った英語を実際にインタビューやパンフレットづくりに積極的に生かしていることに感心しました。今回のインタビューで市民ではなく観光客の視点を取り入れたように、他者からの意見を参考にすることはとても大切だと思いました。これからも自分たちのアイデアと他者の意見を取り入れながら活動を広げてほしいです。
- リンゴ栽培体験など、地域の体験的な活動をしていることは、地域産業の発展にもつながるため、とても大切な活動だと思いました。確かに、このような活動をしなくては自分が住んでいる街の魅力にも気が付きにくく、人に紹介するのも難しいと思いました。実際にインタビューをするなど、行動に移せていることがいいなと思いました。
- 日本語と英語での発表があり、とても良いと思いました。カンボジアの生徒も発表を理解しやすかったのではないかと思いました。とてもグローバルな活動となっており、英語を駆使しながら、自分たちの力で言葉の壁を乗り越え、山ノ内町の良さを見つけ出していたことが良いと思います。また、外国人観光客だけでなく日本人観光客からの意見も取り入れていたことが良かったし、それら二つをまとめた考察を行っていることが良かったです。ソラテラスに一度行ったことがありますが、とても素敵な場所でした。温泉や山などもとても素敵な場所だと分かりました。ぜひまた行ってみたいです。
- 私は大学で英語教育を勉強しています。皆さんが頑張って英語を話している姿は本当にかっこよかったです！「youは何しに山ノ内町へ？」という発想は面白いですね(笑)。積極的にインタビューを行ってそこから得られた情報で考察を行う姿はこれからの皆さんの勉強に活かせると思います。発表ありがとうございました。
- この発表を通して山ノ内町の特徴を詳しく知り、山ノ内町の魅力を感じることができました。自分たちが調べた内容を上手くまとめ、パンフレットを作成したことによって地元にも大きく役立ち、とても素晴らしい活動だと思いました。
- 自分の地域の気づいていなかった魅力を見つけることはとても教育的なメリットがあると思った。それは地域誇りとアイデンティティの形成にある。 自分の地域に対する魅力や価値を発見することで、地域誇りやアイデンティティを構築することができる。地域の文化や歴史、特産品、自然環境などを知ることによって、地域への愛着や関心が深まる。とても良い研究だと思った。
- 「山ノ内町の魅力を調べ、発信しよう」というテーマのもと魅力についてよく調べられていたと思います。魅力として観光、農作物、住みやすさをあげてすべてに例があったので出身ではない人にも伝わりやすくとても発表が聞きやすかった。
- スノーモンキー、温泉、澄んだ水、自然が有名であることがよくわかりました。実際に行ったインタビューとその成果の発表が的確でわかりやすく、山ノ内町の魅力がしっかりと伝わってきました。また、インタビューでは日本以外の出身の方にも行っており、多様な人の意見を取り入れる点でインタビュー結果がより豊かで正確になると感じました。この活動に自信を持ち、今後も自ら行動する姿勢でがんばってください。
- 山ノ内町に暮らすみなさんから見た山ノ内町の魅力だけでなく、観光客から見た魅力について知るために、自分たちの足でインタビューをしに行っていた点が素晴らしいとおもいました。インタビューに協力してくださった方々にも感謝ですね。取材を通して自分たちのPRしたいことがより明確になり、パンフレット作りに良い影響をもたらしたのではないでしょうか。これからも山ノ内町の魅力を発信できる存在として活躍されることを応援しております。

【福島県】只見町立只見中学校 SDGs委員会・生徒会

会場⑥-3

活動テーマ 地域と取り組む海を守る活動と持続可能な社会の実現のために私たちができること

発表概要 海を守る取組として、プラスチックの利用抑制活動「PET FREE MONDAY」を行っています。この活動を数年前から継続・発展させることで地域、そして地球を守る活動につなげています。また、県内のイベントで新聞バッグ制作の講習を行うなどして、制作方法の普及を実践しています。さらに、貧困地域の子どもたちのために子ども服を回収するプロジェクトに参加するなど、身近な地域のことだけでなく世界に目を向けた取組も行っています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名　対象（学年、人数）
只見町立只見中学校　（全校生徒　77 名）

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ
地域と共に海を守り、持続可能な社会の実現のために私たちができること。
目　標
俯瞰的に物事を捉え、自ら意欲的に探究する心を育てる。

(2) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
□多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
□有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
□未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(3) 関連する SDGs

3 すべての人に健康と福祉を　13 気候変動に具体的な対策を　14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう　17 パートナーシップで目標を達成しよう

(4) 探究課題・活動実践の概要
本校では、地域と共に学ぶ生徒の育成を念頭におき、ESD を行っている。総合的な学習を軸として教科等横断的な取組をしている。具体的には、生徒が新聞紙レジ袋や米袋をつくり、地域で利用していただいている。また、ペットボトルの利用を控える呼びかけを行っている。これらの活動については地域に協力していただいているが、地域にとっても中学生が大きな役割を担っているという認識につながり生徒たちの取組に対する理解が広がっている。特にマイクロプラスチック削減のためにプラスチックの利用について上流に住む私たちが留意することで、海の環境をよくしようとする意識が地域でも見られるようになってきた。
さらに、生徒会では募金活動や子供服の寄付など世界問題についても考え自分たちができる取組を実践することで、広い視野をもち多面的・総合的に考える力の育成を図っている。

3. 流れ（指導計画の概略）
活動の中心は生徒会専門委員会のＳＤＧs 委員会（1～3 年生　10 名）が行っている。
★地域とともに山あいから海を守る活動★
①　新聞紙、米袋再利用によるレジ袋
地域企業（奥会津蒸留所：ねっか、ヤマザキショップ只見松屋店、あいあい薬局等）のレジ袋（ねっかは米袋の再利用、その他は新聞紙の再利用）を作製している。活動としては、利用してもらっている店舗の在庫確認、地域内外への発信として様々なイベントでの新聞紙レジ袋作製教室を行っている。

② PET free Monday（ペットフリーマンデー）の実施
中学校に通う生徒及び教職員の家庭で、月曜日にはペットボトル飲料を控える活動をしている。また、その啓蒙活動をおこなっている。

③ 活動発信
①②のみならず、地域とともに行っている活動を大学や研究発表会に積極的に参加している。

4. 効果・反応・所感
この活動を数年前から継続・発展させることで地域、そして地球を守る活動につなげている。また、地域内外のイベントに赴き、新聞バッグ作製の講習を行うなどして、作製方法の普及を実践している。なお、貧困地域の子どもたちのために子ども服を回収するプロジェクトに参加するなど、身近な地域のことだけでなく世界に目を向け多面的・多角的に物事を見て考える力の育成を図っている。
今後の課題としては全ての活動において意識が高い生徒とそうでない生徒がいることである。自分たちの活動により、誇りと責任をもち、問題を自分事として捉えることができるような取組の改善をしていくことが必要であると感じる。さらに、地域への発信も含めて地域の人との交流の場や活動についての情報発信の手段を考え、実践してくことが今後の課題である。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
昨年、教育委員会と地域の企業が ESD パートナーシップ連携協定を結んでいる。これらの企業とどのようなことができるかを探っていきたい。また、これを他の地域の模範となるように研究を進めていきたい。さらに、学校と地域の結びつきを強固なものとするために、協力することができるように情報発信を含めて体制づくりを進める必要がある。

感 想

会場⑥-3 【福島県】只見町立只見中学校 SDGs委員会・生徒会 発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- SDGs委員会という委員会があることに驚いた。その活動内容もSDGsについてよく考えられた実践的な活動が行われていて、素晴らしい活動をしていることが分かりました。また、パワーポイントを用いての質の高く、グラフなども見やすく載っていたり様々なデータを用いての発表で、とても分かりやすかったです。大学に入ったら、このような発表を死ぬほどやらされるので、中学生の段階で、これだけのものを完成させられる皆さんは、大学に入っても苦労しないと思います。
- 只見町とSDGsについて、只見町のプラスチックごみや環境問題についてよく調べてられた発表だったと思います。一人当たりのペットボトルの消費量の結果を見て、自分は多くのペットボトルを消費しているので、できるだけマイボトルを持ち歩いたり、リサイクルを意識付けたりして、環境を意識して生活したいと思いました。
- 自分たちの身近にあるSDGsに目を向け活動を行っていて素晴らしいと思います。身近な問題を解決するために考え行動することはとても大切な事であると思います。また、生徒だけでなくその家族や地域の人々にも活動の輪を広げている点が印象的でした。
- 海について、小学校からの知識を使いながら学んでいくことはとてもいいと感じました。ペットボトルに注目することで、地球に及ぼす影響の大きさを知ることができ、とても良い着眼点だと思いました。ペットボトルの利用を減らすための対策を考えていていいと思いました。
- 海に面していない地域に住んでいるのに、海に対して意識を向けた活動を行っていることに感心しました。発表を通してSDGs達成に向けての活動の努力が伝わってきました。ペットボトルの使用量を減らすことは私にも実践できることだと思ったので取り組んでいきたいです。
- 地域と離れた存在である「海」に興味関心を持ち、自分たちから視野を広げようとする姿勢が素晴らしいと感じました。スライドの中にSDGsの目標を挿入してあるという工夫が、理解の助けとなっていたと感じ、非常に良いスライドであると感じました。一人当たりのペットボトルの年間利用量に注目し、身近なものが環境変化に影響を及ぼすということを体感させることで自分たちができることを提案する一連の過程が、説得力・根拠があり非常に優れていると感じました。自分たちの活動に責任を持ち、ユニクロのプロジェクトをはじめ様々な活動に積極的に参加し、国際問題を視野に入れて活動を進めていくという姿勢に非常に感動しました。
- 中学生らしい問題への探究的な解決方法の模索や、非常に発信的且つ実践的な活動が印象的だった。自分たちや自分たちの住む地域の海洋プラスチックに対する責任についてよく考えて、今後もより良い環境づくりのために活動を続けて言って欲しい。
- 只見中学校の皆さん、発表ありがとうございました。私の出身が皆さんの町と同じく、海につながる川の上流にあたる地域にあり、「川の上流の町として、環境を整える責任がある」という言葉がとても響きました。私自身ゴミの分別やリサイクルなどにあまり目を向けられていないという意識があり、改めて、将来の環境のために小さなことからでもしっかりとできるようにしていかなければならないなと感じました。
- 海浜に行きごみ拾いを行うなど環境を守っていくための活動を行っている。只見市は水の都であり、その自然を守っていくために様々な活動を行っている様子はとても素晴らしいものだと思った。異常気象やプラスチックごみの増加など大きな問題となっている問題に着目していることで社会全体への意識変化を訴えかけるきっかけになるのではないかと思った。ペットボトルを買う日を制限することで販売者にも消費者にも無理のない範囲で制限することができ、全体としてはペットボトルの使用量を減らすことにつながるという社会全体に目をむけていることはとても素晴らしいと感じた。着なくなった服の回収や貧困地域へ届けるなどは自身が力になっていると感じやすい活動を行うことで周りの人々も巻き込んでいることはとても良いことだと思う。
- 「PET free Monday」は興味深い取り組みだと思いました。プラスチックごみの量を減らすことで、少なからず地球温暖化を防ぐことができると思います。
- 小学校の頃から環境に対して意識しながら生活してきたことに感心しました。またプラスチックの使用量を減らすという課題に対して、自分たちだけでなく家族や全校生徒、地域内外の方に多く広めている点が特に良いと思いました。より広く拡大した活動になることを応援しています。
- 発表を通して、ゴミの問題について真剣に取り組んでいることが伝わってきた。具体的には、自分たちで新聞バッグを作ることで多くの人々にゴミの削減に対する意識を高く持ってもらおうという工夫が感じられた。また、積雪量の減少やペットボトルの消費量についての客観的なデータを基にして自分たちの考えをまとめ、理想を実

現するための計画を考えている点から効果的な探求的な学びを実施していることが分かり、素晴らしいと思った。

- 1人当たりが一年で使用している本数の目安を見たとき、こんなに使っているのかと驚きました。ひとり暮らしを始めてから、自由に買い食いできるようになって明らかに実家暮らしの時よりもペットボトル飲料を買うことが増えてきたので、環境・節約のためにも安易に買うのは、やめようと思いました。
- 海がないからといって関係がないのではなく、海につながる上流にあるという関係性だと意識できていることが素晴らしいと思いました。PET free Monday という独自の活動を地域に広めていることを知り、社会を巻き込んで活動する影響力の大きさを知りました。SDGs17の目標を意識してこれからも頑張ってください。
- スライドを上手に使いながらとてもわかりやすい発表になっていてすごいと思いました。発表の中で出てきた新聞バック、服の力プロジェクトのアイデアはすごいなと思いました。新聞バックでは作るだけでなく、地域のお店でも実際に使われているのを聞いて更にびっくりしました。また、服の力プロジェクトでは自分たちにできることから実践することができていてすごいと思いました。ぜひ、これからも自分たちの地域を盛り上げていってくださいね。
- データを適切に活用し、問題点を分析、解決に向かおうとする姿勢が素晴らしいと思った。月曜日にペットボトルを買わないとすることの理由やその実施も確実におこなうことができていた。合言葉も良かった。学校全体や学校外で取り組む姿勢も良いと思った。自分たちでできる限りのことをおこなっていて良かった。
- 年間で191本ものペットボトルを消費していることに驚きました。自分の身近な問題だからこそ入って行きやすい問題であると感じました。合言葉の中に少し笑いを入れることで、少しの違いかもしれないがそれだけでもほかの人が入りやすい工夫、覚えてもらえるような工夫がとっても良かったと思います。
- 福島県には何度か行ったことがあるが、只見町という地名は初めて聞いた。水というのは、普段当たり前のように使っているが、重要かつ貴重な資源の1つである。降雪量の変化を全て地球温暖化が原因とせず、他の可能性を考えられている様子からさすが中学生だと感じました。プラスチックの消費を減らすために、ペットボトルの利用を減らそうという課題から、マグネットを作成するという問題解決の過程を経て、問題解決能力が大きく身についたと思います。私も、普段はなるべく水筒を使うように心がけています。一緒に出来る事をかんばっていきましょう。
- 合い言葉があると忘れずにいれるし、ペットボトルを買おうと思ったときに踏みとどまるきっかけになると思いました。ただ環境に優しいだけでなく、実用的であることで実際に広まっていくことに繋がっているのだと思います。
- 地球温暖化が只見町における積雪量減少の一要因になっているのではないかという仮説のもと、地球温暖化防止策としてペットボトルの使用量を減らす活動をしていましたね。いきなりゼロにしようとするのではなく、週に1回ペットボトルを使わない日を設けたところが面白いと思いました。それくらいなら私もできそうという気持ちになります。環境保全に関する取り組みはいたるところで行われていますが、ハードルが高いのが課題だと思っています。これからも継続可能な、持続可能な環境保全活動を提案していってほしいです。

【長野県】信州大学教育学部附属松本中学校 1年生

会場⑥-4

活動テーマ 地域と世界を繋ぐ　～協力･絆･個性･環境～

発表概要 附属松本中学校1年B組では､｢協力･絆･個性･環境｣を総合的な学習の時間の理念として､8グループに分かれて活動しています｡そのうち世界グループでは､世界の人々と繋がることを目的として､フェアトレードに注目をして調べたり実際にお店に行って買ったりして学んできました｡また､環境グループでは､フードロスを減らすことを目的として､フードバンクに関わる人から話を聞いて私たちにできることを考えてきました｡

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1. 学校名　対象（学年、人数）
信州大学教育学部附属松本中学校　1 年生 生徒４０名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ
地域と世界と繋ぐ　～協力・絆・個性・環境～

(2) 目　標
身近な地域の特色や魅力，世界の現状について調べたり，ひとと交流したりすることを通して，地域や世界の課題に対して自分たちにできることを考え，社会の創造に向けて行動していく。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　□責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
□批判的に考える力　☑他者と協力する力
□未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
□コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

2 飢餓をゼロに
12 つくる責任、つかう責任
16 平和と公正をすべての人に

(5) 探究課題・活動実践の概要
フェアトレードチョコレートやフードロス，地域の特産品に着目した「国際理解・町づくり」の実践

3. 流れ（指導計画の概略）
①３年間の総合的な学習における理念（大切にしたいこと）を決定する。
「協力」「絆」「個性」「環境」に決定する。３年間の総合的な学習において，友と協力し，個性を発揮させながら，環境について考え広げていく時間にしたいと願いをもつ。
②夏休み中に自分の興味のあることを実際に活動してみて、クラスに伝える。
③実際に行った活動の共通点をもとに分類し，グループを決めだし活動を行う。
「世界・環境・ボランティア・松本漆器・飴・りんご・ネクタリン」の８つのグループに決定する。
④グループに分かれて行ってきた活動や実践を，プレゼンし合い共有する。

4. 効果・反応・所感
本校では，「自らの内に問いを立て，主体的に探究していく総合的な学習の時間」をテーマに学習を行っている。１学年では９月に行われた志賀高原体験学習において，ユネスコエコパークやＳＤＧｓに関する学習を行ってきた。また，社会科の学習において，世界の国々についての学習を行った。その結果，環境や世界に関する興味や関心をもち，夏休みの実践では，フードロスや世界の文化，フェアトレードなどに関する活動が多かった。そこから，世界グループでは，フェアトレード商品に関心をもち，実際に売られている百貨店に行き値段の高さや品揃えの少なさを実感したり，フェアトレ

ードチョコレートを使った世界のお菓子作りを行ったりした。環境グループでは，家庭から出る食品の多くがフードロスにつながっていることに関心をもち，市役所の方やフードバンク信州の方を学校へ招き，フードロスの現状や中学生ができることについてお話を聞いた。１年間の活動を行ってきた２つのグループの生徒の感想を以下に紹介する。

＜世界グループ＞
フェアトレード商品と普通の商品の違いを調べたり，お店での取り組みを知ったりなど，フェアトレードについての活動を頑張った。普通のチョコレートでは，値段や書き方，置き場所などと違うことがたくさんあった。百貨店では，他に回ったスーパーやコンビニよりも多くの種類がゴールデンゾーンに注目する商品としてフェアトレードチョコレートが置いてあった。来年はもっと踏み込んで，チョコレート以外の商品を調べたり，産地の人はどのようなことを思っているか，どんな生活をしているのかも調べたり知ったりしてみたい。

＜環境グループ＞
環境グループは他のグループと比べ学校外に出て活動することはなかったけれど，フードバンク信州さんとお話させていただいて成長することができたと思う。フードバンク信州さんのお話をお聞きして，自分が思っているよりも環境問題のことを考えた活動がたくさんあって，自分が感じているよりも環境問題のことを考えていなかったことがわかった。正直すごくショックだったけれどロで言うだけで自分は地球によいことをしっかりできていなかったと反省することができたからよかったし，そのおかげで環境問題のための活動を知ることができて自分達がこれからどんな活動をすればよいかも明確にできたと思うから成長できたと思う。

今後は，自分たちで活動を決めだし，活動の魅力を共有し合いながら，生徒の思いや願いを尊重して来年度の方向性を吟味することを大切にしていきたい。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
①フェアトレードチョコレート，防災パン
②フェアトレードチョコレートを販売している百貨店，フードバンク信州の方々

感 想

会場⑥-4 【長野県】信州大学教育学部附属松本中学校 1年生 発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- フェアトレードについて調べ、しっかりとまとめ、さらに自分たちで実際にフェアトレードチョコレートを探しに行く、という実践的で効率的な活動で、素晴らしいと思った。さらに、アンケートなどもとって、世間からの認識についても調べていた。様々な視点からフェアトレードについて調べていて、素晴らしいと思った。一つのテーマから、様々な方向に話題を広げていっていることが素晴らしいと思った。
- 誰にでもわかるようにフェアトレードの仕組みについての説明をした点が良いと思った。また、そこからアンケートを行い、フェアトレードの知名度や利用率まで調べているところも良いと思いました。日本だけにとどまることなく、世界にまで目線を置いている点がとても良いと思いました。
- グループにそれぞれしっかりとした目的があり、その目標に向かって探究しているということがとてもよく伝わっていいと思いました。フェアトレードについて調べるため、自分たちで出歩いて結果をまとめていたり、食品ロスについてのアンケートをとったりと、探究のための努力がとても素晴らしいと思いました。
- 英語での発表、パワーポイントの英語字幕のような国際的に情報発信する工夫が見られました。英語の発音がとてもきれいできっとたくさん練習されたのだろうな、と尊敬の念が沸きました。フェアトレードの商品についてスーパーの売り場に実際に行ってみるといった調べ方も積極的だと思いました。サバイバルパンのような保存食をフードバンクに提供してフードロスを解決していることは知りませんでした。
- 近年のさまざまな影響で、農業を行うための資源や道具などの値段がどんどん上がり、農家さんたちが困っているという話題をよく耳にします。安いものに目がいってしまうのは仕方のないことではありますが、日本の将来の農産業や食生活を守るためにも、人々がフェアトレードについて理解し、食材を提供してくださる農家の方々のために協力できることをしていく意識が必要であると感じました。
- 世界との関わりに焦点を当て、フェアトレードの観点から考えていることはとても自分事としてとらえやすいと感じた。町中でよく聞く言葉である一方実際に意識して製品を購入している人は少ないためこの発表をもっと広い範囲に発表することでさらに多くの人がフェアトレード商品を買うことへの抵抗がなくなるのではないかと考える。またフードバンクの取り組みについては自身が捨ててしまっている食料について改めて考える機会となりとても良いものだと思った。保存食の利点であり難点である部分をフードバンクへの寄付などによって補うことがとても大きな一歩になると感じた。
- 地球温暖化や食品ロスなどの環境問題に着目をし、実際に調査を行ったり、フードバンク信州さんと話し合いを行うなどし、食品ロスを減らすために精力的に活動されていると感じました。食べることのない食品を寄付するなど、小さな意識から食品ロスは減らしていけるのではないかと感じました。ぜひ、これからも素敵な活動を続けて行ってください！
- フェアトレードやフードロスについて深く考えている姿がとても素敵でした。私は飲食店でアルバイトをしたことがあるのですが、完食せずに帰ってしまうお客さんが多くて、食べ物を捨ててしまうことが多いです。皆さんのフードバンクのお話を聞いて、少しでも多くの企業や家庭にフードバンクのことが広まればいいなと思いました。これからもフードロスを少しでもなくそうという気持ちを忘れずに頑張ってください。
- 環境問題について、人々の関心や社会での取り組みが良く調査されていると感じました。特に食品ロスについては、廃棄される保存食を食品バンクに寄付するという思い付きが素晴らしいと思います。フードロスに対する取り組みの普及や意識の向上に向けてさらに活動を深めていってほしいです。
- フードバンク信州さんのお話で、フードロスにつながる食品を回収する活動があることを初めて知りました。また、世界のお菓子を作ることで、ボーダーレスにもつながっていくと思いました。これからの活動を応援しています。
- スライドを上手に使いながらとてもわかりやすい発表になっていてすごいと思いました。自分たちで発表内容を英訳し、とても上手な英語で発表できていて凄いなと思いました。発表の中で出てきたアンケートは内容が面白く、また結果も上手にまとめられていて、活動を伝えるうえでとても効果的な役割を果たせていました。そして、自分たちで課題を見つけてそれに対する解決策も調べることができていてすごいと思いました。ぜひ、これからも勉強を進め様々な問題について考えていってください。
- フェアトレードは近年注目され始めている概念で、テーマとして扱って活動できたことは素晴らしいことだと思います。世界のお菓子作りも独創的で興味深い活動です。環境グループの発表では「保存食が食品ロスにつながる」という情報は知りませんでした。「自分でテーマを見つけ学習し実験し、振り返る」という姿勢は生きる上

で大切なスキルだと思います。それが出来ている皆さんは素晴らしい！

- フェアトレードを学ぶ上でのメリットをとても実感できた。最初のお話であったようなグローバル的な視野に着目しているようにフェアトレードからはグローバルな視野の形成が養えると思ったらフェアトレードは、開発途上国の農産物や手工芸品の生産者への公正な取引を促し、彼らの福祉や持続可能な開発に寄与することを目指している。フェアトレードを学ぶことで、学習者はグローバルな視野を持つことができる。異なる文化や経済状況について理解し、共感することができる。フェアトレードを学ぶ有用性を理解することができた。
- 環境グループは、様々な教科とも関わってくるため難しいもが多い。私が働く結婚式場では、多くの食品ロスがあります。残された料理を捨てる度にもったいないなと感じています。学校や家庭での取り組みでは、意識が重要だと思いました。そう意識付けをするか、モチベーションを保つかが重要だと思いました。意識高く目的をもって取り組みを続けていくことは難しいですが、ぜひ頑張ってほしいです。
- 世界をお菓子の観点から見つめ、フェアトレード商品や日本以外の国のお菓子について探究していましたね。私は高校生のときエシカルフェスというイベントでフェアトレード商品を販売したことがあります。値段が高いため購入されにくいことや、環境や人にやさしい取り組みに偏見を持つ人が毛嫌いすることが課題として残りました。わざわざ特別なことを主張しなくても、売り手と買い手が平等である社会、世界の文化が尊重される世の中になればいいなと思います。これからも世界とのつながりの大切さやアンケートで明らかになったことをもとに、活動をつづけてください。応援しております。保存食の期限切れや季節商品の売れ残りが食品ロスにつながっていることに驚きました。自分が買った食品をむだにしないことはもちろんのこと、食品ロスを減らすための取り組みをしている団体を応援することも大切なことだと学びました。

【長野県】長野市立信里小学校 3･4年生

会場⑦-1

活動テーマ 里山の生き物たち～シナイモツゴから学んだこと～

発表概要 信里には、里山の重要な景観であるため池がたくさんあります。そのため池に絶滅危惧種に指定されている魚『シナイモツゴ』が生息しています。3･4年生がこの1年間シナイモツゴと関わりながら発見したことや感じたことをまとめました。里山のよさを知り、学校目標『信里を語れる子ども』の素地を作る活動です。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和５年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

１．学校名

長野県長野市立信里小学校　３・４学年　１２名

２．探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

（1）活動名　里山の恵み～シナイモツゴから学んだこと～

（2）目　標

・信里に生息する生き物との日常のふれあいを通して、自然の豊かさを体感する。
・シナイモツゴ学習を通して、シナイモツゴが生息するにはため池が必要であることを知る。
・教室の水槽でシナイモツゴを育てることで、身近な存在として関わっていく。

（３）ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☐公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☐有限性（限りがある）　☐責任制（責任を持って）
☐その他（　　）

②育成する資質・能力

☐批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

（４）関連する SDGs

6 安全な水とトイレを世界中に
15 陸の豊かさも守ろう

（5）探求課題・活動実践の概要（指導計画の概略含む）

①シナイモツゴはなぜ絶滅危惧種になったのだろう。
（信州大学の先生や５・６年生に聞く）
・外来種のモツゴの繁殖力が強く東日本に広がる。
・鯉やフナなどと一緒に池にモツゴが放流された。

②信里のため池にシナイモツゴがいる理由を調べよう
・ため池に行き、池の環境を調べる。
・他の生物との関係に気がつく。水草やプランクトン。
・池のどんな場所でシナイモツゴが取れるのか。

③ため池の環境よるシナイモツゴの様子を調べよう。
・ため池のある場所によって、大きさや色が違う。
・寄生虫のつきやすい池があるのは、なぜだろう・

④　シナイモツゴを飼って育てよう。
・ため池の水や水草をとってきて環境を整えよう。
・水質の管理やえさのあげ方を考えよう。
・信里にシナイモツゴが住み続けるために自分たちができることを考えよう。

３．効果・反応・所感

３・４年生の子どもたちは里山の生き物に興味を持っている。そして絶滅危惧種のシナイモツゴが信里の池にいることは、貴重な信里の財産であることを実感している。自分たちの身近な生き物について考えることで、里山の森、ため池の保全の大切さを学んでいる。また、本年度は池に集まる生き物たちの関係にまで関心を持てた。そして信里には多くのため池や森があり、この環境を守るために自分ができることは何だろうと次の一歩を踏み出そうとしている。これらの体験を通して学校目標『信里を語れる子ども』の素地を作る活動ができている。

４．指導方法・体制の工夫（協力者や資源）
【資源】　信里小学校周辺の田畑・ため池・森林
【協力者】トンボ学習　小林友広先生（千曲市在住）
シナイモツゴ学習　中野繭先生（信州大学）

感 想

会場⑦-1 【長野県】長野市立信里小学校 3･4年生 発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- シナイモツゴの観察や飼育を通して、信里の環境について考えたり、絶滅危惧種を守るためにどうしたらよいか考えたりしていて、地域のための活動をしていることがよくわかった。また、飼育を通して命についても考えている場面があり、素敵な活動だなと感じた。
- はじめて飼ったシナイモツゴが死んでしまったときに、理由を考えたり、もっと自分たちができたことは無かったのか考えたりと、シナイモツゴの死としっかり向き合っていて感銘を受けました。また、シナイモツゴを守るために自分たちができることを具体的に考えられていて、探究の成果が出でいて素晴らしいと思いました。
- シナイモツゴの生態や生息環境をよく観察しながら、活動していたのがよくわかりました。活動の中で、調査、計画、実践、評価、改善のR-PDCAサイクルがみられました。小学生とは思えない内容のある発表だったと思います
- 長野県の膨大な自然、信里の里山を生かして行う活動はとても素晴らしいものだと思います。花、リンゴ、トンボなどをはじめとした絶滅危惧種シナイモツゴについてとても詳しく学ばれていてすごいと思いました。またシナイモツゴに対する思いを歌や詩にするなど、とても伝わってきました。なぜ？という疑問をきっかけに歴史を振り返ったりしていてとても実践的な学習になっていると思うのでこれからもさらに探求を深めて欲しいと思いました。
- どうやったら死なせずに飼うことが出来るのか、クリノストマムについて調べながらシナイモツゴを飼育することを通して、どのようにしたら里山からシナイモツゴを減らさないことが出来るのかを、考えていて凄いなと思いました。ここからは、生態系を守るための活動を行っていくと思いますが、頑張ってください。応援しています。
- シナイモツゴの稚魚を育てる過程の中で、成功体験だけを述べるのではなく、失敗してしまったことも話しているのがいいと思いました。生き物を飼う以上は悲しい体験もあるとは思うが、その体験を次に活かすことが大事だと思います。信里小の皆さんはそういった体験をしっかりと活かすことができていると思いました。あとはこの活動を自分たちの納得のいく形で終わることができるよう頑張ってください。応援しています。
- 生物の生態を話で聞くだけでなく、実際に飼うことでその生態をより深く理解できるし、命の大切さを実感することができるので、とても良い活動だと思いました。小さな生き物にも人間と同じように命があるということを忘れずにこれからも探究活動を進めてほしいと思います。
- 発表内容も筋が通っていたり、発表するときもはきはきと発表出来ていたりしていたので、能力の高さや、学習意欲の高さがうかがえました。特に目立った反省すべき点も見当たらなかったので、今後も様々な学習に対して、強い意欲や関心をもって取り組んでほしいと思います。
- ライチョウなどみんなが知っているような絶滅危惧種ではなくシナイモツゴにフォーカスしていて素晴らしいと思った。きれいなため池や里山にしていくという具体的な目標も見つけられていてその活動も頑張ってほしいなと思った。
- 花壇づくりやリンゴづくり、シナイモツゴ学習といった様々な活動を、児童の皆さんが楽しそうに行っている様子が発表から伝わってきました。稚魚を大きく育てるために、様々な工夫を凝らしたり、その中で稚魚の変化を観察したりといった児童の皆さんの積極的な態度は素晴らしいと思いました。これからも様々な活動の中でたくさん発見をしてほしいと思います。
- 今回の発表を通して里山の大切さやシナイモツゴについて知ることができた。またシナイモツゴの学習を通してどうやったらシナイモツゴが生きることができるか考えたり細かく観察したりしていてすごいと思った。はきはきとした発表だったし、途中で発表された詩もその時の状況がとても伝わった。
- 地元の生き物に着目した発表で聞いていて楽しかった。声もはきはきしていて聞きやすかった。実際に生き物を育てるからこそ、「命」の大切さや尊さを身に染みて感じたと思うので、これからもその気持ちを忘れずに学習に対して貪欲に取り組んでほしいと思う。
- 地元の自然物や農作物の観察を行うこと非常に良い事だと感じる。数が減っている理由や、信里でシナイモツゴが残っている理由の考察までしっかりできていて素晴らしかったです。 飼育に関する提案なのですがシナイモツゴを飼育だけでなく繁殖も挑戦するのはどうでしょうか
- 信里小学校で見ることのできるリンゴやトンボなどについて、わかりやすい絵と文字で説明されていて、とても聞きやすかった。シナイモツゴの生態などについては知らないことが多かったため、新しいことを知ることが出

来て良かった。また、なぜ信里にシナイモツゴが生息しているのかを丁寧に詳しく説明していて理解しやすかった。

- 身の回りにあふれる自然から体験を通して得られる学びは本当に貴重なものだと思います。その中でも生き物を育てるという簡単ではないことをみんなで協力して行うことは大切です。シナイモツゴ学習のまとめがわかりやすく、しっかりと調べられていると思いました。発表も素晴らしかったです。
- 信里地区は周りにため池が多いという特性を生かしてため池に住む魚について調べようとしたことがすごいなと思いました。また、そこで見つけた魚の稚魚を実際に育てていたことで、本当に池に住む魚を大切にしていることが伝わってきました。どうしたら魚を守れるかににについてしっかり考えられていてすごいなと思いました。

〔教職員の皆様へ〕

- ①共通点を見つける　今年度取り組んだ実践では、ICTの活用を選択肢の一つとして取り組んだ。 子どもたちの姿から考えたとき、ICTの活用の良さに気がついている児童については、進んでICTを活用していた。ICTの活用は目的ではなく、あくまでも手段であり、子ども自身の学習の目的を達成しようとするための有効な手段として、ICTの活用を選択している場面が非常に多かった。 ②指標を基準に議論する　ICTを目的ではなく、手段としての活用を子ども自身が選択しながら進めることができている。そして、そのためには紙と鉛筆を使った学習に親しんできた子どもたちが、1人一台端末の普及によって、自分の学び方を選択できる機会を得ることができ、紙と鉛筆とは異なるICTの活用の良さ、学びやすさを実感している子供が増えてきた。 そのような子供たちが増えてきた時に、授業を構想する教師にできることは何かを考えたとき、学習の幅を私たち自身が狭めてはならないことは言うまでもない。これまでの「こうあるべき」という形を崩し、ICTの良さを頭に入れながら単元を構想していく必要がある。本授業の中でも、子供たちの学びの姿がさまざまに紹介されていたが、ICTの持つ良さを教師自身がまずは実感し、その良さを子供自身が味わっていくような活用の方法を考えていかなければならないと感じた。 ③多角的に捉えて自分との捉えとの違いを見つける　現場でICT活用の推進する立場として数年勤めてきた。ICT研修をしようとすると、「また難しいことを…」「私にはわからない」「無理」と、研修を始める前からやや後ろ向きな声が聞こえたり、表情が見てとれたり、以前よりは活用が進んだものの、クラウドを活用した授業が全クラスで行われているまでには至っていない。ICT関係が好きな私にとって、新しい活用方法や実践を耳にすることはとても面白く感じるし、自分自身ではどのように活用できるか考えることも非常に楽しい。一方で、前向きになれない同僚の先生方を見ると、今後の教育に必須なものに対してどうして前向きになれないのかと言う疑問もある。先生方の背景を想像したとき、これまで積み重ねてきた経験とのギャップの大きさや、クラウドの基本知識の不足が要因に感じられるが、やはり大きなことはICT活用の良さを実感していないことも大きいことなのではないかと思う。いくら知識を外側から伝えようとしても、実践の場で活用するまでにはなかなか至らないし、研修の場だけなく、授業の中で活用してこれまでと違う良さに触れてはじめて、次も使いたくなるだろう。これまではなかなかそんな先生方のフォローまで手が回らなかったが、今後は教師自身がICT活用の良さに触れられるように、共に考えていきたいと思う。 シナイモツゴについての学習を通して、里山のシナイモツゴの重要性に気がついた子ども達でしたが、子どもたちの発表から私は2つの大きな学びがあったのだと感じました。一つ目は、自分たちの住んでいる自然豊かな里山に大きな愛着と誇りを感じることができたということです。絶滅危惧種の生き物が生息している環境というのは非常に稀で、それが自分たちの住んでいる里山であるということは非常に誇らしいことでもあります。2つ目は生き物の命の大事さです。シナイモツゴを飼うようになって、一度は死なせてしまった命を今度はどのようにしたら生き続けられるか、生息地を調査したり、モツゴの状態の変化を具に観察したり、子どもたちが命を大事にしている姿がとてもよく伝わってきました。自分たちの住む地域に誇りを持てる学習を展開されていることが素晴らしいと感じました。
- 地域の宝を認識し、実際に自分たちで育てることで様々な困難に立ち向かい、より思いを高めていく。そんな学習の流れがとても素敵であると思いました。

【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学2年生

会場⑦-2

活動テーマ

学校周辺の歴史や文化、自然などに触れられる場所をめぐることで、地域を深く知り、後世に残したいものを探り広める

発表概要

「身近な地域を深く知り、後世に遺していきたいものを探り深める」という目的で「探究活動ロゲイニング」を実施しました。これを世界発信する目的で、得られた結果を英語でまとめ、カナダにある交流校の担当教員に対面で発表した他、本校English Campでネパールの交流校にオンラインで発表しました。今後は長野県インバウンド推進協議会、長野県国際観光推進協議会などと協働して、サステナブルツーリズムに寄与していきたいです。

感　想

会場⑦-2　【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学2年生　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆さんへ〕

- 京都エコ修学旅行の活動がとても面白いと思いました。京都の修学旅行というと、歴史や文化を学ぶイメージが強いですが、考え方次第で様々なことを学ぶことができるということを私自身学ばせてもらいました。また、その活動を広めていこうというという考えが素晴らしいと思いました。
- ロゲイニングを通して、自分たちが住んでいる場所を自らの足で実際に赴くことで良さに気づくことができるというのはとても良い活動であると感じた。加えて、世界中に長野を知ってもらうために観光客が多い京都の取り組みを学ぶということはとても良いアイディアであると感じた。
- 長野県の魅力を世界に発信するというテーマ設定が素晴らしいと思いました。長野市を歴史的に見たりして後世に残したいことを探すロゲイニングはとても主体的でよい学習だと思いました。また海外に向けて発信するところまでやっていて、英語で発表するなど様々な教科を活かして学習されていてよい探究活動だと思います。長野県はとても広い県で地域によって特色が大きく異なるので長野市に限らず、調べてみるとより長野の魅力を発見できるかもしれないと思いました。
- ロゲイニングを通して、生徒たち自身が地域について親しみ、学んでいく活動は地域にとってとても良いものだと思います。さらにはそのことをカナダやネパールに発信することによって観光を通して地域活性化に間違いなく繋がっているはずです。また、ナッジ理論を用いて善光寺周辺のごみ拾い活動ももっと範囲が広がっていけばより良いものになっていくと思うので期待しています。
- 探究ロゲイニングの活動で、自分の身体で感じたことを発表できていていいと思いました。その経験を長野でも活かそうとする姿勢は地域の方々との関係性がさらに良くなるものであると思いました。機会があれば、自分も協力したいと思います。
- ロゲイニングというのは私自身初めて知りました。またこの内容を知ったうえで、長野市周辺でやったらとてもおもしろいと思いました。もし私が将来、教師になったら、総合の授業でロゲイニングを取り入れていきたいと思いました。ありがとうございました。
- SDGsに関する学習を進めるうえでは、自分たちの周りにある身近なことから目を向けていき、そのあともっと広い範囲に目を向けるというのがいいと思うから、その順番で学習を進めているのがいいと思いました。SDGsの目標に向けて行った活動は知ってもらうことがとても大切だと思うので、引き続き活動だけでなく、発表する場も大切にしていってほしいです。
- ある日の授業の一場面を導入として扱ったのは面白い工夫だと思いました。ロゲイニングについては知らなかったのですが、探究の道筋がしっかりしていて良いと思いました。また、その探究活動を海外へ羽ばたかせようとする意気込みも素晴らしいものだったと思います。今後も自分たちなりのよりよい活動に取り組んでいってください。
- 長野県を世界に売りこむためのロゲイニング活動がとても面白く感じました。同時にエコへの取り組みを行なっていくことで、ゴミの問題の解決にも役立てることができるというメリットもあり、一石二鳥な活動だと思いました。学校の中だけでなく、地域にも広げていってほしいと思いました。
- 地域に興味を持ち、その良さを英語で海外にも伝えているところがすごいと思いました。また、それまでの活動の振り返りだけでなく、次の目標も考え、探求や学びをし続けているところが良いと思いました。鍵盤のようになっている階段の例を知って、ナッジ理論に興味を持ちました。
- SDGsと関連づけながら行う「探究活動ロゲイニング」は、自分たちの住む町の特色を発見しながら、仲間との交

流を深めることもできる素晴らしい活動だと思いました。カナダとネパールとの交流により長野を自分たちで発信する姿や、研修における活動、ナッジ理論から今後の展望を考えるなど、調べたことをさらに発展させようとする意識は非常に良いと思いました。

- 探究活動の方法には様々なものがあるなと感じた。特に国際的な交流に関しては、これからさらに増えていくと思うので、私も教員を目指す者としてそうした活動について学びを深めたいと思う。海外との交流で英語や他言語への理解が深まると思うのでこれからも活動をしていってほしい。
- 探究活動ロゲイニングという新しい手法を用いて探究活動を行っていて素晴らしいと思う。外国の交流校に考えを伝えるために様々な工夫を凝らしていることも素晴らしいと思います。理論を用いて次の目標を決定していることも素晴らしいて思う。
- ロケイニングというものについて初めて知った。冒頭でロケイニングの説明が分かりやすくされていてよいと思った。スライドもとても見やすいものだった。英語で発表し世界へ発信するというところが素晴らしいと思った。ネパールに動画で発進したというところも考えられていてよいと思いました。
- 学校周辺の歴史や文化、自然に触れることの大切さを文化学園長野中学校の発表を聞いて私も実感しました。今は、一人暮らしをしているけれど、今度、実家に帰った時には、私がお世話になった地域について積極的に知ってみようと思います。
- 世界へ発信する前に、生徒自身が地域活性化に向けた活動をしていることが確実に段階を踏んでいてとても良いと思いました。また、ナッジ理論という人間の行動を促すというような、ただエコ活動を実施しようとするのではなく導きたい結果へとつなげるための考えが伴っていて素晴らしいと思いました。

【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校2年生探究合同ゼミナール

会場⑦-3

活動テーマ 学校も 自分も レボリューション！ ～ルールメイキングプロジェクト

発表概要 中学2年生から取り組んできた校則問題。今年度立ち上がったルールメイキングプロジェクトで、校則改正のプロセスを学びました。法に守られず取り残された人の生きづらさを当事者だけに背負わせている現状が、校則と似ているとし、誰も取り残さない校則づくりに取り組んでいます。（日本経済新聞社 高校生SDGsコンテスト 最優秀賞受賞、マイプロジェクト長野県サミット 代表発表）

感　想

会場⑦-3 【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校2年生探究合同ゼミナール　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 「基本的人権が法律によって奪われている」という言葉がとても印象に残った。校則を変えるという活動から、「誰一人取り残さない社会」を目指すことに変わっており、とても素敵な活動だと感じた。また、ただ自分たちのために校則を変えようとするのではなく、民主主義によって意味を持って校則を変えようとしており、きちんと理念を持ち様々な活動を活かしている様子が分かった。
- 校則に疑問を持つことは誰でもできることだけれど、そこから校則の改定に向けて行動できたのは素晴らしいことだと思いました。また、発表の中で『いかなる法やルールにも、「自分らしく生きること」は奪えない』とあったのが印象に残りました。ジェンダーの問題が注目されている現在、「自分らしく生きること」について考えられたのは大きな成果になったのではないかと思います。
- 校則に対しての疑問を自ら当事者に聞くなどをして現代の考え方が校則にあっていないという考えはとても良い気づきであると感じた。謎ルールに関しても拘束力はないのかもしれない。しかし、そのルールは何か必要があったから提唱されたものであるのかもしれないため、そのルールの背景を考えるという必要があると感じた。
- 校則の問題はどの学校でもそれぞれに難点があると思います。そういった問題について生徒の意見をただ集めて改正へと動くのではなく、それまでの学習を踏まえたうえでどうしていくべきかについて考えられていて素晴らしいと思います。生徒自身で過ごしやすい学校を目指して頑張ってください。
- 校則という1つのキーワードから、LGBTの話題まで発展させ、広い視野を持って調査を行なっていたところが素晴らしいと思いました。また、目標を立てて、それを達成するためのプロセスが明確になっていて良いと思いました。
- 最後の「誰一人取り残さない社会」ですべての人が「自分らしく生きる」ための考え方を皆で学ぶというのはとてもしっくりときました。校則に関する話からルールメイキングの話に移りつつ、今自分たちが何をすべきか考えていっている過程が今後の活動にも生きてくると思います。頑張ってください。
- 誰も取り残さない、インクルーシブな考え方を、高校生活に取り入れているのが、現代社会の考え方を取り入れていていいと思いました。校則を変えようと頑張った経験は、これからの生活でも活かしていけると思います。
- 校則について様々な議論がなされているなかで、その本質に迫ろうと深く多様性の問題について考えられているのがとても良いと思いました。東京レインボープレイドに参加するなど、行動力がとても素晴らしいと思いました。また、学んだことを自分たちだけにとどめず、全校生徒に共有する点や最終的に校則を変えることができた点も素晴らしいと思いました。
- 自分たちに関係している校則という問題を、今の日本にある他の問題を提示しながら話しているため、校則とは直接かかわりのない人でも考えることができるようになっていたと思います。専門的な用語も使いながら、しかし発表ではわかりやすい説明でさすが、高校生だなと思いました。これからの活動も応援しています。
- 校則という身近な不満、疑問から探究活動に繋げられたことが素晴らしいと私は思いました。そこから概念的な問題の議論を進め、結果的に校内にチームを結成して実践に繋げており、私は探究活動の可能性を感じました。校則に関する問題は現在非常にホットな話題です。これからの社会を担う一員として考え続けてください。応援しています。
- ルールメイキングに関する本質のお話で包摂と公正、だれも取り残さないことと全員が正しいと思うことが大切だと感じました。もちろん時代が変わるにつれて変化させていかなければならない部分はあると思いますが、時代を越えても変わらない部分も大切にしてほしいと思いました。
- 「自分らしく生きる」をテーマに、身近なルールとして挙げられる校則に疑問を持ち、その存在意義について深く吟味し考察しながら、自分たちが主体となって改正へと活動している姿は素晴らしいと思いました。その熱意が

全校へと広がっていく様子には、「動くこと」の必要性を強く感じました。

- 生徒が自然に受け入れてしまいがちな校則に着目し、自分らしく生きることについて考えていてすごいと感じた。また活動の中でインタビューを行ったり、実勢に先生に意見を求めたり、実際に男子の制服で登校したりなど実際に行動し考えている姿に感動したし、法律や民主主義などについても学習を深め、学習の幅を広げていてとても良いと感じた。
- まず話の構成やプレゼンテーションが洗練されており、聞き入ってしまいました。内容に関しても、身近な校則に疑問を持ったことから次から次へと学びが進んでいて素晴らしいと感じました。明文化されていないルールに従っていたという経験は自分にもあって今振り返ると疑問に思うけれど、現在進行形で気付くことができるというのはとても素晴らしいことだと思いました。政治家になって日本を変えて欲しいです。
- 国連本部職員や当事者にインタビューを行うことで様々なことに気付いていて素晴らしいと考える。「包摂と公正」を大切にし、ルールメイキングについて知ることを通じて公正に基づく議論を行えるようになったことが素晴らしいと考える。
- 中学部からの活動を継続できるのは文化学園の仕組みも影響していると思うが、一番は生徒一人一人の校則への強い気持ちがあったからだと思った。また、民主主義の観点も取り入れて全校を巻き込んで活動をしていたため、高校生とは思えない行動力を感じた。
- データを用いて説得性を出しているのが良いと思った。SDGsの問題をそれぞれの観点から考えられており、より実践しやすいものになると感じた。現在いろいろな意味で話題のジェンダー問題について高校生の考えを世間に発信することでなにか変わるものがあると思うのでとても良い活動であると思った。
- 「自分たちなりにルールをつくってみる」という点に、小学校や中学校にない、成長と新鮮さを感じました。自分たちで考えて何かをすることはとても貴重な経験だと思います。これからも頑張ってください。
- 法の問題を、私たちに身近な校則に関連付けていてとても興味深かったです。当事者だけにしかわからない生きづらさを、こういった観点から学ぶことができるのだのと感心しました。私自身、校則や法が本当に平等なのか考えてみようと思いました。
- 考えるだけでなく、行動に移すということができているのがとても素晴らしいと思います。理念を考え、その考えを全校生徒に伝えるにはどうしたらいいのかということまで考えられていてしっかりと過程を大事に行動しているのがとても良いと思いました。

【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学生徒会

会場⑦-4

活動テーマ　文化学園長野中学校で取り組む　私たちのSDGs

発表概要　本校生徒会で毎年取り組んでいるSDGs活動。今年度は「ホールスクール～学校まるごと」をキーワードにし、誰もが過ごしやすい学校・社会をつくるために、みんなで目指せるものがあれば一体感が生まれるのではないかと考え、学園オリジナルSDGsを製作しました。6つのゴールを制定し、委員会やクラスで取り組んだ事例を紹介します。

感　想

会場⑦-4　【長野県】文化学園長野中学・高等学校 中学生徒会　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- SDGsを生徒会の各委員会とつなげることで、生徒がSDGsに日常的に取り組めると感じた。また、生徒会活動はどうしても執行が行っていくイメージがあるが、生徒の意見を取り入れ、全校で運営していけるように生徒会が活動することで、生徒も自分事で考えられる生徒会になると感じた。
- 生徒会というと学生の学校生活をより良くする活動を行うイメージを持っていたため、生徒会活動としてSDGsに取り組まれているのは素晴らしいと思いました。学校全体に影響力を持つ生徒会がそういった取り組みを行うのは重要だと感じました。
- SDGsを身近な自分たちの問題に置き換えて、学校独自のSDGsをつくることで自分たちに関わる問題解決に向かう姿勢が素晴らしいと思いました。この経験を将来へつなげることができるものにしていってほしいと思います。
- SDGsのモデルを参考に、学園オリジナルのSDGsを作ろうという考えが面白いと思いました。また、それぞれについても、ゴールやターゲットを明確にしながら具体的な活動に取り組めていて、素晴らしいと思いました。
- SDGsに関連付けて廃油からの石鹸づくりなど様々な活動を生徒会が中心となって行うことで学校全体に広めるには一番良い方法だと思うので素晴らしい取り組みだと思いました。また国連のものをそのまま使うのではなく、学園SDGsとしてより自分たちにあった目標数値を設定することで、より目標が具体的になり取り組みやすくなるので良い活動方法であると思う。意識の小さな変化で変わることは多くあると思うので活動をこれからも深めて欲しいと思いました。
- 無理やり既存のSDGsについて関わる活動を行おうとして、自分たちがやりたい活動ができなくなってしまっては意味がないので、学園オリジナルのSDGsを作ろうという発想は素晴らしいと思います。学校ごとにより行いたい探究活動は異なるはずなので、他の学校でも同じようにオリジナルのSDGsを作ることを導入すればいいのではないかとも感じました。
- 毎年、素晴らしい活動が行われているにもかかわらず、改善点を見出しているのが素晴らしいと感じました。そして、全校で取り組めるという目標をかなえられるような学校オリジナルのSDGsという発想が面白かったです。また、目標を立てるだけでなく、国連のSDGsの構造を理解し、どのように実行するのかを具体的に設定することができているのが良かったと思います。
- 学園オリジナルSDGsの3つ目のゴールの「地域も学校も自分ゴト」というのがとてもいいと思いました。このゴールを定めることで身近なことから少しずつ取り組んでいくことが大切であると感じることができるし、実際のSDGsの目標に積極的に取り組んでいくことができると思うので、これからも活動を続けていってほしいと思います。
- 一部の生徒が取り組むのではなく、学校全体の取り組みとしてSDGsに取り組んでいることが良いと思いました。国連のSDGsでは学校に反映しにくい部分もあると思うが、学校のSDGsを策定したことで自分たちができる身近な取り組みが生まれたことが良かったと思います。この活動を1年で終わらせることなく、継続していってほしいと思います。
- 学校で誰もが過ごしやすくなるために学校独自のSDGsを考えていて、さらに本物のSDGsに倣ってゴールだけでなく、ターゲットまで考えていて、生徒も守りたい、ついて行きたいと思ってもらえるSDGsであり生徒会であると思いました。
- 「持続可能」について自分たちの言葉で定義し直していて、探求を進めるうえでとても良いなと思いました。そして、自分たちオリジナルの「学園オリジナルのSDGs」を考え、それを各委員会で分担することで、生徒全体で取り組むことができ素晴らしいと思いました。

- 「ホールスクール～学校まるごと」をキーワードにし、誰もが過ごしやすい学校・社会をつくるための学園オリジナルSDGsというものに素晴らしさを感じました。六つのゴールを設定しそれを全生徒で達成しようとする姿勢が素晴らしいと思いました。
- SDGsの問題を扱う上で、身近なことを議題にし、自分たちでターゲットを作るなど主体的に活動を行っている点がとても良いと思いました。既存にとらわれるのではなく、自分たちができる範囲で目標を決めることは、興味ややる気を促進していけるため、とても良いと思いました。進めていけばもっと細かい点にも気づくことができ、問題解決能力がどんどん高められると思うので、これからも頑張ってください。
- SDGsに関して学園オリジナルのものを作成したり、高校で行われているルールメイキングプロジェクトと合体していたり、すごいなと思いました。そして、こういった高校と中学で協力して何かできることが中高合同のいいところだと思いました。特性を生かして活動を行っていて、自分たちもこういった活動を考えてみたいなと思いました。
- 生徒会を通してSDGsの活動を行うことで、全校の生徒を巻き込んでいることがすごいと思いました。誰かがやってくれると人任せにするのではなく、全員が協力して活動に取り組んでいる様子がとても良いと思いました。これからもこの活動を続けていってほしいです。
- 最初の導入で自分もその活動に入りやすくなると思いました。ゴールが明らかになっていて、活動がスムーズにそれることなく進めることができてとても良いと思いました。ゴールの内容が自分一人でもできること、みんなでできることと色々なことがあって取り組みやすい内容になっていて良かったと思います。
- SDGsに関する活動を継続させるために、生徒会を主体として引き継いでいるというのがとても良い体制だと思います。継続性を保つことが難しいこともあるなかで、どこが主体となるのかということをしっかり決め、且つ、引継ぎをするというその仕組みも是非広めていって欲しい。そして、卒業した後も、個人でも取り組めるように日常のひとつとなるようにしっかり浸透させてもらえればと思います。

【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校生徒会

会場⑦-5

活動テーマ　誰も取り残さない生徒会

発表概要

本校の生徒会は、全校生徒が参加でき、誰も取り残さない生徒会を目指してきました。生徒会の民主化推進のために、評議委員会のあり方の見直し、執行部と各委員会が強いパイプを築くため、新たに大臣という役割を設置するなど様々な活動を行ってきました。私たちの将来が誰も取り残さない社会であるためには他者とのパートナーシップが必要不可欠です。今年度は生徒会がそんなパートナーシップを成長させる場になるよう努めました。

感　想

会場⑦-5　【長野県】文化学園長野中学・高等学校 高校生徒会　発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 生徒会の執行部が頑張って活動に取り組むには素晴らしいし、それに加えて生徒との意見交換の場を積極的に設けていて素晴らしいと思った。形骸化されてしまった評議委員会を正常化するなど問題を客観視してそれに応じた対策をしていてとても良いと思った。
- 生徒会、評議委員会の構造なども考え改革していくというのは大変だったかと思います。そこから実際に動いて活動に繋げるというのは素晴らしいと思いました。
- 意見ボックスの名前が生徒に馴染みやすいもので良いなと思いました。このような小さな部分でも生徒会と全校生徒の壁をなくすものになると思います。
- 生徒会で今まで培ってきたもの、固まってきたものを大きく変えるのはとても大変だったかと思います。特に評議委員会を対等な立場にするというものはとても難しかったはずです。今後も「誰も取り残さない生徒会」に向けて頑張ってください。
- 生徒会の問題を見出し、様々な活動を行うだけでなく、これまでの生徒会の在り方の構造を見直すように活動していたのがすごいと思いました。特に、大臣制度は公民の学習に関する知識が生きているのも感じることができてよいと思いました。
- 文化学園長野高校生徒会の皆さんへ　生徒会がうまく機能しないことは学校をより良くするためにはよくないことだと思います。その状況を改善するために、生徒からの意見の吸い上げ、生徒会システムの変更をしたことはとても良いことだと思いました。誰も取り残さない生徒会を作り上げるために始まったばかりのこの活動を継続していってほしいと思いました。
- 生徒と生徒会執行部では、委員会に対する取り組み方の温度差や、意欲的に委員会活動に取り組んでもらうためにはどうすればよいかとても悩んでいましたが、大臣システムなどの新たな制度を導入することで、このような課題点も改善できると思いました。これからの活動も、ぜひ頑張ってください。応援しています。
- 生徒会といったような自分たちで自治を経験していくことはとても役立つと思う。その中で、自然と組織図であったり、起こりうる課題についてみんなで議論して向き合うと言った大切さを学ぶことが出来ていてすごいと思った。相談し太郎そうし太郎は新しい活動で意味を持って行えていてすごいと思った。

【長野県】飯田市立飯田西中学校 家庭科

会場⑦-6

活動テーマ　飯田西中SDGs　～持続可能な社会に向けて自分にできることを考えよう～

発表概要

自分たちを取り巻く環境問題や消費行動の課題から学習をスタートし、クラスごと地球に住む一員として何ができるかを探究しました。学習のまとめとして作成した「消費生活・環境SDGsすごろく」を公共施設等に設置し、SDGsへの理解の促進、情報発信に役立てています。異学年でも「食品ロス削減すごろく」を作成したり、食品ロス削減ポスター・地産地消ポスターを作成したりするなど、SDGsと関連を図った家庭科の授業を展開しています。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和５年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1.　学校名　飯田市立飯田西中学校　　対象　全校　２１０名

2.　探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ　飯田西中ＳＤＧｓ　～持続可能な社会に向けて自分にできることを考えよう～

(2) 目　標

①持続可能な社会の構築について理解する。

②ＳＤＧｓについて理解を深め、自分事としてできる取り組みを考える。

③学校で学んだことを表現・発信することを通して、ＳＤＧｓへの協力者を増やし、地域社会と連携しながら、ＳＤＧｓ目標達成を目指す。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　□公平性（一人ひとりを大切に）

☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）

☑有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）

□その他（　　）

②育成する資質・能力

□批判的に考える力　☑他者と協力する力

☑未来像を予測して計画を立てる力　□つながりを尊重する態度

☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度

☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

1 貧困をなくそう
2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤を作ろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

(5) 探究課題・活動実践の概要

1　生徒会ＳＤＧｓ
2　新聞よむよむタイム
3　一人一探究
4　家庭科の授業
5　池上 彰 氏と学ぶＳＤＧｓ

3. 流れ（指導計画の概略）

＜家庭科授業＞

【課題設定】

自分たちの消費行動の課題から、「気温上昇を 1.5 度以内に抑えるために、地球に住む一員としてどんなことができるのか」の問いを元に、クラスごと題材を通して追究するテーマ（課題）を決める。

【情報収集】

消費生活が環境に及ぼす影響や国や県・社会をあげて取り組んでいる環境施策を知る。また、飯田市職員から脱炭素の取り組みや、エシカル消費の取り組みを聞く。

【情報の整理】

学びの足跡の記述や毎時間蓄積した学びキーワードを活用し、クラスの学習テーマ（課題）に対する答えをまとめる。

【まとめ】

持続可能な社会の構築について学んだ知識とＳＤＧｓの取り組みと関連させた「消費生活・環境ＳＤＧｓすごろく」を一人 1 枚またはグループで１枚作成。自分たちで遊ぶだけでなく地域に発信（市公共施設へのすごろく設置・環境イベントでの掲示・体験ブースの設置、環境イベントでの実践発表）した。

*1 年生も同じ探究サイクルで「食を取り巻く課題」について探究。学習のまとめとして「食品ロス削減すごろく」を作成し地域に発信。その後、食品ロス削減ポスター・域産域消（地産地消）ポスターを作成し、地区の文化祭や市公共施設に掲示した。

4. 効果・反応・所感

（1）「一人ひとりの毎日の選択や行動が持続可能な未来につながっている。これまで学んできたことが全てＳＤＧｓとつながっていると思うとすごいなと思った。授業で学んだことを私のこれからの生活で生かし、持続可能な社会を創る一員として行動していきたい。」などの感想が見られるなど、ＳＤＧｓと家庭科の授業内容を関連付けたことで、「持続可能」の視点で自分の生活を見返したり、学んだりすることができた。

（2）市や県の取り組みを環境への取り組みを知り、消費者・飯田市・長野県・日本・地球に住む一員という立場を自覚しながら考えさせたことは、自分事として考える際の大事な視点である。

（3）環境イベント『南信州環境メッセ』での発表やＳＤＧｓすごろくの掲示・設置に対し、飯田市長やゼロカーボン社会の実現に向けて取り組んでいる企業のみなさん、消費者団体の方々から、「すごろくに書かれた内容素晴らしい！」、「家庭科の授業で学んだこととＳＤＧｓが関連付けられていて、よい学習をしていますね！」とのお褒めの言葉をいただいた。すごろく作成と展示の目的は飯田市の取り組みへの参画でもあり、行政や企業に中学生が環境問題に関心を持っていることや、協力していきたいという思いを発信できる機会となった。

（4）市内の中学校代表が集まる学習会（結いジュニアリーダー）や池上 彰 氏が来校して行われた「ＳＤＧｓ特別授業」では、家庭科で扱う内容以外のＳＤＧｓの目標に関連した内容を扱うことができ、ＳＤＧｓすごろく活用の可能性を広げる機会となった。

（5）「信州ＳＤＧｓアワード 2023」受賞、ジャーナリスト池上 彰 氏とのＳＤＧｓ特別授業、長野朝日放送でのＳＤＧｓ特別授業放映、地元新聞での西中ＳＤＧｓすごろく掲載など、家庭科の授業を始めとする様々な取り組みの成果が認められ、形となって表れたのは大変嬉しいことである。

（6）環境イベントでの発信、食品ロス削減ポスターを見たり、テレビ放映を視聴されたりした地域の方から、賞賛の声が寄せられ「ＳＤＧｓの西中」との認識されるようにまでなった。今後も、ＳＤＧｓのリーダー校として様々な取り組みを行っていきたい。

（7）信州ＥＳＤ/ＳＤＧｓ成果発表会＆交流会には初めて参加させていただきましたが、他校の取り組みから学ぶことが多く、本校の来年度の取り組みに生かしていきたいと思えるものもありました。高校の取り組みを聞く機会はほとんどなく、高校生の姿や運営スタッフの大学生の姿を拝見できたのは、本校生徒のキャリア発達の刺激となりました。よい機会を与えていただき、ありがとうございました。

（8）交流会で依頼がありました西中ＳＤＧｓすごろくは飯田西中学校ホームページ（2 月）に掲載します。ご活用ください。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

（1）指導方法

家庭科授業内で実施

（2）協力者

・飯田市ゼロカーボンシティー推進課
・飯田市男女共同参画課
・飯田市消費生活センター
・飯田市公民館、学区内公民館

感 想

会場⑦-6 【長野県】飯田市立飯田西中学校 家庭科 発表を見た方からの感想

〔生徒の皆様へ〕

- 一つ一つの委員会でSDGsについて考えている様子が伝わってきた。一つの目標だけでなく、17の目標の多様な面から考え、活動を行っており、自分事として活動を行っていることが分かった。また、一人一探究でSDGsを多くの人が扱っているのも、委員会活動や日々の意識の表れに感じた。委員会活動や探究の時間、家庭科の授業など、様々な場面でSDGsについて考え、自分ももっとSDGsについて考えなければならないと感じさせられた。
- 消費者側が何を買うのか、どのようにエネルギーを消費するのかによって持続可能な活動ができるのかが決まるという考え方はとても良いものだと感じた。加えて、新聞を読むことで様々な情報を取り入れ、SDGsについての多くのことを学ぶことができる活動であると感じた。
- SDGsすごろくの作成が印象に残りました。誰でも簡単にプレイできて、遊びを通してSDGsについて学ぶことができる点が小学生などの幼い子供にも意識を芽生えさせるきっかけになると思います。
- SDGsへの活動として生徒会等から取り組むときに、残食料を100g以下にする等の具体的な目標が設定されている点が素晴らしいと思った。また、家庭科の授業においては、市の職員からのお話をもとに、ポスターやすごろく等が制作されており、SDGsにより親しみやすくなっていると感じました。
- 家庭科は将来の私たちの生活に直結する内容であるので、それをテーマに探究を進めていくのはとても良い取り組みであると思いました。SDGsを生徒会SDGSとして様々な取り組みを行うことで学校中に広げることができるためとても良い方法だと思いました。アルミ缶回収やペットボトル回収は簡単に取り組める内容であるためこれからも進めていって欲しいです。その成果も「見える化」してもらえるとより活動内容もわかりやすくなっていいと思いました。
- 委員会ごとにSDGs活動を行うことにより、学年の壁を越えた意見交流や活動を行うことができるというメリットがあるので、この活動は他の学校でも取り組むべきだと思います。さらに、家庭科でもSDGsに関わる取り組みを行っていて教科横断的な活動を行っていて素晴らしいと思います。
- SDGsに関する理解を深めることにとどまらず、自分たち個人が何をできるのかを考えられている点が良いと思いました。特に印象に残っているのは、委員会ごとの活動に特色があったことです。それぞれが、自分たちの良さを生かして何に取り組めるのかを考えられているのが伝わってきました。
- 地球温暖化についての問題は世界規模で取り組むべきことであり、私たち一人ひとりがどう取り組んでいくべきなのかというのは難しい問題だと思います。しかし自分たちのできることを熱心に考え、言葉でいうだけではなく具体的なことが述べられ、実施されていたので素晴らしいと思います。これからの取り組みにも期待しています。
- 素晴らしい発表ありがとうございました。個々人の行動を積み重ねることで変えていくという考えは素晴らしいと思いました。日々の学びの中からSDGsに絡めて考えるのはとても大切なことだと思います。私自身も1ピースとして日々過ごしていきたいなと思います。
- 全ての活動に自分たちが社会の一員であるという意識があると伝わってきました。私は大学で環境について学んでいくうちに、SDGsの目標に向けた活動は、総合的な学習の時間の時間だけでなく、日常的に取り組んでいくべきだと考えるようになりました。飯田西中学校では総合の授業内だけでなく、生徒会や、教科の時間にもSDGsの目標に向けた活動が織り込まれているところがいいと思います。このように日常的に活動していくことが大切であるとみんなが知っていくことが大事だと思うので、これからもこのような活動に積極的に取り組んでいってほしいと思います。
- 委員会ごとにSDGs活動に取り組み学校全体で環境について考える場となっていて良いと思いました。新聞を読んでSDGsについて理解を深めて、一人一探究へと学びが発展していて、主体性が感じられるとてもよい授業だと思いました。
- 家庭科で学んだことから、自分のするべき行動を考えようとする姿勢に感動しました。また、それぞれの行動をSDGsに逐一繋げられていて、意識の高さを感じます。これからも持続可能な社会を目指す一員として高い意識を持ち続け、行動に繋げられるよう応援しています。
- 節電や残飯の削減、SDGsに関するクイズなど、全校生徒が簡単に、楽しみながら参加できような取り組みの実施や、家庭科の授業での探究活動やすごろくの作成など、楽しみながらも、SDGsに取り組む「ピースの一員」として

社会に貢献できるような取り組みがされているところが良いと思いました。

- SDGsを基とした活動の量がまずとても多くて驚いたし、素晴らしいと思いました。また環境的に良くないとされていることがなぜ良くないのか、本当によくないのかを言語化して、取り組む意欲を明確にしている点がとても素晴らしいと感じたし参考になりました。
- 家庭科の授業を通してSDGsについて考えるというのは面白いと思った。自分たちの消費生活を見直し、環境への影響を考える。その影響をすくなくするための方法を考えていた。これを続けることで地球温暖化の進行を抑制することができるのではないかと思った。
- 地域の方たちも巻き込んで、学校でSDGsに取り組んでいるのは地域で成長していけると感じられてとてもいいと思いました。1人1探究という活動は高校での探究的な活動にも生かせるため全員が経験できるのはとてもいいと思いました。遊びながらSDGsに取り組めたり、メディアやイベントなどを利用したりすることで、地域全体でSDGsに取り組めるようになっているという仕組みがとてもいいなと思いました。
- 美化委員会のごみ拾いや生活委員会の節電節水活動、給食委員会の残菜量を少なくする活動など、それぞれの委員会ごとに特色が色濃く出ている点が印象的でした。新聞よむよむタイムから紐づいた気温上昇を防ぐ行動も素晴らしいと思いました。
- 発表の中で言っていたような、「一人一人の活動は小さくてもそれが積み重なることで持続可能な社会に向けての大きな変化となる」という考え方はとても大切なものだと思った。飯田西中では、SDGsを考えて行動することを生徒に促すための多くの取り組みが行われていて、このような取り組みがより多くの学校で行われるべきだと感じた。飯田西中で行われている活動は授業で学んだことが生かされて考えられたものも多く、生徒がそれまでの学びを踏まえて、今すべき活動を考えることのできる環境づくりも重要であると考えた。
- すごろくを用いてSDGsや食品ロスについて学ぶという発想が、とても斬新で面白いと思いました。他にもポスターをつくるなど、学習している本人たちだけでなく、発表を聞いている側までもが意識できるような方法がいくつもあってとても良いと思いました。

【長野県】飯田市立上村小学校 3〜6年生

ビデオ発表

活動テーマ　上村をPRしよう！

発表概要　昨年度行った歌とダンスの発表「上村PR大作戦」で、上村のことをもっと伝えたいという思いをもった子どもたち。今年度は特産品の栽培、地域の清掃活動や、上村をPRする動画を作り、上村のことを知ってもらう活動を行いました。また、今年度は遠山郷にある他の学校とも交流を深めていきました。動画制作や交流を通して、上村や遠山郷のこれからについてもう一度考えることができました。

実践記録

信州 ESD コンソーシアム

令和 5 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

---

1. 学校名　対象（学年、人数）
長野県飯田市立上村小学校（3〜6年　15名）

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ
『上村を PR しよう！！』

(2) 目　標
昨年度、様々な自然体験活動を通して上村のよさに触れた子どもたちが、上村の人口減少等について課題をもち、上村のために自分たちができることを主体的に考え、計画し、実践することを通して、持続可能な地域づくりへ参画しようとする態度や、地域を大切にしようとする心情を育てる。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☐有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
☐その他（　　）
②育成する資質・能力
☐批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☐つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任、つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
15 陸の豊かさも守ろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

(5) 探究課題・活動実践の概要
○かみっこグリーンクラブ（みどり少年団）として、持続可能な地域づくりを中心に、自然の中での学習（ごみ拾い／キャンプ／川遊びなど）を通してESDを展開していく。

3. 流れ（指導計画の概略）
○この地域の特徴であるジオパークやユネスコエコパークについて地域、保護者と共に体験活動（自然塾キャンプ等）を通して学び、それぞれの立場で地域のためにできることを考える。
○遠山地域を代表する「霜月祭」について学び、祭りに関わる地域の方の思いや祭りへの憧れを知る。また、自分なりの祭りへの関わり方を考える。
○遠山三校で遠山郷のよさと課題を考え、何ができるかを共有する。また、東京都墨田区にある母子生活支援施設「ベタニヤホーム」と交流したり、上村特産の「下栗芋」栽培等について地域の方から学んだりする。
○自分たちが学んだことを今年度最後の交流会でベタニヤホームの方に知らせたり、遠山郷フォーラムで地域や市の関係者に発表したりする。
○上村の特徴や、上村小学校の活動をまとめ、自分たちのすごしている上村地区のよさを再確認する。また、Canva を活用したCM制作活動を行い、保護者の方や地域の方だけではなく、より多くの人に上村を知ってもらう機会とする。

4. 効果・反応・所感

子どもたちは、そば打ちや自然塾キャンプなど、様々な自然体験活動を通して、自分たちの活動を支えてくれている地域の方へ感謝の気持ちをもった。また、今年度は交流をメインとした「遠山 3 校絆交流会」を行い、児童生徒が交流する姿や学校での取り組みを、直接地域の方に見ていただく機会を多く取り入れた。全校児童が地域に対する誇りを共有し、発信したことは、児童の自信にもつながった。そして地域の方々を元気づけ、地域の方々がこの地域のよさを再認識して協働することにつながった。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

総合的な学習の時間を中心に教科横断的に行った。
上村公民館　上村自治振興センター
遠山中学校　和田小学校

感 想

ビデオ発表 【長野県】飯田市立上村小学校 3〜6年生 発表を見た方からの感想

〔児童の皆様へ〕

- 上村をPRするということで、自分たちでできることを自主的に考えていく姿勢というのは今後の地域の発展を考える上で若い世代が考えていくことが素晴らしいと感じました。特に自分たちが行いやすい特産物の栽培という点で分かりやすく上村のことを伝えられるのだと感じました。
- 地元のことを考えて、周りの人にPRしていく方法を行動に移せているのがよかったと思います。そのなかでも特産品は、その地域にしかない魅力なので、それを活かすことによってPRに大きな効果があると思いました。
- 自分たちの暮らす上村の魅力を知ってもらうために自分たちができることについて、情熱をもって調べていることとても伝わりました。また、SDGsについても調べ、関連する活動を行いPRしているのが素晴らしい活動だと思いました。
- 自分たちの住んでいる地域をPRすることだけでなく、SDGsも意識して活動をしていることがいいなと思いました。最後のCMでは上村の魅力がたくさん伝わってきました。これからもPR活動を頑張ってほしいと思います。
- 特産品について調査を丁寧に行い、活動に一生懸命に取り組んでいる様子が伝わってきました。地域の清掃活動にも取り組んだりCMを自分たちで作ったりと積極的に生活を良くしようとする姿勢が見られて素敵だと思いました。CMの歌もとても素敵でした。
- 地域の方と協力した活動を行うことで、地域が一体となって諸問題に向かうことができると思うので非常に効果的でよかったと感じました。CMづくりに取り組んだことで他者への理解が促進されたり視覚的に理解できる効果が生み出されるため、非常にレベルの高い発表であったと感じました。
- 上村小学校の皆さん、発表ありがとうございました。自分たちの住む地域にどんな魅力があるのかをしっかりと調べた上で、実際に体験し、それをPRするためにCMを作るという一連の活動の流れができていて非常に素晴らしいと感じました。自分たちの育った地域を大切にする気持ちはとても大事な感情なので、これから成長する中でも持ち続けていってほしいと思いました。
- 上村小学校では「上村PR大作戦」について、特産物・清掃・CM作りの3つのグループに分かれて発表していて、上村のことについて詳しく知ることができた。この3つのグループの中で特にCM作りグループのCMは、上村小学校の様子を知ることができとても良いものだと思いました。これからも楽しみながら頑張ってください。
- 上村の特産品に親しむために、作物の生育活動や稲刈りに積極的に取り組んでいることが分かった。そのように、世界中の問題を解決するために自分たちにできることを精一杯取り組んでいる様子が素晴らしいと思った。他にも清掃活動によって地域の人々と交流することで、自分たちが地元に親しみながら上村のよさを広く発信していることがよい点だと思った。また、CM制作によって宣伝だけでなく、自分たちの生活を見直すよい機会になると思うのでよい活動だと思った。
- 元気いっぱいの発表で見ていてわくわくしました。そばが食卓に届くまでどのような過程を経ているのかよく知りませんでしたが、脱穀などの工程があって大変であることがよくわかりました。上村の良さを調査して出来たCMは温かみがあって良い出来だと感じました。
- 発表の時に大きくはっきりと話せていてとても聞きやすかったです。私は上村のことを全然知らなかったけれど、とても美味しそうな特産品があって行ってみたいなと思いました。 自分たちで特産品を収穫して販売していてとてもすごいなあと思いました。自分たちの地元の良いところをたくさん知っていることはとても良いことだと思います。これからも皆さんの地元である上村への愛を忘れずに成長してくださいね。
- 上村の良さを伝えるだけでなく、実際に自分たちも地域の人と関わり、地域について学んでいたことが印象的でした。CMづくりでは上村の特徴がたくさん取り入れられていたり、学校の活動が紹介されていたりなど、短い時間で上村市の魅力がまとめられてあり、良かったです。
- 特産品を栽培することで、農家の方や販売する人の立場を知り、消費する側だけでなく生産する側のことを知ることにつながると思いました。清掃活動でゴミがなかったということは、環境を大切にする思いが地域に根付いていることを表していると思います。CMが完成することを楽しみにしています。
- 自分たちのことを知ってもらうためにダンスなどをしたということは見ている側も楽しく知れるため、とてもいい案だと思いました。また、「上村のことを大切に思っているからこそたくさんの意見が出た」という言葉が印象に残っている。やはり、そのことを大切にすること自体がまずは大切になってくるのだと思いました。自分た

ちで実際に様々な活動をすることができている点がとてもいいなと思いました。また、CMからは生徒それぞれの楽しそうな様子がよく伝わってきました。それと同時に、上村小学校の良さについてもたくさん知ることができました。やはりまずは自分たち自身が楽しみながらもよく知ることが大切なのだと分かりました。これからも活動頑張ってください！

- スライドを上手に使いながらとてもわかりやすい発表になっていてすごいと思いました。自分たちの行った活動をSDGsの目標とあわせて考えることができていて、どんなことが大切になるのかがすごくよくわかりました。また、稲刈りなどの活動がとても楽しそうで、ぜひ僕も参加してみたいなと思いました。これからも自分たちの地域についての学習や活動に積極的に参加していってくださいね。
- 飢餓を減らそうと作物、しいたけを育てたり、地域の清掃活動をおこなったりしてSDGsを見据えていていいと思いました。また、歌が入っているCMを制作して地域のPRを行っていて、すごいいいと思いました。CMの続きが気になりました。
- 「上村PR大作戦」カッコイイですね！皆さんの上村を思う気持ちを知ることが出来ました。「特産物」「清掃」「CM作り」という3つのグループに分かれて活動したのですね。元気よく声を張って発表をしていたので聞きやすく皆さんの活動内容や気を付けた箇所、感想を知ることが出来ました。CMの完成度が非常に高かったです！発表ありがとうございました。

Ⅳ

研修会資料

ESD/SDGs研修会（山ノ内町教育委員会）
2023/04/26　15:30～16:50

ユネスコスクールとしてのESD/SDGsの進め方

水谷瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設／信州ESDコンソーシアム）

信州ESDコンソーシアム

今日の内容

- ユネスコスクール
- ESDとSDGs
- ESDで身につくちから
- ESD/SDGsをどう学びに取り入れるか

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールとは

ユネスコが認定した，平和や国際的な連携の実践により，ユネスコ憲章に示された理想を実現する学校です。

◎ユネスコ憲章（抜粋）
第1条 目的及び任務

1. この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、 人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

National Coordination Japan
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNESCO Associated Schools

3

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールネットワークの現状

世界182か国で12,000校以上が加盟し，国内では1,115校の幼稚園，小・中・高校および教員養成系大学などが参加しています。

ユネスコスクール事務局ホームページから確認できます

長野県 (23校)

幼稚園または幼保連携型認定こども園
- 信州大学教育学部附属幼稚園

小学校
- 飯田市立上村小学校〔キャンディデート校〕
- 飯田市立和田小学校〔キャンディデート校〕
- 長野市立東条小学校〔キャンディデート校〕
- 長野市立信里小学校〔キャンディデート校〕
- 安曇野市立豊科南小学校〔キャンディデート校〕
- 山ノ内町立西小学校
- 信州大学教育学部附属長野小学校
- 茅野市立永明小学校
- 信州大学教育学部附属松本小学校
- 山ノ内町立東小学校
- 山ノ内町立南小学校
- 高山村立高山小学校

中学校
- 飯田市立遠山中学校〔キャンディデート校〕
- 信州大学教育学部附属長野中学校
- 信州大学教育学部附属松本中学校
- 山ノ内町立山ノ内中学校
- 高山村立高山中学校

高等学校
- 学校法人 上田学園　上田西高等学校
- 長野県長野西高等学校
- 長野県中野西高等学校

中等教育学校または中高一貫校等
- 文化学園長野中学・高等学校

特別支援学校
- 信州大学教育学部附属特別支援学校

4

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールガイドライン①

ユネスコスクールの活動の質を確保することを目的として，ガイドラインが策定されています

ユネスコスクールとして大切なこと

- 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- 地域の社会教育機関、ＮＰＯ等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- 学校校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- 経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- 必要に応じ、ASPUnivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

ユネスコスクールガイドライン　（平成２４年８月２０日　日本ユネスコ国内委員会）

5

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールガイドライン②

ユネスコスクールは，日本ではESDの推進拠点としても位置づけられています。

持続可能な開発のための教育（ESD）推進拠点として大切なこと

- ESDを通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- ESDの推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、ESDの理念の普及に努めること。

ユネスコスクールガイドライン　（平成２４年８月２０日　日本ユネスコ国内委員会）

6

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールが注力すべき活動分野

ユネスコスクールには3つの優先行動分野への取り組みを中心に，SDGs達成への貢献が期待されています。

6.2

Thematic focus

In line with its mission and objectives (*see Sections 2 and 3*), ASPnet contributes to the achievement of global and national goals which can vary over time. In the context of the SDG agenda, and in particular SDG 4 - Education 2030, the thematic action areas of ASPnet include:

a. global citizenship and a culture of peace and non-violence,
b. sustainable development and sustainable lifestyles; and
c. intercultural learning and the appreciation of cultural diversity and heritage.

In view of the decisions made by the Member States of UNESCO, the International Coordinator develops global or regional ASPnet projects on specific themes, in collaboration with the relevant units of the Secretariat.

a. 地球市民教育、平和と非暴力の文化
b. 持続可能な開発と持続可能なライフスタイル
c. 異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重

UNESCO Associated Schools Network -Guide for National Coordinators-
https://unESDoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000261994

信州ESDコンソーシアム

ESDとは何か

ESD (持続可能な開発のための教育) は，持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

- ESD（Education for Sustainable Development）
- ESDは，環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題がある現在において，『これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動』（日本ユネスコ国内委員会 2013）

8

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指した，2030年を年限とする世界共通の目標です。

- 国連サミット(2015/9)で加盟193か国が全会一致で採択
- 17の目標と169のターゲットで構成され，232の指標で評価

信州ESDコンソーシアム

持続可能な開発目標（SDGs）とは

- 持続可能な開発のための2030アジェンダ
  - 国連持続可能な開発サミット（2015）
  - MDGsの後継プログラム
- 17のゴール・169のターゲット
  - MDGsよりも普遍的（先進国を含む）・網羅的
- 誰一人取り残さない（No one will be left behind）
  1. 貧困の根絶（経済・社会開発）と環境保全の両立
  2. 不平等（格差）の是正
  3. 開発途上国だけでなく全ての国を対象

信州ESDコンソーシアム

SDGsのターゲットにおけるESD

	ターゲット
4.1	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
4.2	2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
4.3	2030年までに、全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
4.4	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
4.5	2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
4.6	2030年までに、全ての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
4.7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
4.a	子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
4.b	2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、並びにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
4.c	2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

11

信州ESDコンソーシアム

SDGsの指標におけるESD

4 質の高い教育をみんなに

4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。 By 2030, ensure that all learners acquire the knowledge and skills needed to promote sustainable development, including, among others, through education for sustainable development and sustainable lifestyles, human rights, gender equality, promotion of a culture of peace and non- violence, global citizenship and appreciation of cultural diversity and of culture's contribution to sustainable development	4.7.1 ジェンダー平等および人権を含む、(i)地球市民教育、及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a)各国の教育政策、(b) カリキュラム、(c) 教師の教育、及び(d)児童・生徒・学生の達成度評価に関して、全ての教育段階において主流化されているレベル Extent to which (i) global citizenship education and (ii) education for sustainable development, including gender equality and human rights, are mainstreamed at all levels in (a) national education policies, (b) curricula, (c) teacher education and (d) student assessment

12 つくる責任 つかう責任

12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。 By 2030, ensure that people everywhere have the relevant information and awareness for sustainable development and lifestyles in harmony with nature	12.8.1 気候変動教育を含む、(i)地球市民教育、及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a)各国の教育政策、(b) カリキュラム、(c) 教師の教育、及び(d)児童・生徒・学生の達成度評価に関して、全ての教育段階において主流化されているレベル Extent to which (i) global citizenship education and (ii) education for sustainable development (including climate change education) are mainstreamed in (a) national education policies ;(b) curricula ;(c) teacher education ;and (d) student assessment

持続可能な開発目標（SDGs）指標仮訳（総務省）
http://www.soumu.go.jp/main_content/000562264.pdf

12

信州ESDコンソーシアム

SDGs達成に貢献するESD

ESDはSDGsの目標・ターゲット・指標であると同時に，SDGsすべての達成に貢献することが期待されています。

現状理解

教育/ESDとSDGs

教育はSDGsの目標4に位置付けられており、ESDは目標4の中のターゲット4.7に記載されています。しかし、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待」している、とも言われています。特に、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献するものです。ですから、ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっています。また、SDGsを、ESDで目指す目標が国際的に整理されたものとして捉えることもできます。

次の一歩

SDGsを取り入れたESDの推進

ESDを推進すること自体がSDGsの達成に貢献することを踏まえ、SDGsが掲げる17の目標(課題)を、ESDの取組に取り入れ、今後のESDの推進に役立てていただきたいと考えます。例えば、ESDの取組をSDGsの観点から見直すことを通じ、自分自身のESDの活動に新たな意義や価値付けを行うことや、ESDの目標を明確化することが可能です。具体的なアプローチは、その学校・地域の課題やESDの取組方により様々ですが、SDGsを見据えつつ、学校や地域で足元の課題解決を大事に、ESDを推進していただくことが重要です。

ユネスコスクールで目指すSDGs
http://www.unesco-school.mext.go.jp/TEMP?action=common_download_main&upload_id=21113

13

信州ESDコンソーシアム

ESD for 2030

Education for Sustainable Development (ESD) is "an integral element of the SDG on quality education and a key enabler of all the other SDGs."

(UNGA resolution 72/222)

ESD はSDGsの必要不可欠な要素であり，またSDGsの達成の鍵である

信州ESDコンソーシアム

学習指導要領におけるESD

改訂学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」としてESDの理念が意識された記述がされています。

【前文（幼・小・中）】

- これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする・・・ことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校（幼稚園）において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

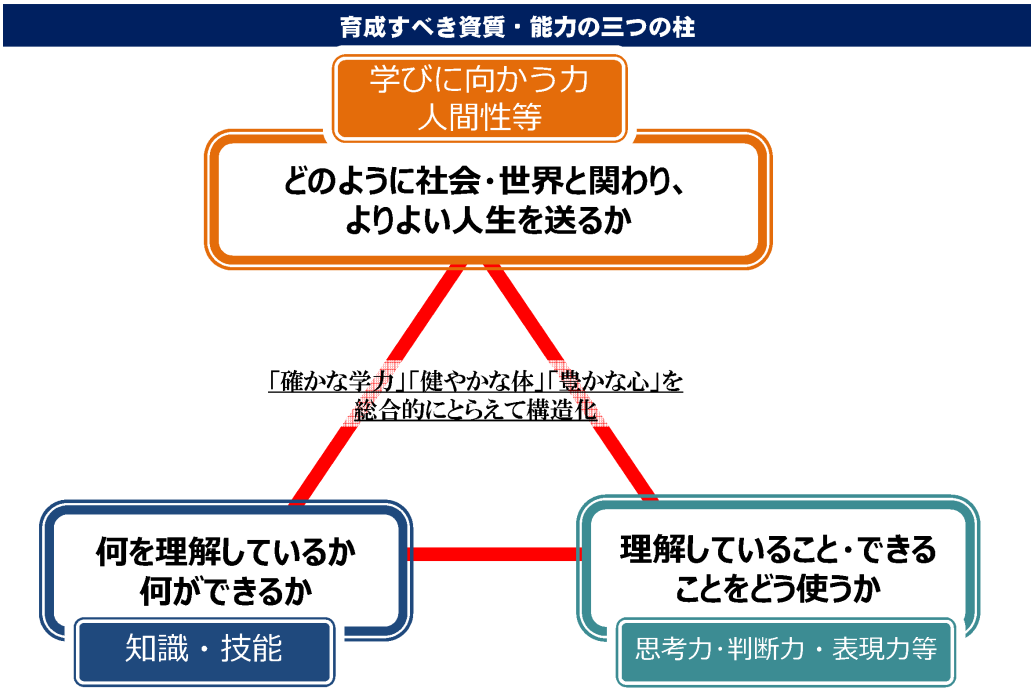
【総則（小・中）】

- 第1　小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割
- 3　2の（1）から（3）までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、…総合的な学習の時間及び特別活動…の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。

15

信州ESDコンソーシアム

学習指導要領におけるESD



16

信州ESDコンソーシアム

ESDの視点を持った学びとは

持続可能な社会を目指す**価値観**や必要な**資質・能力**を育む，
主体的・対話的に取り組む探究的・問題解決的な学びです

―持続可能な社会づくりの構成概念（例）―

Ⅰ 多様性（いろいろある）	Ⅳ 公平性（一人一人大切に）
Ⅱ 相互性（関わり合っている）	Ⅴ 連携性（力を合わせて）
Ⅲ 有限性（限りがある）	Ⅵ 責任性（責任を持って）

―ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）―

① 批判的に考える力
② 未来像を予測して計画を立てる力
③ 多面的・総合的に考える力
④ コミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度
⑥ つながりを尊重する態度
⑦ 進んで参加する態度

ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み（国立教育政策研究所）
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf

信州ESDコンソーシアム

17

持続可能な社会づくりの構成概念

多様性 いろいろある

自然・文化・社会・経済は、多種多様な事物から成り立っています。そうした多様性を尊重するとともに、事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。

相互性 関わり合っている

自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合うシステムであり、人もそれらとつながりをもち、人同士も関わり合って相互に作用していることを認識することが大切です。

有限性 限りがある

自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源は有限であり、それらに支えられた社会発展には限界があることを知るとともに、将来世代のために有効に使用していくことが大切です。

公平性 一人ひとり大切に

持続可能な社会の基盤は、一人ひとりの人権や生命が尊重されることです。権利の保障や恩恵の享受は公平である必要があり、地域や世代を超えて保持されることが大切です。

連携性 力を合わせて

持続可能な社会の構築・維持には、多様な主体の連携・協力が不可欠であり、意見や立場が違っても、適宜順応・調和を図りながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。

責任性 責任をもって

持続可能な社会を構築するためには、一人ひとりが責任と義務を自覚し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持って、他人任せにせずに自ら進んで行動することが大切です。

信州ESDコンソーシアム

環境省：こども環境白書（2016年度）
https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h27/files/full.pdf

ESDで重視する能力・態度

批判 批判的に考える力

合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力。

未来 未来像を予測して計画を立てる力

過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力。

多面 多面的、総合的に考える力

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力。

伝達 コミュニケーションを行う力

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。

協力 他者と協力する態度

他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度。

関連 つながりを尊重する態度

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度。

参加 進んで参加する態度

集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度。

環境省：こども環境白書（2016年度）
https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h27/files/full.pdf

信州ESDコンソーシアム

ESD授業と”総合”

ESD授業の学習の流れや目指す資質・能力は，従来の『総合』で目指していたものと共通しており，これに持続可能性の価値観を加えたものがESDです。

第2章　今、求められる力を高めるための学習指導

第１節　学習指導の基本的な考え方……
1．探究的な学習
2．協同的な学習
3．体験活動の重視
4．言語活動の充実
5．各教科等との関連

第２節　探究的な学習における学習指導……
1．課題の設定
2．情報の収集
3．整理・分析
4．まとめ・表現

文部科学省（2010）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）

(文部科学省HP)

持続可能な社会の価値観=SDGs

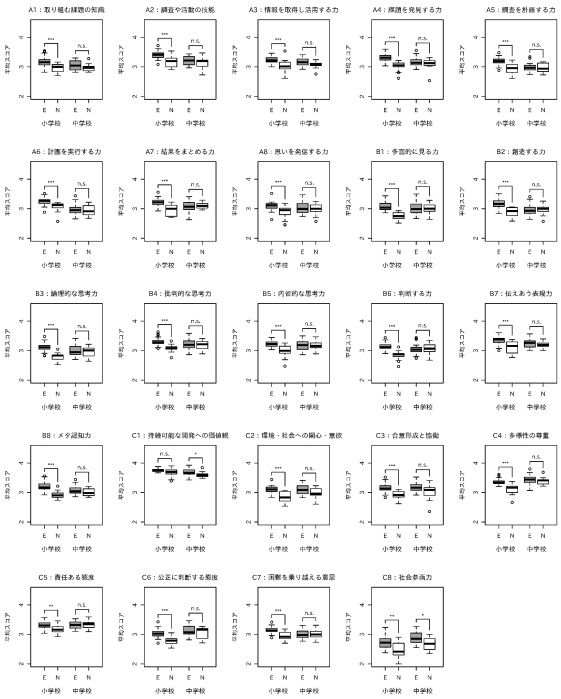
20

信州ESDコンソーシアム

ESDによって育まれる資質・能力の自己評価

表２　質問紙調査で用いたルーブリック

	標　語	S かなり当てはまる(4)	A 当てはまる(3)	B やや当てはまる(2)	C 当てはまらない(1)
A	知識・技能				
A1	取り組んだ内容が知識として身についた	知識がとても豊富になった	知識が身についた	知識が少し増えた	知識はあまり増えなかった
A2	観察・実験やインタビュー，インターネット等を使って調べたり，調査活動をしたりできる	多くのことを調べ，活動することができる	必要なことを調べ，活動することができる	調べられないこともあるが大体活動はできる	調べ方が分からなかった，活動も十分でない
A3	集めた情報をもとに話し合ったり，まとめたりする事ができる	話し合い，関係する事をまとめる事ができる	話し合い，まとめる事ができる	話し合うことはできるが，まとめることは難しい	話し合いもまとめも難しい
A4	自分で関心ある課題を見つけることができる	様々な内容から関心ある課題を見つけている	自分で課題を見つけることができる	自分で課題を見つけることは十分ではない	自分で課題を見つけることは難しい
A5	結果を予想して，課題に取り組む計画を立てることができる	いつも結果を予想して活動計画を立てている	結果を予想して計画を立てることができる	結果を予想しないで計画を立てることがある	自分で計画を立てることはあまりない
A6	立てた計画に沿って，調査などの活動をすることができる	いつも計画に基づいて活動することができる	計画した活動ができる	計画に沿わないで活動することがある	計画に沿って活動することはあまりない
A7	調べて分かったことから，自分の考えをまとめることができる	分かったことから，詳しくまとめることができる	分かったことをもとに考えをまとめることができる	自分の考えをまとめることがある	自分の考えをまとめるのは難しい
A8	分かったことや自分の考えを他の人に伝えることができる	表現方法を工夫して分かりやすく伝えている	自分なりの表現方法で伝えることができる	伝えているが工夫した表現方法ではない	自分の考えを伝えるのは難しい
B	思考力・判断力・表現力				
B1	様々な角度から物事を見て，考えて，正しい関係や全体像をつかむことができる	多様な見方・考え方から，関係性や全体像をつかめる	いくつかの見方・考え方から，関係性がつかめる	できるだけ色々な見方を心がけている	色々な見方をすることは難しい
B2	新たな考え方や新たな取り組み方・アイディアを思いつくことができる	新たな考え・アイディアが浮かぶことが多い	新たな考え・アイディアを思いつくことがある	新しいアイディアが浮かぶことがある	新しいことを思いつくのは難しい
B3	課題への取り組み方や結果の解釈を，順序立てて考えることができる	A だから次は B と順序立てて考えることができる	だいたい順序立てて考えることができる	順序立てて考えることがある	順序立てず思い付きのことが多い
B4	自分や友達の考えが正しいかどうか判断したり，他の方法を考えたりすることができる	正しいかどうか考え，他の方法を考える	正しい意見であるか考えることができる	正しい意見であるか考えることが時々ある	深く考えず，言われたまま考え直すことがあまりない
B5	他の人の意見などを参考にして，物事の関係性を理解し，考えを深めることができる	他の意見を参考に熱考し，考えを深めることができる	他の意見を参考に考え直すことができる	他の意見を参考にすることがある	友達の意見はあまり聞かず，深く考えない
B6	調査方法や結果の解釈を，自ら判断し決定することができる	どの様に調べるか自分で判断し決めることができる	だいたい自分で判断し決めることができる	自分で判断し決めることが時々ある	自分で判断し決めることは難しい
B7	自分や友達の考えを伝え合うことができる	伝え合い，話し合い内容が深まる	考えを伝え合い話し合うことができる	自分の考えは伝えられる	考えを伝え合うことが難しい
B8	何が分かったかという理解の程度や，自分の特性を理解している	分かった事や自己の特性をよく理解している	分かった事や自己の特性を理解している	自己の特性の理解は十分でない	自分の特性を考えることはあまりない
C	意思・態度				
C1	未来に向けて，よりよい環境や社会をつくることが大切だと思う	とても大切なことだと思う	大切なことだと思う	ある程度大切なことだと思う	あまり大切なことだとは思わない
C2	環境や社会に関心をもって，課題に取り組むことができる	環境や社会に関心があり積極的に取り組む事ができる	環境や社会に関心をもって取り組む事ができる	環境や社会に関心があるが，取り組みはあまりできない	環境や社会には関心がなく，取り組みは難しい
C3	友達や地域の方と話し合い，協力して活動することができる	積極的に話し合って協力して活動できる	話し合って協力して活動できる	話し合ったが，協力した活動は十分でない	話し合い，協力共に不十分なことがある
C4	友達や周囲の人の多様な見方や考え方の違いを受け入れられる	意見をよく聞き，違う考えでも納得し理解できる	意見を聞き，違う考えにも理解できる	違う考えを聞き，理解することがある	違う考えを受け入れにくいことがある
C5	責任をもって取り組み，自分の役割を果たすことができる	いつも責任をもって活動に取り組むことができる	責任をもって活動に取り組むことができる	役割は果たすが責任の意識は薄い	役割に取り組まないことがある
C6	ものごとを正しく，平等に判断することができる	常にものごとを正しく・平等に判断できる	ものごとを正しく・平等に判断できる	正しく・平等に判断することがある	正しく・平等な判断でないことがある
C7	難しい課題があっても，立ち向かう意志がある	難しい課題でも，強い気持ちで取り組んでいる	難しい課題でも取り組んでいる	難しい課題でも取り組む努力をしている	難しい課題には取り組めないことがある
C8	地域や社会の活動に参加することができる	いつも積極的に参加することができる	時々参加することができる	あまり参加できない	ほとんど参加できない

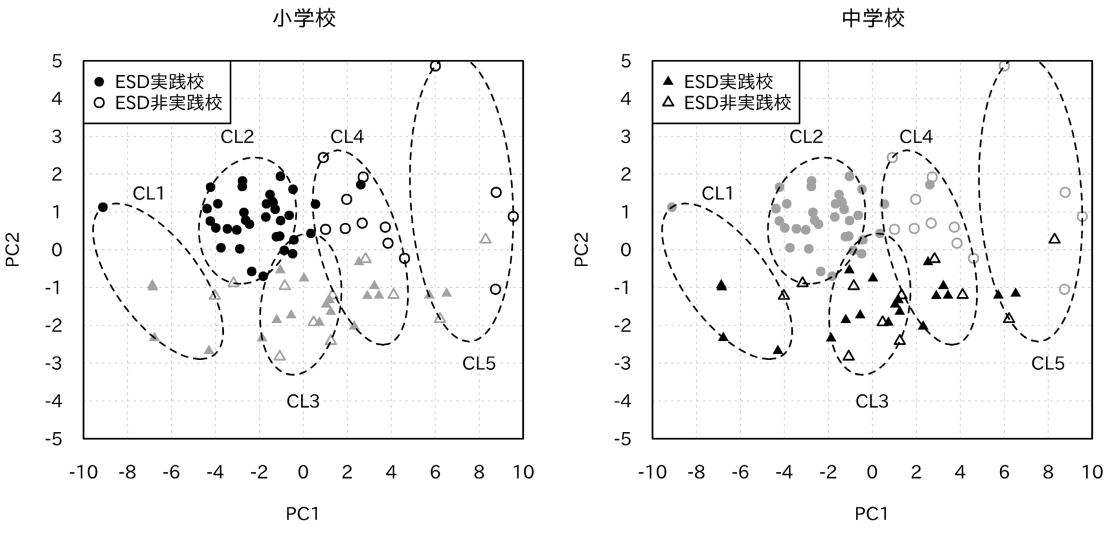


棚橋・水谷(2022) 日本ESD学会誌 5

信州ESDコンソーシアム

ESD実践の有無・校種ごとの傾向

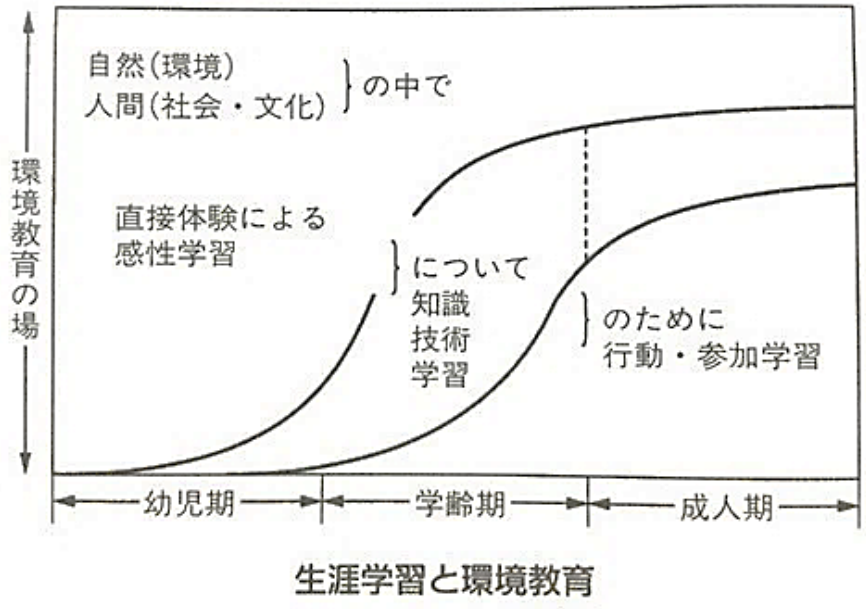
小学校ではESDで資質・能力が身についている。
中学校では探究的な学習が課題？



棚橋・水谷(2022) 日本ESD学会誌 5

信州ESDコンソーシアム

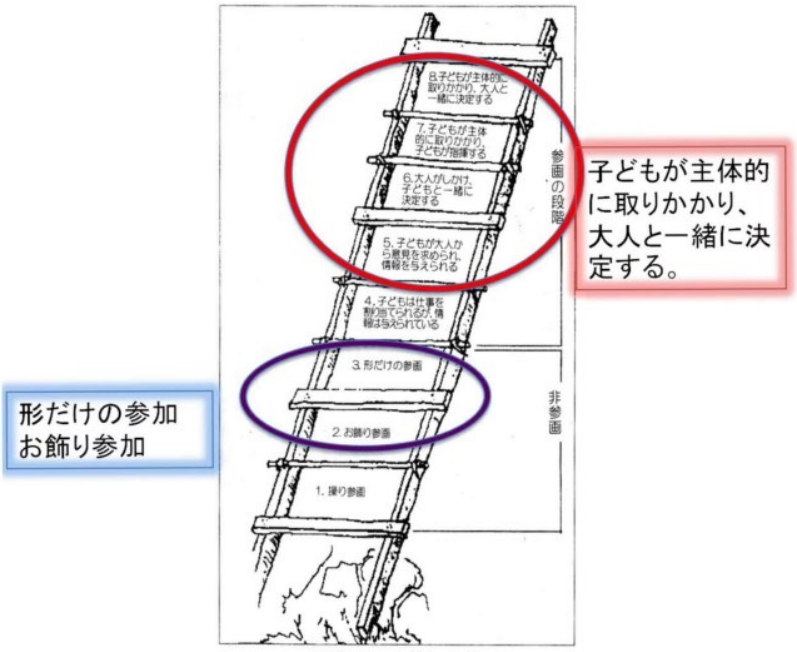
発達段階に応じたねらい



生涯学習と環境教育

子どもと環境教育（阿部治，1993）

参画のはしご

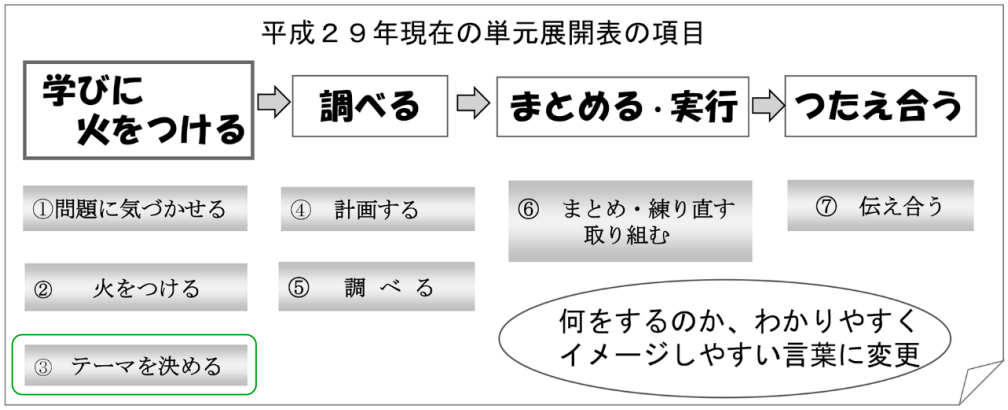


図表6　子どもの参画

出典）ロジャー・ハート『子どもの参画』萌文社

ESD授業の作り方

総合を軸としたESD授業では，体験などから気づき→調べる→まとめる・考える→つたえあう，という流れが一般的です



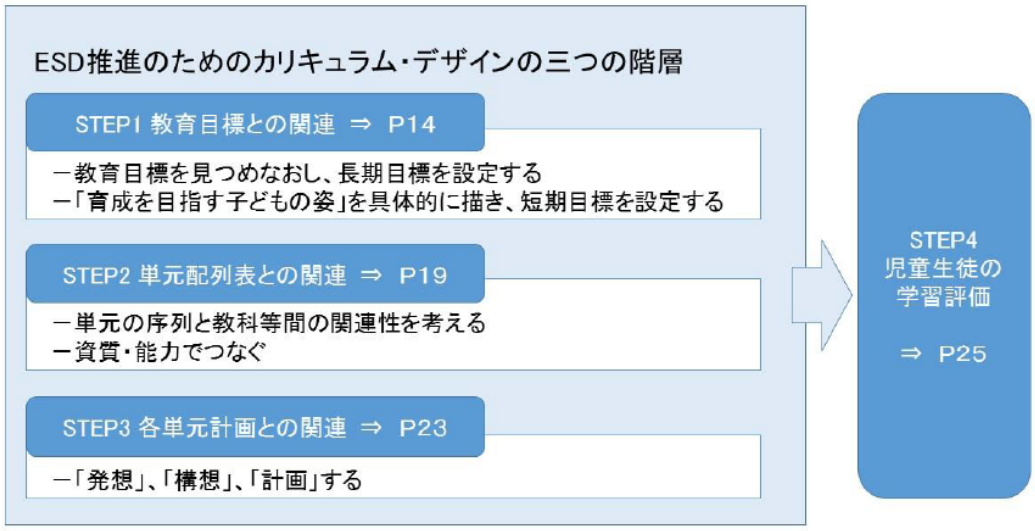
主体的な参画

手島利夫「学校発・ＥＳＤの学び」（教育出版）

信州ESDコンソーシアム

25

ESD推進のためのカリキュラムデザイン



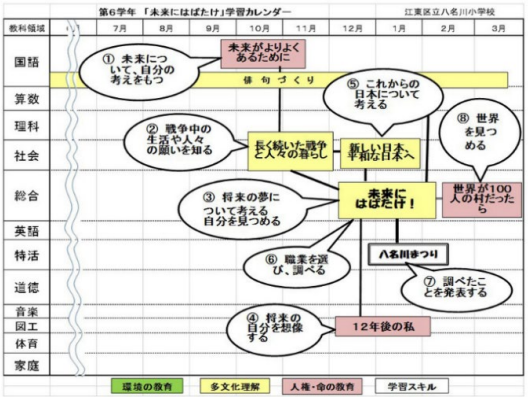
持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引（令和３年５月改定　日本ユネスコ国内委員会）
https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-100014715_1.pdf

信州ESDコンソーシアム

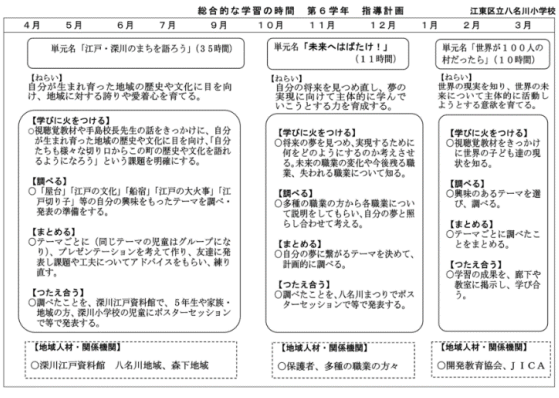
教育目標との関連

ESDカレンダーと指導計画

ESDカレンダーは教科横断的な学習指導のイメージマップで，行事や教科・領域とのつながりを見える化し，学びを深めるのに役立ちます



教育課程の編成における教科横断的なカリキュラム・マネジメント



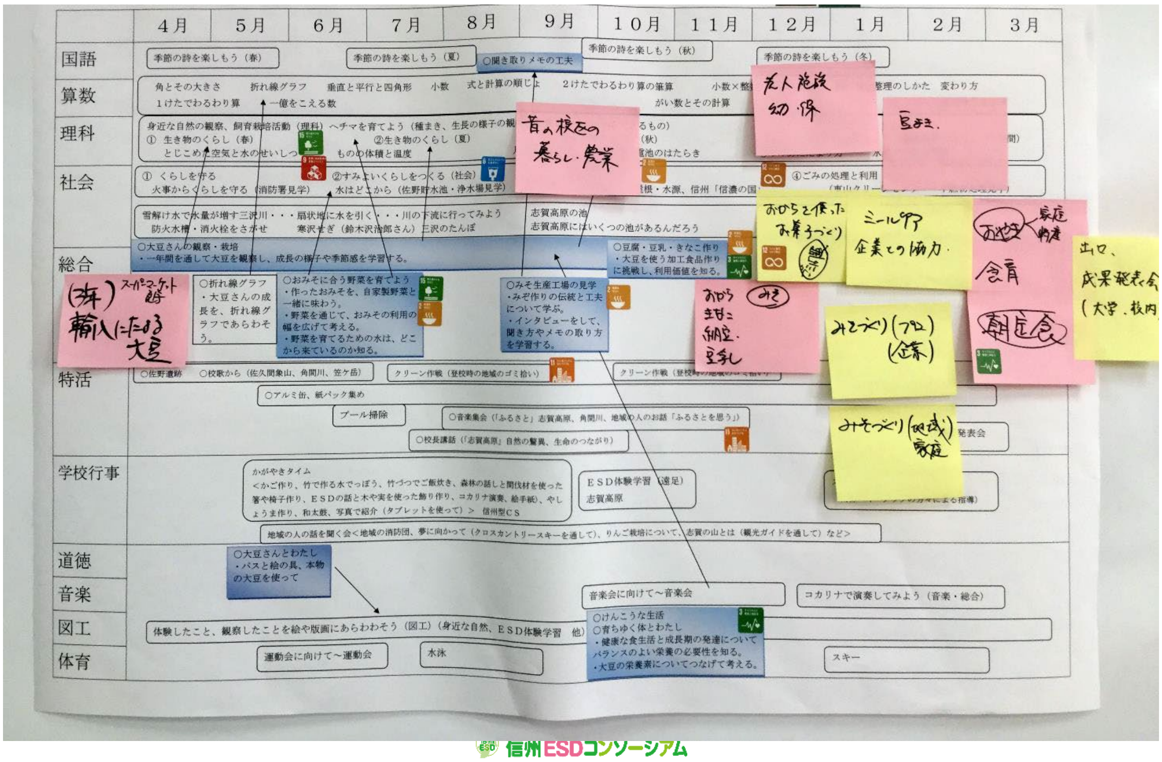
教育課程の実施における授業改善
問題解決的な学習過程

セットで必要・変更をおそれない（予定調和的でない学び）

信州ESDコンソーシアム

28

年間学習指導計画とSDGs（山ノ内南小）



ESD実践記録

2019 年度 ESD 実践のまとめ

1　実施校，対象
山ノ内町立南小学校　５学年　男子６名　女子７名　計１３名

2　探求課題の概要，ねらい，目標
（1）探究のテーマ「共同浴場ってどんなところなのだろう」
（2）目　標
ねらい　①地域の中の温泉（共同浴場）と地域の方の健康が深く関わっていることがわかる。
②共同浴場の価値について自分の考えをもつことができる。
③多様な立場や意見に気づき，それを尊重しようとしている。

（3）探究課題の概要
５年生の子どもたちは，これまでに町探検などで，地域の様々なものに触れてきた。そのような子どもたちにとって地域の温泉（共同浴場）は当たり前のように昔からあるもので，当然のように子どもたちの日常の風景の一部となっている。教師が４月に子どもたちに「町のことを教えてほしい」と言うと，温泉を紹介しようとする子がたくさんいた。日常的な風景の一部であり身近な温泉は，子どもたちの意識では地域の特色と考えているようだった。そして，日常的に温泉（共同浴場）を利用する子どもも少数ではあるがいた。温泉というと旅館や温泉街をイメージした教師にとって，この子どもたちの実態は驚きであり，温泉（共同浴場）は大きな魅力の詰まった場所なのではないかと感じられた。
そこで，教師はまず，全員で温泉に入りに行き，温泉につかる時間を共有したいと考えた。そこから様々なひと、もの、ことと関わる中で共同浴場の価値を見いだす活動を年間を通して行うこととした。

3　流れ（指導計画の概略）
４月：地域巡り（上佐野方面・道の駅方面）
５月：地域巡り（菅・寒沢方面・穂波温泉方面）
６月：角間温泉入浴
７月：共同浴場について探究課題を決める話し合い
９月：穂波温泉共同浴場入浴・佐野共同浴場入浴（佐野・大口堂共同浴場の清掃活動実施）
１０月：ゲストティーチャーのお話を聞く。（地域で共同浴場を利用する方のお話を聞く。）
共同浴場に関する調査をするためのアンケート作成（児童・保護者・地域住民に実施）
１１月：アンケート結果の整理・分析
１２月：アンケート結果から考察（考察したことを学級で共有）
１月：共同浴場についてわかった考えたことをまとめる
２月：わかったこと、考えたことを地域に発信

4　効果，反応，所感
子どもたちは、山ノ内といえば「大自然、志賀高原・スキー場・温泉・地獄谷・りんご」など様々な魅力があることを知っていたが、「共同浴場」という新しい地域資源に気付くことができた。また、共同浴場に実際に入る体験をさせていただいたことから、その価値を実感することができた。
子どもたちは、共同浴場の学習を進めていけば進めていくほど、共同浴場のよさに気付くことができた。一方で、清掃活動や建物の維持、温泉の温度の管理など多くの課題や地域住民への負担も知ることになった。このような活動から、将来共同浴場はなくなるのではないかという考え方をもつ子どもがおおくなった。現実を知ることで、「共同浴場を残したい」と安易に考える子が少なく、「そうずれなよいのか」より真剣に考えることができた。

5　指導方法，指導体制（活用した資源を含む）
指導に関わっていただいた人：**佐野共同浴場管理者・山本さん　穂波温泉共同浴場管理者・佐藤さん　角間温泉共同浴場管理者・黒鳥さん**

2019 年度 ESD 実践のまとめ

1　実施校，対象（人数も）
山ノ内町立南小学校６学年　男子15名　女子６名　計21名

2　探求課題の概要，ねらい，目標
（1）探究のテーマ「これからも残したい大切な場所　夜間瀬川」
（2）目　標　地域を巡ることで様々なひと，もの，ことと出会い，自信が住む地域を見つめ直すことでその魅力や価値を再確認することができる。
ねらい　①　川に親しむ中で，川を取り巻く社会的な事象と出会い，防災や高齢化社会への対応などの社会的課題について知り。（知識，技能）
②　社会的課題に対して解決するために自らができることを考え，実際に試すことができる。（思考力，判断力，表現力）
③　仲間と協力して活動し，課題の解決に向かい考え行動し続けることができる。（学び方，学びに向かう人間性）
（3）探究課題の概要
４月から実施していた地域巡りの中で出会った，夜間瀬川。子どもたちは，夜間瀬川で遊ぶことの楽しさに浸りこむ中で，「これからも夜間瀬川を大切にしていきたい」「夜間瀬川が幼児から高齢者まで楽しめる場になってほしい」「地域の人が集まって会話できるような場所にしたい」と願うようになった。また，「川のつくり」「堤防沿いのバリアフリー」に目が向いてきた。そこで子どもたちは，社会福祉協議会，建設事務所の方との学習から疑問を解決しようとした。そして，願いの実現に向けて，町子ども議会での発表や，廃材を利用したベンチ作りを行った。

3　流れ（指導計画の概略）
４月：地域巡り（佐野遺跡，寒沢方面）
５月：地域巡り（横堰，立川，上佐野方面）
６月：地域巡り（菅，戸狩方面）　６月から GPS 機能付きカメラを持たせ，おもしろいと思ったものを撮影し，共有するようにした。（信州大学の水谷先生からの協力をいただいた）
７月：地域巡り（穂波温泉方面），探究課題の決めだし
９月：川遊び（毎週２時間程度），社会福祉協議会の方との堤防での車いす体験
１０月：北信建設事務所の方の話，子ども議会に向けたまとめの準備
１１月：子ども議会（学校での発表と役場での発表）
１２月：子ども議会を受けての今後の活動についての話し合い
１月：廃材を利用したベンチ作り
２月：廃材を利用したベンチ作り　学校への設置

4　効果，反応，所感
子どもたちは自ら考えて，試すことの大切さと楽しみを感じることができた。また，田舎で何もないと思っていた地域に，子どもたちにとって今後も大切にしたい「魅力あるもの」があふれていることに気がついた。また，それを取り巻く社会的な事象や多くの人の存在を知り，思うがままに行かない状況とも出会うことができた。
頭の中で考えるだけでなく，実際に自らが体験し，そこから生まれた発想を大切にすることを子どもたちも教師自身も学べた学習だった。これから大人になっても，様々な形で地域を大切にする子どもたちになっていくことを期待している。また，将来，どこに住んでいたとしても，それぞれの場所に魅力あふれるものがあり，それにかかわる人がいることを感じたのではないかと思う。

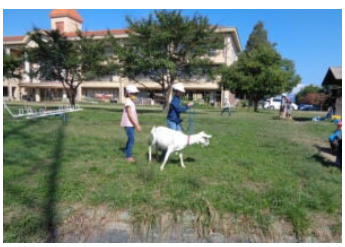
5　指導方法，指導体制（活用した資源を含む）
指導に関わっていただいた人：山ノ内町福祉協議会　北信建設事務所　湯本工務店
民生児童委員の山本さん
活用した資源：夜間瀬川　地域にある史跡や石碑，石塔　車いす　廃材　など

身近な自然や社会・地域の教材化

- Think globally, act locally
- 発見がある
- 多様な学習・体験学習が可能
  - 参加型，探求型学習に向く
- 郷土愛や地域への愛着を培う

信州ESDコンソーシアム

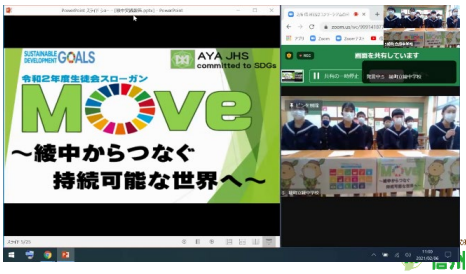
学習材（地域の／共通する）

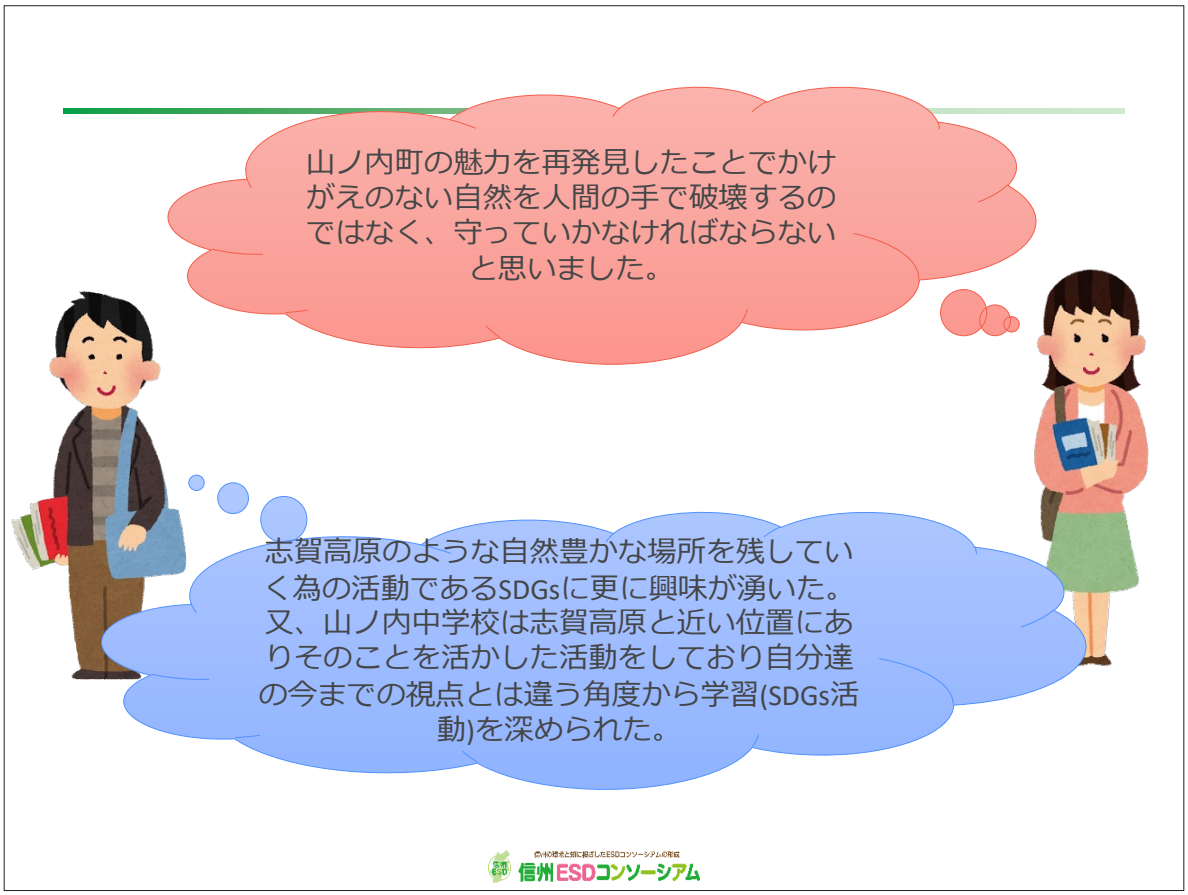


信州ESDコンソーシアム

学習者主体の発展的な活動

他校事例・交流によるまなびの広がりと深化





まとめ

- ユネスコスクール
  - ユネスコ憲章の理念を実現する学校
  - ネットワークと交流を通じた学びあい・活動の深化，モデル的役割
  - ESD推進拠点で，とくにSDGsへの貢献が期待

- ESDとSDGs
  - ESD はSDGsの必要不可欠な要素であり，またSDGsの達成の鍵
  - 持続可能な社会を目指す価値観（→SDGs）や必要な資質・能力を育む，主体的・対話的に取り組む探究的・問題解決的な学び
  - 地域の学習材の活用＋グローバルな視点（SDGs），交流による学びの広がりと深化

信州ESDコンソーシアム

ユネスコスクールとしてよりステップアップするために

- ３つの優先行動分野への注力
  - 地球市民教育、平和と非暴力の文化
  - 持続可能な開発と持続可能なライフスタイル
  - 異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重

- カリキュラム・マネジメントによるESD/SDGsの深化
  - 地域の学習資源を教員が主体的に使いこなす
  - 体験を重視しつつ，それだけに終わらせない学び
  - ESDカレンダー，指導計画，実践記録（PDCA・改善のツール，SDGs）

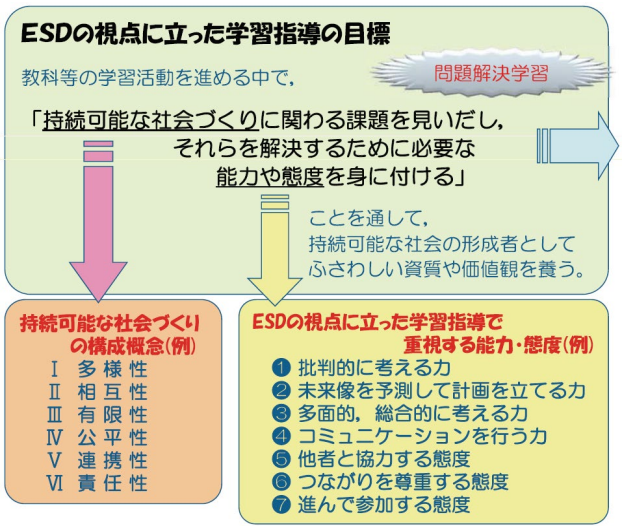
- ESD推進拠点としてのモデル的役割
  - 強みを活かしたESD実践（地域資源・コミュニティスクール）
  - 学校全体でのESD/SDGsへの取り組み（ホールスクール）
  - 学校間交流・情報発信
  - 志賀高原ユネスコエコパークを活かしたESD/SDGs実践

信州ESDコンソーシアム

西小学校の実践について

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成
信州ESDコンソーシアム

次世代育成とESD



ESDリーフレット「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」｜国立教育政策研究所
(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf)

- 「持続可能な社会の創り手」に求められる資質・能力，価値観
- 愛郷心を持ち，地域に向き合い考えることができる

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成
信州ESDコンソーシアム

地域の教材化、豊かな体験

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成
信州ESDコンソーシアム

BRを学校でのESD実践にどう活かすか

- 地域の学習資源
  - –自然環境
  - –社会資源（文化、歴史、伝統）
  - –持続可能な社会を目指す取り組み、SDGs
- BRに関連する取組、人のつながり
- 地域から全国・世界につながる取組

← 教師がコンテンツを使いこなす

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成
信州ESDコンソーシアム

ESDの視点にたった学習指導の目標

多様性 いろいろある

自然・文化・社会・経済は、多種多様な事物から成り立っています。そうした多様性を尊重するとともに、事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。

相互性 関わり合っている

自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合うシステムであり、人もそれらとつながりをもち、人同士も関わり合って相互に作用していることを認識することが大切です。

有限性 限りがある

自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源は有限であり、それらに支えられた社会発展には限界があることを知るとともに、将来世代のために有効に使用していくことが大切です。

公平性 一人ひとり大切に

持続可能な社会の基盤は、一人ひとりの人権や生命が尊重されることです。権利の保障や恩恵の享受は公平である必要があり、地域や世代を超えて保持されることが大切です。

連携性 力を合わせて

持続可能な社会の構築・維持には、多様な主体の連携・協力が不可欠であり、意見や立場が違っても、適宜順応・調和を図りながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。

責任性 責任をもって

持続可能な社会を構築するためには、一人ひとりが責任と義務を自覚し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持って、他人任せにせずに自ら進んで行動することが大切です。

批判 批判的に考える力

合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力。

未来 未来像を予測して計画を立てる力

過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力。

多面 多面的、総合的に考える力

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力。

伝達 コミュニケーションを行う力

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。

協力 他者と協力する態度

他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度。

関連 つながりを尊重する態度

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度。

参加 進んで参加する態度

集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度。

教科等の学習活動を進める中で、

持続可能な社会づくりに

関わる課題を見いだし、

それらを解決するために必要な

能力や態度を身につける

ことを通して、

持続可能な社会の形成者として

ふさわしい資質や価値観を養う。

ESDリーフレット「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」｜国立教育政策研究所
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf
環境省：こども環境白書（2016年度）
http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h27/files/full.pdf

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成 信州ESDコンソーシアム

ESDの学習過程

学 習 方 法

学習過程＝問題解決の過程	指導方法の工夫
つかむ ＜問題の発見＞ ＜問題解決の見通し＞	**本物との出会い** ・豊かな自然体験 ・多様な人々との交流
調べる ＜見通しをもっての探究＞ ＜関係性の発見と知識の獲得＞	**多様な情報の入手** ・繰り返し本物とかかわる体験 ・見通しをもった調査 ・必要性ある情報の選択
まとめる ＜問題解決法の策定＞ ＜思考の深化＞	**情報の整理の工夫・コミュニケーション** ・グループ討議 ・ポスターセッション ・ディベート、パネルディスカッション ・イメージマップの作成
発信・行動する ＜価値観の醸成＞ ＜進んで参加する活動経験＞	**表現や問題解決のための活動の場の設定** ・多様な人々との意見交流 ・環境保全活動等への参加 ・社会へ働きかける活動の実施 ・活動の振り返り

各過程で新たな問題を発見

体験的な学び

探究的な学び

主体的・対話的で深い学び

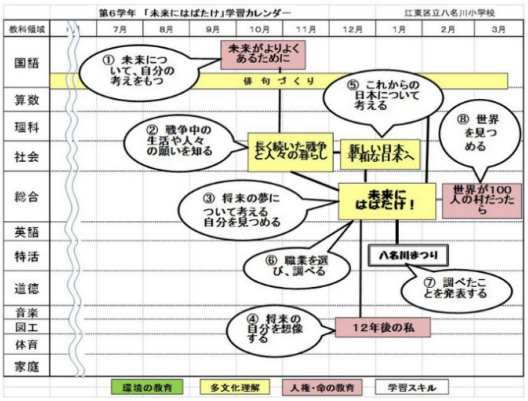
予定調和的でない学び

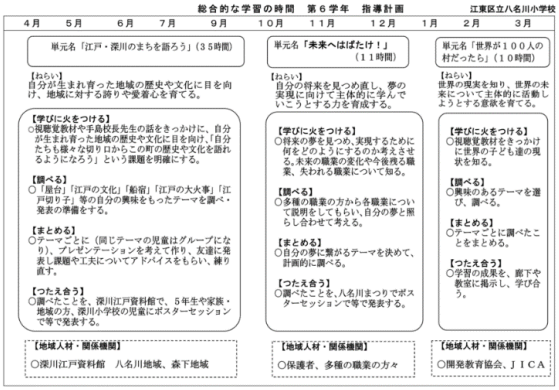
ESD 環境教育プログラムモデルガイドブック③
https://edu.env.go.jp/esd/news/702

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成 信州ESDコンソーシアム

ESDカレンダーと指導計画

ESDカレンダーは教科横断的な学習指導のイメージマップで，行事や教科・領域とのつながりを見える化し，学びを深めるのに役立ちます





教育課程の編成における教科横断的な
カリキュラム・マネジメント

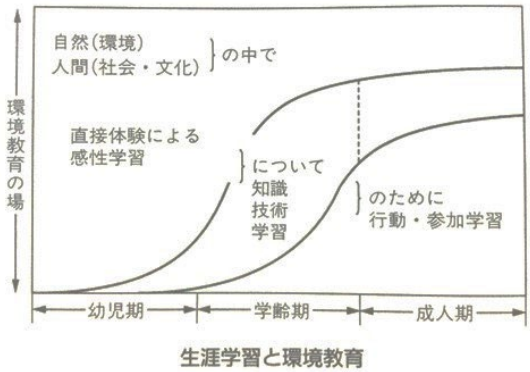
教育課程の実施における授業改善
問題解決的な学習過程

セットで必要・変更をおそれない（予定調和的でない学び）

信州ESDコンソーシアム

7

発達段階に応じた学び／ in・ about ・for



生涯学習と環境教育

子どもと環境教育（阿部治，1993）

Biosphere Learning Strategy
（North Devon BR，2010）

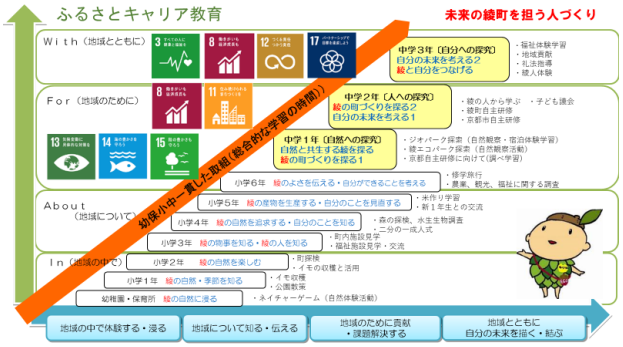
Learn about • Learn in • Learning for

North Devon's Biosphere Reserve provides real and relevant oportunities for formal and informal education activities that encourage people to see the importance of learning to their lives now and in the future.

By bringing people, place and culture together, the Biosphere Reserve concept supports not just geography and environmental studies, but also other areas of learning such as the the arts, communication and languages, historical and social understanding, maths, health and wellbeing and science and technology.

信州の環境と知に根ざしたESDコンソ-
信州ESDコンソ

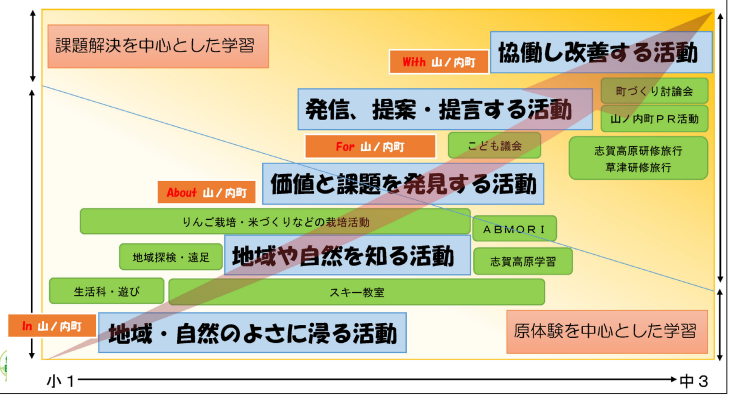
発達段階に応じた一貫カリキュラム



ふるさとキャリア教育

（宮崎県綾町，綾BR）

山ノ内町のＥＳＤ　～小中学校における ESD の段階～



山ノ内町のESD

（長野県山ノ内町，志賀高原BR）

DECADE OF ACTION

長野市教育センター研修講座

持続可能な社会づくりに向けたキャリア教育

講義目標
キャリア教育の理念とESDの概念の繋がりについて理解し、双方の視点から学校の教育活動全体を見通した上で、持続可能な社会づくりに向けたキャリア教育を実現する上で不可欠な専門的知識を身につける。

信州大学教育学部　安達仁美

日本におけるキャリア定義

文部科学省のキャリア定義

人が、生涯の中で役割を果たす過程で、
自らの役割の価値や自分と役割との関係を
見出していく連なりや積み重ねが「キャリア」
の意味するところである。

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
平成23年1月31日より

ドナルド・E・スーパーのキャリア定義

ドナルド・E・スーパー（1910~94）

・アメリカ

・職業心理学者

スーパー(Super.D.E.)のキャリア定義

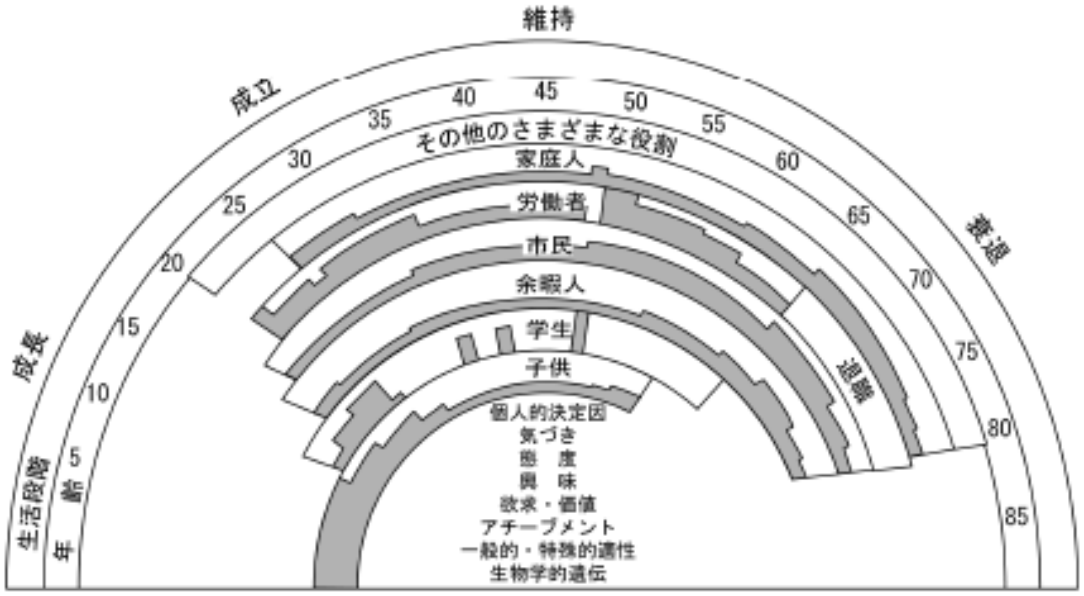
キャリアとは生涯過程を通して、あるひとによって演じられる**諸役割の組み合わせと連続**

スーパーの8つのキャリアロール

子ども	親に対して注がれる時間
学生	学ぶという立場
職業人	仕事をやるという立場
配偶者	夫・妻という役割
家庭人	親元を離れて始まる役割
親	子どもを持ったときから始まる役割
余暇人	好きなことをして楽しむ立場
市民	社会を構成する一員としての立場

※人は複数の役割を、その時々の重要性に応じて果たしていく。

スーパーのキャリアレインボー



日本におけるキャリア定義

文部科学省のキャリア定義

人が、生涯の中で役割を果たす過程で、
自らの役割の価値や自分と役割との関係を
見出していく連なりや積み重ねが「キャリア」
の意味するところである。

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
平成23年1月31日より

キャリア教育とは・・・

出口指導・職業指導だけではない

一人一人の　社会的・職業的自立　に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

（中央教育審議会“在り方”答申 平成23 年1 月）

一方、進路指導とは・・・

進路指導は、本来、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。
（中央教育審議会答申 平成23 年1 月）

ニート（若年無業者）の定義

「教育を受けず、労働をおこなわず、
職業訓練もしていない人」のことを指している。

Not in Education , Employment or Training

N E E T

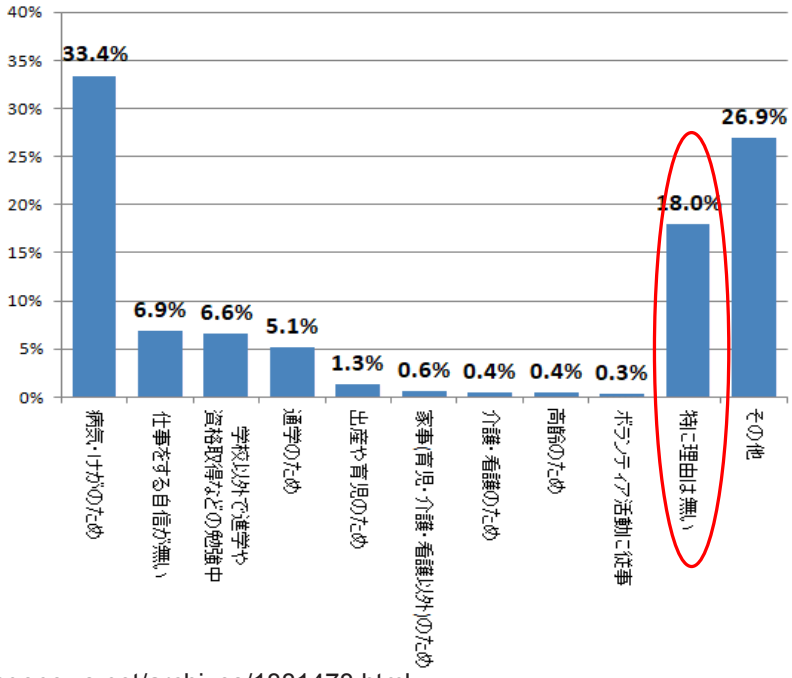
厚生労働省：

年齢が15歳～34歳、非就業、非求職、非通学、非家事（4つの非）

学籍はあるが実際は学校に行っていない人

既婚者で家事をしていない者　→　**家事手伝い含まない**

なぜ?ニートであるのか



http://www.garbagenews.net/archives/1881478.html

フリーターの定義

1987年に雑誌『フロム・エー』で初めて使われた。
フリーアルバイターの略であり造語である。

free:時間の自由な(英語)
Arbeit:労働(ドイツ語)
-er:~する人(英語)

厚生労働省:

年齢が15歳~34歳、在学していない者

勤め先における呼称が「アルバイト・パート」である者

「アルバイト・パート」の仕事を希望する者 → **「正社員になりたくない人」**

フリーターの3タイプ【モラトリアム型】

離学モラトリアム型

就職や将来に対する目標を持たず進学はしたが中退した者、就職活動をせずフリーターとなったタイプ。

離職モラトリアム型

職場での人間関係や仕事内容が合わず、見通しもはっきりしないまま退職し、フリーターとなったタイプ。

フリーターの3タイプ【やむをえず型】

正規雇用志向型

正規雇用を志向しつつフリーターとなったタイプ、新卒時に就職活動がうまくいかなかったケースなど社会的状況が影響する場合が多い。

期間限定型

学費稼ぎや次の入学時期や就職時期までといった、期間限定の見通しを持ってフリーターとなったタイプ。

プライベート・トラブル型

本人や家族の病気、事業の倒産などのトラブルが契機となってフリーターとなったタイプ。

フリーターの3タイプ【夢追求型】

芸能志向型

バンドや演劇、俳優など、芸能関係を志向してフリーターとなったタイプ。

職人・フリーランス志向型

自分の技能・技術で身を立てる職業を志向してフリーターとなり、試行錯誤のプロセスを通して参入の機会を待っているタイプ。

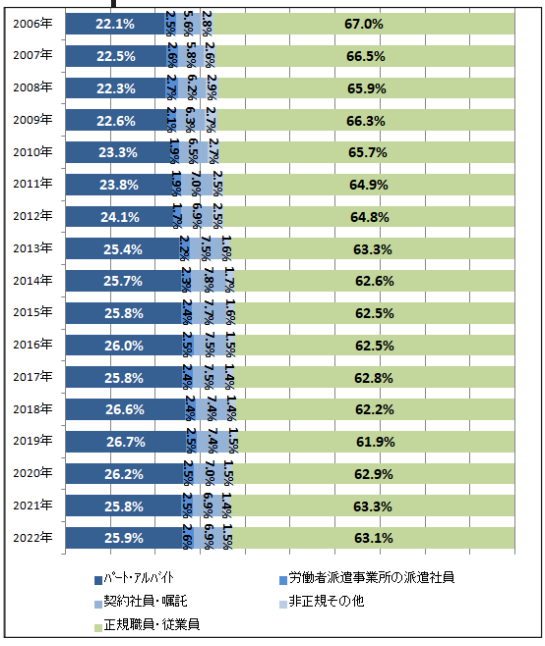
日本の正社員信仰

サイト：「ハタラクティブ」 https://hataractive.jp/useful/129/jp

フリーターと正社員

サイト：フリーターと正社員、どっちを選ぶべき？決定的な6つの違い　https://www.daini-agent.jp/

構造的に生み出される非正規枠



2022年

正社員比率
63.1%

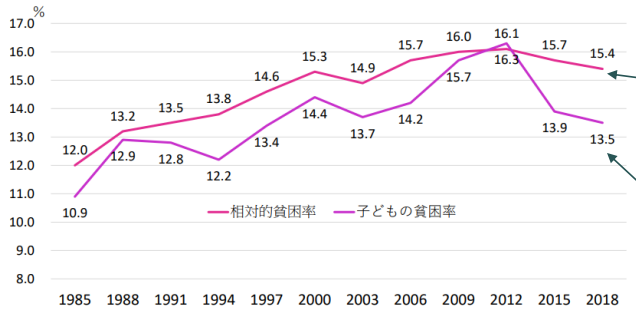
非正規社員比率
36.9%

総務省統計局が2023年2月に発表した労働力調査より

http://www.garbagenews.net/archives/2139575.html

日本は豊かなのか？

2019年 厚生労働省「国民生活基礎調査」



日本の相対的貧困率
15.4%

日本の子どもの貧困率
13.5%（7人に1人）

相対的貧困率とは･･･
等価可処分所得の中央値の半分の額に当たる「貧困線」に満たない世帯の割合

1人世帯･･122万　　2人世帯･･172.5万
3人世帯･･211.5万　　4人世帯･･244万

引用：https://onl.bz/fcNHeaz 阿部彩「相対的貧困率の動向：2019年国民生活基礎調査を用いて」

社会の変化とスキルの変化

- **アメリカ・デューク大学　キャシー・デビッドソン氏**
  - 2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう

YOUTUBER、インスタグラマー、17ライバー
ドローン宅配、ビッグデータドクター、ロボットトレーナー
仮想通貨バンカー…

社会が変わり、必要なスキルが変わる。

- 人工知能の発達、技術の発達により機械が仕事をする。
- 変化の激しい時代の中で、常に新しい知識を得て、新しい価値を生産しなければならない。

学習指導要領の教育観

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

「主体的・対話的で深い学び」

能動的（脳動的）な学び

初等中等教育におけるキャリア教育について

背景

➢ 中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年１月答申）を踏まえ、キャリア教育の理念が浸透してきている一方で、次のような課題が指摘されている。

- 職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしているのではないか
- 社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか
- 職業を通じて未来の社会を作り上げていくという視点に乏しく、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提に指導が行われているのではないか
- 将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか

→ 教育課程全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要

キャリア教育の充実

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

「勤労観、職業観」のみを育てる教育ではない。
勤労観・職業観の育成に過度に焦点が絞られがちであるが、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力の育成が、キャリア教育の中心的な課題。

職業教育はキャリア教育と同義ではない。
職業教育は、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成するもの。

基本的な方向性

○小中学校では、特別活動の学級活動を要としつつ、総合的な学習の時間や学校行事，道徳科や各教科における学習、個別指導としてのカウンセリング等の機会を生かしつつ，学校の教育活動全体を通じて実施すること。
○特に日常の教科等の学習指導においてキャリアの視点を大事にし、将来の生活や社会と関連付けながら見通しを持ったり、振り返ったりしながら学ぶ「主体的・対話的で深い学び」を実現すること。
○社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」を育成すること。
○キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、児童生徒の学習意欲を喚起すること。

基礎的・汎用的能力

- 「人間関係形成・社会形成能力」 多様な他者を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに，自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力。
- 「自己理解・自己管理能力」 自分と社会との相互関係を保ちつつ，今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に，自らの思考や感情を律し，進んで学ぼうとする力。
- 「課題対応能力」 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し，適切な計画を立ててその課題を処理し，解決することができる力。
- 「キャリアプランニング能力」「働くこと」の意義を理解し，自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け，多様な生き方について，自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

学びに向かう力・人間性等
知識・技能
思考力・判断力・表現力等

学校における実践の具体的方向性

○学校における体系的・系統的なキャリア教育実践の促進
○学校と地域・社会や産業界等が連携・協働した取組の促進
○職場体験活動や（アカデミック）インターンシップなどの職業に関する体験活動の充実
○児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等（キャリア・パスポート（仮称））の活用

現CSにおけるキャリア教育

×「教育活動全体を通して行う」としたことが、逆に指導場面を曖昧にしていた
×狭義の「進路指導」と混同されていた
×小学校では体系的に行われてこなかった
×職業に関する活動にだけ目が行きがちだった

◎「総則」に改めて「キャリア教育」という言葉を用いてその充実を図ることが明示された
◎「特別活動の時間を要としつつ」と中核とする時間が明示された
◎自らの学習状況やキャリア形成について「見通して、振り返る」ことを新たな学習や生活への意欲につなぐ手立てとして示している

小・中・高等学校におけるキャリア発達

参照：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」より

就学前	小学生	中学生	高校生	大学・専門学校・社会人
	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期 ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成	**現実的探索と暫定的選択の時期** ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索	**現実的探索・試行と社会的移行準備の時期** ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観・職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加	

小学校は、将来について**イメージを膨らませる基盤形成の時期**
中学校は、将来について**現実的に探索する時期**
高等学校は、将来について**現実的に吟味し試行する時期**

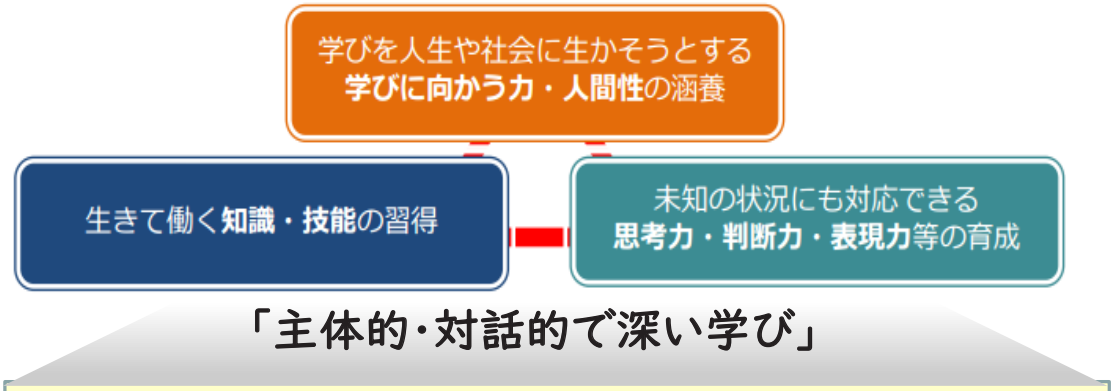
22

計画的偶発性理論

- ジョン・D・クランボルツ
- 18歳の時に考えていた職業に現在就いている人は全体の約2%に過ぎない（ビジネス成功者への調査）
- 人生の80%は予期しない出来事や偶然の出会いによって決定される

(1)「好奇心」―― たえず新しい学習の機会を模索し続けること
(2)「持続性」―― 失敗に屈せず、努力し続けること
(3)「楽観性」―― 可能になるとポジティブに考えること
(4)「柔軟性」―― こだわりを捨て、信念、概念、態度、行動を変えること
(5)「冒険心」―― 結果が不確実でも、リスクを取って行動を起こすこと

ESDとキャリア教育



持続可能な開発のための教育（ESD）は、次期学習指導要領改訂の全体において**基盤となる理念**であると言えるが、

【中略】各学校がESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくに当たり、**総合的な学習の時間が中心的な役割**を果たしていくことが期待 される。

H28 .12.21　中央教育審議会 教育課程企画特別部会　答申より

Education for Sustainable Development とは…

（参考）http://www.esd-jpnatcom.jp/about/index.html

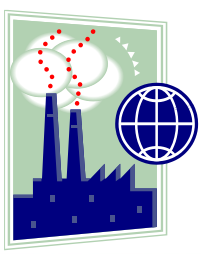
地球規模の課題（平和、貧困、人権、環境等）を自らの問題として捉え、
一人ひとりが自分にできることを考え、
実践していくこと（think globally, act locally）を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動

ESD＝持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

現代社会が抱える諸問題

持続可能な社会を作るためには、一つの側面だけでは簡単には答えが得られない複雑な諸問題を解決する必要がある

- 気候変動・自然災害
- 貧困・経済格差
- 紛争・人権侵害
- 感染症
- 少子高齢化
- 過疎地域・地方創生
- ゴミの処理
- エネルギー問題

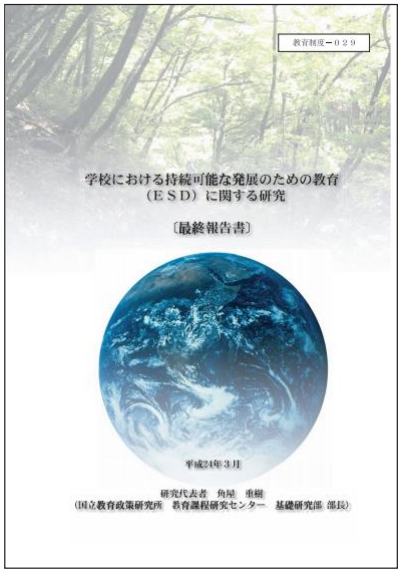


など…

26

ESDによって育む能力・態度

①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的・総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する力
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度



平成24年3月　国立政策研究所

キャリア教育との関連

ESDで育む能力・態度

①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的・総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する力
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度

基礎的・汎用的能力

①人間関係形成・社会形成能力
②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力
④キャリアプランニング能力

持続可能な開発目標（SDGs）

2030年を年限とする世界共通の開発目標

持続可能な開発目標（SDGs）の特徴

2030アジェンダの表紙

Transforming Our World

「世界を変革する」

No one will be left behind

「誰一人取り残さない」

“地球市民全員の力で世界を変革する“

開発だけでなく経済・社会・環境の3側面すべてに対応し、先進国にも共通の課題として設定

ESDとSDGsの関係

ESDGs
:Education for Sustainable Development Goals

「教育が全てのSDGsの基礎」

「全てのSDGsが教育に期待」

「全ESD活動はSDGs達成に貢献する」

31

2020年に行動の10年のスタート

2030年までにSDGsを達成するには、取り組みのスピードを速め、規模を拡大しなければならない。

2020年1月から、SDGs達成のための
「行動の10年（Decade of Action）」
がスタートしている。

DECADE OF ACTION

ロゴマーク

SDGsレポート2022の Keyメッセージ

◆コロナ、気候変動、紛争などによりSDGs達成が危ぶまれている。
◆コロナは、これまでの貧困撲滅の進捗を一掃し、2020年には更に9,300万人を極貧な状態に追い込んでいる。
◆ウクライナでの戦争は、最大の難民危機を生み出し、さらに価格高騰を招き、世界的な食糧危機の脅威を煽っている。
◆世界の温室効果ガス排出量を2030年までに43%削減し、2050年までに完全にゼロにする必要があるが、2030年までに14%近く増加する。

◆人類史上かつてない規模での抜本的な変革と行動の加速が求められている。

https://unstats.un.org/sdgs/files/report/2022/SDGs_Report_Key_Messages

33

日本の若者たちの意識調査②（日本財団）

自身と社会の関わりについて、以下の全ての項目で日本は6ヵ国中最下位となった。特に「自分は大人だと思う」「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」がそれぞれ3割に満たず、他の国に差をつけて低い。

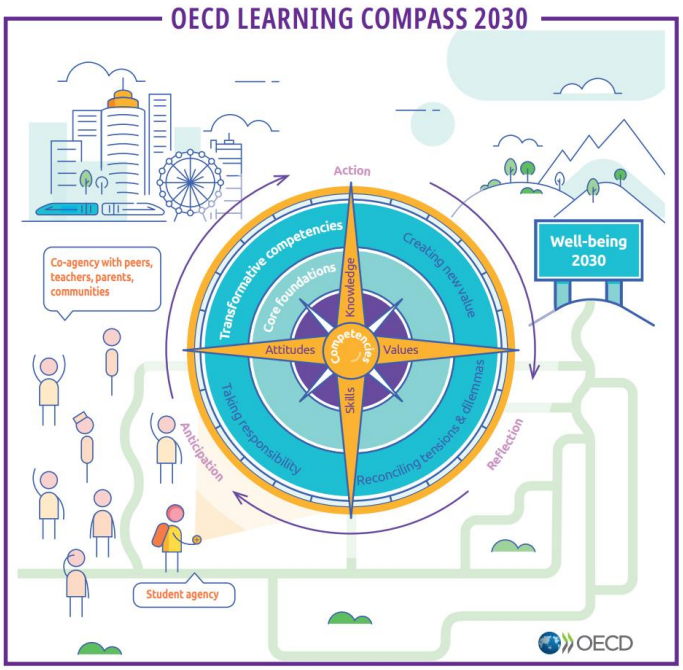
Q　以下の項目に同意しますか。（各国n=1000）
※「はい」回答率を掲載

（単位：%）	自分は大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	自分の行動で、国や社会を変えられると思う	国や社会に役立つことをしたいと思う	慈善活動のために寄付をしたい	ボランティア活動に参加したい
日本	27.3 6位	48.4 6位	26.9 6位	61.7 6位	36.2 6位	49.7 6位
アメリカ	85.7	77.1	58.5	73.0	66.7	70.4
イギリス	85.9 1位	79.9	50.6	71.2	69.5	64.2
中国	71.0	77.1	70.9	82.1	78.9	85.3 1位
韓国	46.7	65.7	61.5	75.2	62.4	70.7
インド	83.7	82.8 1位	78.9 1位	92.6 1位	83.7 1位	78.1

出典：『18歳意識調査「第46回 –国や社会に対する意識（6カ国調査）–」』（日本財団,2022）

34

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030



2030年を想定した学びの概念地図

主体：OECD（経済協力開発機構）

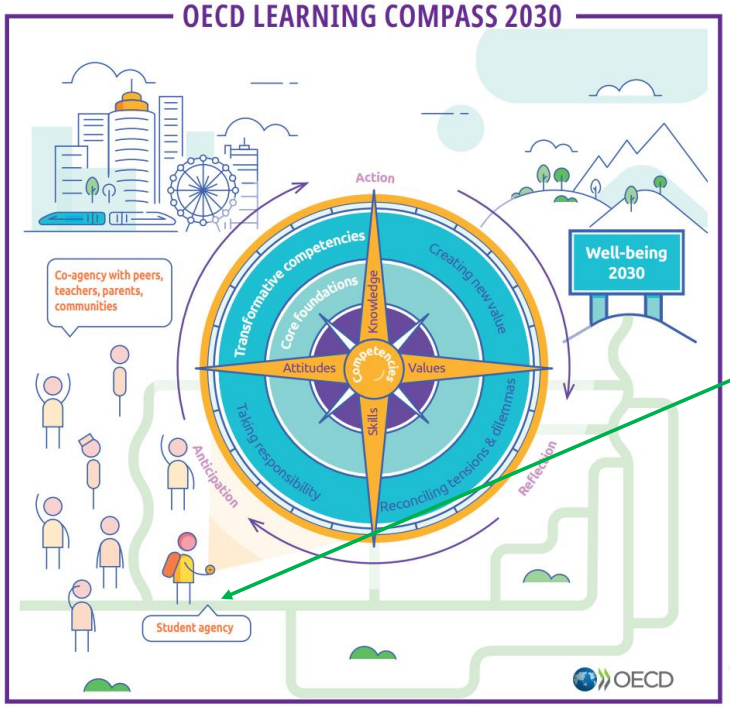
時期：2015～2018年

内容：30を超える国から、政策立案者・研究者・校長・教師・生徒・財団・民間団体などが集まり、対話を重ね、「2030年に望まれる社会のビジョン」と「そのビジョンを実現する主体として求められる生徒像とコンピテンシー」を共に創造・協働した。

（2018年発表）

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

（2018年）



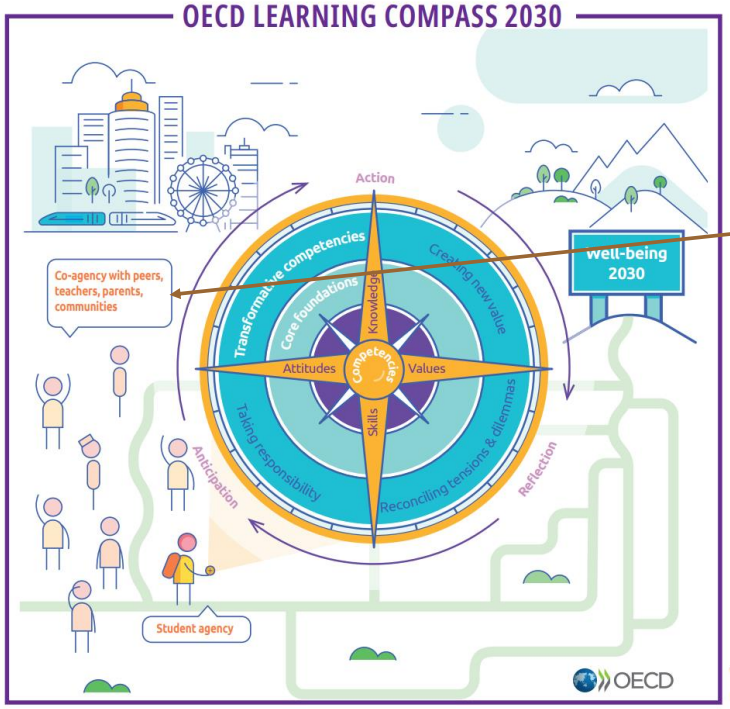
2030年を想定した学びの概念地図

生徒エージェンシー

生徒が目的意識を働かせ、自分自身の責任を果たしながら、周囲の人々、事象、状況をより良くするために学んでいくための力。自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与える能力や意志をもつこと。（OECD, 2019）

OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

（2018年）



2030年を想定した
学びの概念地図

共同エージェンシー

生徒に伴走する仲間、教師、家族、コミュニティ。生徒エージェンシーに影響を与えると同時に、生徒エージェンシーに影響を与えられる、相互に触発され成長する関係

エージェンシー（Agency）
社会を理解し、自分がやるべきことに気づき、世界に影響を与えることまでをも含む「人間の存在論」
（三浦,2021）

新たな教育振興基本計画（令和5年度～9年度）令和5年6月16日 閣議決定

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- **将来の予測が困難な時代**において、未来に向けて**自らが社会の創り手**となり、課題解決などを通じて、**持続可能な社会**を維持・発展させていく
- **社会課題の解決**を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上等**による、**活力ある社会の実現**に向けて「**人への投資**」が必要
- **Society5.0**で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上

- **多様な個人**それぞれが**幸せや生きがい**を感じるとともに、**地域や社会**が**幸せや豊かさ**を感じられるものとなるための教育の在り方
- 幸福感、**学校や地域でのつながり**、利他性、協働性、**自己肯定感**、自己実現等が含まれ、協調的幸福と獲得的幸福のバランスを重視
- **日本発の調和と協調**（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

文部科学省「教育振興基本計画（概要）」より

新たな教育振興基本計画（令和5年度～9年度）令和5年6月16日 閣議決定

【今後の教育政策に関する基本的な方針】

①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて
学び続ける人材の育成

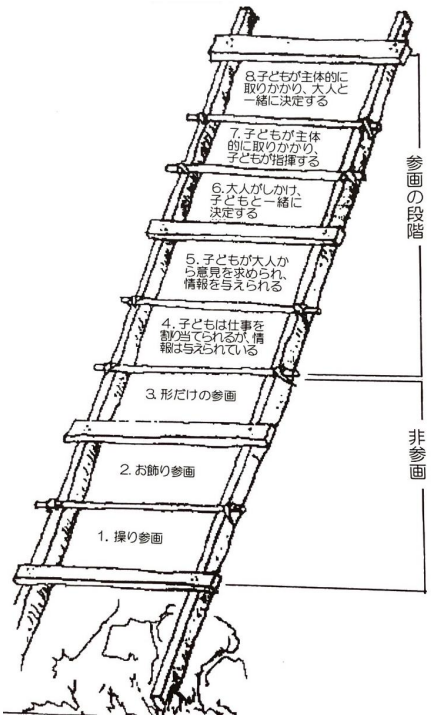
②誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す
共生社会の実現に向けた教育の推進

③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた
教育の推進

④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

文部科学省「教育振興基本計画（概要）」より



様々な参加（参画）の段階

ロジャー・ハート（2000）はユニセフとのプロジェクトにおいて，子どもが環境問題に参画していく事例を整理し，子どもの参画について，その原理および方法論をまとめた。

子どもたちが主体的に参画していくまでの過程を8段階で捉えた。はじごの上へ行くほど，子どもたち主体的に関わる程度が大きいことを示している。

原書タイトル『CHILDREN'S PARTICIPATION』

参画：積極的に主体的に関わっている意味内容をもつもの
参加：それ以外

＊訳文では「参画」と「参加」を使い分けている

（出典）ロジャー・ハート著，木下勇・田中治彦・南博文監修IPA日本支部訳（2000）『子どもの参画-コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』萌文社，p.42。

信州ESDコンソーシアム

成果報告書2023

令和6年8月

編集・発行　信州大学教育学部
信州ESDコンソーシアム事務局

〒380-8544　長野市西長野6-ロ
TEL:026-238-4034
E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp

信州ESDコンソーシアム
成果報告書2023